

年報

平成30年度



第37号

 GUNMA CHILDREN'S MEDICAL CENTER
群馬県立小児医療センター

年報 (平成三十年度)

第三十七号

群馬県立小児医療センター



◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～平成30年度の出来事から～



地域医療連携室開室（4月1日）



医療安全研修会（5月28日）
講師：上武大学看護学部 教授
千明 政好 先生



医療安全講演会（8月3日）
講師：患者・家族と医療をつなぐNPO法人
架け橋 理事 高山 詩穂 先生



消防訓練（9月27日）



第132回センター講話会（10月18日）
講師：四天王寺大学看護学部教授、
京都大学名誉教授 鈴木 真知子 先生



登録医大会（11月29日）
山田 佳之 医局長



院内感染対策講演会（12月7日）
講師：清水 彰彦 部長



クリスマス会（12月15日）



小児等在宅医療に係る医療的ケア研修会
（3月8日）



第12回感染対策講演会（3月15日）
講師：上武大学看護学部 教授
坂本 史衣 先生



総合医療情報システム（電子カルテ）更新（3月）



手術部門患者情報システム導入（3月）

巻頭言

院長 外松 学

本年は大きな災害が話題となった年でした。7月には西日本豪雨、9月には北海道地震と大型台風襲来、等がありました。西日本豪雨では土砂崩れや家屋が流される様子が、北海道地震においては震源地でほとんどの山が崩れおち、土の地肌がむき出しになっている様子が、大型台風襲来では自動車が強風で飛ばされて横転し、大きな船が流され橋脚に衝突した様子が、テレビで映し出され、自然の猛威に驚き、怯えるばかりでした。群馬県は災害が少ない県と言われておりますが、本当でしょうか？ 近年は発生していないだけではないでしょうか？ こういう災害の映像を見ていると、当センターの災害対策は大丈夫か？ 災害時のマニュアルは整備されているのか？ 日々の避難訓練は十分か？ 等、心配なことが次々と頭に浮かんできます。日々の備えの大切さを痛感します。

病院経営に関しては4月の就任あいさつで三つの改善目標を職員に提示しました。1) 病診・病病連携を活発にして入院患者数を増加させること、2) PICU 加算が算定できる患者数を増やすこと、3) 手術数を増加させること、の三点です。最終的な収支として、5,000万円以上の黒字を達成することができました。入院患者数は、1年で約3,000人弱増加いたしました。PICU加算患者数も若干ですが増加しました。問題点としては、患者状態はかなり改善しましたが一般病棟では診るには重い患者が、長期にわたってPICUを占有することが明らかになりました。やはり、PICUと一般病棟の中間的な病床(HCU)がないことが顕著化しました。手術数は微増に留まりました。分析の結果、感冒等の軽い感染症による手術キャンセルがかなりの数になることが判明しました。今後は、患者家族へ「手術前の感染予防の重要性」を啓蒙することが重要と思われました。

現在、当センターの総合周産期母子医療センターは多くの問題を抱えており、県を中心にその「在り方」委員会でそれぞれの課題について検討が続けられました。ある程度の方向性は示されましたが、現実化は、まだまだ、先になるようです。また、当センターは築37年となり、施設の老朽化が目立ってきました。そこで新病院建設のことも含めて、院内に「将来構想委員会」を設置し、当センターの目指すべき方向を模索する作業も始めました。

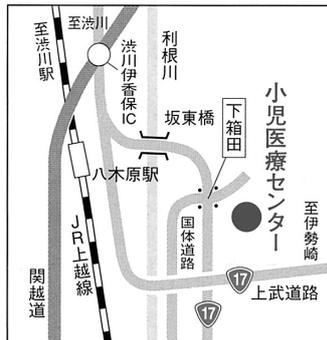
最後に、平成31年4月からは「働き方改革」の法律が施行され、医師の労務管理等も必須となってきます。医師の時間外勤務をどうやって客観的に把握するのか難しい問題です。

令和元年6月



▲新生児に高度な医療を提供するNICU

小児医療センター(渋川市)



県内唯一の総合周産期母子医療センターを併設し、リスクが懸念される分娩にも対応する。NICU(新生児集中治療室)は県内最多の15床を有しており、出産直後に迅速な医療を必要とする新生児を搬送するためのNICU車も運用している。また、県内唯一となる小児集中治療室(PICU)も備えている。

センターは北関東初の小児専門病院として1982年に開設して以来、高度で先進的な周産期・小児医療を提供している。昨年3月には外来棟の増築・改修工事が完了した。外来患者の増加に対応するため、歯科や整形外来診察室の増室、作業療法室の新設を行うなど、小児医療の中核病院としての役割を果たしている。

特集

医療先進県ぐんまを目指して

病气や事故、自然災害などは、誰の身にも起こり得ます。県は県民ニーズに対応した高度・専門医療や救急・災害医療の提供・充実などを通じ、県民が安全で安心できる暮らしを実現するため、医療先進県ぐんまを目指します。



県立病院の役割

本県には専門分野（心疾患、がん、精神医療、周産期を含む小児医療）に特化した四つの県立病院があり、それぞれが県内の中核を担う専門病院として、高度な医療を提供しています。

●心臓血管センター（前橋市）

本県の心疾患医療の中核として、ハイブリッド手術室などを活用した高度・専門医療を行っています。

また予防から治療、回復までを対象にした心臓リハビリテーションを実施しています。

●がんセンター（太田市）

地域がん診療連携拠点病院に指定され、東毛地域のがん診療の拠点として地域医療に貢献しています。

今年3月に最新の3・0テスラのMRI（磁気共鳴診断装置）を導入し、より高画質な全身画像を一度の撮影で得られるようになりました。

●精神医療センター（伊勢崎市）

本県における精神医療の基幹病院として、入院治療から退院後の地域生活支援まで一貫した治療・支援体制を構築しています。

15年からは全国に先駆けて精神科救急専門病棟を導入し、他の精神科医療機関と連携した精神科救急システムを支えています。

●小児医療センター（渋川市）

専門医と医療技術者によるチーム医療体制をはじめ、PICU（小児集中治療室）などの施設や高度医療機器を整備し、難病・重症患者を受け入れています。

また併設している総合周産期母子医療センターは、県内の周産期医療の中核的機能を担う他、リスクが懸念される分娩にも対応しています。

緊急時には、保育器などの設備を備えたNICU車（新生児専用搬送車）により、新生児を治療しながら搬送します。

県病院局 4億6200万赤字

17年度の黒字転換ならず

県立4病院を運営する県病院局は11日、2017年度決算が4億6200万円の赤字になったと発表した。赤字幅は前年度より1億8100万円拡大した。病院運営の指針となる第3次病院改革プランで17年度の黒字転換を掲げたが達成できなかった。

売上高に当たる病院事業収益は4病院と病院局総務課を合わせて274億9600万円、経費に当たる病院事業費用は279億5800万円。精神医療センター（伊勢崎市）とがんセンター（太田市）は黒字で、心臓血管センター（前橋市）と小児医療センター（渋川市）は赤字だった。

入院患者の減少や、診療に使う消耗品の購入費の増加などが経営を圧迫したとしている。

病院局は03年度の発足から毎年度赤字で、累積損失は73億6800万円。第4次病院改革プラン（18～20年度）で期間中の単年度黒字を目標に掲げている。



■小児医療センターに七夕飾り（渋川） 病気の子どもにも七夕を楽しんでもらおうと、渋川ロータリークラブ（薄井正幸会長）は5日、渋川市の県立小児医療センターに七夕飾りの竹を贈った。写真。

患者が書いた短冊などが付けられた。9日夕方まで、センターの玄関付近に飾る。

17年度、県立4病院

ヒヤリ・ハット

最多5796件報告

県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）で2017年度に報告があった「ヒヤリ・ハット」の件数は前年度比1011件増の計5796件で、05年度の統計開始以降、最多だったことが2日、県の集計で分かった。県は軽微なケースも報告するよう病院に求めたことが件数を押し上げたとみている。医療事故は20件で、前年度より16件減少した。

ヒヤリ・ハットは患者へ

の影響がないか、軽度だった例。より重大な医療事故は病院の過失の有無を問わず報告を受け、患者が転んで骨折するなどのケースがあった。死亡事例はなかった。

ヒヤリ・ハットと医療事故を合わせた内訳は、薬の服用を忘れたり、量を誤ったりする「与薬（内服・外用）」が805件で最多だった。床ずれなど病院の注意不足に起因する「観察」が772件、点滴が患者の体から外れたりする「ドレイン・チューブ類の使用」

管理」が620件と続いた。電子カルテへの誤記載もあった。

病院局総務課は「情報共有を進めて早期に対策を取り、患者の安全を向上させたい」としている。

桐生圏に外科

西毛地域に小児科

小児医療センターに産科

医師配置

適正化3項目急務

本県の医師不足対策を話し合うぐんま地域医療会議（議長・須藤英仁県医師会長）は30日、新年度に向けた医師の適正配置方針を公表した。早急な対応が必要として、桐生保健医療圏（桐生市、みどり市）への外科医配置など3項目を提案した。病院への医師派遣を担う群馬大医学部の「医会」に対し、優先的な対応を求めた。

地域医療会議が提案

他に配置を急ぐべきとしたのは、西毛地域の小児科医と、県立小児医療センター（渋川市）の産科医。桐生保健医療圏は、桐生厚生総合病院（桐生市）で県外大病院からの外科医派遣が打ち切られ、がん診療や救急対応ができなくな

る恐れが出ている。西毛地域は、高崎総合医療センター（高崎市）で当直勤務のできる小児科医が1人減り、地域内で小児2次救急の輪番制の維持が難しくなっている。小児医療センターは、常勤の産科医が本年度当初の4人から2

医師適正配置方針のポイント

早急な対応が必要

- 桐生保健医療圏の外科医配置
- 西毛地域の小児科医配置
- 小児医療センターの産科医配置

中長期的な課題

- 前橋保健医療圏の病院機能のすみ分け
- 医師総数増加に丸一となり取り組む

人に減少し、厳しい運営を強いられている。桐生厚生総合病院の桑島信院長は今回の方針について「とてもありがたい。今後は県や群馬大とより緊密な連携を取り、外科治療態勢を維持したい」とコメントした。

方針は中長期的な課題にも言及。大規模病院が集まる前橋保健医療圏について、「病院機能のすみ分けが重要」と指摘したほか、関係機関が丸一となり医師総数の増加に取り組む必要性も訴えた。

会議のメンバーで、記者会見した群馬大医学部附属病院（前橋市）の田村遵一病院長は「医師配置の問題は行政だけ、大学だけでは解決できない。会議ができたことで本当に医師が足りないところを判断し、対応できるようになった。全国でも先進的な取り組みで、モデルケースになる」と話した。

会議は県と群馬大、県医

師会などで構成し、昨年3月に発足した。従来の医師配置の在り方を見直す独自の取り組みで、各病院の要望や、医療圏ごとの患者ニーズを踏まえ、方針を取りまとめた。今後も継続して適正配置を議論する。

目 次

業務編

| | |
|--------------------|----|
| 1. 第一病棟 | 3 |
| (1) 総合内科 | 6 |
| (2) 腎臓内科 | 6 |
| (3) 神経内科 | 7 |
| (4) アレルギー感染免疫・呼吸器科 | 7 |
| (5) 遺伝科 | 8 |
| 2. 第二病棟 | 9 |
| (1) 小児外科 | 9 |
| (2) 形成外科 | 10 |
| (3) 整形外科 | 12 |
| 3. 第三病棟 | 15 |
| (1) 循環器科 | 15 |
| (2) 心臓血管外科 | 16 |
| (3) 血液腫瘍科 | 16 |
| 4. 小児集中治療部 | 18 |
| 5. 新生児未熟児病棟 | 21 |
| 6. 産科病棟 | 26 |
| 7. 麻酔科 | 28 |
| 8. 放射線科 | 29 |
| 9. 歯科・障害児歯科 | 30 |
| 10. 放射線課 | 32 |
| 11. 検体検査課・生理検査課 | 34 |
| 12. リハビリテーション課 | 37 |
| 13. 栄養調理課 | 42 |
| 14. 臨床工学課 | 43 |
| 15. 薬剤部 | 45 |
| 16. 看護部 | 47 |
| (1) 第一病棟 | 54 |
| (2) 第二病棟 | 54 |
| (3) 第三病棟 | 55 |
| (4) NICU 病棟 | 56 |
| (5) GCU 病棟 | 57 |
| (6) 小児集中治療部 | 58 |
| (7) 産科病棟 | 59 |
| (8) 手術室 | 60 |
| (9) 外 来 | 61 |

| | | |
|------|----------------|-----|
| (10) | 教育委員会 | 62 |
| (11) | 記録委員会 | 65 |
| (12) | 実習指導者会 | 66 |
| (13) | ICT リンクナース会 | 67 |
| (14) | 病棟指導者会 | 68 |
| (15) | 看護研究委員会 | 72 |
| (16) | 看護部研究倫理審査委員会 | 73 |
| (17) | 看護研究支援 | 74 |
| (18) | 基準・手順委員会 | 75 |
| (19) | 認定看護師会 | 76 |
| (20) | サービス向上委員会 | 85 |
| (21) | 在宅療養支援委員会 | 88 |
| (22) | 褥瘡対策 WG 委員会 | 89 |
| (23) | 電子カルテ WG | 90 |
| (24) | 子どもと家族のサポートチーム | 91 |
| (25) | 保育士会議 | 92 |
| 17. | 母子保健室 | 95 |
| 18. | 地域医療連携室 | 98 |
| 19. | 医療安全管理室 | 100 |
| 20. | 感染対策室 | 106 |

研究研修編

| | | |
|----|------------------------------------|-----|
| 1. | 学会報告 | 113 |
| ◆ | 小児内科 | 113 |
| | <神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| | <血液腫瘍科> | |
| ◆ | 小児外科 | 116 |
| | <一般外科><形成外科><整形外科><心臓血管外科> | |
| ◆ | 産科 | 118 |
| ◆ | 麻酔科 | 118 |
| ◆ | 歯科 | 118 |
| ◆ | 検体検査課・生理検査課 | 119 |
| ◆ | 放射線課 | 119 |
| ◆ | リハビリテーション課 | 119 |
| ◆ | 栄養調理課 | 119 |
| ◆ | 臨床工学課 | 120 |
| ◆ | 看護部 | 120 |
| 2. | 誌上発表 | 120 |
| ◆ | 小児内科 | 120 |
| | <神経内科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |

| | |
|------------------------------------|-----|
| <血液腫瘍科> | |
| ◆小児外科 | 122 |
| <一般外科><形成外科><整形外科> | |
| ◆産科 | 122 |
| ◆放射線科 | 122 |
| ◆歯科 | 122 |
| ◆検体検査課・生理検査課 | 123 |
| ◆放射線課 | 123 |
| ◆リハビリテーション課 | 123 |
| 3. 単行本・その他 | 123 |
| ◆小児内科 | 123 |
| <循環器科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| ◆小児外科 | 123 |
| <形成外科><心臓血管外科> | |
| ◆リハビリテーション課 | 124 |
| 4. 班会議等報告書 | 124 |
| ◆小児内科 | 124 |
| <アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| 5. 講演 | 124 |
| ◆小児内科 | 124 |
| <新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| ◆小児外科 | 124 |
| <一般外科> | |
| ◆歯科 | 124 |
| ◆検体検査課・生理検査課 | 125 |
| ◆臨床工学課 | 125 |
| 6. 講習会・研修会 | 125 |
| ◆小児内科 | 125 |
| <神経内科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| ◆検体検査課・生理検査課 | 125 |
| ◆放射線課 | 125 |
| ◆リハビリテーション課 | 126 |
| ◆栄養調理課 | 126 |
| ◆臨床工学課 | 126 |
| ◆薬剤部 | 126 |
| ◆看護部 | 126 |
| ◆母子保健室・地域医療連携室 | 126 |
| 7. 学会長・座長・その他 | 127 |
| ◆小児内科 | 127 |
| <循環器科><神経内科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| ◆小児外科 | 127 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| <一般外科><形成外科><整形外科> | |
| ◆リハビリテーション課 | 127 |
| ◆臨床工学課 | 128 |
| ◆看護部 | 128 |
| 8. 学生講義 | 128 |
| ◆小児内科 | 128 |
| <神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科> | |
| ◆歯科 | 129 |
| ◆リハビリテーション課 | 129 |
| ◆臨床工学課 | 129 |
| ◆看護部 | 130 |
| 9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス | 131 |
| 10. 講話会 | 132 |
| 11. クルズス | 132 |
| 12. CPC | 132 |
| 13. その他 | 132 |
| (1) 研究会・セミナー等 | 132 |
| 14. 公的資金による研究 | 134 |
| 1 院内研究費による研究 | 134 |
| 2 院外研究費による研究 | 138 |

統計編

| | |
|----------------------------|-----|
| 1. 管理業務 | 142 |
| (1) 会計 | 142 |
| ①経営分析 | |
| ②収益的収入及び支出 | |
| ③月別医業収益内訳 | |
| 2. 診療業務 | 148 |
| (1) 総括表 | 148 |
| (2) 月別・科別外来患者受診の状況 | 150 |
| ◆1日平均外来患者の状況 | |
| (3) 月別入院患者数 | 153 |
| ◆1日平均入院患者の状況 | |
| (4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数 | 155 |
| ◆地域別新規登録患者数 | |
| ◆地域別入院患者の状況 | |
| ◆地域別利用状況 | |
| (5) 年齢階層別状況(新規登録患者) | 160 |
| ◆年齢階層別状況 | |
| (6) 救急医療 | 161 |

| | |
|----------------------------|-----|
| ①救急医療の状況 | |
| ②NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況 | |
| (7) 予防接種実施状況 | 163 |
| ①月別実施状況 | |
| ②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況 | |
| ③推 移 | |
| (8) 疾病分類別入院患者数 | 164 |
| ①第一病棟 | |
| ②第二病棟 | |
| 形成外科 | |
| 整形外科 | |
| ③第三病棟 | |
| ④新生児未熟児病棟 | |
| (9) 麻 酔 | 169 |
| ①月別麻酔件数 | |
| ②年齢階層別状況 | |
| (10) 放射線 | 170 |
| ①依頼科別件数 | |
| ②月別件数 | |
| ③検査種別件数 | |
| ア CT | |
| イ MRI | |
| ウ RI | |
| エ X-TV | |
| オ US | |
| カ 心臓カテーテル | |
| キ 一般撮影 | |
| ク ポータブル撮影 | |
| ケ 画像データコピー | |
| (11) 臨床検査 | 174 |
| ①検査の状況 | |
| ②血液製剤取り扱い状況 | |
| ③分割取り扱い状況 | |
| ④幹細胞保存 | |
| (12) 薬 剤 | 176 |
| ①調剤等の状況 | |
| ア 処方箋の枚数等 | |
| イ 調剤件数内訳 | |
| ②注射剤の状況 | |
| ア 注射箋等の枚数等 | |
| イ 抗がん薬調製数 | |

| | |
|---------------------------------|-----|
| ③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況 | |
| ④薬剤情報件数等 | |
| ⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量) | |
| ⑥薬効別薬品購入額 | |
| (13) リハビリテーション | 181 |
| ①診療点数 | |
| ②延べ治療件数 | |
| ③延べ単位数 | |
| ④新患リハビリテーション患者数 | |
| ⑤年齢別新規患者数 | |
| ⑥リハビリテーション算定区分別実績 | |
| (14) 栄 養 | 184 |
| ①一般食の種類と食数 | |
| ②離乳食の種類と食数 | |
| ③特別食の種類と食数 | |
| ④調乳の種類及び人数・本数 | |
| ⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数 | |
| ⑥NST(栄養サポートチーム) | |
| ア NST 介入状況 | |
| イ 院内 NST 勉強会実施状況 | |
| (15) 臨床工学課 | 188 |
| ①臨床業務件数 | |
| ア 体重別体外循環症例数 | |
| イ 疾患別内視鏡手術症例数 | |
| ②月別始業点検件数 | |
| ③月別人工呼吸器使用中点検件数 | |
| ④月別院内修理件数 | |
| ⑤月別定期点検件数 | |
| (16) 母子保健室 | 192 |
| ①精密健康診査 | |
| ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況 | |
| イ 科別・年齢別受診状況 | |
| ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況 | |
| エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況 | |
| オ 科別受診状況及びその結果 | |
| ②子どものこころの発達相談 | |
| ア 来院経路及び年齢別実施状況 | |
| イ 相談件数及び相談後の対応状況 | |
| ③新生児・未熟児病棟(A)および他病棟(B)入院患児の退院連絡 | |
| ア 退院連絡後の状況 | |
| イ 体重別退院連絡実施状況 | |

| | |
|---------------------|-----|
| ④関係機関との連携状況 | |
| ①から③の事業以外の相談・問合せの数 | |
| ⑤関係機関との連携会議 | |
| ⑥子ども虐待防止対策事業 | |
| ⑦心理判定・心理カウンセリング | |
| <心理判定> | |
| ア 心理判定 | |
| イ アの年齢別被検査者数 | |
| ウ 依頼科 | |
| <心理カウンセリング> | |
| ア 心理カウンセリング | |
| イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 | |
| <精神科コンサルト> | |
| ⑧研修会等 | |
| ⑨学会・研修会参加状況 | |
| ⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業 | |
| ⑪親の会への支援 | |
| ⑫その他 | |
| (17) 地域医療連携室 | 200 |
| ①医療相談 | |
| ア 相談内容及び件数(地域医療連携室) | |
| イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数 | |
| ウ 身体障害者手帳 | |
| ②子ども虐待防止対策事業 | |
| ア 院内CAPS開催状況 | |
| イ 要支援事例検討会状況 | |

総括編

| | |
|--------------------|-----|
| 1. 沿革 | 205 |
| ◆開院後の歩み | 206 |
| 2. 施設 | 219 |
| (1) 敷地・建物の面積 | 219 |
| (2) 病棟構成並びに建物配置図 | 219 |
| (3) 施設・設備の設置状況 | 220 |
| (4) 付属設備 主なる付属設備一覧 | 226 |
| (5) 重要物品 主なる医療機器一覧 | 229 |
| 3. 組織 | 232 |
| (1) 機構 | 232 |
| (2) 人事 | 233 |
| ①役職者名簿 | 233 |

| | |
|----------------|-----|
| ②職種別・部門別職員配置状況 | 234 |
| 4. 運 営 | 235 |
| (1) 診療制度 | 235 |
| (2) 院内会議の状況 | 239 |
| 平成30年度のあゆみ | 240 |
| 職員名簿、職員異動状況 | 241 |
| 編集後記 | 244 |

業 務 編

1. 第一病棟

平成 30 年度の第一病棟は神経内科 5 名、アレルギー感染免疫・呼吸器科 4 名の医師で主な診療を行った。入院患者は 1,054 名であり昨年度の 868 名より大幅に増加した (入院患者詳細は表 1~4 参照)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力を支えられています。県内外あるいは院内からの要求に答えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしく申し上げます。

(椎原 隆)

表 1 第一病棟入院患者診断別

| 疾患名 | 人 | 疾患名 | 人 | 疾患名 | 人 |
|-------------|-----|-------------|---|-----------|-------|
| 食物アレルギー | 185 | 脳症 | 7 | 多型滲出性紅斑 | 2 |
| 気管支炎 | 113 | 自己免疫性辺縁系脳炎 | 6 | ケント血性低血糖症 | 2 |
| てんかん | 83 | IgA 血管炎 | 5 | 急性呼吸不全 | 2 |
| 肺炎 | 73 | 尿路感染症 | 5 | 新生児黄疸 | 2 |
| 麻痺 | 55 | 急性喉頭炎 | 5 | 鼠径ヘルニア | 2 |
| う蝕 | 46 | 麻痺性イレウス | 5 | 鎮痛剤中毒 | 2 |
| 気管支喘息 | 32 | 埋伏歯 | 5 | その他 | 121 |
| 胃腸炎 | 32 | 急性上気道炎 | 4 | | |
| 脊髄性筋萎縮症 | 32 | 結節性多発動脈炎 | 4 | | |
| 糖尿病 2 型 | 26 | 頸部リンパ節炎 | 4 | | |
| ミオパチー | 19 | 特発性急性膵炎 | 4 | | |
| 低ガンマグロブリン血症 | 19 | 胃食道逆流症 | 4 | | |
| 筋ジストロフィー | 17 | ヒルシュスプルング病 | 3 | | |
| 痙攣 | 16 | 痙性斜頸 | 3 | | |
| 脱水症 | 15 | ミラー・ディカー症候群 | 3 | | |
| インフルエンザ | 14 | 末梢神経障害 | 3 | | |
| 咽頭炎 | 11 | 急性脳脊髄炎 | 3 | | |
| 川崎病 | 10 | 睡眠時無呼吸症候群 | 3 | | |
| 慢性呼吸不全 | 10 | 敗血症 | 3 | | |
| 先天性多発性関節拘縮症 | 9 | 新生児発熱 | 3 | | |
| アナフィラキシー | 8 | 髄膜炎 | 3 | | |
| 哺乳不全 | 8 | アトピー性皮膚炎 | 3 | 合計 | 1,054 |

表 2 第一病棟入院患者年齢別

| | | |
|------------|---------|--------|
| 1 か月未満 | 14 人 | 1.3% |
| 1 か月～1 歳未満 | 132 人 | 12.5% |
| 1 歳 | 154 人 | 14.6% |
| 2 歳 | 111 人 | 10.5% |
| 3 歳 | 70 人 | 6.6% |
| 4 歳 | 73 人 | 6.9% |
| 5 歳 | 80 人 | 7.6% |
| 6 歳 | 68 人 | 6.5% |
| 7 歳 | 40 人 | 3.8% |
| 8 歳 | 40 人 | 3.8% |
| 9 歳 | 31 人 | 2.9% |
| 10 歳 | 37 人 | 3.5% |
| 11 歳 | 26 人 | 2.5% |
| 12 歳 | 37 人 | 3.5% |
| 13 歳 | 31 人 | 2.9% |
| 14 歳 | 21 人 | 2.0% |
| 15 歳 | 17 人 | 1.6% |
| 16 歳 | 6 人 | 0.6% |
| 17 歳 | 18 人 | 1.7% |
| 18 歳 | 10 人 | 0.9% |
| 19 歳 | 3 人 | 0.3% |
| 20 歳以上 | 35 人 | 3.3% |
| 合計 | 1,054 人 | 100.0% |

表3 第一病棟入院患者診療科別

| | | |
|----------------|---------|--------|
| 神経内科 | 422 人 | 40.0% |
| アレルギー感染免疫・呼吸器科 | 484 人 | 45.9% |
| 循環器科 | 58 人 | 5.5% |
| 血液腫瘍科 | 2 人 | 0.2% |
| 外科 | 18 人 | 1.7% |
| 歯科 | 52 人 | 4.9% |
| 総合内科 | 18 人 | 1.7% |
| 合 計 | 1,054 人 | 100.0% |

表4 第一病棟入院死亡症例及び剖検

| | 年 齢 | 性別 | 病 名 | 剖検 |
|---|------|----|---|-----|
| 1 | 23 歳 | 女 | 急性腎前性腎不全、循環血液量減少性ショック、脱水症、低アルブミン血症、麻痺性イレウス、先天性痙性麻痺、慢性呼吸不全、症候性てんかん、経口摂取困難、気管支喘息、維持療法の必要な難治性逆流性食道炎、十二指腸狭窄症、播種性血管内凝固 | (-) |
| 2 | 6 か月 | 女 | 誤嚥性肺炎、減数分裂性不分離トリソミー13、中枢性無呼吸発作、二次性肺高血圧症、症候性てんかん、急性1型呼吸不全、うっ血性心不全、低出生体重児、心室中隔欠損症、先天性白内障 | (-) |

(1) 総合内科

総合内科外来は(月)午前を清水(彰)、午後を鐺木(多)、(火)午前を山口(第1,3,5週)と鈴木(第2,4週)、午後を道和、(水)午前を滝沢(第1,3,5週)と清水(真)(第2,4週)、午後を山口、(木)午前を島袋、午後を椎原、(金)午前を鈴木(第1,3,5週)と柴(第2,4週)、午後を大和が担当した。原則として午前中に受け付けるようにしているが、午後にも急患を受けている。1次および2次医療機関からのご紹介により診療を行っている。またリハビリテーション前の診察も行っている。予防接種は他の医療機関での接種が困難な方を中心に第1,3(金)の午後に実施している。本年度は大和が担当した。

総合内科を受診し、入院する場合はほとんどが第一病棟への入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編を参照いただきたい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針である。ただ常勤医師がいない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいている。加えて社会的な問題等について対応が必要な患者様も母子保健室・地域医療連携室とともに対応している。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応するようにしている。入院が必要と予測される場合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療連携室長(兼 外来診療部長)があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(山田佳之)

(2) 腎臓内科

平成30年3月末で丸山が定年退職となり、4月1日からは鎌が東海大学小児科へ移籍したため、今年度からは腎臓内科の常勤医は不在となった。しかしながら、当院に通院中の慢性疾患の患児が

数多く存在すること、および専門外来の維持を目的として外来診療は前年度と同じコマ数を継続した。(火)の1,3,5週を丸山、(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教、(金)の2,4週を鎌が担当した。初診患者は(木)のみの受け入れとさせていただいたが、平成30年度の延べ受診患者数は809名であり、前年度より20%近く減少する結果となった。常勤医が不在であるため、新規入院患者はネフローゼ症候群再発の1名のみであった。将来的には常勤医の復活を期待したい。

(丸山健一)

(3) 神経内科

平成30年度神経内科外来担当は以下の通りで、外来患者数は新患137(昨年度110)名、再来4,048(昨年度4,034)名でした。

月曜午前、金曜終日 椎原 隆
月曜午後、水曜終日 渡辺美緒
月曜午前 迫 恭子(非常勤)
火曜終日 清水信三(非常勤)
第三水曜午後 竹澤伸子(非常勤)
木曜終日 道和百合

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えている。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもあると思いますが、自分たちが機能不全に陥ること無くより長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力を感謝します。

(椎原 隆)

(4) アレルギー感染免疫・呼吸器科

アレルギー感染免疫・呼吸器科ではこれまで、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、好酸球性消化管疾患などのアレルギー性疾患、および膠原病、免疫不全症、肺の先天的な異常、合併症のある呼吸器疾患を中心に診療を行ってきた。今年度からさらに感染症を専門とする清水彰彦医師が着任し院内外の感染症コンサルトをより積極的に受けるようになった。抗菌薬適正使用支援チーム(AST)としての取り組みも加算を取得し開始した。本年度は医師4名体制で業務にあたった。食物アレルギーの経口食物負荷試験や感染症の入院患者をより多く担当できるようになり当科の入院患者数は約1.5倍になった。また科の枠を越えた連携が多く、医師間だけでなくチーム医療の推進にも力を入れた。院外活動では昨年度に続き日本小児アレルギー学会による食物アレルギー、小児気管支喘息などの国内のガイドライン作成に取り組んだ。また感染症の分野においては院外からもコンサルトを受けた。好酸球に関連した研究では東海大学小児科の加藤政彦博士、鎌 裕一医師、病原体の検索について群馬県衛生環境研究所、好酸球性消化管疾患に関して厚生労働省研究班(研究分担者として)、細胞分離に関する研究を東京大学工学部高井まどか博士、好酸球性白血病について国立成育医療研究センター血液研究部 大木健太郎博士、渡部 悟研究員と共同研究を継続しており、成果の一部を報告した。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行が多い。また感染症コンサルトについては院内外ともに随時受けている。当科に通院・入院する方

の多くは様々な合併疾患があり、境界分野の診療にあたることが多く、総合診療部門も担っている。慢性疾患が多いことから、両親をはじめとする家族の疾患への理解、治療への積極的な参加、集団生活での支援が重要と考えている。基礎・臨床研究から患者様の生活支援まで幅広く活動できる診療科でありたい。

(山田佳之)

(5) 遺伝科

遺伝科は平成19年4月に常勤化されて以降、平成30年度に12年目を迎えました。前任の鮫島医師の異動に伴い、平成28年度・平成29年度は非常勤医体制となっていましたが、平成30年度は常勤医1名での体制に戻り、山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談(遺伝カウンセリング)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前および午後を基本に行い、7月からは非常勤体制の期間中断されていた院外からの新規紹介患者の受け入れを再開しました。

外来患者数は、院外紹介の新規患者が21人、院内紹介の新規患者が84人、遺伝科常勤化に伴う再紹介患者が42人(院外6人・院内36人)、再診404人でした。院外からの新規患者は、群馬大学医学部附属病院(5人)、伊勢崎市民病院(2人)、太田記念病院(2人)の他、群馬中央病院、原町赤十字病院、本島総合病院、いしもとレディスクリニック、伊勢崎クリア矯正歯科クリニック、岸産婦人科医院、中泉こどもクリニック、ベル小児科クリニックの県内11施設、神奈川県立こども医療センター、慶應義塾大学病院、埼玉医科大学国際医療センターの県外3施設よりご紹介をいただきました。院内紹介の依頼元は新生児科・産科34人、神経内科24人、循環器科11人、整形外科4人、血液腫瘍科3人、アレルギー感染免疫科3人、総合内科3人、形成外科1人、歯科1人でした。

診断を目的とした受診・紹介も多く、遺伝科の診療において遺伝学的検査が果たす役割は大きいと考えています。当科では保険診療内での検査以外にも、自費検査、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析を実施できる体制を整え、検査前・検査後の遺伝カウンセリングを含めた協力を行いました。特に研究的遺伝子解析については慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センターとの共同研究により、次世代シーケンサー等を用いた網羅的遺伝子解析を行っています。

また、診断された遺伝性疾患について根拠に基づいた健康管理を継続的に行っていくためには、疾患に関する家族の理解を深め、各科と連携して診療を行うことが重要と考えています。当センターでは平成21年度より集団診療・家族会(Down症候群に対する集団診療「あさがおの会」、13トリソミー・18トリソミーの家族会「あさがお」各年2回)が継続されており、平成30年度はその運営にも母子保健室/地域医療連携室/新生児科/神経内科/歯科/リハビリ科/栄養調理課と共に関わりました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が基幹病棟として利用している。また、血液腫瘍科の使用もあり、27床にて運用している。また同じ棟内にある DAY 病棟は外科、形成外科、歯科が2床にて運用している。

平成30年度、第二病棟の入院患者数は840人であり、平成29年度の780人より60人増加した。転棟を介さない第二病棟への入院数は728人であり、平成29年度の703人より25人増加した。他病棟から転棟を介しての入院数は112人であり、平成29年度の77人より35人増加した。退院患者数は845人であり、平成29年度の783人より62人増加した。転棟を介さない退院数は742人であり、平成29年度の702人より40人増加した。他病棟へ転棟を介しての退院数は103人であり、平成29年度の81人より22人増加した。在院日数は14日であり、平成29年度の18日より4日短縮した。延べ患者数は7,691人であり、平成29年度の7,095人より596人増加した。一日平均患者数は21.1人であり、平成29年度の19.4人より0.7人増加した。

平成30年度の DAY 病棟の入院患者数は413人であり、平成29年度の378人より35人増加した。退院患者数は412人であり、平成29年度の377人より35人増加した。延べ患者数は412人であり、平成29年度の377人より35人増加した。

病床利用率に関しては、第二病棟(27床)の病床利用率は78.0%であり、平成29年度の72.0%より6.0%増加した。DAY病棟(2床)の病床利用率は56.4%であり、平成29年度の51.6%より4.8%増加した。本院全体の病床利用率(150床)は平成30年度は76.2%であり、平成29年度の70.9%より5.3%の増加を示した。

(富沢仙一)

(1) 小児外科

診療体制では、谷有希子先生、五嶋翼先生が医局人事で異動となり、かわりに東京大学から高本尚弘先生と東邦大学から島田修平先生が加わって、西明、高澤慎也、高本尚弘、内田康幸、島田修平の5人体制で診療しました。またまた若返りが進んでいき今年も新しい雰囲気になりました。

入院数681例(昨年度566例)、うち手術数521例(昨年度493例)、新生児手術例は40例(昨年度40例)、鏡視下手術は121件(去年は130件、一昨年は126件)でした。

今年は新しい治療法を試す機会が多かった年でした。新生児の難治性乳糜腹水に対する ICG ナビゲーションでのリンパ漏結紮術、新生児喉頭蓋嚢胞による呼吸困難に対する腹腔鏡の道具を用いての嚢胞全摘術、臍胸に対するウロキナーゼによる溶解療法、梨状窩瘻再発に対するトリクロール酢酸での化学的焼灼療法、胆道拡張症に対する腹腔鏡下根治術、消化管出血に対する小腸カプセル内視鏡などを行いました。論文検索をしたり実際に新規治療法を施行したことのある施設に問い合わせをしたり、倫理委員会に申請して認可を受けたりと、いろいろと準備や工夫を要しましたが、非常に勉強になりました。いずれの新規治療も経過良好であり、御家族の満足度も非常に高かったです。

新しい試みの際には麻酔科の先生方や手術室や病棟の看護師の方々やコメディカルの方々に負担がかかってしまいましたが、皆さんの協力のもと優れた治療法を取り入れることができました。ありがとうございました。

(西明)

<手術症例>

手術症例 H30 年度 (重複含む)

| | | | |
|------------------|----|--------------------------|-----|
| 正中頸嚢胞、側頸瘻手術 | 3 | 腸重積観血的整復 | 4 |
| 気管切開 | 3 | ヒルシュスプルング病根治手術 | 3 |
| 喉頭気管分離術 | 3 | 直腸肛門奇形手術 (低位) | 13 |
| 気胸手術 (胸腔鏡) | 2 | 直腸肛門奇形手術 (中間位・高位) | 2 |
| 肺葉切除 (開胸) | 0 | 肛門疾患 | 7 |
| 肺葉切除 (胸腔鏡) | 2 | 胆道閉鎖症手術 | 3 |
| 肺分画症手術 (胸腔鏡) | 0 | 胆道拡張症手術 (開腹) | 4 |
| A 型食道閉鎖症手術 | 0 | 胆道拡張症手術 (腹腔鏡) | 2 |
| C 型食道閉鎖症手術 | 1 | 脾臓摘出術 (腹腔鏡) | 0 |
| 食道バンディング | 0 | 水腎症手術 | 2 |
| 食道アキラシア手術 (腹腔鏡) | 1 | 膀胱尿管逆流症手術 | 1 |
| 胃・食道逆流防止手術 | 6 | 悪性腫瘍手術 | 5 |
| 胃・食道逆流防止手術 (腹腔鏡) | 11 | 良性腫瘍手術 | 3 |
| 横隔膜ヘルニア手術 (開腹) | 1 | 腫瘍生検 | 3 |
| 横隔膜ヘルニア手術 (胸腔鏡) | 2 | 中心静脈カテーテル挿入 | 28 |
| 先天性腹壁異常手術 | 1 | 鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術 | 89 |
| 胃手術 (胃瘻含む) | 7 | 鼠径ヘルニア (精巣水腫含む) 手術 (腹腔鏡) | 79 |
| 肥厚性幽門狭窄症手術 | 8 | 精巣固定術 | 46 |
| 腸閉鎖・狭窄症手術 | 3 | 気管支鏡 | 1 |
| 腸回転異常症手術 | 10 | 上部消化管内視鏡 (治療含む) | 46 |
| 虫垂炎手術 (開腹) | 0 | 下部消化管内視鏡 (治療含む) | 17 |
| 虫垂炎手術 (腹腔鏡) | 18 | 小腸カプセル内視鏡 | 1 |
| 人工肛門造設 | 6 | その他手術 | 49 |
| 人工肛門閉鎖 | 10 | | |
| イレウス手術 | 12 | 合 計 | 521 |
| 小腸切除 | 3 | | |

(2) 形成外科

平成 30 年度は 4 月に佐々木淑恵医師がレジデントとして赴任し、浜島と佐々木医師の専門医 1 名+レジデント 1 名という 2 人体制で診療を行った。また、以前に当院に勤務していた専門医である荒木夏枝医師に 5 月より非常勤として水曜日に勤務していただくことになった。手術日である水曜日が専門医 2 名+レジデント 1 名になったため、場合により並列手術も行えるようになった。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

平成 30 年度の新患者数は 449 人、再診患者数は 3,909 人、総数 4,358 人で前年度と比較して新患者数が 19%増加した。(平成 29 年度の新患者数は 378 人、再診患者数は 3,930 人で、総数 4,308 人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行っている。また金曜日

午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

平成 30 年度の形成外科の手術件数は 1,349 件で、全身麻酔 201 件 (入院 137 件、日帰り全身麻酔下手術 64 件)、局所麻酔 1,148 件であった。前年度が 3 ヶ月間 1 人体制だった影響もあり、手術件数は増加した。(平成 29 年度の形成外科の手術件数は 1,129 件で、全身麻酔 189 件 (入院 132 件、日帰り全身麻酔下手術 57 件)、局所麻酔 940 件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| (1) 新鮮熱傷 | 0 件 |
| (2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷 | 0 件 |
| (3) 唇裂・口蓋裂 | 28 件 |
| 口唇鼻形成術 | 16 件 |
| 口蓋形成術 | 6 件 (耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行 3 件) |
| 口唇鼻形成術・口蓋形成術同時施行 | 1 件 |
| 顎裂部骨移植術 | 5 件 |
| (4) 手、足の先天異常、外傷 | 17 件 |
| 多指症手術 | 9 件 |
| 多趾症手術 | 3 件 |
| 合趾症手術 | 1 件 |
| 多合趾症手術 | 3 件 |
| 先天性絞扼輪手術 | 1 件 |
| (5) その他の先天異常 | 99 件 |
| 副耳切除術 | 19 件 |
| 耳瘻孔切除術 | 6 件 |
| 先天性胸鎖関節皮膚瘻切除術 | 1 件 |
| 小耳症肋軟骨移植術 | 1 件 |
| 小耳症耳介挙上術 | 4 件 |
| 小耳症術後修正術 | 1 件 |
| 耳介形成術 | 4 件 |
| 睫毛内反手術 | 10 件 |
| 下顎形成術 | 1 件 |
| 漏斗胸手術 (Nuss 法) | 10 件 |
| 漏斗胸手術 (Nuss 法術後バー抜去) | 4 件 |
| 漏斗胸手術 (Nuss 法術後修正術) | 2 件 |
| 臍ヘルニア形成術 | 35 件 |
| 臍腸管切除術 | 1 件 |
| (6) 母斑、血管腫、良性腫瘍 | 60 件 |
| 母斑切除術 | 21 件 |
| 良性腫瘍切除術 | 29 件 |
| 血管腫切除術 | 6 件 |
| 静脈奇形硬化療法 | 4 件 |
| (7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建 | 0 件 |

| | |
|------------------|-----------------------|
| (8) 瘻痕、瘻痕拘縮、ケロイド | 9 件 |
| 瘻痕拘縮形成術 | 9 件 |
| (9) 褥創、難治性潰瘍 | 2 件 |
| デブリ・縫合術 | 2 件 |
| (10) 美容外科 | 0 件 |
| (11) その他 | 1,134 件 |
| レーザー治療 | 1,134 件 (うち全身麻酔下 4 件) |

手術内容に関しては、昨年と比較すると漏斗胸手術が増えて、小耳症の肋軟骨移植術が減少した。他は例年と特に大きな変化は認めなかった。

口唇口蓋裂に対するチーム医療は、歯科、リハビリ科(言語療法士)などと共同して継続して行っている。出生前診断を受けた母親に対する説明や、当院で出生し入院中に歯科で Hotz 床を作成して早期より術前顎矯正を行う症例も増えてきている。

血管腫、特に乳児血管腫に対しては、早期よりロングパルスダイレーザー V-beam による治療を積極的に行っている。月曜日午前中に外来で 20~30 人のレーザー治療を行っているが、月曜日が祝日になることが多く、予約を入れるのが困難な状況である。

漏斗胸に対する低侵襲な手術である Nuss 法は今年度 10 例に行った。高校生や大学生の症例も増えており、夏休みなどの長期休暇に手術を予定するのが困難な状況である。この時期の手術・入院枠の運用は相変わらず当院外科系共通の悩みとなっている。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長: 富沢仙一

資格: 日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科学会幹事、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

部長: 浅井伸治

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科学会、日本小児股関節研究会、関東整形災害外科学会

2. 総括

整形外科医二人体制で行っている。診療体制は下記のようにあり昨年度と同様である。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、また浅井医師による小児股関節手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っている。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例(或いは片側低形成症例)に行われている。

小児股関節疾患について、自己血採血、股関節造影し、2 期的に内反骨切りを行う例が増加し、4 例を行った。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|----|----|----|---------|------|
| 午前 | 再来 | 手術 | 再来 | 小手術、総回診 | 再来 |
| 午後 | 新患 | 手術 | 新患 | 書類、BTX | リハビリ |

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

3. 外 来

総受診者数 3,741 人、新患 383 人、再来 3,358 人であった。総受診者数は 417 人増加し、新患は 19 人増加し、再来者は 229 人の増加であった。しかし、新患数は当科で登録できるのにもかかわらず、診察日の総受診者の記録が電子カルテに記録されないために、少ない数字となっている。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギブス等の処置は再来終了時刻を目安にギブス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギブスは 142 回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。医師補助員が外来時に 1 名ついた。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は 61 人であった。創外固定装着症例は 3 人であった。

対象疾患が下肢荷重関節の児の手術が多いため、在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は 90 件、うち麻酔下の検査を 6 件 (股関節造影 3 件、自己血採血 3 件) 行なった (別表 1 参照)。

なお、手術に関する施設基準について、区分 2 に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、12 例の手術を実施し、区分 3 に分類される手術:「内反足手術等」については、2 例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術 (Ilizarov Frame、Taylor Frame 使用) 6 例、成長軟骨抑制術 7 例 (8 プレート使用) 行った。

脳性麻痺児に対するボトックス施注は 20 例に行った。

また富沢は、平成 30 年に群馬県スポーツ協会よりスポーツ功労者賞を受賞した。

(富沢仙一)

別表1【手術件数】90件

| | | | |
|------------|----|--|--|
| 関節鏡 | | | |
| 膝 | 0 | | |
| 足 | 0 | | |
| 関節造影 | | | |
| 股関節 | 3 | | |
| 膝関節 | 7 | | |
| 足関節 | 0 | | |
| 自己血採血 | 3 | | |
| 骨生検 | 0 | | |
| 筋性斜頸 | 6 | | |
| 先天性股関節脱臼 | | | |
| 徒手整復 | 0 | | |
| 観血整復 | 0 | | |
| Salter 手術 | 2 | | |
| 減捻内反骨切術 | 0 | | |
| ペルテス病 | | | |
| 徒手整復 | 0 | | |
| 内反骨切り | 1 | | |
| 大腿骨頭迂り症 | 2 | | |
| 骨折観血的整復固定術 | 0 | | |
| 偽関節手術 | 1 | | |
| 矯正骨切り術 | 0 | | |
| 創外固定器使用手術 | 6* | | |
| 骨延長術 | | | |
| 大腿骨 | 3 | | |
| 脛骨 | 3 | | |
| 成長軟骨抑制術 | | | |
| 大腿骨遠位 | 7 | | |
| 脛骨近位 | 7 | | |
| 骨、軟部腫瘍 | | | |
| 摘出術 | 0 | | |
| 先天性ばね指 | | | |
| 腱鞘切開 | 0 | | |
| 骨関節感染症 | | | |
| 切開、洗浄 | 0 | | |
| 創形成術 | 0 | | |
| 軟部組織感染症 | 0 | | |
| 先天性内反足 | | | |
| 後内方解離 | 2 | | |
| エバンス | 2* | | |
| 三関節固定術 | 0 | | |
| 尖足変形 | | | |
| 後方解離 | 0 | | |
| 先天性垂直距骨 | | | |
| 内外前方解離 | 0 | | |
| 脳性麻痺 | | | |
| 股関節観血授動術 | 0 | | |
| 膝関節観血授動術 | 2 | | |
| 足関節観血授動術 | 10 | | |
| 二分脊椎 | | | |
| 後方解離 | 0 | | |
| 後内方解離 | 0 | | |
| エバンス | 0 | | |
| 組み合わせ | 0 | | |
| 三関節固定術 | 0 | | |
| 抜釘術 | 28 | | |
| 創外固定器除去手術 | 3 | | |
| 計 | 90 | | |

*: 同時処置として重複を示す

3. 第三病棟

第三病棟(血液腫瘍・循環器)の延べ入院患者数は8,316人で、内訳は循環器科・心臓血管外科: 63.8%、血液腫瘍科 34.0%、その他: 2.3%、1日平均入院患者数は22.8人、年間病床利用率は75.9%であった。循環器科の入院患者では先天性心疾患が76.6%、川崎病が10.1%を占め、血液腫瘍科は腫瘍性疾患が76.9%、非腫瘍性疾患が23.1%を占めた。

第三病棟の病室の不足や比較的医療的ケアが多い重症患者をPICUから受け入れなければならない状況があり、安全管理上の問題にも努力をし、PICUから循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れが比較的スムーズに行われるようにしている。年間病床利用率が上昇したため、病室の不足時には予定入院患者の一部や比較的循環が安定した患者を他病棟に移動させるなど、病院全体として対応した。循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、それぞれ高度の専門知識と看護力を必要とする分野である。小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う患者の看護を同時に行う看護師の負担は大きい。医療安全を考慮しながら、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(朴 明子)

(1) 循環器科

30年度は、小林富男、下山伸哉、池田健太郎、田中健佑、新井修平の5名体制に加え、前半に大谷祐介、後半に高橋 駿の2名の後期研修医を迎えて診療を行った。年間総入院患者数は622名であった。断層心エコーは6,165件、心臓カテーテル検査は180件であった。Catheter interventionは、バルーン拡張術47件、経皮的ASD閉鎖術9件、Amplatzer PDA閉鎖栓4件、PDAコイル塞栓3件、血管内コイル塞栓5件、カテーテルアブレーション7件、BAS4件の計79件であった。第三病棟における循環器科関連の死亡は4件であった(表1)。循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っている。またPICUが円滑に運営できるようベッドコントロール会議毎日行い緊急患者に対応できるよう努めている。

令和元年度も群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたい。

(池田健太郎)

表 1 循環器科関連の死亡患者

| No | 年 齢 | 性 別 | 死 亡 日 | 診 断 | 解 剖 | Ai |
|----|--------|-----|-----------|----------------------------------|-----|----|
| 1 | 9mo | F | 2018.5.21 | 右肺欠損、TAPVC (I + II), PVO | あり | あり |
| 2 | 13y3mo | F | 2018.8.29 | PAIVS, CHF, CKD, 4p- | なし | なし |
| 3 | 3y3mo | F | 2019.2.27 | multiple VSD, ASD, OMI, CHF, 9q- | なし | なし |
| 4 | 2y3mo | M | 2019.3.2 | DORV/PA, ELBW, 低酸素脳症 | なし | なし |

(2) 心臓血管外科

平成 30 年度は岡 徳彦、友保貴博、林 秀憲医師に加え、後期研修医 1 年目の石堂博敬医師が 4 月から 9 月まで、松井謙太医師が 10 月から 3 月まで心臓血管外科チームの一員として診療にあたりました。年間を通して手術死亡、病院死亡なく、また重篤な合併症の発症もなく過ごすことができました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらずこのような良好な成績を残すことができたのも、小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今後ともこの成績が維持できるように努力していききたいと思います。

(岡 徳彦)

(3) 血液腫瘍科

平成 30 年度の血液腫瘍科総入院数 (再入院を含む) は、昨年と同様である。実入院数は 52 例と昨年より微増し、新規入院患者数は 29 例と大幅に増加している。腫瘍性疾患が 20 例、非腫瘍性疾患が 9 例であった (表 1 参照)。血液悪性疾患では白血病が 8 例 (ALL: 6 例、AML: 2 例)、非ホジキンリンパ腫 2 例であった。固形腫瘍では、血管腫 10 例であった (表 2 参照)。死亡例はなかったが、新規入院患者以外に ALL の再発例があった。

本年は固形腫瘍の新規入院が例年よりも大幅に少ない年であったが、血管腫に対するプロプラノロール投与のクリニカルパス入院が大幅に増加した。また思春期患者や病状の安定しない新規入院患者など、個室を使用する症例が多く、ベッドコントロールの面でも難渋した。今後、思春期の小児がん患者を含め、快適な療養環境を提供できるように努めたい。

(朴 明子)

表 1 入院患者数

| 疾 患 | 総入院数 | 実入院数 | 新 患 |
|--------|------|------|-----|
| 腫瘍性疾患 | 194 | 40 | 20 |
| 非腫瘍性疾患 | 25 | 12 | 9 |
| 合計 | 219 | 52 | 29 |

表 2 疾患別患者数

| 腫瘍性疾患 | 実患者数 | 新規患者数 | 非腫瘍性疾患 | 実患者数 | 新規患者数 |
|-----------|------|-------|--------------------|------|-------|
| 急性リンパ性白血病 | 17 | 6 | 再生不良性貧血 | 2 | 2 |
| 急性骨髄性白血病 | 3 | 2 | 骨髄線維症 | 1 | 1 |
| 非ホジキンリンパ腫 | 3 | 2 | 血球貪食症候群 | 3 | 2 |
| Wims腫瘍 | 3 | 0 | 自己免疫性血小板減少性 紫斑病 | 1 | 1 |
| 肝芽腫 | 2 | 0 | 好中球減少症 | 2 | 2 |
| 神経芽腫 | 2 | 0 | 溶血性貧血 | 3 | 1 |
| 血管腫 | 11 | 10 | その他 | | |
| 小 計 | 40 | 20 | 小 計 | 12 | 9 |

4. 小児集中治療部

平成 30 年度は小児集中治療部 (以下 PICU と略記) 機能の向上を目指すことを目指し、専任医師を固定配置する方針として 3 年目となった。医師の人員的な問題でいわゆるオープン ICU 形態をとる運営をせざるを得ない状況は続いているが、各科入室者の担当医との協力のもと運営している。平成 30 年度に PICU で治療・管理を行った患者数はのべ 334 (前年 291) 名で、8 床の運用で 1 日平均入院患者数は 6.3 (前年 5.9) 名、平均入室日数は 6.9 (前年 7.3) 日と前年と比較し更に入室者数は増加し、入室期間は短縮の傾向を示した (表 1)。

全入室患者のうちわけは、約 6 割は手術後の管理のための入室で、その他は入院中の患者状態悪化で入室になったケース 16% (43 件)、外来からの直接入院 6% (15 件)、当院産科での出生後の入院 (胎児診断後) 4% (11 件) であった。また、他院からの重症者の転院はで 13% (33 件) (前年 23) と増加傾向であり、いずれのケースも緊急入室であった (表 2)。

PICU への新規入室制限を余儀なくされた日が 27 年度は 119 日 (33%) であったため、平成 28 年度から PICU のベッド運用方法および一般病棟との連携方法を更に変更したが、入室制限を行った日数は 30 年度は 65 日 (18%) と 29 年度の 69 日とほぼ同様であった。一般病棟との連携が改善されたことや、以前より懸案となっていた長期入室者の割合が減少したこと等で入室制限はある程度改善されてはいる。しかしながら、30 年度も県内で当院でのみで対応可能な重症者の入院依頼を断らざるを得ないケースは存在し、他院からの緊急重症患者 7 名の受け入れができなかった。また、入室制限で予定手術が延期になるなどの影響も出ており、小児の重症者を受け入れる県内唯一の PICU を有効に活用するためには、現状の病院施設や病棟体系で対応する限りは限界があり、やはり PICU と一般病棟との間の HCU の機能を持つ病棟の必要性が痛感させられる。

表 1 平均在室日数

| 診療科 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-----------|----------|----------|----------|
| 全診療科 | 8.9 | 7.3 | 6.9 |
| 循環器科・心臓外科 | 11.8 | 9.4 | 9.5 |
| アレルギー科* | 2.4 | 9.4 | 12.2 |
| 神経内科 | 2.3 | 4.8 | 3.5 |
| 血液腫瘍科 | 5.5 | 4.7 | 2.3 |
| 整形外科 | 0 | 3.0 | 1.3 |
| 外科 | 2.1 | 1.8 | 3.1 |
| 形成外科 | 1.1 | 0.9 | 1.2 |
| その他内科系診療科 | 3.6 | 0.5 | 0 |

*一部アレルギー疾患でない疾患を含む

また、新生児・乳児への開胸緊急 ECMO 装着など PICU 内での手術を含めた緊急処置は 31 (前年 70) 件あり、PICU 内での迅速な対応が求められている現状が浮き彫りになった。通常の呼吸循環管理等以外の特異な治療としては、ECMO 0 (前年 9) 件、CHDF 18 (前年 2) 件、血漿交換 3 (前年 3) 件、NO 吸入治療 28 (前年 28) 件、N2 吸入治療 3 (前年 3) 件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が 75% を (図 1)、診療科別入院患者数も図 2 のごとく循環器科・心臓血管外科が 55 (前年 68) %、外科が 25 (前年 15) % を占め、循環器科・心臓血

管外科の入室者に占める割合減少し、外科患者の入室が増加傾向にあるが、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。その中で入室者の多くを占める循環器疾患患者の平均在室日数が減少傾向(表1)となったことは前述の全体の在室日数を減少させた一因と考えた。引き続き努力を重ね、効率的な PICU 運営を行うことで入室制限日数を減少させることが必要と思われた。

また、PICU 入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1月-1歳未満)が36%と多くをしめ、29年度の41%とほぼ同様であった(図3)。これは1歳未満の先天性心疾患患者の入室の影響が大きいものと考えられた。心臓外科手術に関しては重症疾患症例が年々増加傾向にあり Norwood 手術を始め難易度の高い手術が行われるが、30年度は ECMO 等を必要とするケースが極めて少なかったことが特徴であったが、気管狭窄等の疾患のため入室期間の長期化につながった。

他職種の連携に関しては以前から行われているリハビリテーション科と協力して早期リハビリテーション介入、歯科診療や NST、心のサポートチームの介入などの充実に加え、30年度は臨床工学部門や感染症科と連携し毎朝の多職種カンファレンスを開始し、より早い効率的な回復を目指す試みを開始した。また、長年の懸案であった PICU 内の感染管理の制度を一新しできたこと、感染症科との連携により抗生剤の使用に関しては大きく変化した1年であった。

表2 他院からの転院患者疾患名

| 疾 患 | 症 例 数 |
|--------|----------|
| 脳炎・脳症 | 3 |
| 痙攣重積等 | 4 |
| 先天性心疾患 | 5(含: 県外) |
| 心筋疾患等 | 4 |
| 後天性心疾患 | 3 |
| 呼吸器感染等 | 3 |
| 急性腹症等 | 4 |
| その他 | 7 |
| 合 計 | 33 |

また、PICU における死亡患者は6(前年8)名(1.8%)であった。そのうち2名は重症心疾患に対する心臓手術術後、心筋症、急性心筋炎、無脾症の敗血症性ショック、熱中症心肺停止後各1名であった。また、急性心筋炎、無脾症の敗血症性ショック、熱中症心肺停止後例は、入室時点で救命が困難な症例であった。緊急性を要する患者搬送においてはヘリポートが設置されていないなど不利な面も多く、また、緊急患者受け入れ体制の連絡体制が不十分でもあり、長期的視点に立った自施設の整備および県内の救急医療連携体制の整備の向上が望まれる。

最後に PICU の役割を効果的に果たすため、他施設との連携強化が重要でありチーム医療の充実を目指し徐々に活動領域が拡大しはじめているなかで今後さらなる改善に期待したいところである。

(下山伸哉)

図1 診療科別在室日数

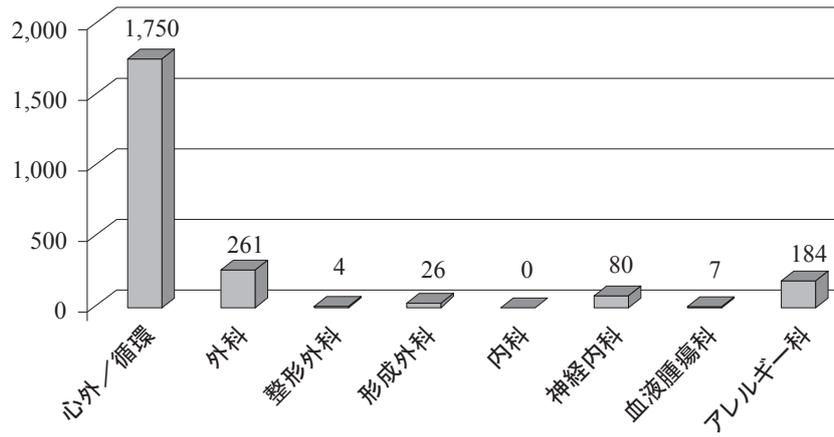


図2 診療科別入院患者割合

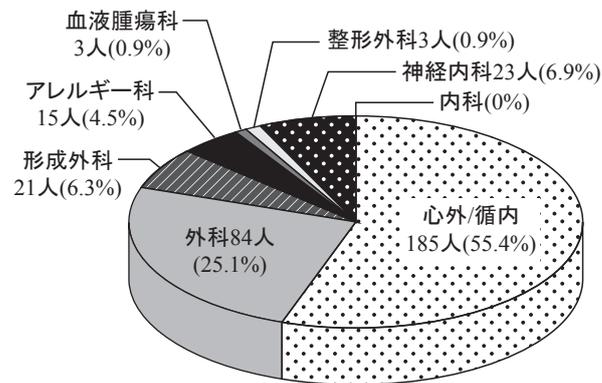
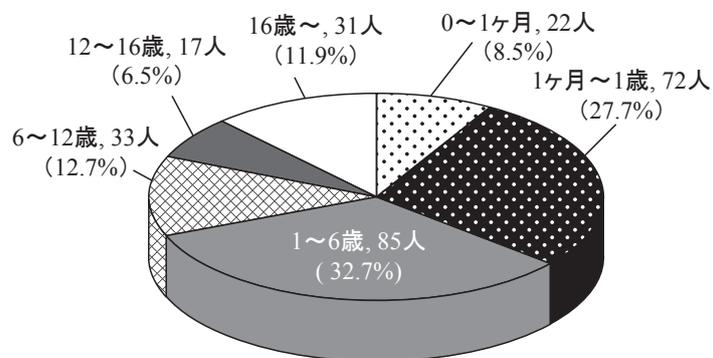


図3 PICU入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

平成 30 年度の新生児未熟児病棟の総入院患者数は 288 人で、ここ数年と大きな変化はなかった。このうち、院内出生の児の占める割合は 159 人 (55%) で前年度と同様であった。在胎 28 週未満の超早産児は 31 人、出生体重 1500g 未満の極低出生体重児は 48 人で、前年と比べ若干減少していた。そのためか、平成 30 年度は例年に比べ死亡症例が少なかった。

入院患者数は大きな変化がなかったが、病床稼働率は比較的高い水準で推移しており、病床稼働率が 100% を超える日も少なくなかった。しかしながら、幸いにも依頼のあった患者を断ったことが数回程度で済んだことについては、ご協力いただいた他病棟ならびに他院の方々に感謝申し上げたい。また、医療安全や患者サービスの面などから考えると、新生児未熟児病棟の増床も検討すべきではないだろうか。

研究研修の面では、例年通り、12 月と 3 月にオープンカンファレンス、10 月に院内スタッフ、1 月に県内周産期医療関係者、11 月と 2 月に救急救命士を対象とした新生児蘇生法講習会を開催することができた。新生児蘇生法プロバイダーの資格更新のための新生児蘇生法スキルアップコースは 4 回行い、昨年度に引き続き 11 月に消防学校で救急過程の学生を対象に新生児蘇生の実習も行った。今年度は墜落産に近い状態で搬送されてきた在胎 21 週の超低出生体重児を救命することができた。救急隊関係者に対する新生児蘇生法講習会が役に立った可能性もあり、今後も救急救命士をはじめ県内の関係者に対する新生児蘇生法講習会を積極的に行なっていきたい。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

| | 院内出生 | 院外出生 | 総 数 |
|--------------|------|------|-----|
| 500g 未満 | 1 | 0 | 1 |
| 500 ～ 999g | 22 | 4 | 26 |
| 1000 ～ 1499g | 20 | 1 | 21 |
| 1500 ～ 1999g | 32 | 13 | 45 |
| 2000 ～ 2499g | 38 | 19 | 57 |
| 2500g 以上 | 46 | 92 | 138 |
| 計 | 159 | 129 | 288 |

◆在胎期間の分布

| | 院内出生 | 院外出生 | 総数 |
|-----|------|------|-----|
| 21週 | 1 | 0 | 1 |
| 22週 | 1 | 0 | 1 |
| 23週 | 0 | 0 | 0 |
| 24週 | 3 | 2 | 5 |
| 25週 | 7 | 1 | 8 |
| 26週 | 10 | 0 | 10 |
| 27週 | 5 | 1 | 6 |
| 28週 | 5 | 0 | 5 |
| 29週 | 4 | 1 | 5 |
| 30週 | 2 | 1 | 3 |
| 31週 | 8 | 1 | 9 |
| 32週 | 6 | 1 | 7 |
| 33週 | 11 | 2 | 13 |
| 34週 | 10 | 9 | 19 |
| 35週 | 7 | 2 | 9 |
| 36週 | 9 | 11 | 20 |
| 37週 | 12 | 21 | 33 |
| 38週 | 22 | 26 | 48 |
| 39週 | 19 | 24 | 43 |
| 40週 | 14 | 21 | 35 |
| 41週 | 3 | 5 | 8 |
| 計 | 159 | 139 | 288 |

◆疾患の分布

| | | | |
|-------------------|----|-----------------------------|----|
| 呼吸窮迫症候群 | 36 | 気管内肉芽 | 1 |
| 胎便吸引症候群 | 2 | 喉頭蓋嚢胞 | 1 |
| 新生児一過性多呼吸 | 71 | 新生児仮死 | 42 |
| 肺浮腫・出血性肺浮腫 | 4 | 新生児重症仮死 | 40 |
| 肺出血 | 5 | 新生児けいれん・けいれんの疑い | 1 |
| 気胸・気縦隔 | 5 | 頭蓋内出血 | 10 |
| 無呼吸発作・反復性無呼吸 | 44 | 低酸素性虚血性脳症 | 5 |
| 喉頭軟化症 | 1 | 脳梗塞 | 1 |
| 肺低形成・肺低形成の疑い | 1 | 脳静脈血栓症・脳動静脈血栓症・脳静脈血栓症の疑い | 2 |
| 新生児持続性肺高血圧症 | 9 | 脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い | 4 |
| 慢性肺疾患 | 18 | 墜落産児 | 3 |
| 声帯麻痺・両側声門開大不全 | 3 | 神経筋疾患の疑い | 1 |
| 先天性横隔膜ヘルニア | 2 | くも膜嚢胞・くも膜嚢胞の疑い | 1 |
| 肺高血圧症 | 10 | てんかん・てんかんの疑い | 1 |
| Dry lung syndrome | 1 | 腕神経叢麻痺 | 2 |
| 肺分画症・肺分画症の疑い | 1 | ventriculus terminalis | 1 |
| 気管狭窄 | 1 | 脈絡叢嚢胞 | 1 |

◆疾患の分布

| | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------------|----|
| 高インスリン血性低血糖症(一過性・持続性) | 7 | 小腸広範壊死・腸管壊死 | 1 |
| 晩期循環不全 | 1 | 肝内石灰化 | 1 |
| 新生児高ビリルビン血症 | 184 | 腸管部分拡張症 | 1 |
| 新生児重症黄疸 | 1 | 輪状痔 | 1 |
| 未熟児くる病 | 46 | 仮性メレナ | 2 |
| 新生児低血糖症 | 5 | 乳児肝血管内皮腫・肝血管内皮腫 | 1 |
| 高血糖 | 1 | 膀胱直腸瘻 | 1 |
| 甲状腺機能低下症・先天性甲状腺機能低下症 | 1 | 先天性十二指腸狭窄 | 1 |
| 溶血性黄疸 | 1 | 脾嚢胞 | 1 |
| 副甲状腺機能低下症・一過性副甲状腺機能低下症・副甲状腺機能低下症の疑い | 1 | 副脾 | 1 |
| 敗血症・菌血症・敗血症性ショック | 5 | 肝線維症 | 1 |
| 新生児 TSS 様発疹症・新生児 TSS 様発疹症の疑い | 1 | 膵胆管合流異常の疑い | 1 |
| 感染症 (focus 不明)・感染症の疑い | 1 | 絞扼性イレウス | 1 |
| 細菌性髄膜炎 | 2 | VSD | 19 |
| 尿路感染症 | 2 | DORV | 1 |
| カテーテル関連血流感染症・カテーテル関連感染の疑い | 2 | ASD | 1 |
| 先天梅毒 | 1 | TOF | 4 |
| 腸回転異常症・中腸軸捻転 | 7 | ECD・房室中隔欠損症 | 2 |
| 腸穿孔 | 3 | MR | 1 |
| 胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い | 6 | PA | 1 |
| 先天性十二指腸閉鎖 | 1 | TR | 1 |
| 胎便関連性腸閉鎖症・胎便関連性腸閉鎖症の疑い | 1 | 動脈管早期収縮・動脈管早期収縮の疑い | 3 |
| 小腸捻転・結腸小腸捻転 | 3 | 大動脈縮窄症 | 3 |
| 先天性食道閉鎖 | 1 | TGA | 1 |
| 肥厚性幽門狭窄症 | 1 | 症候性動脈管開存症 | 33 |
| 鎖肛・鎖肛の疑い | 10 | 上室性不整脈・上室性期外収縮・上室性頻脈 | 2 |
| 急性胃粘膜病変 | 6 | 左上大静脈遺残 | 4 |
| 腹壁破裂 | 1 | 下大静脈欠損 | 1 |
| 結腸閉鎖 | 1 | 心房粗動 | 1 |
| ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い | 6 | Ebstein 奇形 | 1 |
| 門脈体循環シャント | 1 | 右側大動脈弓 | 2 |
| 鼠径ヘルニア | 6 | 心筋梗塞・心筋梗塞の疑い | 1 |
| ヒルシュスプルング病・ヒルシュスプルング病の疑い | 2 | 左室低形成 | 1 |
| 哺乳不良 | 2 | 単心房 | 1 |
| 胆石症 | 1 | 肺動脈弁狭窄 | 1 |
| 肝血管腫・肝血管腫の疑い | 3 | 頻拍性不整脈 | 1 |
| 臍ヘルニア | 6 | 内臓錯位 | 1 |
| 肝被膜下出血・肝出血・肝損傷 | 1 | 半奇静脈-副奇静脈連結 | 1 |
| 腸重積 | 1 | 両側上大静脈 | 1 |
| 胆汁うっ滞・一過性胆汁うっ滞・胆汁うっ滞の疑い | 4 | 冠動脈肺動脈瘻 | 1 |
| 短腸症候群 | 1 | 肺動脈弁欠損 | 1 |
| 臍腸管遺残 | 1 | 胎児水腫 | 2 |
| 総胆管拡張症・総胆管拡張症の疑い | 1 | Noonan 症候群・Noonan 症候群の疑い | 1 |
| 卵巣嚢腫 | 2 | 結節性硬化症・結節性硬化症の疑い | 1 |

◆疾患の分布

| | | | |
|---|----|----------------|----|
| Treacher-Collins 症候群 | 1 | 馬蹄腎・癒合腎 | 3 |
| Goldenhar 症候群 | 1 | 腎嚢胞 | 1 |
| 第1第2鰓弓症候群・第1第2鰓弓症候群の疑い | 1 | 停留精巣 | 2 |
| 胎児炎症反応症候群 | 1 | 多嚢胞腎 | 1 |
| 多脾症候群 | 1 | 低K血症 | 2 |
| osteogenesis imperfecta/Ehlers-Danlos syndrome overlap syndrome の疑い | 1 | 尿管遺残・尿管遺残の疑い | 2 |
| 口唇裂・口蓋裂 | 10 | 腎腫大 | 1 |
| 小顎症 | 4 | 片腎無形成 | 1 |
| 先天性エプーリス | 1 | 性分化疾患 | 1 |
| 巨口症 | 1 | 移動性精巣 | 1 |
| 21トリソミー・21トリソミーの疑い | 14 | 多指症 | 1 |
| 18トリソミー | 2 | 先天性内反足 | 1 |
| 13トリソミー | 2 | 骨形成不全・骨形成不全の疑い | 1 |
| 染色体転座 | 1 | 合指症 | 1 |
| 難聴・難聴の疑い | 9 | 脊椎奇形 | 2 |
| 副耳 | 3 | 先天性多発性関節拘縮 | 1 |
| 未熟児網膜症 | 6 | 膝関節脱臼・反張膝 | 2 |
| 白内障・先天性白内障 | 1 | 鎖骨骨折 | 2 |
| 外耳道閉鎖・外耳道閉鎖+小耳症 | 1 | 踵足 | 1 |
| 眼底出血・硝子体出血 | 2 | 軟骨無形成 | 1 |
| 外耳道狭窄 | 1 | 長管骨延長 | 1 |
| 視神経乳頭低形成・黄斑低形成 | 1 | 片側大腿骨低形成 | 1 |
| 無眼球・小眼球 | 1 | 単純性血管腫 | 2 |
| 耳介低位 | 1 | 乳児寄生性紅斑 | 1 |
| デルモイド | 1 | 汗疹 | 1 |
| 未熟児貧血 | 58 | 中毒疹 | 1 |
| 貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血 | 14 | 脂腺母斑 | 1 |
| 遺伝性球状赤血球症・遺伝性球状赤血球症の疑い | 1 | 双胎 | 38 |
| 血管腫・莓状血管腫・血管腫の疑い | 3 | 品胎 | 3 |
| DIC | 1 | | |
| TAM | 2 | | |
| 胎児母体間輸血症候群 | 1 | | |
| 神経芽細胞腫・神経芽細胞腫の疑い | 2 | | |
| 血小板減少症 | 2 | | |
| 心臓腫瘍・心臓横紋筋腫 | 1 | | |
| 帽状腱膜下出血 | 2 | | |
| 下大静脈血栓症・下大静脈門脈内血栓 | 1 | | |
| カテーテル関連血栓症 | 1 | | |
| 副腎腫瘍・副腎腫瘍の疑い | 1 | | |
| 溶血性貧血 | 2 | | |
| 水腎症・水腎症の疑い | 1 | | |
| 高K血症 | 3 | | |
| 低Ca血症 | 1 | | |
| 尿道下裂 | 3 | | |

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

| | 年齢 | 性別 | 死亡日 | 病名 | 剖検 | Ai |
|---|-----|----|-----------|---|----|----|
| 1 | 1カ月 | 男 | 2018.4.26 | 極出生体重児(在胎34週5日、出生体重1402g)、肝ラブドイド腫瘍、腹腔内出血、腹膜播種、新生児高ビリルビン血症 | なし | なし |
| 2 | 5日 | 男 | 2018.5.1 | 13トリソミー(小顎症、唇顎口蓋裂、肺高血圧症、肺低形成、動脈管開存症)、低出生体重児(在胎32週2日、出生体重1824g)、新生児重症仮死、高インスリン血性低血糖症、新生児高ビリルビン血症 | なし | なし |
| 3 | 3カ月 | 女 | 2018.5.8 | 超低出生体重児(在胎28週0日、出生体重443g)、双胎第1子、双胎間輸血症候群供血児(胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー焼灼術後)、twin anemia polycythemia sequence(貧血)、新生児仮死、新生児一過性多呼吸、限局性腸穿孔、壊死性腸炎、敗血症、胆汁うっ滞性肝障害、未熟児貧血、未熟児くる病、新生児高ビリルビン血症 | なし | なし |
| 4 | 1日 | 男 | 2018.7.30 | 新生児早発型敗血症(ESBL産生大腸菌)、敗血症性ショック、髄膜炎、頭蓋内出血、心筋梗塞の疑い | なし | あり |

6. 産科病棟

平成 29 年度いっぱい産科開院以来部長を勤めてきた高木剛先生が退職され、平成 30 年度は新しい体制の下、常勤医 4 名でスタートした。そして平成 30 年 9 月に京谷琢治先生が宮城県立こども病院に 1 年半の国内留学へ行かれ、10 月には飯野彩奈先生が産休入り、木暮さやかが育休復帰という、医師の入れ替わりの激しい年度となった。群馬大学産科婦人科教室からの当直業務のパート医 2 名に加え、10 月以降は独自に当直や自宅待機業務を担える医師を探し、常勤医数減になんとか対応した。

臨床成績概要は表 1 の通りである。平成 30 年度は新規外来患者数 414 名 (平成 29 年度 383 名)、入院患者数 297 名 (同 305 名)、分娩数 220 件 (同 222 件) であった。

緊急母体搬送受け入れ数は 80 件 (平成 29 年度 82 件)、当院への母体搬送依頼総数 103 件 (同 116 件)、受け入れ率 78.6% (同 70.7%) であり、受け入れ率は増加した。

当院から他院に母体搬送となる搬出数は 9 件あり、平成 29 年度の 12 件から減少した。妊娠中の母体合併症が 4 件、癒着胎盤 3 件、産褥出血が 1 件と、母体救急に関連する疾患がほぼ全数を占めた。

胎児先天異常の死亡例に関しては、胎内死亡 3 例、人工妊娠中絶 5 例であり、前年度とほぼ同数であった。

研修の面では、新生児科と共同で 12 月、3 月にオープンカンファレンスを行った。また、新しい試みとして、県内の周産期医療に携わる医療従事者を対象に、日常診療で困難と感じた症例に関する検討を行う周産期勉強会を、群馬大学と共同して行った。今後も継続していく予定である。

(木暮さやか)

表 1 産科臨床成績概要 (平成 30 年度)

| | | | | |
|-----------|-------|--------------|-------|-------|
| 新規外来患者数 | 414 名 | 出生数 | 236 名 | |
| 入院患者数 | 297 名 | < 1000g | 22 名 | |
| | | 1000-1499g | 20 名 | |
| 分娩数合計 | 220 例 | 1500-1999g | 32 名 | |
| 単胎分娩 | 202 例 | 2000-2499g | 49 名 | |
| 双胎分娩 | 17 例 | 2500-3999g | 110 名 | |
| 品胎分娩 | 1 例 | 4000g \leq | 3 名 | |
| 多胎分娩率 | 8.2% | 死産児数 | 3 名 | |
| 帝王切開数 | 79 例 | 35.9% | 児入院数 | |
| 単胎 | 64 例 | 31.7% | 新生児科 | 131 名 |
| 双胎 | 14 例 | 82.4% | 循環器科 | 16 名 |
| 品胎 | 1 例 | 100.0% | | |
| 母体搬送依頼連絡数 | 103 件 | | | |
| 母体搬送受入数 | 80 件 | | | |
| 受入不可数 | 23 件 | | | |
| 受入率 | 78.6% | | | |
| 母体搬送搬出数 | 9 例 | | | |
| 妊娠中母体合併症 | 4 例 | | | |
| 逆搬送 | 1 例 | | | |
| 産褥出血 | 1 例 | | | |
| 癒着胎盤 | 3 例 | | | |

表 2-1 胎児先天異常症例 (死亡例)

●胎内死亡：2 例

18 トリソミー

胎児発育不全

先天性サイトメガロウイルス感染症

●人工妊娠中絶：5 例

巨大膀胱

不完全 Cantrel 症候群

胎児発育不全 2 例

両側前腕欠損、右大腿骨短縮

7. 麻 醉 科

人事については、今年度もレジデント枠を維持していただくことができ、昨年度と同様の5人体制となった。レジデント枠は飯塚、碓氷、須田が4か月毎に勤務した。昨年度より期間が短縮されたが、小児麻酔を集中して経験してもらうことができ、有意義な研修ができたことと好評を得た。

今年度の麻酔科管理手術件数は964件であり、一昨年度より大きく減少した前年度より85件増加し、一昨年水準に達した。全身麻酔は899件、脊髄くも膜下麻酔は71件で、昨年度よりそれぞれ85件、7件増加した。内訳では、一日入院手術(日帰り手術)は105件で昨年度より35件増加し、産科の帝王切開も74件で増加したが、心臓外科手術は94件であり前年度より10件程減少した。麻酔科管理症例数は増加に転じたが、少子化の社会状況から、当面は同水準で推移するものと考えられる。

麻酔薬や麻酔方法は大きな変化はなかった。診療点数加算が認められた神経ブロックは、今後も適応症例に対して積極的に行っていく方針である。

病院収益改善の為、手術件数の増加が望まれている。ハイリスク患者の手術が増加してきている中、予定手術、緊急手術に十分な体制で対応できるよう、麻酔科の体制の強化および麻酔の安全性の維持に努めていきたい。

次年度は手術部門システムを導入していただくことになっており、より円滑な手術室運営が行えるようになるものと期待される。

(松本直樹)

8. 放射線科

医師 1 名、技師 11 名で例年通りの業務を行った。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含めて、X線検査; 19,749 名 (昨年度 18,944 名)、超音波検査; 1,751 名 (1,404 名)、MRI; 900 名 (922 名)、CT; 496 名 (516 名)、RI; 84 名 (71 名)、死後画像診断 (Ai); 12 名 (13 名) であった。

この他に、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

(畠山信逸)

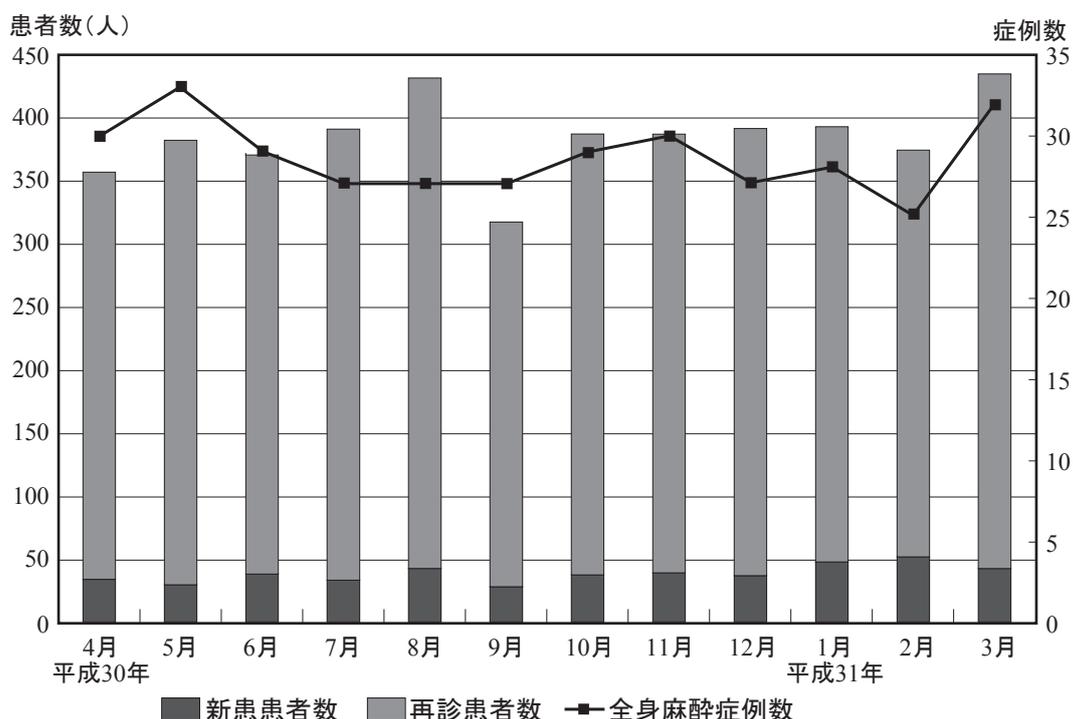
9. 歯科・障害児歯科

(スタッフ)

今年度は人事の変更はなく、昨年度と同様常勤歯科医師3名体制で診療を行い、歯科麻酔業務の支援として東京医科歯科大学中島淳助教に月3回程度お願いした。歯科衛生士は常勤4名(正規職員1名、実務研修生3名)非常勤職員1名で前年度同様の体制で診療を行った。

(診療実績)

診療実績は、今年度も想定以上の診療実績を上げることができた。新規患者数は460名(前年度比112%)、延べ受診者数は4,611名(前年度比105%)、全身麻酔下歯科治療は昨年度より1例増加し344例実施した。

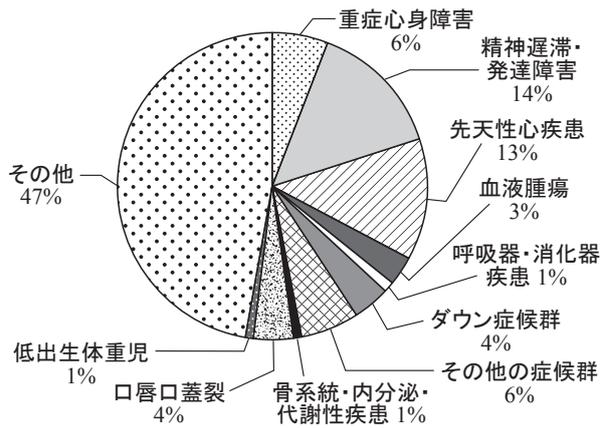


Graph 1: 平成30年度月別歯科運営状況

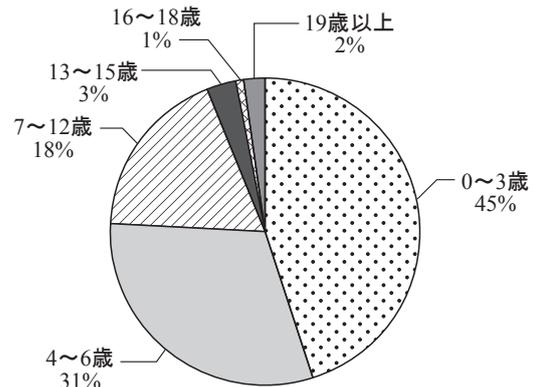
(受診患者と診療内容)

患者層の内訳に関しては、院内紹介では小児神経科や小児循環器科、遺伝科からの紹介が多く、三次歯科医療機関として、全身管理が困難な患者が多い傾向は例年同様であった。院外からの紹介は、例年通り精神遅滞や発達障害児の多数歯齲蝕(うしょく=虫歯)の全身麻酔下歯科治療依頼に加え、低年齢定型発達児の多数歯齲蝕の治療依頼や、その他として口腔外科症例(過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞)の紹介数が増加した(Graph2)。

新規患者の年齢分布の傾向も例年同様3歳未満の受診率が約45%、6歳未満でみると全体の約76%と例年同様の傾向であった(Graph3)。一昨年度に開始した「障害児嚥下機能支援事業(通称:もぐもぐ相談)」は、相談希望者増加により今年度は開催回数を増やし計20回実施した。昨年度同様、群馬県保健予防課石田圭吾医長にご指導いただき、当院リハビリテーション課言語聴覚士も参加し相談事業を行った。相談者からの評価も良好で、来年度も引き続き同事業を継続していきたいと考えている。



Graph 2: 新規患者の疾患・障害



Graph 3: 新規患者の年齢分布

(病院歯科として)

今年度も第一、第二、第三、PICU各病棟への歯科衛生士による週一回の病棟ラウンドを継続した。周術期の口腔衛生管理症例だけでなく、病棟内全患者を対象とした院内入院患児への支援を今後も積極的に行いたいと考えている。

(まとめ)

新歯科外来移転により、受診患者数や全身麻酔症例数は移転前よりも大幅に増加しているが、スタッフ数は移転前の状態が続いている。安全な医療の提供が可能な体制基盤の整備が最低限必要であり、患者数の動向を見ながら適正なスタッフ配置を要望したいと考えている。

今後もこれまでと同様に、患者や家族が安心して通える診療科を目差し、当科の診療体制を更に充実するべく実績を積み重ねていきたい。

(木下 樹)

10. 放射線課

【人 事】

平成 30 年度、転出はなく木暮主幹専門員が再任用職員として赴任された。これまでの知識・技術・経験をご教授いただき活躍していただいている。また萩原実務研修生が配属となった。若い力を存分に発揮して活躍されることを期待している。

【業務・設備】

正規職員 7 名 (再任用職員 1 名)、実務研修生 1 名、非常勤職員 2 名と受付事務担当職員 1 名の体制で業務を遂行した。9 月からは 1 名が産・育休に入り 1 名減で業務を行なった。これまでと変わらず実務研修生枠の正規職員化は実現できていない。業務は年々増加傾向にあり、さらに人材育成や人事異動を踏まえれば人員と業務のバランスがとれておらず人員不足状態である。安全・安心・安定した業務体制の為にも正規職員数の増員を望む。

今年度は設備等の更新はされなかったが、平成29年度末に更新されたクラウド型の PACS (Picture Archiving and Communication Systems) が本格的な運用となりクラウド化のメリットを享受しトラブルなく順調に有効活用されている。次年度以降 MRI 装置、血管撮影装置等の大型機器が更新時期を迎えており、順次適正な時期の更新を望む。また鎮静室設置後、外来検査の鎮静運用を見直し、外来看護師と連携をとり安全に運用できている。例年どおり新規採用看護職員を中心とした MRI 検査・放射線検査の安全講習を行い、県民健康科学大学等からの実習生延べ 20 名受け入れた。人員不足・業務多忙の中で奮闘してくれたスタッフに深く感謝すると共に、大過なく安全に 1 年間過ごせたことは大きな喜びである。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT 検査 95.7%、MRI 検査 95.1%、RI 検査 103.0%、X 線透視検査 117.5%、超音波検査 100.8%、カテーテル検査 108.7%、一般撮影検査 98.1%、ポータブル撮影 107.5%、フィルムコピー108.3%で全体として 101.7%となっている (詳細は統計編)。

【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は下記の通りである。

| 件 名 | 期 日 | 場 所 |
|-----------------------------|---------|-------|
| 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会 | 4/12~15 | 横浜市 |
| 第 41 回日本小児放射線技術研究会 | 4/14 | 横浜市 |
| 第 11 回核医学専門技師研修セミナー | 5/26 | 文京区 |
| 第 235 回群馬 MR 研究会 | 6/20 | 前橋市 |
| 平成 30 年度全国自治体病院協議会放射線部会研修会 | 7/7 | さいたま市 |
| 第 16 回オートプシーイメージング学会 | 7/21 | つくば市 |
| 第 57 回群馬県核医学技術懇話会 | 9/18 | 前橋市 |
| 第 17 回 Open Film Conference | 9/20 | 前橋市 |
| 第 34 回日本診療放射線技師学術大会 | 9/21 | 下関市 |

| 件名 | 期日 | 場所 |
|-----------------------------|--------|-----|
| 第 37 回臨床画像診断懇話会 | 10/2 | 前橋市 |
| 第 46 回日本放射線技術学会秋季学術大会 | 10/4～6 | 仙台市 |
| 第 11 回群馬 GYRO USERS MEETING | 11/6 | 前橋市 |
| コニカミノルタヘルスケアフォーラム in 前橋 | 12/1 | 前橋市 |
| 第 1 回 PMMR ミーティング | 12/8 | 渋川市 |
| 第 6 回クリニカル PET フォーラム | 12/15 | 中央区 |
| 第 28 回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 | 2/6 | 前橋市 |
| 群馬県庁放射線技師会第 27 回学術部研究発表会 | 3/9 | 前橋市 |

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

平成 30 年度の検査課の職員構成は、正規職員 10 名（うち 1 名は育休中）と実務研修生 5 名であった。年度末から実務研修生 1 名が産休に入ったため、最終的には 13 名で業務を行った。

【業 務】

- ・院内で検査していたジゴキシンとテオフィリンは依頼件数が少ないため、年度途中から外部委託に変更となった。
- ・外部委託検査の結果報告が一部インターネット運用となり、報告の迅速化と省力化が図られた。
- ・血液部門では、造血幹細胞の保存が 1 件あった。
- ・平成 30 年 12 月に改正医療法が施行されたことから、各検査マニュアルを改良するとともに、保守管理や測定の作業日誌といった必要書類を新たに作成し、運用を開始した。
- ・CPC は 2 回開催し、3 症例を検討した。

【設 備】

- ・検体検査では、老朽化した生化学自動分析装置 BM6050 (日本電子) が、最新機種 of ZS050 (日本電子) に更新された。
- ・マイクロティナ用遠心機が更新された。
- ・生化学自動分析装置の更新に伴い、2 階検査室のレイアウトを変更した。受付台が入口近く配置されたことにより、検体搬入時の利便性が向上した。
- ・生理検査では、ポータブルデジタル脳波計 (日本光電) と OAE スクリーナ、インピーダンスオージオメータ (以上リオン) が更新された。

【委 員 会】

- ・臨床検査委員会は年 4 回開催した。各分析装置の精度管理報告はじめ、外部委託検査項目、基準範囲、検体保存、便潜血検査や胸水乳び検査などについて検討した。
- ・輸血療法委員会は年 6 回開催した。血液製剤の使用状況報告をはじめ、タイプ&スクリーンの全科での導入、新鮮凍結血漿 (FFP) の融解後使用期限の延長などについて検討した。また、輸血勉強会を 2 回開催した。開催月日、テーマ、講師を以下に示した。

平成 30 年 7 月 3 日:「輸血副作用 TACO・TRALI について」

(血液センター・坂倉薬剤師)

「手術中の輸血対応について」(麻酔科・松本医師)

平成 31 年 2 月 5 日:「今さら聞けない凝固のはなし— DIC を中心に—」

(JB 日本血液製剤機構・新井課長補佐)

「学会認定・臨床輸血看護師について」

(群馬県立がんセンター・松本認定看護師)

- ・院内感染対策委員会は年 12 回開催した。病原菌検出、ウイルス迅速検査、抗菌薬使用の状況を報告するとともに、ICT および AST から活動報告があった。MRSA のアウトブレイクに伴い、環境培養および監視培養を強化した。PICU 入室時および心臓外科手術前の MRSA スクリーニングを開始した。

【学会・研修会等】

参加状況を表 1 に示した。日本臨床衛生検査技師会の学会誌「医学検査」に 2 編の論文発表、全国学会および関甲信・首都圏支部学会で各 1 題の口演発表を行った。

表1 学会・研修会などへの参加状況

| 件名 | 期日 | 場所 |
|-----------------------------|-------------|------|
| TERAKOYA 東京 | 4月14日 | 東京 |
| 第67回日本医学検査学会 | 5月11～13日 | 浜松 |
| 第1回院内コーディネーター研修会 | 5月16日 | 前橋 |
| TERAKOYA 東京 | 5月19日 | 東京 |
| 第66回日本輸血・細胞治療学会総会 | 5月24～26日 | 宇都宮 |
| 第43回日本超音波検査学会学術集会 | 6月1～3日 | 大阪 |
| 日本超音波医学会第91回学術集会 | 6月8～10日 | 神戸 |
| TERAKOYA 東京 | 6月9日 | 東京 |
| 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 | 6月16～17日 | 東京 |
| 平成30年度群馬県感染対策連絡協議会総会・講習会 | 6月25日 | 前橋 |
| 第35回輸血検査基礎実技研修会 | 7月8日 | 前橋 |
| 平成30年度群馬県臓器移植コーディネータ研修 | 7月12日 | 太田 |
| 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 | 7月14～15日 | 横浜 |
| 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 | 7月15～16日 | 東京 |
| 超音波実技講習会(下肢血管領域) | 7月22日 | 前橋 |
| 日本循環器学会コメディカルセミナー | 7月28日 | 横浜 |
| 第2回MALDI-TOF臨床微生物研究会総会・学術集会 | 7月28日 | 東京 |
| 生化学自動分析装置JCA-ZS050基礎コース | 8月15～17日 | 東京 |
| 第34回北関東病院感染対策懇談会 | 8月29日 | 前橋 |
| 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 | 8月25～26日 | 東京 |
| 第14回群馬県合同輸血療法委員会世話人会 | 9月12日 | 前橋 |
| 感染症対策地域連携加算に係る病院感染対策評価 | 9月12日 | 前橋 |
| 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 | 9月15～16日 | 東京 |
| 生化学自動分析装置JCA-ZS050基礎コース | 9月26～28日 | 東京 |
| 日本臨床検査自動化学会第50回大会 | 10月11～13日 | 神戸 |
| 平成30年度女性キャリアサポート研修 | 10月16日 | 前橋 |
| 日本心エコー図学会第15回秋期講習会 | 10月21～22日 | 東京 |
| 第55回日臨技関甲信・首都圏支部医学検査学会 | 10月27～28日 | 前橋 |
| 第65回日本小児総合医療施設協議会 | 11月15～16日 | さいたま |
| 第9回首都圏BMセミナー | 11月21日 | 東京 |
| 脳波計講習会(小児脳波コース) | 12月8日 | 東京 |
| 平成30年度主事技師キャリアアップ研修 | 1月11,18,23日 | 前橋 |
| 第30回日本臨床微生物学会、東京 | 2月1～3日 | 東京 |

| 件名 | 期日 | 場所 |
|--------------------------|----------|----|
| 第21回エコーウインターセミナー | 2月9～10日 | 松本 |
| 新生児聴覚検査研修会 | 2月20日 | 前橋 |
| 第34回日本環境感染学会総会・学術集会 | 2月22～23日 | 神戸 |
| 平成30年度日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会 | 3月2日 | 東京 |
| 平成30年度群馬県臨床検査精度管理調査報告会 | 3月5日 | 前橋 |
| 輸血テクニカルセミナー2018 | 3月16～17日 | 京都 |

(田中伸久)

12. リハビリテーション課

【人 事】

平成30年度は、理学療法士5名(正規4名・実務研修生1名)、作業療法士3名(正規1名・実務研修生2名)、言語聴覚士2名(正規1名・実務研修生1名)の技術職10名で外来・入院リハビリテーションに取り組んだ。前年度末に退職した実務研修生(言語聴覚士)1名分を募集にかけたが応募はなく、前年度に比べ1名減で業務を分担し対応した。今年度は新規入職者がなく、4名の実務研修生も業務に慣れ、正規職員に相談しながらも積極的に取り組める体制であったため、リハビリテーション技術職の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士3職種の専門性を生かし、チームとして小児の発達と生活支援に多面的・積極的に取り組めた。

また、今年度、新たに当院言語聴覚士に調整額2がついたことは、その業務の専門性とリスクの高さを考慮して頂けたと考えている。

【業務業績】

リハビリテーション課の新規患者数は年々増加している。年間で入院474人(前年度395人)、外来346人(前年度290人)、合計820人(前年度687人)と入院・外来ともに大幅に増えている。

リハビリテーション算定の診療報酬実績も、27年度3,867,781点、28年度4,010,865点、29年度4,683,045点、30年度4,951,216点と増加している。高度医療の治療支援と、慢性疾患児の発達・育児支援のニーズの高まりに対し、課員全員が多忙の中、丁寧にリハビリテーションの質を維持していることにより、当院のリハビリテーション受診を希望される方が増えていることを実感している。

入院リハビリテーション: 心臓外科術後の心リハ、呼吸器疾患に対する呼吸器リハ、後天性脳症後遺症や形成外科・整形外科術後の運動器リハ、血液腫瘍疾患に対するがんリハに取り組んだ。急性期から開始する症例が増え、入院の約6割は初期・早期加算が算定可能な、いわゆる早期ハイリスク群である。

特に業務拡大としては、理学療法が主であった入院急性期リハビリテーションにおいて、作業療法(認知発達、活動性の向上)・言語聴覚療法(哺乳・摂食嚥下練習、コミュニケーション支援)の件数が増えた。全身管理や治療に配慮しながら発達のアプローチを併せて行うことにより、運動機能・活動性向上、コミュニケーション、モチベーションを高める役割を果たした。

- ・がん患者リハビリテーション: 入院治療に伴うリハ依頼件数が増え、28年度154件/63,035点、29年度204件/86,130点、30年度360件/102,910点と、年々実績が増えている。治療に伴う筋力・運動機能低下・ADL低下を防ぎ、病棟内活動性の維持は心理的支援としても大きな意味を持つ。緩和ケア対象児と家族の生活支援を目的に介入することもある。

外来リハビリテーション: 慢性疾患を合併し、発達に係わる後遺症を心配する患児の小児リハビリテーションのニーズは増え、より多様化している。乳児検診・大学病院・他医療機関からの外来リハビリテーション目的の紹介患者も多い。

外来リハビリテーションでは、発達・ADLの促進と機能維持を目的とした障害児リハビリテーションの対象児が9割を占めている。脳性麻痺・後天性脳症後遺症・染色体異常・先天性多発奇形症候群・発達遅滞・言語発達遅滞・自閉症スペクトラム症や多動症などの疾患の依頼が多い。乳幼児期に開始し、1年以内にリハビリテーション終了となる児が4割である。残り6割は、障害が残

存し長期的なリハビリテーション及び療育が必要となる。必要に応じ療育機関や訪問リハビリテーションへの移行を進めるが、医療的ニーズが高く当院の外来診療が頻回な症例では、当院リハビリテーション継続の希望も多く、他施設リハへの移行に苦慮している。慢性期疾患に対しての外来受診と合わせ障害児リハビリテーションを5年以上継続している患者も100名以上おり、在宅療養生活の継続を支援する当院リハビリテーション課の役割の1つと考えている。

【業務・取り組み】

1. リハビリテーション体制の整備

30年度末3月の関東厚生局の個別指導の準備を課員全員で取り組むことを通し、リハビリテーション処方・リハビリテーション実施計画書・リハビリテーション前診察(リハ前診察)・リハビリテーション実施時間などリハビリテーション診療報酬に関わる体制を見直す良い機会となった。今後も、当院の患者様のニーズや医師の依頼に対応できるリハビリテーション体制を整え、医師の指示のもと、安全・効率・効果的なリハビリテーションに取り組んでいきたいと考えている。

2. 要支援事例のリハビリテーション

当院では要支援事例のリハビリテーションも少なくない。不適切な環境で育つ慢性疾患児は発達に障害を来すこともあり、育児環境や家族への対応に神経を使いながらの発達支援は、リハ職の精神的ストレスとなる事例である。課員間の情報共有や症例検討により、スタッフの心理的負担の軽減も重要である。

3. 在宅療養移行支援・退院支援

リハ職の今年度支援会議への参加回数は17回であり、退院後の家庭及び学校生活の環境整備や介助方法の提案などが主であった。中には学校やご家族、ご本人の希望により、修学旅行への参加方法の相談を学校教員・養護教員・校医・主治医とともに検討会議を開催したものもあった。医療的ケア児の在宅療養移行支援、支援会議への出席機会も増えている。車椅子、カーシートの提案、移乗練習、復学練習なども取り組んでいる。退院後の外来リハビリテーションにおいては、デイサービスや障害児通園施設の方や特別支援学校担当教員のリハ見学依頼も増えている。社会的資源を活用し生活環境を整え、在宅療養生活の維持に役立てればと考えている。

4. 課内人材育成

- ①急性期患者へ対応可能な技師を増やすことを目的に、実務研修生の急性期リハの技術指導とリスク管理指導に取り組んだ。
- ②リスクマネジメント委員会を中心に、気管切開児のリハ実施の際のリスク管理の勉強会を開催し、リハ職全員で知識を再確認した。
- ③課内の症例検討会: 実務研修生の個別症例のリハプログラムを呈示し、治療方法などについてディスカッションを実施した(月1回程度)。
- ④正規、実務研修生ともに、臨床に関連する学会・論文での報告の機会をサポートし、最新情報の獲得とリハビリテーション臨床の質の向上と人材育成に役立てた。

学会・研修会参加

| 件名 | 期 日 | 場 所 |
|----------------------------|-------------|-------|
| 第 121 回日本小児科学会学術集会 | 4/20～4/22 | 福 岡 |
| 平成 30 年度リハビリテーション部会研修会 | 9/7 | 東 京 |
| 第 52 回日本作業療法学会 | 9/7～9/9 | 名 古 屋 |
| 作業療法重点課題研修「就学児に対する作業療法研修会」 | 11/10～11/11 | 岡 山 |
| 第 21 回群馬県作業療法学会 | 12/1～12/2 | 群 馬 |
| 公益社団法人 発達協会 春のセミナー | 2/2～2/3 | 東 京 |

5. 地域貢献

①院内外の研修会・技術講習会講師・学校講義の依頼は、地域支援と人材育成に役立つと考え、業務に支障を来さない範囲で受けている。

②他医療機関リハ職の研修・見学: 地域連携と地域の小児リハビリテーションの充実に貢献できると考え可能な限り取り組んでいる。

医療法人大誠会内田病院 作業療法士 1 名 言語聴覚士 1 名

長野県立子ども病院 理学療法士 1 名 5 日間

高校生作業療法体験 (群馬県作業療法士会主催) 高校生 1 名 1 日

院内講師

| 開催セッション | 内 容 | 講 師 |
|--------------|--------------------|---------|
| 第 1 病棟勉強会 | 呼吸理学療法と排痰機器の活用 | 白 田 由美子 |
| 第 2 病棟勉強会 | 整形外科疾患児の歩行指導 | 鳥 越 和 哉 |
| GCU 病棟 | GUC におけるポジショニングの提案 | 代 美 穂 |
| 「あさがおの会」 | ことばの育み | 青 柳 のどか |
| 看護新人教育研修 | 排痰法とポジショニング | 白 田 由美子 |
| 口唇口蓋裂の患者・家族会 | ことばを育む | 松 下 郁 江 |

院外講師

| 主 催 | 内 容 | 講 師 |
|---------------|---|---------|
| 日本小児集中治療研究会 | 第 5 回メディカルスタッフ向けセミナー「人工呼吸療法中の小児のリハビリテーション」 | 白 田 由美子 |
| 日本小児臨床アレルギー学会 | 2018 年度小児アレルギーエデュケーター認定講習会「呼吸理学療法」 | 白 田 由美子 |
| 福井県理学療法士会 | 理学療法士講習会基礎編「内部障害系理学療法の基礎—安全で効果的なアプローチのために—」循環器疾患の理学療法 | 熊 丸 めぐみ |
| 二葉高等特別支援学校 | 群馬県特別支援学校医療的ケア支援教員研修「呼吸障害とポジショニング」 | 代 美 穂 |

| 主 催 | 内 容 | 講 師 |
|--------------------------|---|---------|
| 吾妻郡特別支援学校 | 吾妻郡特別支援教育コーディネーター研修会「不器用さをかかえる子ども達への支援」 | 六本木 温 子 |
| 高崎健康福祉大学 保健医療学部理学療法学科 | 発達障害系理学療法 | 白 田 由美子 |
| 国立大学法人秋田大学 | 呼吸・循環系理学療法 | 熊 丸 めぐみ |
| 群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 | 発達過程作業療法学Ⅱ | 六本木 温 子 |

③学生実習

| 実 習 研 修 名 | 学 校 施 設 名 | 学 年 | 人 数 | 期 間 | 日 数 |
|-------------|------------------------|-----------|-----|------------------|------------|
| 総合臨床実習Ⅰ期 | 群馬大学医学部保健学科 理学療法学専攻 | 4年生 | 1名 | 2018/8/20～10/12 | 37日× 1名 |
| 総合臨床実習Ⅱ期 | 群馬大学医学部保健学科 理学療法学専攻 | 4年生 | 1名 | 2018/10/22～12/14 | 39日× 1名 |
| 基本的臨床技能実習Ⅱ | 群馬大学医学部保健学科 理学療法学専攻 | 3年生 | 4名 | 2018/12/12・17・19 | 3日× 4名 |
| 評価実習Ⅰ期 | 群馬大学医学部保健学科 理学療法学専攻 | 3年生 | 2名 | 2019/2/4～2/14 | 8日× 2名 |
| 評価実習Ⅱ期 | 群馬大学医学部保健学科 理学療法学専攻 | 3年生 | 1名 | 2019/2/18～3/7 | 14日× 1名 |
| 発達系理学療法見学実習 | 高崎健康福祉大学理学療法専攻 | 4年生 | 4名 | 2018/7/20 | 1日× 4名 |
| チームワーク実習 | 群馬大学医学部保健学科 | 3・4 年生 | 10名 | 2018/6/21 | 1日× 10名 |

④スピンドラザ治療に関わるリハビリテーション勉強会の開催: 県内の療育施設などリハ職を対象に情報交換会を実施した。2018年1月より、県内で初めて開始された神経筋疾患への新薬スピンドラザ治療に対するリハビリテーション評価と治療への取り組みを開始し、勉強会の開催など、県内外のリハビリテーション技術職との情報交換に務めている。治療効果を高めるためには、療育施設と連携し、丁寧なリハビリテーションによる筋力増強や活動性の拡大が重要であると考えられた。

6. 各職能団体に関連する活動

各職員の経験と専門性を生かし、各職種の臨床業務の質の向上と地域連携に役立つ活動であると考えている。

日本小児呼吸器学会将来構想委員会委員: 白田由美子

群馬県呼吸リハビリテーション研究会世話人: 白田由美子・熊丸めぐみ

群馬県重症心身障害研究会世話人: 白田由美子

日本心臓リハビリテーション学会評議員: 熊丸めぐみ

全国自治体病院協議会平成30年度リハビリテーション部会幹事: 熊丸めぐみ
群馬県理学療法士協会地域局小児リハ部員: 鳥越和哉
群馬県作業療法士会発達支援推進グループ北部ブロック担当: 六本木温子
群馬県言語聴覚士会言語聴覚療法推進部発達・聴覚グループ研修係: 松下郁江

【今後の課題】

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士ともに、小児医療での業務の特殊性・専門性が高く、実務研修生・レジデントの人材確保と技術指導に苦勞している。治療の後療法でもあるリハビリテーションの質の向上は、治療効果を高めると同時に、たとえ障害が残存してもご家族の育児と受容を支援する役割を果たす。技師を丁寧に育て、院内外からの紹介患者に対応可能なリハ体制を整える必要がある。県内唯一の小児病院のリハビリテーション課として役割を果たせるよう、3職種で丁寧に取り組んでいきたいと考えている。

(臼田由美子)

13. 栄養調理課

【人 事】

平成 30 年度は、正規職員 7 名 (管理栄養士 3 名 (うち 1 名産育休)、調理師 4 名)、産育休代替の臨時職員 1 名(管理栄養士)と委託会社職員 15 名で業務を行った。委託内容は、仕込み作業を除いた調理、調乳、洗浄業務である。

【設 備】

スチームコンベクションオーブン 2 台及びブラストチラー 1 台を更新した。

【業 務】

- 1 食数は、前年比で一般食は 99.3%、離乳食は 94.6%、特別食は 80.6%であった。調乳数は、前年比でミルクの人数が 108.6%、本数が 105.2%、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数は 119.9%、本数は 110.7%と増加した。
- 2 食物アレルギー患者への対応として、1 日入院の食物負荷試験 (週 3 回) に立ち会い、食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導をした。
- 3 栄養委員会は、平成 30 年 6 月、9 月、平成 31 年 3 月に開催し、入院診療計画書の記載項目や普通ミルクの成分比較等について協議した。
- 4 NST (栄養サポートチーム) の活動は、勉強会の実施と入院時の栄養アセスメント及び第 1・3・5 火曜日のラウンドを実施した。
- 5 在宅療養支援委員会主催の勉強会及びあさがおの会において、栄養に関する講義等を行った。

【学会・研修会等】

| 件 名 | 期 日 | 場 所 |
|------------------------|---------|-------|
| 全国自治体病院協議会栄養部会研修会 | 7/13 | 長 野 県 |
| 第 65 回日本栄養改善学会学術総会 | 9/3～5 | 新 潟 県 |
| 全国自治体病院協議会栄養・調理師研修会 | 10/26 | 東 京 都 |
| 全国自治体病院協議会群馬県支部栄養部会研修会 | 1/24 | 桐 生 市 |
| 全国こども病院 NST の会 | 2/13 | 東 京 都 |
| 第 34 回日本静脈経腸栄養学会 | 2/14～15 | 東 京 都 |
| 第 16 回日本小児栄養研究会 | 3/9 | 大 阪 府 |

今年度の学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、職員の増減はなく、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入(5年計画の4年目)は、シリンジポンプ(TE-351Q)11台(SP-120)5台、輸液ポンプ(TE-281A)6台、人工呼吸器(ハミングビュー)1台、新生児用保育器(インキュアイ)1台、開放型保育器(インファウォーマアイ)1台、ネーザルハイフロー用酸素ブレンダー2台、ネーザルハイフロー装置(AIRVO2)1台、AED(HEART START FRx)2台、除細動器(Efficia DFM100)1台、体外式ペースメーカー(PACE203H)3台であった。

その他にME機器管理ソフト「CEIA」のサーバー及びハードウェアの更新、PICU病棟、第2病棟、第3病棟、手術室におけるセントラルモニター及びサーバー更新を行い、これに伴ったベッドサイドモニターのバージョンアップも行った。また、血管造影室へのモニタリングシステム増設を行った。

【業 務】

今年度の体外循環症例は、67症例で昨年度比86.0%(昨年度78症例)となった。最低体重は2.7kg、最高体重は61.1kg、平均11.5±11.5kgであった。無輸血手術は19症例(28.4%)手術室抜管は11症例(16.4%)であった。術式別の症例数は、VSD closure 24症例(35.8%)が最も多く、次にASD closure 8症例(11.9%)、TCPC 5症例(7.4%)であった。また、補助循環を行う症例はなかった。

心臓カテーテル検査は計181症例で、バルーン拡張術46症例(25.4%)、心房中隔欠損カテーテル治療9症例(5.0%)、動脈管開存症カテーテル治療7症例(3.9%)、バルーン心房中隔裂開術4症例(2.2%)、コイル塞栓術3症例(1.7%)、心筋焼灼術7症例(3.9%)、心臓電気生理学的検査6症例(3.3%)であった。また、緊急心臓カテーテル検査は、4症例(2.2%)で、その内訳は、バルーン心房中隔裂開術3症例、バルーン拡張術1症例であった。

内視鏡手術は計141症例で、緊急手術21症例(14.9%)の内訳は、腹腔鏡下虫垂切除術17症例、胸腔鏡下横隔膜ヘルニア手術1症例、腹腔鏡補助下卵巣部分切除術1症例、腹腔鏡精査、イレウス解除術1症例、腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術1症例であった。

血液浄化療法は、5症例で昨年度比22%(昨年度23症例)となった。治療の内訳は、CHDF 1症例11日間(拡張型心筋症の急性腎不全)、PE 4症例20日間(川崎病)であった。血液浄化療法の症例数低下は、今年度の補助循環症例数がなかったことが最も大きな要因であったと思われる。

一酸化窒素吸入療法は35症例で、心臓周術期が29症例、新生児高血圧症が6症例であった。また、低酸素吸入療法を3症例行った。

その他、植込み型ペースメーカーフォローアップを61件行った。

ME機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカー、除細動器、経腸栄養ポンプなど計609台の定期点検を行い、院内修理は207台であった。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の動作確認や呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安全性の確保に努めている。今年度は、延べ5,313台の使用 midpoint 検を行った。また、定期的に呼吸器の回路交換も行った。

機器を使用する前の動作チェックである始業点検としては、主に人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等を行い、今年度の実績は 5,449 台であった。麻酔器始業点検においては、日毎に担当者 1 名が早出出勤をし、手術室全 5 台の始業点検を 8 時 30 分までに終了させ、安全性の確保に努めている。

今年度購入したシリンジポンプ「SP-120」と輸液ポンプ「TE-281A」は、新機種であるため、操作方法や注意点等を 151 名の看護師を対象に説明会を開催した。

その他教育業務として看護部、各病棟に対する ME 機器説明会やトラブル対応等の勉強会の開催をはじめ、臨床工学技士養成校への外部講師及び講演等も行った。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

| 件名 | 期日 | 場所 |
|------------------------------|-------------|------|
| 第 25 回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会 | 4/21～4/22 | 神奈川県 |
| 第 28 回日本臨床工学会 | 5/26～5/27 | 神奈川県 |
| 2018 年度 JaSECT 教育セミナー | 6/2～6/3 | 北海道 |
| 群馬呼吸認定士会 H30 年度第 2 回呼吸療法セミナー | 6/23 | 群馬県 |
| 第 54 回日本小児循環器学会学術集会 | 7/5～7/7 | 神奈川県 |
| 第 34 回日本人工臓器学会教育セミナー「人工臓器」 | 7/14～7/15 | 東京都 |
| 第 17 回群馬県臨床工学技士会学術大会 | 7/29 | 群馬県 |
| 第 9 回甲信越臨床工学会 | 9/8～9/9 | 長野県 |
| 第 56 回日本人工臓器学会大会 | 11/1～11/3 | 東京都 |
| 第 44 回日本体外循環技術医学会大会 | 11/10～11/11 | 石川県 |
| 第 11 回群馬クリティカルケア研究会 | 11/17 | 群馬県 |

(関明彦)

15. 薬 剤 部

平成30年度は職員7名、実務実習生1名、嘱託職員1名、臨時職員1名、調剤助手3名で業務を行った。

チーム医療の推進に関しては、薬剤師が ICT ラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算1の取得に貢献した。また、ASTのメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDMについては、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生源予防に寄与した。

PICU 病棟において、指示書に基づき患者毎の注射薬払出を実施するとともに、基本輸液に関して薬剤部での無菌調製を実施している。

<薬剤管理指導業務>

薬剤管理指導業務は、H30年6月から従前の産科病棟の帝王切開及び切迫早産の患者に加え、第3病棟の循環器科及び血液腫瘍科の一部患者にも指導対象を拡大した結果、前年度の53件から268件へと大幅に件数が増えた。さらに、加算対象ではないが、平成24年5月から産科医師からの依頼により、付属児の新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症予防のため、母親へのケイツーシロップ服薬指導を継続実施している(114件)。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は88.5%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、550件であった。また、電子カルテ上の正確な入力と会計処理のため、抗生物質の溶解液の記載を統一し、医師に代わり薬剤師が173件の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は75件となった。

<無菌調製業務>

化学療法の処方鑑査と抗悪性腫瘍薬の調製、及びTPNや化学療法を行う際にメインとして使用する輸液の無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬注射剤は調製者の被爆が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットで調製を行っている。使用直前に病棟で調製していた髄注薬剤についても薬剤部で調製を行っている。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤暴露閉鎖システムによって調製している。

TPNを行っている児の在宅への移行については積極的に関わり、調剤薬局との連携、無菌調製を応需する薬局の無い地域の患者には薬剤部で輸液を交付し、ショートケア時の輸液の調製など、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

規格の小さい坐剤や麻薬を含むMK注腸液や医薬品以外の物を原料とする軟膏(カラヤ入軟膏)や亜セレン酸Na注射液等、医師の要望により市販されていない薬を院内製剤として調製した。

<DI 業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるよう従来の供覧の他に、メールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は 205 件、医師への疑義照会は 752 件であった。

<退院時服薬指導業務>

平成30年度6月から第3病棟の一部の患者に対し退院時薬剤情報管理指導を行った(18件)。また、退院時薬剤情報管理指導料を算定していない患者に対しても、主に退院時の処方について薬効説明と注意点、飲み方の確認等を行い、薬剤情報提供書及びお薬手帳用シールを交付し、お薬手帳を所持していない方には手帳もあわせて交付した。また、当院の薬剤を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した(退院時服薬指導 210 件)。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者とクリーンベンチ設置の保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

さらに血液腫瘍科急性リンパ性白血病治療の維持療法が在宅でスムーズに行えるよう地域薬局へ当院での治療の経過とこれからの投与予定を連絡し、抗がん薬等ハイリスク薬の管理連携をはかった。

<薬事委員会>

平成30年5月17日、7月12日、9月13日、11月15日、平成31年1月17日、3月7日、計6回に開催した。新規採用医薬品94品目(うち院外専用12品目)、購入中止医薬品27品目(うち製造中止品9品目)について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品(延べ57品目)の枠を設けることで採用品目数を低く抑えた。事務局提案による後発医薬品の採用は13品目であった。後発医薬品の採用率は購入額ベース4.88%と平成29年度より0.80%低下したが、脊髄性筋萎縮症治療薬の購入費が約1億7千5百万円と高額であったことによる医薬品総購入額の増加(前年比1.41)が原因と推察された。後発医薬品指数(後発医薬品がない医薬品を除く後発医薬品の数量ベースの採用率)は前年度の88.51%から増えて90.68%であった。後発医薬品の採用を促進した結果、後発医薬品使用体制加算1が認められて、病院経営に寄与することができた。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入在庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

(藤波洋征)

16. 看護部

【看護要員】

- ・定数 211名 現員数 238名
(正規 204名、再任用 1名、嘱託 3名、賃金 12名)

*平成 30年 4月 1日現在

- ・採用 13名 正規 8名、賃金 5名、転入者 2名
- ・退職 12名 正規 10名、再任用 1名、嘱託 1名、賃金 2名

【組織】

今年度は、教育担当師長が交替した。看護管理コースの 1名は、3か月間自部署研修をし、その後 3病院に出向し研修を行った。平成 30年度看護部は、看護部長 1名、副看護部長 1名、各部署看護師長 9名、教育担当師長 1名、在宅療養支援担当師長 1名、GRM 1名、感染管理認定看護師 1名を配置し、連携を取りながら充実を図った。

平成 30年度は、小児専門病院として、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、看護体制整備・病院経営への参画・看護部組織運営力の向上が課題として取り組んだ。

感染管理認定看護師は 1名であったが、診療報酬上その 1名に不測の事態が起こった場合に、診療報酬が危ぶまれるので、感染管理認定看護師教育課程の教育機関に 1名受講した。来年度は感染管理認定看護師が 2名になる予定である。

【看護活動】

看護部の理念

成長期にあるこどもの特徴を理解し、専門職として確実な看護ケアと最適な療養環境を提供します。

【平成 30年度の目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
2. 人材育成と自己研鑽の推進をする
3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する

【評価】

1. 安全で質の高い看護を提供する

看護体制を固定チームナーシングとしてきたが、小児専門病院であり、疾患が多岐にわたり年齢幅も大きく、病棟により多くのことが異なることがあるため、新人や異動者が戸惑いを感じ、新人の離職率も高い現状にあった。そこで、先輩は看護の経験知が多いという特性があり、後輩は最新の医療・看護という形式知を持つという特性があると考え、このような特性の違うスタッフが協働することでシナジー効果を発揮するために、パートナーシップナーシング (PNS) を取り入れた。2人で協働することで、先輩がOJTの中で後輩指導ができ、経験ができない処置も一緒に学ぶことができる。後輩にとっても先輩と一緒にすることで安心して看護ができ、ペアの同意と承認をすることで、共に後輩の育成もできると考えた。そこで、昨年度副師長会で検討し、今年度全病棟に導入を試みた。勉強会を行い、元々導入していた 2部署にも協力をしてもらい、下期後半までに導入はできたが、マインドの醸成ができず、不十分なPNSとなった。

また、医療安全については、インシデント・アクシデント全体件数 175件 (21.8%) 削減でき、報告する文化はできている。3aレベルが横ばいであり、ドレーン・チューブ類の事故抜去が削減できなかった。患者誤認によるインシデントについては、昨年度 21件であったが、27件と増加した。

(レベル 0: 21 件、レベル 1: 4 件、レベル 2: 1 件、レベル 3a: 1 件) レベル 0 が多いことは報告する文化が定着してきている結果を考える。

看護記録についても、看護計画が不十分であるため、看護診断の見直しはできたが日々の看護記録の充実まで至らなかった。

2. 人材育成と自己研鑽の推進をする

新人教育を充実させ、精神面も多方面からフォローアップし、教育担当師長を中心として病棟とともに新人を支え離職防止できた。自己研鑽については、看護協会の研修、学会参加、院外研修など積極的に参加をしていた。

3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画するについては、病床利用率・患者数・手術件数・PICU加算・ショートケア 7 泊 8 日の受入を開始し、すべてにおいて増加した。

また、新規加算取得についても 6 件 (在宅妊娠糖尿病患者指導料・血糖自己測定加算・乳腺炎重症化予防ケア、指導料・退院時共同指導料 2・患者サポート加算・在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料) できた。

【次年度の課題】

1. 安全で質の高い看護を提供する

- 1) 患者誤認 2 レベル以上を 0 にする
- 2) PNSの定着とマインドの醸成を図る
- 3) 承認とホスピタリティマンドを推進する

2. 人材育成を推進する

- 1) クリニカルラダーの見直しをする
- 2) 入職から 2 年以内の看護職員の精神的要因での離職を 0 にする

3. 病院経営に積極的に参画する

- 1) 効率的な空床利用をする
(ベッドコントローラー設置・レスパイトの受入・産科病床の利用)
- 2) 新規加算取得を増やす
(外来・退院・在宅に関するもの)

(清水奈保)

正規職員 (看護師・助産師) 年齢構成

平成 30 年 4 月 1 日現在

| 年齢 | 21～24 | 25～29 | 30～34 | 35～39 | 40～44 | 45～49 | 50～54 | 55～60 | 計 | 平均年齢 |
|----|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|-----------------|--------|
| 人数 | 12 人 (5.8%) | 31 人 (15.1%) | 38 人 (18.6%) | 26 人 (12.7%) | 36 人 (17.6%) | 28 人 (13.7%) | 11 人 (5.3%) | 22 人 (10.8%) | 204 人 (100%) | 39.3 歳 |

* () 内は構成比

看護師及び助産師月別採用及び退職状況

平成 30 年度毎月末日現在
常勤離職率 5.0%

| 区分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|-------|-----|-----|-----|------------|------------|-----|------------|------|------|------------|------------|-------------|-------------|
| 採用者人数 | 8 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 (1) | 0 人 (2) | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 (1) | 0 人 (1) | 0 人 | 8 人 (5) |
| 退職者人数 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 (1) | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 10 人 (2) | 11 人 (3) |

* () 内は内数で実務研修生及び賃金職員の数

退職理由

| 退職理由 | 結婚 | 育児 | 家族介護 | 人間関係 | 身体的理由 | 進路・資格変更 | 定年・その他 | 計 |
|------|-----|-----|------|------|-------|---------|--------|------|
| 人数 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 1 人 | 0 人 | 2 人 | 8 人 | 11 人 |

H30 年度院外研修 (学術集会・研修会・セミナー・救護など)

| 主催 | 研修・学会名 | 日程 | 場所 | 氏名 | 人数 |
|--------------|---|--------------------------------|---------------------|--|----|
| 長期 | 感染管理認定看護師教育課程 | 4月7日、5月9日～12月21日 | 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター | 石川さやか | 1 |
| | 認定看護管理者ファーストレベル | 6月5日～11月28日 | 前橋 群馬看護教育センター | 本間美樹 堤 万希子 | 2 |
| | 小児在宅ケアコーディネーター研究会 | 6月9日・10日、9月9日、12月8日 | 名古屋大学 | 狩野ひかる | 1 |
| | 認定看護管理者セカンドレベル | 7月3日～1月17日(33日間) | 前橋 群馬看護教育センター | 村上容子 | 1 |
| | 平成30年度医療事故・紛争対応人材育成講座 | 9月8日～9日、10月6日～7日、11月3日～4日(6日間) | 慶應義塾大学三田キャンパス | 福田 円 | 1 |
| | 新人看護職職員研修事業 実地指導者研修 | 10月1日～10月30日(5.5日) | 前橋 群馬看護教育センター | 藤巻まゆか 井田智巳 | 2 |
| | 新人看護職職員研修事業 教育担当者研修 | 11月9日～11月22日(5日) | 前橋 群馬看護教育センター | 佐藤夏枝 藤奈櫻 高橋洋子 | 3 |
| 自治体病院 | 臨地実習研修会 | 9月27日、28日 | 全国都市会館 | 戸川里紗 | 1 |
| | 医療安全管理者養成研修<基本コース> | 12月3日～4日 | 全国都市会館 | 大平典子 | 1 |
| | 医療安全管理者養成研修<実践コース> | 12月5日～7日 | 全国都市会館 | 大平典子 福島富美子 | 2 |
| 日本看護協会 | '18重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修会 | 6月24日(日) | 群馬 群馬県看護協会 | 藤井美香 平田裕代 井坂保典 高橋克育 小林直美 小松田直美 富澤はるみ | 7 |
| | '18重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修会 | 8月28日(日) | 群馬 群馬県看護協会 | 佐藤夏枝 横尾美知代 伊東修子 本多みさ子 天田美枝子 | 5 |
| 看護業務研究会他 | 第3回病院看護業務研究会 | 2月15日(水) | 群馬 群馬県看護協会 | 片貝まさみ | 1 |
| | 第1回病院看護業務研究会 | 6月21日(火) | 群馬 群馬県看護協会 | 片貝まさみ | 1 |
| 学会・学術集会・研究会等 | 看護過程から理解するNANDA-看護診断 | 5月13日 | 日創研研修室お茶の水ビル | 岡田美和 樋口沙織 | 2 |
| | 院内コーディネーター研修会 | 5月16日 | 群馬県健康づくり財団 | 笠原寿絵 | 1 |
| | 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 | 5月19日～20日 | 札幌コンベンションセンター | 茂木ゆう子 | 1 |
| | ホスピタリティがあつという間に3倍増えるコミュニケーション研修会 | 5月24日 | 群馬県立心臓血管センター | 須田慎也 | 1 |
| | 胸部レントゲンの読み方と血液ガス分析 | 5月27日 | 町田市民ホール | 須田慎也 | 1 |
| | 第18回成人先天性心疾患セミナー | 6月2日～3日 | 聖路加国際大学 | 茂木美香 富樫哲雄 藤井美香 木島久仁子 | 4 |
| | 日本死の臨床研修会第25回関東甲信越支部大会 | 6月3日 | 高崎市総合福祉センター | 眞下茂美 外丸恵利 榎田彩美 宮前仁子 石坂泰子 | 5 |
| | 看護計画と看護問題のわかりやすい指導方法 | 6月9日 | フォーラムミカサ | 飯沼麻由美 田島伴美 | 2 |
| | 看護過程から理解する看護診断 | 6月9日 | 日創研ビル | 鈴木絹代 | 1 |
| | 医療対話推進者養成研修 | 6月14日・15日、7月13日 | 群馬県庁 | 富澤はるみ 黒田佐織 大平典子 | 3 |
| | 日本ストーマ・排泄リハビリ学会第23回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー | 6月14日～16日 | 銀杏会館 | 大澤あゆみ 茂木ゆう子 | 2 |

| 主催 | 研修・学会名 | 日 程 | 場 所 | 氏 名 | 人数 |
|--|--|---------------|----------------------------|---|----|
| 学 会 ・ 学 術 集 会 ・ 研 究 会 等 | 第 29 回日本手術看護学会関東甲信越地区 | 6 月 16 日 | パシフィコ横浜 | 片貝まさみ 笠原寿絵 川浦秀明 | 3 |
| | 入門PNS新看護方式 準備・導入・運営法 | 6 月 17 日 | 飯田橋レインボービル | 殿木裕美 小林志のぶ 黒田佐織 小谷陽子 小林育代 青木明子 | 6 |
| | 群馬県感染症対策連絡協議会総会・特別講演会 | 6 月 25 日 | 群馬県公社総合ビル | 北爪幸子 | 1 |
| | J-MELSベーシックコース | 6 月 30 日 | 群馬大学 | 立川美咲 関由美 永沢育子 小林恭子 | 4 |
| | 第 32 回小児ストーマ排泄・創傷管理研究会 | 6 月 30 日 | 東大内伊藤国際大学研究センター 伊藤謝恩ホール | 茂木ゆう子 | 1 |
| | スピリチュアルケア研修A フォローアップ研修in佐久 | 7 月 7 日 | 佐久平交流センター | 宮前仁美 | 1 |
| | 第 54 回日本小児循環器学会 | 7 月 7 日 | パシフィコ横浜 | 石沢恵理 坂泰子 富樫哲雄 藤井美香 木島久仁子 | 5 |
| | 群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会 | 7 月 12 日 | 太田記念病院 | 福島富美子 坂本満里奈 笠原寿絵 | 3 |
| | 日本小児集中治療医学会メディカルスタッフセミナー | 7 月 14 日 | 聖路加国際大学 | 木島久仁子 | 1 |
| | 小児看護の基礎と臨床 | 7 月 19 日 | 北とびあ 7 階 | 須田慎也 | 1 |
| | 小児看護学会第 28 回学術集会 | 7 月 21 日、22 日 | 名古屋国際会議場 | 高橋里奈 浅野香子 佐川有子 木島久仁子 清水奈保子 都丸八重子 宮川祐子 | 7 |
| | 看護学生・看護師への看護過程・看護診断のわかりやすい教え方 | 8 月 5 日 | 日創研 | 外丸恵利 鈴木絹代 福島富美子 | 3 |
| | 第 29 回日本小児がん研究会 | 8 月 17 日 | 前橋商工会議所 | 眞下茂美 外丸恵利 | 2 |
| | 群馬小児がん研究会 | 8 月 17 日 | 前橋商工会議所 | 原田育江 樺澤奈櫻 木暮万希子 堤前仁美 宮石泰子 | 6 |
| | 日本看護教育学会第 28 回学術集会 | 8 月 22 日 | 前橋テルサ | 木島久仁子 宮川祐子 金子友香 | 3 |
| | 第 4 回 ALSO-Japan学術集会 | 8 月 25 日 | 海運ビル | 狩野恵美 | 1 |
| | 第 34 回北関東病院感染対策懇話会 | 8 月 29 日 | ベシア文化ホール | 北爪幸子 | 1 |
| | 群馬ストーマリハビリテーション講習会 | 9 月 8 日～10 日 | 群馬大学附属病院刀城会館 | 近藤龍平 黒岩智香 茂木ゆう子 | 3 |
| | 女性ホルモンを考えよう | 9 月 17 日 | 日本マタニティフィットネス協会 | 小林恭子 | 1 |
| | 看護経済・政策研究会第 33 回研究会 「看護職者が組織の政策形成課程に参画する意義」 | 9 月 22 日 | 群馬県立県民健康科学大学 | 金子友香 武井貴代美 | 2 |
| 群馬県手術看護研究会 新人研修 | 9 月 22 日 | 群馬大学附属病院 | 片貝まさみ | 1 | |

| 主催 | 研修・学会名 | 日 程 | 場 所 | 氏 名 | 人数 |
|--|-------------------------------|------------|---------------------------|--------------------------------|----|
| 学 会 ・ 学 術 集 会 ・ 研 究 会 等 | 第44回重症心身障害児学会 | 9月28日 | タワーホール船堀 | 戸川里紗 星野麗菜 | 2 |
| | 不整脈 | 9月29日 | 長野県教育会館 | 熊谷扶美子 | 1 |
| | 日本脳神経外科学会第77回学術総会(脳死判定セミナー) | 10月9日 | 仙台国際センター | 小林志のぶ 坂本満里奈 | 2 |
| | 群馬周産期研究会 | 10月13日 | 群馬大学 | 武井貴代美 | 1 |
| | BLSO研修 | 10月13日 | 前橋赤十字病院 | 狩野恵美 和田千穂 | 2 |
| | 第26回小児集中治療ワークショップ | 10月13日～14日 | 京都テルサ | 福島富美子 木島久仁子 | 2 |
| | 定着PNS運営トラブル解消法&定着の極意 | 10月14日 | 飯田橋レインボービル | 小林志のぶ 石坂泰子 鈴木絹代 富澤はるみ | 4 |
| | 移行期支援フォローアップ講座 | 10月14日 | 東大病院 | 佐川有子 | 1 |
| | 全国自治体病院学会 | 10月18日、19日 | 郡山市民文化センター他 | 宮川祐子 | 1 |
| | 小児麻酔学会(周手術期ネットワーク会議) | 10月20日 | 神戸ポートピアホテル | 笠原寿絵 | 1 |
| | 第19回群馬県呼吸リハビリテーション研修会 | 10月27日 | 群馬大学医学部附属病院 | 荒木理佐 | 1 |
| | 災害看護(小児看護学会主催) | 10月27日 | 東京医科歯科大学 | 佐川有子 | 1 |
| | 日本小児がん看護学会 | 11月14日～16日 | みやこめッセ | 樺澤彩子 石坂泰子 石関梨華 | 4 |
| | 脳死判定セミナー 第37回日本蘇生学会 | 11月15日 | 天童市プラザ | 眞下茂美 | 1 |
| | 小児救急市民公開フォーラム シンポジスト | 11月18日 | 高崎市総合保健センター会議室 | 木島久仁子 | 1 |
| | 第46回日本救急医学学会総会・学術集会(脳死判定セミナー) | 11月19日 | パシフィコ横浜 | 福島富美子 | 1 |
| | 第22回群馬県看護学会 | 11月21日 | ベシア文化ホール | 丸山美幸 | 1 |
| | 部下のモチベーション向上研修 | 11月22日 | 東京インソース公開講座セミナールーム | 木島久仁子 | 1 |
| | 第28回日本新生児看護学会学術集会 | 11月23日、24日 | シェーンバウハ・サポーター(砂防会館)・海運クラブ | 高橋敦子 金子友香 齋藤織理 小林理恵 | 4 |
| | 日本手術看護学会総会 | 11月23日～25日 | パシフィコ横浜 | 片貝まさみ 笠原寿絵 | 2 |
| | 第13回医療の質・安全学会学術集会 | 11月24日、25日 | 名古屋国際会議場 | 福田円保 清水奈保 | 2 |
| | 小児・AYA世代がん患者長期フォローアップ研修 | 12月1日～2日 | キャンパスイノベーションセンター東京 | 宮前仁美 木暮奈櫻 | 2 |
| | シプリングサポーター研修ワークショップ | 12月1日～2日 | 伊勢崎市障害者センター | 原田育江 登山美 | 2 |
| | 母子に寄り添う母乳育児支援 | 12月2日 | パシフィコ横浜 | 小淵加奈絵 | 1 |
| | 手術看護管理の視点とリスクマネジメント | 12月8日 | 家の光会館コンベンションホール | 片貝まさみ | 1 |
| | 日本死の臨床研究会 | 12月8日～9日 | 朱鷺メッセ | 石関梨華 | 1 |
| | 日本音楽医療研究会第12回学術集会 | 12月9日 | 京都大学 | 亀井美沙 平典子 大竹里奈 | 3 |
| | 日本褥瘡学会第13回群馬県在宅褥瘡セミナー | 12月15日 | 群馬大学附属病院 | 茂木ゆう子 | 1 |
| | JOT臓器提供の周術期に関する研修会 | 12月15日 | ふくしま医療機器開発支援センター | 笠原寿絵 | 1 |

| 主催 | 研修・学会名 | 日 程 | 場 所 | 氏 名 | 人数 |
|---------------------------------|--------------------------------|--------------------|------------------------|---|----|
| 学会・ 学術集 会・研 究会等 | 日本臨床倫理学会主催臨床倫理士認定セミナー | 12月16日、1月20日、1月27日 | 東京・市ヶ谷 | 石 関 梨 華 | 1 |
| | 平成30年度群馬県HIV事例検討会 | 12月20日 | 群馬県庁 | 北 爪 幸 子 | 1 |
| | 群馬県手術看護研究会 全体研修 | 12月22日 | 群馬県看護教育センター | 片貝まさみ 小林育寿 笠原春恵 齋藤専司 小島美子 熊谷扶美 福田 円 | 7 |
| | 成人先天性心疾患学会 | 1月11日～13日 | 岡山コンベンションセンター | 笠原寿絵 木島久仁子 | 2 |
| | I'mSAFARによる事例分析研修 | 1月12日 | 群馬県庁 | 富澤はるみ | 1 |
| | スキンケア症例検討会 | 2月9日 | 黒沢病院 | 茂木ゆう子 | 1 |
| | J-MELS 母体救命講習会 | 2月10日 | 慈恵医科大学 | 石 坂 泰 子 | 1 |
| | 第40回群馬病弱児研究会 | 2月16日 | 生涯学習センター | 金井みち子 | 1 |
| | 第2回院内コーディネーター研修会 | 2月19日 | 群馬県健康づくり財団 | 眞下茂美 笠原寿絵 | 2 |
| | 小児・AYA世代がん患者長期フォローアップ研修 | 2月22日～23日 | 淀川キリスト教病院 | 樺澤彩 石 関 梨 華 | 2 |
| | 呼吸リハビリテーション実技講習会 | 2月23日 | 群馬大学医学部附属病院 | 荒木理佐 宮嶋佑紀 石田生季 佐藤 瑞 | 4 |
| | 群馬県就業助産師再教育研修会 | 2月24日 | ぐんま男女共同参画センター | 武井貴代 田中 絢子 | 2 |
| | 第46回日本集中医療学会 | 3月1日～2日 | 国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都 | 富樫哲雄 木島久仁子 | 2 |
| | 第32回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 | 3月2日 | 群馬県看護協会 | 大澤あゆみ 茂木ゆう子 | 2 |
| | 第14回日本褥瘡学会関東甲信越地方会 | 3月9日 | 前橋テルサ | 茂木ゆう子 | 1 |
| | 第6回群馬県地域保健研究発表会 | 3月20日 | 群馬県庁 | 金井みち子 | 1 |
| 群 馬 県 看 護 協 会 | 専門職者としての心得(新卒者) | 5月18日 | 群馬県看護協会研修センター | | 8 |
| | 【公開講座】小論文・レポートの書き方 | 6月5日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | 急変時の対応(新卒者) | 6月20日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 心電図研修～苦手意識をなくそう～ | 6月27日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 看護研究の基礎～これさえマスターすれば大丈夫～ | 6月28日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 緩和ケア～スピリチュアルペインとそのケア～ | 7月3日 | 群馬県看護協会研修センター | | 6 |
| | 心電図(新卒者) | 7月9日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 現場で活かす感染対策の基礎知識 | 7月12日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 看取りケア～最後まで自分らしく生活できるように支援する～ | 7月19日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 看護記録の基本と実際(基礎編) | 7月21日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 |
| | ★災害支援ナースの第一歩～災害看護の基礎知識～ | 7月25日・26日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | 助産外来における超音波診断の実際と母体救急・産科出血時の対応 | 7月28日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 看護記録(新卒者) | 7月30日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| 社会人・看護師としてのコミュニケーションスキル | 8月7日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 | |
| 看護研究データの分析～量的データの分析・基礎編～ | 8月9日 | 群馬県看護協会研修センター | | 8 | |

| 主催 | 研修・学会名 | 日 程 | 場 所 | 氏 名 | 人数 |
|-------------------------------|--------------------------------|---------------|---------------|------------------|----|
| 群馬県看護協会 | 看護の中の倫理(初級編)～信頼される看護職を目指して～ | 8月21日 | 群馬県看護協会研修センター | | 8 |
| | いざ!という時の急変時の看護(基礎編) | 8月22日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 医療安全に役立つ看護記録 | 8月24日 | 群馬県看護協会研修センター | | 9 |
| | 看護の中の倫理(中級編)～信頼される看護師を目指して～ | 9月6日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 褥瘡ケア(初級編)～実践で困らないための褥瘡ケアの基礎知識～ | 9月12日 | 群馬県看護協会研修センター | | 5 |
| | 災害看護(応用編) | 9月13日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 看護に活かすカウンセリング | 9月14日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 急変時の対応に役立つアセスメント能力を磨く | 9月19日 | 群馬県看護協会研修センター | | 6 |
| | これからの母子保健妊娠期からの切れ目のない支援 | 9月22日 | 群馬県看護協会研修センター | | 5 |
| | 感染管理～職場で中心メンバーとなって活動するポイント | 9月25日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 |
| | 看護に活かす画像診断 | 9月26日 | 群馬県看護協会研修センター | | 7 |
| | 退院調整に役立つ基礎知識 | 10月3日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 患者・医療者が協働したより良い組織づくりを目指して | 10月4日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | メンタルヘルス(新卒者) | 10月17日 | 群馬県看護協会研修センター | | 8 |
| | 小児救急看護に必要な看護実践能力 | 10月25日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 【公開講座】クオリティマネジメント看護管理に関する研究の動向 | 10月26日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 |
| | 文化を超えた保健師活動 | 10月27日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | 看護職のための自殺予防研修 3回目 | 10月29日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | プリセプターフォローアップ研修 | 11月2日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | がん患者に寄り添う意志決定支援 | 11月7日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | 褥瘡ケア(中級編) | 11月13日 | 群馬県看護協会研修センター | | 3 |
| | 認定看護管理者(フォローアップ研修) | 11月28日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| | 国際助産の日の記念行事「子どもとメディア」 | 12月5日 | 群馬県看護協会研修センター | | 5 |
| | クリニカルラダーの活用と効果的な看護師教育 | 12月7日 | 群馬県看護協会研修センター | | 1 |
| | 看護記録の基本と実際(応用編) | 12月8日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 |
| | 初めてのプリセプター | 12月10日 | 群馬県看護協会研修センター | | 2 |
| 医療現場におけるヒューマンエラー | 12月13日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 | |
| 看護職が果たすべき看護の役割 | 12月15日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 | |
| 看護管理者の倫理を見る目・看護管理者に求められる政策的視点 | 2月22日 | 群馬県看護協会研修センター | | 4 | |
| 県市町村職員合同研修 | 事例で学ぶOJT | 8月28日 | 県自治研修センター | 本多みさ子 | 1 |
| | アサーション | 10月4日 | 県自治研修センター | 小林 育代 | 1 |
| | 業務改善のススメ | 11月1日 | 県自治研修センター | 笠原 寿絵 | 1 |
| | 折衝・交渉力 | 11月22日 | 県自治研修センター | 阿部真菜美 | 1 |
| | 会議運営力(ファシリテーション) | 12月4日 | 県自治研修センター | 川 浦 秀 明 | 1 |
| | ティーチング&コーチング | 12月21日 | 県自治研修センター | 藤 井 蘭 川 浦 秀 明 | 2 |
| 救護 | 赤城特別支援学校郊外施設見学 | 6月1日 | 生涯学習センター | 飯 田 尚 絵 | 1 |

(1) 第一病棟

平成 30 年度は、チャレンジ研修制度により精神医療センターからの技術研修生 1 名と新採用者 3 名を迎え看護師 29 名、保育士 2 名、看護助手 3 名でスタートした。6 月に看護助手 2 名となり、7 月に看護助手 2.5 名となった。

【平成 30 年度第一病棟目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) PNS マインドを根付かせる
 - 2) PNS の情報等を他部署へ提供する
2. 一人ひとりが自律し能力を向上させる
 - 1) 看護診断を用いた看護計画を立案し個別性のある看護を行う
3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する
 - 1) 退院支援・在宅支援の手順を作成する
 - 2) ショートケア利用患者の看護を具体的に提示する

【結果・評価】

目標 1 について

第一病棟で実践している PNS の現状をアンケート調査し、結果の共有をした。他者評価をするため、評価表を作成し、監査を実施した。マインド研修も全員参加できるようにし、年 2 回行った。7 月から PNS マインド週間とし一言スピーチを実施した。他者評価でできていない行動についての対策が十分とはいえない。今後も実践していく必要がある。

第一病棟で使用してきた PNS に関する資料等はすべて NAS の中へ入れて、他部署から見られるようにした。

目標 2 について

看護診断の理解を深めるため、記録委員と副師長が講師となり勉強会を行う。まずはチーム内、その後全スタッフに行う。結果、グループ内の受け持ち患者は全員、看護診断を用いて看護計画を立てることができた。

目標 3 について

部分的な見直しは行ったが、全体を網羅できる手順の作成まではできなかった。

ショートケア利用患者の看護計画を立て、個別性のある看護が行えるようにした。今後も更新していく予定である。ショートケア利用患者の持ち込み一覧表を作成した。ショートケア利用患者の入院時チェックリストを改定した。

(丸山美幸)

(2) 第二病棟

平成 30 年度は、看護師 21 名（うち院内異動 1 名）、看護助手 3 名、保育士 2 名でスタートした。看護師は 5 月に新採用 2 名配属、1 名退職、2 月に 1 名看護部長室から配属となった。保育士は 5 月に 1 名異動があった。看護方式は前年度から継続して固定チームナーシング 3 チームとし、ラダーレベル 4 のチームリーダーがサブリーダーの教育支援と 3 チーム間の連携強化を調整した。9 月にヒヤリハット事例の振り返りを踏まえて確認行動を見直し、PNS を導入した。

今年度は看護部の目標に沿って、以下の病棟目標を挙げて取り組んだ。

【平成 30 年度第二病棟目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) マニュアルの不備を見直して、統一した看護ができるようにする
 - 2) レベル 3a 以上のインシデントを起こさない
 - 3) PNS を導入することができる
2. ひとり一人が自律し能力を向上させる
 - 1) 新人教育の内容を共有し、個々に合わせた指導や関わり方ができるようにする
 - 2) 固形腫瘍・形成外科疾患の勉強会を医師と共に企画し、看護に繋げる
 - 3) チーム内活動を通し、それぞれのラダーレベルの役割を發揮した活動をする
3. 周産期・小児医療の現状を認識し経営に参画する
 - 1) 診療報酬の知識を深め、コスト伝票・指示簿の見直しを行う
 - 2) 看護記録を見直し、業務の円滑化・効率化を図る

【結果・評価】

目標 1 について

確認行動を徹底するため、勤務交替時の引き継ぎを見直して問題の早期発見に繋がった。診療科チームで医師と共に指示の見直しを行い、統一した看護の実施に繋がった。ヒヤリハット事例は患者間違い 0 件、転倒転落 4 件と前年度より減少したが、検査鎮静後の低体温、気管カニューレの事故抜去、与薬の 2 倍投与が発生した。KYT 研修に参加してヒヤリハット事例の対策について朝の唱和に取り入れた。PNS を導入したが行動レベルでの業務マニュアルが整備できていないので、リーダー業務の見直しや日勤で補完を追加することを次年度の課題として挙げた。

目標 2 について

新人指導計画の評価・修正を行い、新人・異動者チェックリストをもとに自己学習の支援を行った。口唇口蓋裂の家族会を母子室と共に開催することができた。整形外科チームでリハビリテーション課とリハビリの自主トレメニューの整備とメニュー表を作成した。

目標 3 について

外科チームで管理料の請求もれがないよう胃瘻管理の流れを整理した。祝日の前日入院が手術日と重なる、月曜手術のキャンセル枠に追加する小手術の場合に 4 泊 5 日で入院翌日に外泊していることから祝日・日曜入院の基準を検討した。指示簿のマスタ修正とセット化を医師と共に見直したが電子カルテの更新があり、コスト伝票のマスタ修正は次年度の課題となった。

(村上容子)

(3) 第三病棟

平成 30 年度の第三病棟は、看護師 27 名 (うち非常勤 2 名)、保育士 3 名、看護助手 3 名、クラーク 1 名で始動した。その後 4 月末から新採用職員が 3 名配置となり、看護師 30 名の体制となった。

新規採用者 3 名を迎え、平均年齢と病棟経験年数の低下があり、看護力の不足を懸念したスタートとなったが、大きな事故もなく年間平均病床利用率 75% を達成することができた。病床利用率や患者の重症度が高い時期の病床運営では、スタッフの疲弊はあったが、PNS 体制が軌道に乗りつつあることでそれぞれが補完し合えたことは、安全な看護を実践し、時間外を軽減できた要因ではないかと考える。

子どもたちや家族の支援について、看護師だけでなく医師、ME、理学療法士・言語聴覚士・作

業療法士、歯科医師・歯科衛生士・保育士・ソーシャルワーカーや在宅支援看護師、地域の保健師や訪問看護師と協力して取り組んだ。歯科衛生の理解を深める取り組みやお楽しみ会、食育への取り組み、ディストラクションやアドヒアランスの取り組みを実践することができた。

【平成 30 年度第三病棟看護目標】

1. PNS を推進し、効率よく患者家族に質の高い看護サービスを提供する
2. 専門職として自律し、ラダーや人事評価を活用して自身の目標を達成し成長する
3. 診療報酬・必要度についての理解を深め適切な病床管理を実践する

【結果・評価】

目標 1 について

PNS 体制での新採用者教育について試行錯誤しながら病棟全体で取り組むことができた。PNS 監査ではまだまだ課題は多いが、PNS 体制の醸成に向け次年度も取り組みたい。達成基準としていた患者誤認 0 については、3 件発生し目標を達成することはできなかった。ヒヤリハットレベルとしては、0 と 1 であり、患児への侵襲はなかった。

目標 2 について

業績評価は、全員が B 以上の評価を達成し、自らが計画した研修会や学会参加も目標値の 90% を達成することができた。

目標 3 について

病床の有効な活用を目指して、医師と情報共有を行い目標値である 70% を大きく上回る 75% を達成した。入院予定を 1 ヶ月毎に把握し、職員配置や PICU との連携に力を入れたことも目標達成の要因であると考え。次年度も、PNS の醸成とともに、病棟の強みである患者家族支援の質向上を推進し、エンゲージメントの高い組織を目指していきたい。

(石坂泰子)

(4) NICU 病棟

平成 30 年度は、看護師 34 名でスタートした。5 月に看護師 1 名が育児休暇明けで配属となった。9 月に 1 名、10 月に 1 名病気休暇となりその後休職となった。また、10 月には産前休暇に 1 名入った。12 月に院内異動で看護師 1 名配属となったが 3 月に産前休暇に入ったため 3 月末の時点で 32 名であった。

【平成 30 年度 NICU 病棟目標】

1. NICU において患者・家族に安全で信頼される看護を提供する
 - 1) ペア同士が看護実践を行うことで、知識の共有と看護の可視化ができ、質の高い看護を提供することができる
 - 2) 防災意識を高め、個々が的確な避難行動をとることができる
 - 3) 輸液監査に於いて、遵守率を 90% 以上で維持することができる
2. NICU の一員として、ひとり一人が能力を発揮する
 - 1) 記録監査の実施とフィードバックにより、看護実践の評価を記録することができる
 - 2) 目標管理を意識しながら、個々が目標達成のための行動をとることができる
3. NICU 看護師の役割を認識し、病院経営に参画する

- 1) 役割分担を明確にすることで、記録による時間外を 20%削減する

【結果・評価】

目標 1 について

グループ内に於いて体制強化を図りより看護を可視化できるよう看護課程を展開し記録に残し看護の質向上に繋げた。防災への取り組みは、防災カードを導入し知識と意識付けを行った。行動評価では、避難行動をスタッフ一人ひとりが考え全患者を避難させる想定で訓練を実施し想定時間内で避難行動がとれた。輸液確認行動表の使用率は 100%となり輸液監査の結果は、他者評価で 1 項目以外は遵守率 100%であった。輸液ルートに関するヒヤリハットの発生は、昨年度 13 件から今年度は 6 件と 50%以上の削減となった。

目標 2 について

記録監査においてフィードバックをグループ毎に実施し日々の記録の見直しを継続して行った。また、業務内で記録カンファレンスを 4 回実施し実際の記録を読んでスタッフ同士で意見を交わした。今後は、質的監査を繰り返し記録の質向上に繋げる。教育対象である 4 年目までのスタッフは予定通り知識、技術の習得を計画に沿って達成できた。

目標 3 について

PNS 導入によってペア間での業務調整や補完により記録時間を業務内で確保することができた。よって、記録による時間外は昨年度より 65%削減することができた。(月 1 人当たり昨年度約 54 分から今年度は約 19 分に削減した)

(大平典子)

(5) GCU 病棟

平成 30 年度は、看護師 22 名 (嘱託 1 名含む)、看護助手 4 名でスタートした。12 月に看護師の異動があり、3 月末時点で看護師 21 名 (嘱託 1 名含む) の体制であった。

【平成 30 年度 GCU 病棟看護目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) PNS を導入できる
 - 2) 母乳間違いをおこさない
2. 一人ひとりが自律し能力を向上させる
 - 1) ひとり 1 人が自分の役割を自覚し、行動できる
3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する
 - 1) 各自が時間管理を行い、カンファレンス・委員会・会議以外の 1ヶ月あたりの時間外勤務を 2 時間以内に削減する事ができる

【結果・評価】

目標 1 について

1) に対しては、PNS の研修を 2 回、ラダー別にマインド研修を全員に実施した。11 月に PNS 準備委員を中心にプレテストを実施し、業務内容を再検討後、12 月から本格実施とした。PNS 導入までは実施できたが、もともと、プライマリーナーシングの考えが根強く、人に依頼する、協働する、他者の不足していることを補うという風土が変化するまでには至っていない。マインドの醸

成は来年度の課題である。

2) については、4月に母乳間違いを起こしたが目標は変えず、原因である確認行動表の見直しと簡略化を実施した。そのうえで、朝のミーティングの時間に正しい確認行動のシュミレーションを毎日1組ずつ1ヶ月間実施した。その後、患者間違いは起こしていない。

目標2について

PNS導入後に向け、ペアで活動目標、活動計画の立案を進めていった。開始が遅くなり実践が下期になったペアが多かったが、1ペアを除き年間計画を実施し、達成することができた。

目標3について

上期は固定チームナーシングであり、リーダー業務と記録が時間外のほとんどであった。12月からPNS導入に伴い、多くの業務内容を変更し、リーダー業務の内容も変更した。その後、記録の時間外は少なくなり、リーダーの時間外も削減された。また、ペアで行動することで昼休憩も途中で戻ることが少なくなった。

1ヵ月に時間外が2時間超の人は昨年度の延べ37名から7名に削減され、PNS導入後は1名にとどまった。また、業務に係る総時間外も52%削減された。

(高橋敦子)

(6) 小児集中治療部

平成30年度は、看護師29名、看護助手2名、病棟クラーク1名、ドクタークラーク1名(第3病棟と兼務)でスタートした

6月産休者がおり、3月の時点では看護師28名であった

【平成30年度PICU病棟看護目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) PICU業務に合致するPNS方式を理解し導入ができる
 - 2) 同じインシデントを繰り返さない
 - 3) 感染予防策を徹底できる
2. 一人ひとりが自律し能力を向上させる
 - 1) カンファレンスを充実させ個別性にあった看護展開がタイムリーにできる
 - 2) 接遇向上に努めることができる
3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する
入退室・ベッド移動がスムーズにできる病床管理を意識することができる

【結果・評価】

目標1について

- 1) 日々の業務もペアで協力してスムーズに行えるようになり、ペアNSを意識して業務の調整や教育的な関わりが出来た。
- 2) カンファレンスで対策が考えられ、インシデント自体減った。また安全唱和の取り組みで意識出来た。しかし点滴ルートや確認不足によるインシデントは数回あった。マニュアルに沿って訓練が必要である
- 3) ガウン、手袋の着用率が上がり手指消毒の使用量も増え、意識して取り組むことが出来た。手洗いや手指衛生は出来ていたが、ガウンを着たまま他のものに触れてしまうことがあるこ

とが今後の課題である。

目標 2 について

- 1) グループが担当している患者のケアについて検討出来ていた。リーダーと相談し看護計画の見直しをタイムリーに行えた。
- 2) 接遇カードを見ることで意識づけになり、家族への対応、身だしなみなど意識して出来た

目標 3 について

加算や必要度を意識し入院の受け入れができていた。

(福島富美子)

(7) 産科病棟

平成 30 年度の産科病棟は、助産師 15 名 (うち非常勤 1 名)、看護師 7 名、看護助手 1 名、病棟クラーク 1.5 名の体制で始まった。6 月より助産師 1 名が産休に入ったが、10 月より育休明け助産師が 1 名配属となった。

【平成 30 年度産科病棟看護目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する

- 1) マニュアル・手順の整備を行い、全員が周知することで安全な医療に繋げる。
- 2) PNS 導入に向けての学習を行い、体制整備について検討する。
- 3) 報告、連絡、相談を確実に行うとともに、チーム力・看護力アップにつなげる。
- 4) 災害における看護師の役割と責任を認識し、備えに取り組む。

2. 一人ひとりが自律し能力を向上させる

- 1) 定期的な病棟学習会を開催し、知識と技術の向上とチームの底上げに繋げる。
- 2) 電カル導入後の看護記録の評価を行い、記録の質の向上につなげる。
- 3) 研修や学会などの学習機会を活用し、専門職業人としての自己研鑽に努める。
- 4) 人事評価を利用し、自己の目標を明確にして、問題解決に努める。

3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する

- 1) 平成 30 年度周産期診療報酬改定について理解を深め、産科病棟での取り組みを行う。
- 2) 平成 29 年度の患者アンケート結果から、周産期各方面との意見交換や検討を行い、患者数増加に向けての取り組みを行う。(病床管理・面会制限・個室利用について等)

【結果・評価】

目標 1 について

全スタッフが第一病棟に PNS 体制の見学に行くことと、群馬県内の PNS 実施施設の情報を得ることからマニュアル整備を行い、2 月より PNS を導入した。母体搬送や分娩が重なった場合には、チームで協力し相談しながら業務を行うことで安心感につながった。今後も、パートナーシップマインドを維持・協働しあい、人材育成に向けた体制を構築していく。

目標 2 について

病棟学習会では、妊娠糖尿病、胎児心拍数モニタリング、妊娠高血圧等の勉強会、研修参加後の伝達講習会を行った。電カルの電子パス導入へは移行には至らなかった。ワーキンググループ (母乳育児支援・リラクゼーション・入院中の母親学級・産前・産後サポート事業・教育体制の整備・PNS 導入に向けた体制整備) を立ち上げて各自が自主的に取り組み、成果をあげることができた。

特に産後ケア事業については、平成 29 年度より母子健康包括支援センターの設置が市区町村の努力義務として法定化されたこともあり、1 月より研修会参加にし、2 月より群馬県こども未来部児童福祉課と連携を取り合いながら来年度下期導入を目指し準備をしていく。

目標 3 について

診療報酬の改定により、今年度より「在宅妊娠糖尿病患者指導管理料及び血糖自己測定器加算」と「乳腺炎重症化予防ケア・指導料」が算定できるようになった。昨年度の 2 月末までの母乳育児支援は 34 件であったが、今年度は 49 件と 44% の増加となっている。

(武井貴代美)

(8) 手術室

平成 30 年度の手術室は、4 月に看護師 1 名が副看護師長に昇進、看護師 11 名 (うち副看護師長 2 名)、看護助手 2 名でスタートした。5 月にチャレンジキャリア・アップ研修 (管理コース) のため副看護師長 1 名が院内転出、看護師 1 名が育児休暇から復帰した。11 月から 12 月まで看護助手が 1 名体制であった。

【平成 30 年度手術室看護目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 災害時体制を整え、安全な手術室運営ができる
 - 2) インシデント KYT が定着する
 - 3) 手術室における PNS 導入の準備ができる
2. 一人ひとりが自律し能力を向上させる
 - 1) 学習環境を整え、自己研鑽できる
3. 周産期・小児医療の現状を認識し病院経営に参画する
 - 1) 手術に関する診療報酬の適正な請求ができる
 - 2) 手術部門システムの新規運用ができる

【結果・評価】

目標 1 について

災害対策については、前年度に作成したアクションカードを見直し、消防訓練に参加した。その結果から、非常持ち出し物品の見直し、火災避難区画図の各手術室設置、避難完了チェックリストの作成、マニュアルの修正を行った。地震時の机上シミュレーションは次年度の課題である。

今年度は 3 名の看護師が KYT 研修に参加し、4 回実施であった。ヒヤリ・ハット事例の振り返りは問題解決シートを使用して行った為同等の効果があったと考える。

PNS 導入にあたり、学習会を実施し PNS の理解を深めた。そのうえでパートナーを決定した。1 月から本格的に PNS を開始し、朝のカンファレンスの方法を変更しパートナーで行っている。今後は、術前術後の看護をパートナーと共有できるようにしていく。

目標 2 について

チーム活動として、学会やセミナーの紹介し、院外研修 (群馬県看護協会研修を除く) に 4 回延べ 8 人が参加した。研修参加者による伝達講習会、研究論文の意見交換会、病棟内での勉強会、感染管理看護師による勉強会、臨床工学技師による勉強会を実施した。

目標3について

各診療科担当看護師が、長期使用していない物品の削減について医師と話し合い、デッドストックを減らすことができた。薬品が変更になった際、手術実施マスタ登録が変更されず過請求になっていたため、薬剤部から医事課にも連絡することをマニュアル化した。肺血栓塞栓症予防管理料の診療報酬請求に関して不備があったため、評価表の作成を検討中である。適正な診療報酬手術術式を選択するために、書籍(手術術式の完全解説)を購入し、確認後術式登録を行っている。また、手術システム導入に伴い、医事課クランクと協働し診療報酬請求システムを準備した。

手術部門システムについては、2社の説明会や試用の結果、フィリップス社のオルシスに決定した。3月運用開始にむけて、業者と話し合いを繰り返し、ハード・ソフト面の準備を行った。3月から試験運用し、4月1日からの本格導入予定である。システム変更に伴い、診療科医師や病棟看護師との連携をとっていく。

(片貝まさみ)

(9) 外 来

平成30年度の外来は、看護師16名、看護助手1名でスタートした。看護師の感染管理認定看護師教育課程への出向と修了復帰、2名の看護師が加わり18名となった。看護助手は、1名増員で2名となった。

【平成30年度外来目標】

1. 外来における安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 安静室を6月より段階的に稼働させ、鎮静剤投与患者の状態変化にコメディカルと協力・対応し評価する
 - 2) 患者誤認・検体取り違えのインシデントを起こさない
2. 一人ひとりが外来看護の能力を向上させる
 - 1) 外来継続看護記録を充実させ情報共有し、病棟連携できる
 - 2) 外来手順内容を整備し、手順を遵守した処置・ケアの提供ができる
3. 病院経営を意識して外来診療に関わる
 - 1) 在宅支援に係る在宅指導料・管理加算について学習し、コスト意識をもち、医療材料の受け渡しができる
 - 2) 外来看護業務の見直し、物品配置を検討し、業務の効率を図り時間外業務を40%削減する

【結果・評価】

目標1について

7月から安静室を稼働し、検査部門と患者情報を共有でき、鎮静を伴う検査において、状態悪化0件で検査部門協働し患者支援ができた。検体取り違えについては、1件発生があり、採血手順を見直し、手順の遵守に取り組み以降は検体取り違えの発生はない。しかし、新たな手順の遵守が100%行えていない現状もあり、引き続き手順遵守を励行していく。

目標2について

継続看護記録の記載を必要とした患者に対し、観察基準の徹底が周知できず、記録の充実が出来なかった。観察基準内容の周知方法を来年度への課題として引継いでいく。外来手順については、院内書式基準に沿った方法で整備中である。見直された外来採血の手順については、手順の遵守を

周知したが、詳細部分での手順の遵守には至らなかったため、手順を遵守した処置・ケアの提供を目指す活動が課題となる。

目標3について

学習会を設けられなかったが、医療材料の引き渡しについては、無駄を考慮した確認行動が増え、昨年度より返却された医療材料は削減した。しかし、気管カニューレは、サイズ変更のための返却があり削減できなかった。変更のタイミングを医師と相談していくことが課題となる。時間外実績の削減については、昨年度と比較し、12%削減に留まり目標達成できなかった。予約診療の診察延長を削減するための協議が課題となる。

(浅野 香)

(10) 教育委員会

委員長: 宮川祐子 副委員長: 高橋敦子

委員: 小林志のぶ (第一病棟)、佐藤夏枝 (第二病棟)、横尾美知代 (第三病棟)、松田直美 (NICU)、井坂保代 (GCU)、佐藤直美 (産科病棟)、藤井美香 (PICU)、齊藤春恵 (手術室)

【看護部教育理念】

病院・看護部の理念に基づき、豊かな感性、高い倫理観、真の自律を身につけ、幅広い理論を実践に統合できる。

【看護部教育目標】

1. 養育環境を整えることができる看護師の育成
2. 子どもの持てる力を最大限に発揮させることができる看護師の育成
3. 問題発見・解決・根拠のあるケアの実践能力の優れた看護師の育成
4. 医療チームの一員として協働できる看護師の育成
5. 相手の立場や思いに寄り添うことができる看護師の育成

【平成30年度活動目標】

1. ラダー別役割別教育計画に沿って院内研修計画の立案・運営・評価を実施する。
2. 看護職員が自分のラダーレベルに応じた研修や専門職として自律・能力向上のために必要であると考えた研修が受講できるよう支援する。
3. 学習ニーズが高かった、自部署の特徴に応じた知識・技術の習得、救急時の対応、記録については、自部署で教育計画を立案し実施する。教育委員として、その教育計画立案・運営に携わる。
4. 学習ニーズ・教育ニーズ調査の結果を踏まえ、研修プログラムの評価と再構築を行う。

【活動内容】 定例開催日 第4水曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 委 員 会 内 容 |
|--------|--|
| 5月23日 | 教育委員会活動目標・活動計画決定、司会・書記当番決定、研修担当者決定、教育委員の目標発表、ラダー別教育計画修正、6月研修計画検討 |
| 6月27日 | 6月研修報告、7月研修計画検討 |
| 7月25日 | 6月7月研修報告、9月研修計画検討 |
| 9月26日 | 7月研修報告、10月11月研修計画検討、自部署の教育計画の中間報告 |
| 10月24日 | 10月研修報告、11月12月研修計画検討 |
| 11月28日 | 10月11月研修報告、12月研修計画検討 |
| 12月26日 | 12月研修報告、2月研修計画検討、次年度の研修について(感染・倫理・リーダー・母乳育児支援) |
| 1月23日 | 2月研修計画検討、次年度の研修計画について |
| 2月18日 | 2月研修報告、次年度の研修計画について |
| 3月18日 | 今年度の委員会目標に対する評価、次年度の研修計画について |
| 4月24日 | 教育研修計画担当者・日程の決定(予定) |

【活動評価】

平成30年度の活動目標に対し、教育委員の評価基準を「4: 十分達成できた」「3: ほぼ達成できた」「2: あまり達成できていない」「1: 達成できていない」とし評価を集計した。その結果、目標1: 3.3、目標2: 3.0、目標3: 2.8、目標4: 2.6であった。

今年度、学習ニーズが高かった「自部署の特徴に応じた知識・技術の習得、救急時の対応、記録について」は、自部署で教育計画を立案し実施する方針で計画した。病棟毎に取り組みに差はあったが部署でその都度必要な勉強会は実施できた。

年間計画にそったレベル別の研修については、研修目的を「ほぼ達成できた」という評価がほとんどだったが、研修での学びを病棟に還元できるまでには至らず、個人レベルの達成感で終わってしまった。研修目的を達成できていない項目については、研修を担当する教育委員と講師の打ち合わせが不十分であった可能性もあり次年度以降の課題としたい。目標4についてはできなかった。

【課 題】

1. 院内研修(時間内)は、参加人数に限りがあるため、来年度は参加した看護師が研修での学びを病棟で伝達できる方法の検討を考える。
2. 看護協会や院外の研修なども活用し、看護職員が自分のラダーレベルや目標に合わせた研修を受講できるように教育委員が支援していく。

【研修一覧表】

| ラダー レベル | 研 修 名 | 開 催 日 | 講 師 等 | 参加 人数 | 目標 評価 |
|------------|----------------------|-------------|-----------------------------|----------|----------|
| I | ケースレポート発表会 | 6月29日(金)PM | 教育担当師長 病棟指導者 | 9 | — |
| | 看護倫理 I | 11月2日(金)PM | 緩和ケア 石関認定看護師 | 6 | 3.0 |
| | 感染 I | 7月6日(金)PM | 感染管理 北爪認定看護師 | 7 | 2.6 |
| II | 看護倫理 II | 7月2日(月)PM | 緩和ケア 石関認定看護師 | 13 | 3.4 |
| III | 感染 III | 11月16日(金)PM | 感染管理 北爪認定看護師 | 20 | 3.0 |
| | 看護倫理 III | 10月23日(火)PM | 緩和ケア 石関認定看護師 | 17 | 3.2 |
| IV | 看護倫理 IV | 12月17日(月)PM | 緩和ケア 石関認定看護師 | 20 | 2.8 |
| | リーダー研修① | 6月8日(金)PM | 金井師長 | 9 | 3.9 |
| | リーダー研修② 大切にしたい看護 | 2月4日(月)PM | 県民健康科学大学 富永明子先生 | 8 | 3.3 |
| | プリセプター フォローアップ研修① | 7月13日(金)PM | 県民健康科学大学 富永明子先生 | 13 | 3.0 |
| | プリセプター フォローアップ研修② | 10月12日(金)PM | 県民健康科学大学 富永明子先生 | 13 | 3.2 |
| | プリセプター フォローアップ研修③ | 2月27日(水)PM | 県民健康科学大学 富永明子先生 | 13 | 3.1 |
| | プリセプター研修 | 3月4日(月)PM | 県民健康科学大学 富永明子先生 | 14 | 3.3 |
| 管理 I | 看護職員が取り組む病院経営改善 | 2月19日(火)PM | 病院局 押元朋子氏 | 30 | 2.9 |
| 4 病院 共通 | ノンテクニカル応用編研修 | 11月10日(土) | メディカルアート ディレクター 佐藤和宏氏 | 3 | — |
| | ノンテクニカル基礎編研修 | 11月11日(日)AM | メディカルアート ディレクター 佐藤和宏氏 | 7 | — |
| 共通 | 母乳育児支援① | 6月19日(火) | 助産師 永沢副師長 | 10 | — |
| | 母乳育児支援② | 7月30日(月) | 助産師 永沢副師長 | 11 | 3.4 |
| | 母乳育児支援③ | 12月3日(月) | 助産師 永沢副師長 | 14 | 3.3 |

研修の目標に対する参加者の評価

「4: 十分達成できた」「3: ほぼ達成できた」「2: あまり達成できていない」「1: 達成できていない」

(宮川祐子)

(11) 記録委員会

委員長: 福島富美子 副委員長: 鈴木絹代

委員: 岡田美和 (第一病棟)、外丸恵利 (第二病棟)、植木悦子 (第三病棟)、飯沼麻由美 (NICU)、高橋真→漆田美紀 (GCU)、田島伴美 (産科)、樋口沙織 (PICU)、石北敦美 (手術室)

【平成 30 年度活動目標】

1. 形式監査・質監査の実施
2. 看護計画・看護診断研修に参加し、委員内で共有後勉強会の実施
3. 看護診断・看護記録基準の見直しを行う

【活動内容】 定例開催日 第 2 水曜日 13:30～14:30

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|--|
| 5 月 9 日 | 今年度の活動内容の検討 |
| 6 月 13 日 | 転棟チェックリスト・看護サマリ・基礎情報用紙について |
| 7 月 11 日 | 看護記録タイムスケジュールについて 9 月の記録の監査について 手術室看護記録について 6 月研修の勉強会 |
| 9 月 12 日 | 8 月研修の勉強会 形式監査・質監査の実施 |
| 10 月 10 日 | 看護診断勉強会資料の作成 |
| 11 月 14 日 | 看護診断勉強会資料の作成 記録監査結果報告 |
| 12 月 12 日 | 看護診断各病棟勉強会実施 記録監査・参画型看護計画マニュアル作成 |
| 1 月 9 日 | 看護診断各病棟勉強会実施 記録監査・参画型看護計画マニュアル作成 |
| 2 月 13 日 | 看護記録マニュアルの見直し |
| 3 月 13 日 | 看護記録マニュアルの見直し |

【活動評価】

1. 形式監査・質監査実施できた。
2. 各病棟看護診断の勉強会を実施し、看護診断の修正ができた。

【課 題】

1. 看護診断の修正を電子カルテに入力し実際に使用することができる。
2. 看護記録基準の見直しを行う。

(福島富美子)

(12) 実習指導者会

委員長: 丸山美幸 副委員長: 星山友絵

委員: 岩井淳 (第一病棟)、高橋ゆり菜 (第二病棟)、宮前仁美 (第三病棟)、長島あゆみ (NICU)、松下典子 (GCU)、渡邊敦美 (産科病棟)

【平成 30 年度活動目標】

看護学生の実習目標が到達できるよう教育機関と連携し、効果的な小児看護の臨地実習が実施できるよう支援する。

1. 教育機関と連携し効果的な小児看護の臨地実習を実施する。
2. 実習指導者の役割を理解し、効果的な実習指導が実践できる。

【活動内容】

定例開催日 第 4 火曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|--|
| 4 月 24 日 | 平成 29 年度活動目標・計画立案、実習予定の確認 実習の打ち合わせ (高崎健康福祉大学) 実習の振り返り (渋川看護専門学校) |
| 5 月 22 日 | 実習予定の確認 |
| 6 月 26 日 | 実習についての意見交換 (県民健康科学大学・高崎健康福祉大学) 実習の打ち合わせ (パース大学) |
| 7 月 24 日 | 実習についての意見交換 (県民健康科学大学・高崎健康福祉大学) |
| 9 月 25 日 | 実習についての意見交換 (パース大学) |
| 10 月 23 日 | 実習についての意見交換 (パース大学・高崎助産) |
| 11 月 27 日 | 実習についての意見交換 実習打ち合わせ (渋川看護専門学校) |
| 12 月 25 日 | 実習についての意見交換 (県民健康科学大学) |
| 1 月 24 日 | 実習についての意見交換 (渋川看護専門学校・群馬大学) |
| 2 月 28 日 | 実習の振り返り (パース大学・高崎健康福祉大学) |
| 3 月 26 日 | 実習の振り返り (県民健康科学大学) 1 年間の実習についての意見交換 |

【活動評価】

1. 実習受け入れ前に実習目標、日程、学習内容の打ち合わせを行い、効果的な実習指導が出来た。実習中は委員会で意見交換を行った。実習終了後に振り返りを行い、次の実習に活かすことが出来た。
2. 教育機関や学生の特徴や実習目標を理解し、各部署で実習指導マニュアルを準備や修正を行った。病院内で行われる実習、学内で行われる成果発表に参加した。
3. 学生が受け持っている患児が、転倒ヒヤリハットを起こした。学校・病院ともに振り返りを行い、初回のカンファレンスで、転倒転落についての安全確認を必ず行うこととした。

【課 題】

1. 毎年学生が変わること、教育機関の実習目標等が変わるため、柔軟に対応していくために、常に学生指導マニュアルの見直し等を行っていく。
2. 実習指導者や病棟スタッフが協力して学生指導が行えるように調整していく。
3. 実習病棟として環境を整える(連続で指導者になれるように調節をする)。

(丸山美幸)

(13) ICT リンクナース会

委員長: 北爪幸子 副委員長: 大平典子

委員: 山崎綾美(第一病棟)、青木郁子→山田めぐみ(第二病棟)、渡邊佳世(第三病棟)、須藤 亘(NICU)、高倉和枝(GCU)、富樫哲雄(PICU)、中島寿恵(産科病棟)、川浦秀明(手術室)、神戸祥子・石川さやか(外来)

【平成 30 年度活動目標】

各部署における感染対策活動が実施できる。

1. 看護ケアにおける感染対策他者評価を年 2 回実施できる。
2. 感染対策のベストプラクティス(実践現場での手順書)を作成できる。
3. ICT ラウンド結果・相互チェック・医療監視・適時調査の指摘内容の改善ができる。
4. 中材伝票記載不備数を昨年度より減少できる。
5. 所属部署の役割モデルとして教育・啓発が実施できる。
6. 感染対策物品のコストダウンの検討。

【活動内容】 定例開催日 第 1 月曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|--|
| 5 月 21 日 | 平成 30 年度活動目標立案・年間計画検討・適時調査指摘事項の検討 昨年度手指消毒薬使用量調査報告 |
| 6 月 18 日 | 手指消毒薬使用量部署別目標値設定・使用量調査結果(4.5 月分) 報告 ベストプラクティス案検討・相互チェック対策検討・哺乳瓶返却方法の情報共有 |
| 7 月 9 日 | ベストプラクティス案検討・相互チェック指摘事項報告 |
| 9 月 10 日 | ベストプラクティス案検討・手指消毒薬使用量調査結果(6.7 月分) 報告 一般廃棄物分別不備集計結果(8 月分) 報告・中材提出器材伝票記載不備集計結果報告(上期: 4～8 月分)・感染性胃腸炎用クロス試供品アンケート実施 |
| 10 月 15 日 | ベストプラクティス案検討・1 回目オムツ交換他者評価結果報告 一般廃棄物分別不備集計結果(9 月分) 報告・委員変更報告 器材類管理方法について検討・手指クリームサンプル配布 |
| 11 月 19 日 | ベストプラクティス(気管内吸引) 最終決定・手指消毒薬使用量調査結果(8～10 月分) 報告 ・医療監視報告・中材管理の衛生材料について検討 |
| 12 月 17 日 | 感染性胃腸炎患者用環境クロス説明(業者より) 一般廃棄物分別不備結果(11 月分) 報告・中材管理の衛生材料について検討 |
| 1 月 21 日 | 手指消毒薬使用量調査結果(11.12 月分) 報告・感染管理認定看護師教育課程研修報告 |

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-------|---|
| 2月18日 | 2回目オムツ交換他者評価結果報告・中材提出器材伝票記載不備集計結果報告(下期:9~1月分)報告・看護部感染研修参加率部署別結果報告(1月分まで) 手指消毒薬使用量調査結果(1月分)報告 |
| 3月18日 | 看護部感染研修参加率部署別結果報告(3月分まで) 目標評価・活動振り返り/まとめ、来年度課題検討 |

【活動評価】

1. 他者評価を年2回実施する目標は達成できた。1回目(87.6%)より2回目(91.5%)の遵守率が3.9%上昇した。
2. 感染管理ベストプラクティス(気管内吸引)を作成できた。
3. ICTラウンド・相互チェック・医療監視・適時調査の指摘事項について、各委員が積極的に改善に向けて取り組むことができた。引き続き、問題点の改善に向けて取り組んでいく。
4. 中材提出器材記載不備個数は昨年度月平均128.7個から本年度月平均62.2個と減少した。
5. 看護部職員の感染対策研修年2回参加率が昨年度92.8%から今年度98.3%と上昇できた。
6. コスト削減として、感染性胃腸炎用環境クロスを変更できた。診療材料4病院統一製品(環境用クロス・アルコールクロス・針捨てボックス)の変更に協力できた。

【課 題】

1. 感染管理ベストプラクティス手順書を用いた他者評価実施と遵守率の評価
2. 感染管理ベストプラクティスの項目追加作成
3. 相互チェック・ICTラウンドでの指摘事項の改善
4. 感染対策物品のコストダウンの検討

(北爪幸子)

(14) 病棟指導者会

委員長: 宮川祐子 副委員長: 狩野由紀

委員: 高橋克典(第一病棟)、平本寛子(第二病棟)、後藤真紀(第三病棟)、伊東修子(NICU)、本多みさ子(GCU)、天田美枝子(産科病棟)、平田裕香(PICU)、笠原寿絵(手術室)

【看護部教育理念】

病院・看護部の理念に基づき、豊かな感性、高い倫理観、真の自律を身につけ、幅広い理論を実践に統合できる

【看護部教育目標】

1. 養育環境を整えることができる看護師の育成
2. 子どもの持てる力を最大限に発揮させることができる看護師の育成
3. 問題発見・解決・根拠のあるケアの実践能力の優れた看護師の育成
4. 医療チームの一員として協働できる看護師の育成
5. 相手の立場や思いに寄り添うことができる看護師の育成

【平成 30 年度活動目標】

1. 新人看護職員の離職率ゼロを目指し、病棟指導者全員で新人看護職員とプリセプターを支援できる。(病棟内の関係調整や精神的支援者の役割が担える)
2. 新人看護職員が社会人として、専門職として成長できることを目指し、学習機会の提供と精神的支援ができる。
3. 新人到達目標評価表を使用し、新人看護職員が必要な知識や技術、態度を習得し、段階を追って目標達成出来るよう支援する。

【活動内容】 定例開催日 第 2 火曜日 14:00～15:00

| 開 催 日 | 委 員 会 内 容 |
|-----------|---|
| 5 月 8 日 | 委員自己紹介、委員会活動目標検討、研修担当者決定、司会・書記当番決定、新人オリエンテーション・OJTⅠ 結果報告、5 月集合研修企画検討、症例発表検討 |
| 6 月 12 日 | 委員会活動目標決定、6 月以降の集合研修計画の調整、5 月研修報告、6 月・7 月集合研修企画検討、プリセプターフォローアップ研修①企画検討、症例発表検討、新人の近況 |
| 7 月 10 日 | 6 月集合研修報告、症例発表報告、7 月集合研修企画検討、新人 2 ヶ月目到達度報告 問題解決シートの使用支援について、新人の近況 |
| 9 月 11 日 | 7 月集合研修報告、多重課題企画検討、10 月集合研修企画検討、プリセプターフォローアップ研修①報告、OJTⅡ 企画検討、新人 4 ヶ月目到達度報告 |
| 10 月 9 日 | 10 月、11 月、12 月集合研修企画検討、プリセプターフォローアップ研修②企画検討、OJTⅡ 企画検討、多重課題最終打ち合わせ、臨床検査について、新人の近況、 |
| 11 月 13 日 | 多重課題報告、10 月集合研修報告、プリセプターフォローアップ研修②報告 11 月集合研修企画検討、OJTⅡ 経過報告、プリセプター 6 ヶ月到達度報告、新人 6 ヶ月目到達度報告 |
| 12 月 11 日 | 11 月集合研修報告、12 月集合研修企画検討、OJTⅡ 途中報告、新人の近況 |
| 1 月 8 日 | 12 月集合研修報告、1 月 2 月集合研修企画検討、新人の近況、次年度の新人看護職員研修について |
| 2 月 12 日 | 1 月集合研修報告、2 月 3 月集合研修企画検討、プリセプターフォローアップ研修報告 プリセプター研修企画検討、来年度新規採用者オリエンテーション・OffJT・OJTⅠ・新入職看護職員臨床研修プログラム検討、新人の近況 |
| 3 月 12 日 | 2 月集合研修報告、3 月集合研修企画確認、プリセプターフォローアップ研修③・プリセプター研修報告、来年度新規採用者オリエンテーション・OffJT・OJTⅠ・新入職看護職員臨床研修プログラム検討、新人の近況 |
| 4 月 2 日 | 3 月集合研修報告書、新規採用者オリエンテーション・OffJT・OJTⅠ 最終確認 |

【活動評価】

平成 30 年度の活動目標に対し、病棟指導者の評価基準を「4: 十分達成できた」「3: ほぼ達成できた」「2: あまり達成できていない」「1: 達成できていない」として評価し数値化した。その結果、目標 1: 3.4、目標 2: 3.0、目標 3: 3.0 であった。今年度は、新人離職率ゼロを最大の目標として活動しその結果、新人看護職員の離職率ゼロの目標は達成できた。新人研修の内容についても目標はほぼ達成できたと評価出来る。

【課 題】

1. OJTⅡを効果的に行うため、研修内容(輸血)の時期を検討する
2. 新人到達目標評価表とプリセプター評価目標の使用後修正の検討をする

【研修一覧】

| 開催日 | 研修名 | 内 容 | 目 標 | 評価 |
|----------------------------|---------------------------------|---|---|---------------------------------|
| 4月6日(金) ～10日(火) 3日間 | 新入職者 オリエン テーション | <ul style="list-style-type: none"> ・病院概要 ・看護部概要 ・職業倫理 ・小児業務指針 ・小児の安全 ・感染対策 ・看護記録 ・部門紹介 ・診療報酬 ・小児の看護技術など | <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児医療センターおよび看護部について理解する。 2. 基本的技術を学ぶ。 3. 小児医療センターで採用しているシステムやルールを知る。 4. 他部門について知る。 | 3.8 |
| 4月11日(水) ～18日(水) 6日間 | OffJT | <研修会議室・安静室>人形を対象に基本的な看護技術を演習する。 | リアリティーショックの軽減のため、基本的な看護技術の経験を患者さんに実施する前に、人形で演習を行なう。 | — |
| 4月19日(木) ～24日(火) 4日間 | OJTⅠ | <<各部署にて>> 基本的な看護技術を各病棟で見学・体験研修する。 GW | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各部署の雰囲気を知る。 2. 小児の基本的な看護技術を手順に基づいて学ぶ。 3. 小児の成長・発達にあった看護ケアが行われていることを学ぶ。 GW: OJTⅠの学びを共有できる。 | 3.5 |
| 5月21日(月) | 新入職看護 職員臨床研 修プログラ ム | <ul style="list-style-type: none"> ・小児の観察方法 ・子どもとのコミュニケーション ・放射線検査について ・小児の薬、薬剤等の取扱い GW | <ul style="list-style-type: none"> ・小児の観察の基本を習得できる ① ・受け持ち看護師としてスムーズな援助ができるよう、子どもとのコミュニケーションを学ぶ。 ・放射線に対する注意・管理について学ぶ事が出来た。 ・薬剤の取り扱い基準・管理について学ぶことが出来た。 GW: 病棟勤務を始めて感じたこと・できていることなどを共有する。 | 3.8 3.9 3.5 3.2 4.0 |
| 5月14日(月) | BLS講習 | BLS講習 | 救急蘇生の基本を習得できる。 | — |
| 6月25日(月) | 新入職看護 職員臨床研 修プログラ ム | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と倫理 ・子どもと家族へのケア ・口腔ケア ・社会人としてのコミュニケーションスキル GW | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と倫理について学び、自分なりの倫理的視点を学ぶことができる。 ・疾患をもつ子どもと家族へのケアを考えることができる。 ・口腔ケアの重要性と技術について学ぶ。 ・社会人としてのコミュニケーションとして報告・連絡・相談の重要性を理解できる。 GW: 夜勤開始に向けて、不安の表出と準備ができる。 | 3.8 3.8 3.3 3.8 3.5 |
| 7月3日(火) 県庁にて | 3ヶ月フオ ローアップ (4病院共 通研修) | 講義・見学 ノンテクニカルスキル研修 GW | <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院局を見学することで県職員であることを再認識できる。 2. 3ヶ月を振り返り、辛かったこと・うれしかったこと・学んだことを共有し、前向きに仕事に取り組むことができる。 3. 新人が抱えている問題を自ら解決するための技術を学び、実践できる。 | — |

| 開催日 | 研修名 | 内 容 | 目 標 | 評価 |
|-----------|------------------|---|---|---------------------------------|
| 7月23日(月) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程と看護記録 ・周産期における母子関係、母子育児支援 ・メンタルヘルス | <ul style="list-style-type: none"> ・看護記録の基本を学ぶ。 ・母子関係と母乳育児支援を学ぶ。 ・搾乳・直母の方法を学ぶ。 ・ストレスマネジメントができる。 | 3.4 3.8 3.9 |
| 9月/2月 | 防災訓練 | 院内避難訓練 | | — |
| 10月13日(土) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・多重課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・多重課題の中で優先順位の考え方がわかる。 ・リーダーや他のスタッフに業務を依頼することが出来る。 ・日々の担当看護師としての役割がわかる。 | 3.6 3.8 4.0 |
| 10月22日(月) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・感染 ・医療安全 GW | <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策が習得できる。 ・医療現場におけるリスクとその対応を理解する。 GW: 6ヶ月の振り返りと今後の課題が共有できる。 | 3.8 3.6 3.9 |
| 11月26日(月) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程 ・バランスのよいケア ・ケースレポートのまとめ方 | <ul style="list-style-type: none"> ・自部署の事例を通して看護過程を学ぶ。 ・小児の観察の基本を習得できる。 ・収集した情報をアセスメントし、看護問題を見だし、看護実践ができる。 ・ケースレポートのまとめ方について学ぶ。 | 3.5 3.8 3.3 3.8 |
| 11月～12月 | OJT II | <ul style="list-style-type: none"> ・他部署における治療と看護の実際を見学・実践する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他部署における治療と看護の実際を見学することを通し、児の成長発達に応じた継続看護を見学・実践する。 | — |
| 12月25日(火) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・OJT IIの振り返り:GW ・輸血について ・緩和ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・OJTの学びをグループで、共有できる。 ・輸血について基本的な仕組みを理解できる。 ・緩和について事例を通して理解できる。 | 4.0 3.8 3.8 |
| 1月21日(月) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・感染 ・小児の栄養管理 ・小児の予防接種 GW | <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の方法を理解できる。 ・小児の栄養管理について理解する。 ・病棟における栄養管理の実際。 ・小児に必要な予防接種の種類や時期を知ることができる。 GW: 到達目標1年の評価に向けての課題が見出せる。 | 3.6 3.3 3.5 3.6 3.9 |
| 2月26日(火) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援、地域との連携 ・診療報酬 ・臨床検査 ・呼吸理学療法 | <ul style="list-style-type: none"> ・退院支援と他職種との連携を理解する。 ・医療保険、診療報酬制度の基本を理解することができる。 ・検査データの解釈方法を学ぶ。 ・呼吸理学療法を理解できる。 | 3.4 3.0 3.5 3.6 |
| 3月25日(月) | 新入職看護職員臨床研修プログラム | GW: 1年を振り返ってポートフォリオ作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己の成長を実感できる。 ・次年度の課題を見出すことができる。 | — |

<目標に対しての研修参加者の評価>

「4: 十分達成できた」「3: ほぼ達成できた」「2: あまり達成できていない」「1: 達成できていない」

(宮川祐子)

(15) 看護研究委員会

委員長: 武井貴代美 副委員長: 金子友香

委員: 戸川理佐 (第一病棟)、山田めぐみ (第二病棟)、千明桃子 (第三病棟)、高橋沙織 (NICU)、田中綾香 (GCU)、野田暁子 (産科病棟)、石関梨華 (PICU)、高橋健一 (手術室)

【平成 30 年度活動目標】

1. 看護研究、看護実践発表会を年 1 回開催する。
2. 研究計画書作成から看護研究が順調に進むように支援できる。
3. 看護研究委員として、看護研究計画書の書き方、研究の進め方、査読の仕方について学習できる。

【活動内容】 定例開催日 第 4 金曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|---|
| 5 月 25 日 | 平成 30 年度活動目標・活動計画の決定 看護研究計画書の取り扱い方・審査から倫理委員会への流れ・看護研究支援日についての確認 |
| 6 月 22 日 | 研究計画書の査読 (第一病棟) 各病棟の看護研究取り組み状況について 「看護研究計画書の書き方」勉強会 (千明看護師) |
| 7 月 27 日 | 研究計画書の査読 (外来、NICU) |
| 9 月 28 日 | 研究計画書の査読 (外来) |
| 10 月 26 日 | 研究計画書の査読 (NICU、PICU) ケースレポート支援について |
| 11 月 30 日 | 看護研究発表会の役割分担・演題登録について |
| 12 月 28 日 | 看護研究発表会について 倫理審査承認通知書と倫理審査結果通知書の作成について 審査結果の「看護研究計画書チェックリスト」への添付について |
| 1 月 25 日 | 看護研究発表会 (演題登録、論文集) について アンケート回収時封筒の宛名書例について 「看護研究進捗状況報告書」の提出について ケースレポートの評価表について |
| 2 月 22 日 | 看護研究発表会の打ち合わせ |
| 3 月 1 日 | 平成 30 年度 看護研究・看護実践発表会 (研修会議室) |
| 3 月 22 日 | 看護研究・看護実践発表会の振り返り アンケート結果と看護研究委員会新聞について 今年度の振り返りと来年度に向けて |

【活動評価】

1. 看護研究計画書 6 題を審査した。看護研究・看護実践発表会では、看護研究 6 題と看護実践報告 1 題の発表を行った。
2. 看護部倫理委員会の検討を受け、①看護研究委員会の審査結果は、審査を受ける病棟の看護研究委員が「看護研究計画書チェックリスト」へ添付する方法へ統一、②「倫理審査承認通知

書」と「倫理審査結果通知書」の作成、③「看護研究進捗状況報告書」の提出等の流れを周知出来た。

3. 看護研究発表用のスライドデータの取り扱いを、今年度より NAS 上で行った。

【課題】

1. 平成 30 年度の「看護研究進捗状況報告書」の提出が 8 題あった。継続した支援を行って行く必要性が明確となった。
2. 看護研究委員によるケースレポートの支援方法に差がある。来年度は、支援方法の検討と統一が必要である。
3. NAS による看護研究発表用のスライドデータの取扱いは便利である反面、データの取り扱いと方法の統一に十分な配慮が必要である。

(武井貴代美)

(16) 看護部研究倫理審査委員会

委員長: 看護部長 清水奈保 副委員長: 金子友香

委員: 副看護部長 都丸八重子、教育担当師長 宮川祐子、看護研究委員長 武井貴代美

【平成 30 年度活動目標】

1. 倫理指針に沿って倫理審査を行う
2. 看護部倫理委員会において文献抄読会を年 1 回行う
3. 学術集会へ参加し看護研究倫理に関する自己学習を行う

【活動内容】 定例開催日 第 4 水曜日 10:30～11:30

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|--|
| 4 月 26 日 | 副委員長選出、委員会目標、関係書類の検討、倫理審査査読 1 件 (2017-11) |
| 5 月 23 日 | 平成 29 年度研究結果 (2017-4)、倫理審査査読 1 件 (2017-8)、関係書類の検討 |
| 6 月 28 日 | 倫理審査査読 1 件 (2018-1)、看護部研究倫理委員会設置要綱確認 |
| 7 月 25 日 | 倫理審査査読 1 件 (2018-2) |
| 8 月 6 日 | 倫理審査査読 1 件 (小規模研修グループ A 班) |
| 8 月 23 日 | 倫理審査査読 1 件 (2018-4)、倫理審査終了後の計画書提出状況、倫理審査終了後の文献保存について |
| 10 月 24 日 | 倫理審査査読 1 件 (2018-3)、倫理審査終了後の計画書提出状況、抄読会 |
| 11 月 28 日 | 倫理審査査読 3 件 (2018-3、2018-4、2018-5)、関係書類の検討 |
| 12 月 26 日 | 倫理審査通知書の検討 |
| 1 月 23 日 | 倫理審査査読 2 件 (2018-5、2018-6)、関係書類の検討、抄読会 |
| 2 月 27 日 | 関係書類の検討 |
| 3 月 26 日 | 関係書類の検討、委員会評価、原著論文の投稿について |

【活動評価】

通常倫理審査を8回、臨時倫理審査1回(緊急のため)を開催した。今年度12件の審査を実施し、7件承認した。関係書類の検討をした。文献の抄読会が2回実施できた。委員全員が関連学会に参加することはできなかった。

【課題】

1. 基準・ガイドラインのもと、倫理審査を行う。
2. 院内倫理審査の移行準備として、年間2件の研究を院内倫理審査として試行する。
3. 2018年度に作成した関係書類の周知とそれに基づく運用と評価を行う。
4. 原著論文投稿者の支援方法と手続きを検討する。

(清水奈保)

(17) 看護研究支援

メンバー：金子友香

【平成30年度活動目標】

1. 院内看護職員の看護研究活動を支援する。
 - 1) 「院内研究担当看護師が直面する困難状況把握チェックリスト」を活用し、相談者が困っている状態を確認する。
 - 2) 活動日に、相談者の困難に対し、必要な助言をする。
 - 2) 看護研究支援だよりを年2回発行する。
2. 自己の看護研究に関する知識の向上に努める。
 - 1) 看護系学会に参加する。
 - 2) 自己の研究活動を継続する。

【活動内容】 定例開催日 第3木曜日 8:30～17:15

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-------|--|
| 4月19日 | 相談者3名に対し、研究テーマの焦点化、看護研究計画書の完成に向けた助言 研究相談の対応に必要な文献検索 |
| 5月18日 | 相談者2名に対し、看護研究計画書の完成に向けた助言、データ分析のスーパーバイズ 看護研究計画書の査読 |
| 6月21日 | 相談者1名に対し、研究協力者としての研究参加方法について助言 看護研究計画書の査読 看護研究マニュアルの改訂 |
| 7月19日 | 相談者3名に対し、収集したデータの分析方法について助言、研究テーマの焦点化に向 けた文献検討の方法について助言 看護研究計画書の査読 |
| 8月16日 | 相談者4名に対し、収集したデータの分析方法について助言、質問紙作成方法について 助言、看護研究計画書の完成に向けた助言、データ分析のスーパーバイズ 看護研究計画書の査読 |
| 9月20日 | 相談者3名に対し、看護研究計画書の完成に向けた助言、質問紙の完成に向けた助言、 収集したデータの分析方法について助言 看護研究計画書の査読 |

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|---|
| 10月18日 | 相談者3名に対し、データ分析のスーパーバイズ、看護研究論文の考察の論述方法について助言 |
| 11月15日 | 相談者4名に対し、データ分析のスーパーバイズ、研究テーマの焦点化と看護研究計画書の作成に向けた助言、看護研究論文の論述と発表用ポスターの完成に向けた助言 |
| 12月20日 | 相談者4名に対し、看護研究計画書の作成に向けた助言、看護研究論文の完成に向けた助言、看護研究論文の考察の論述方法について助言 |
| 1月17日 | 相談者4名に対し、看護研究論文の完成に向けた助言、データ分析のスーパーバイズ、第32回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会の抄録の確認 |
| 2月21日 | 相談者2名に対し、看護研究論文の考察の論述方法について助言、発表原稿とスライドの作成方法について助言 院内看護研究発表会の抄録集の確認 |
| 3月20日 | 相談者4名に対し、看護研究計画書の作成に向けた助言、看護研究論文の考察の完成に向けた助言、予演会の実施と発表原稿とスライドの完成に向けた助言 看護研究支援だより No.11 (院内看護研究発表会の講評) 作成 |

【活動評価】

看護研究支援者として、参考文献の精読、学術集会への参加により、自己研鑽に努め、自身の看護研究に関する知識を深められるように努めた。また、月に1~4名の相談者から支援依頼を受け、事前に支援依頼内容を確認し、1人あたり30分~3時間程度の時間を設定し、相談者が重複することのないように支援することができた。さらに、当日相談者に対しては、「院内研究担当看護師が直面する困難状況把握チェックリスト」を使用することなく、話を聞くことで問題状況を把握し、支援することができた。「看護研究支援だより」の発行は、1回のみとなり、目標を達成できなかったが、相談者の看護研究活動を支援することはできたため、概ね目標を達成できたと考えられる。

【課 題】

看護研究を行いたいと考える看護職員に対し、看護研究計画書の作成から学会発表までの全過程に関わり、切れ目のない支援をする。

(金子友香)

(18) 基準・手順委員会

基準 WG 委員長: 浅野 香 委員: 各師長

手順 WG 委員長: 浅野 香 副委員長: 北爪幸子

委 員: 平石美香 (第一病棟)、近藤龍平 (第二病棟)、吉田智和 (第三病棟)、青木栄信 (NICU)、飯島亜希子 (GCU)、立川美咲 (産科病棟)、深見悦子 (PICU)、須田慎也 (手術室)

【平成30年度活動目標】

基準 WG: タイムリーに基準を見直し、改訂をする

手順 WG: 標準予防策を含めた手順改訂を実施し、NASでのデータ管理ができる

【活動内容】

基準 WG: 二交替師長業務、超緊急帝王切開の流れ、連絡方法を見直し・改訂

手順 WG 定期開催日 第3金曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|---|
| 5月18日 | 各委員の自己紹介、活動について確認、引き継ぎ手順見直しの確認 |
| 6月15日 | 各病棟担当分の看護手順(看護ケア)見直しの確認と進捗状況の確認、手順見直し時の用語の定義確認を統一し作成を依頼 |
| 7月20日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、鎮静薬同意書の使用の周知依頼 |
| 9月21日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、MRI検査時チェックリストの変更確認 PICU気管支ファイバー貸出、洗浄手順の周知 |
| 10月21日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、口鼻腔吸引の紙コップ交換方法について確認し、統一周知依頼 |
| 11月16日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、病棟リーダー業務手順の見直し依頼とヒヤリ・ハット報告方法の周知依頼、PCAポンプ使用手順の見直し依頼 |
| 12月21日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、看護手順(処置編)の振り分け確認 |
| 1月18日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認、病棟直入の救急対応を手順新規作成依頼 |
| 2月15日 | 看護手順見直しの確認と進捗状況の確認 |
| 3月8日 | 看護手順の見直しの確認、地域の救急車で患者搬送時の記録確認と周知依頼、30年度のふり返りと次年度に向けての課題 |

【活動評価】

基準 WG: 個別に修正が必要な項目の修正を行った。来年度の新任師長オリエンテーションに向けてタイムリーに基準を修正でき、まとめることが出来た。

手順 WG: 標準予防策を加えた看護ケア手順まで完了し、処置編の見直しが出来た。

【課 題】

手順 WG: 看護手順の処置編の見直し・改訂を仕上げ、全部署の手順書のファイルを揃える。

(浅野 香)

(19) 認定看護師会

委 員: 小林理恵・齊藤織恵(新生児集中ケア認定看護師)

木島久仁子(小児救急看護認定看護師)

茂木ゆう子(皮膚・排泄ケア認定看護師)

北爪幸子(感染管理認定看護師)

石関梨華(緩和ケア認定看護師)

【平成30年度活動目標】

認定看護師間で協働し、実践・指導・相談の役割をはたしていく

1. 看護職者に対して小児看護に必要な知識技術の伝達、指導、教育を行う

1) 院内教育での各認定範囲の勉強会の実施

2) 病棟ラウンドを充実させる

2. 認定看護師の活動、存在をアピールし、後任育成の支援をする
 - 1) 各分野の CN 紹介を研修会開催前に必ず実施する
 - 2) CN 紹介会を実施する
3. 認定看護師としての院内、院外者に対する活動
 - 1) 看護学生や医療者への講師活動
 - 2) 群馬県看護協会の講師活動
 - 3) NCPR インストラクター活動
 - 4) 他依頼があった時には適宜活動をしていく
4. 教育体制の連携強化
 - 1) 院内認定制度の検討
 - 2) 教育担当師長・教育委員・病棟指導者との連携

【活動内容】 定例開催日 第3水曜日 8:30～17:15

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|---|
| 4月18日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド・副看護長との意見交換 年間目標・活動計画立案・役員決め |
| 5月16日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 6月20日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 7月18日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 8月15日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド・認定看護師会ホームページ案検討 副看護部長との意見交換 |
| 9月19日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 10月17日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 11月21日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド・挿管チューブ固定テープの検討 |
| 12月19日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド・教育担当看護師長と意見交換 |
| 1月16日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 2月20日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド |
| 3月20日 | 情報交換・個人活動・病棟ラウンド・平成31年度新人研修うち合わせ |

【院内研修担当】

| 開催月 | 研 修 内 容 | 担 当 者 |
|-----|-----------|--------|
| 4月 | 新入職者研修 | 認定看護師会 |
| 5月 | 小児の観察方法 | 木島 |
| 6月 | 緩和ケア | 石関 |
| 7月 | 感染 I | 北爪 |
| | こどもの権利と倫理 | 石関 |

| 開催月 | 研 修 内 容 | 担 当 者 |
|------|-----------------|-------|
| 7 月 | 新人フォローアップ研修(感染) | 北爪 |
| | 看護倫理Ⅱ | 石関 |
| 10 月 | 看護倫理Ⅲ | 石関 |
| 11 月 | バランスのよいケア | 齊藤 |
| | 看護過程 | 木島 |
| | 看護倫理Ⅰ | 石関 |
| | 感染Ⅲ | 北爪 |
| 12 月 | 看護倫理Ⅳ | 石関 |
| 1 月 | 看護倫理Ⅰ・Ⅱ | 石関 |
| | 感染 | 北爪 |
| | 看護助手研修 | 北爪 |
| 2 月 | 看護倫理(副師長会) | 石関 |
| 3 月 | インターンシップ講義 | 木島・北爪 |

【院外活動】

県看護協会

日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研究会講義担当

日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー

日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会世話人

群馬ストーマ・リハビリテーション講習会

群馬ストーマ排泄リハビリテーション研究会幹事会会議

伊勢崎敬愛看護学院非常勤講師

渋川看護専門学校非常勤講師

高崎医師会看護学校助産学科非常勤講師

高崎健康福祉大学非常勤講師

前橋赤十字病院講師

群馬県感染症対策連絡協議会 ICN 分科会

北関東病院感染対策懇話会世話人会

院内及び県の NCPR インストラクター実施

小児医療施設協議会会議出席

群馬緩和医療研究会世話人会

小児救急市民公開フォーラム講師

【評 価】

目標 1 について

看護部のラダー研修で認定看護師が講師となり分野別研修を実施できた。コンサルテーション用

紙を活用について周知徹底が不十分だった。OJT でも部署内でタイムリーに指導できた。

目標 2 について

感染管理認定看護師教育課程へ 1 名参加し、研修終了後、感染対策業務の説明・指導を実施した。認定だよりを発行が 1 回のみだったため、来年度は継続して発行したい。

目標 3 について

看護学校・セミナー・研修会などで講師として院内・院外で活動できた。群馬ストーマ・リハビリテーション研究会の開催当番として準備・運営を実施した。

目標 4 について

教育担当看護師長との教育計画や研修に反映させるための意見交換を行い、認定担当の研修については、教育委員会の担当者と協働し研修を実施できた。部署別研修については全分野依頼があり実施できた。

【課 題】

認定会ラウンド項目の検討・ラウンド内容の事前報告

コンサルテーション用紙運用の徹底

(木島久仁子)

新生児集中ケア認定看護師活動報告

【実 践】

現行ポジショニングの見直し・検討

1. ディベロップメンタルケア (以下、DC) に関する勉強会を開催する
2. 新生児のポジショニングの基本に関する勉強会を開催する
3. 所属病棟スタッフが実践するポジショニング他、DC の指導を行う
 - 1) 所属病棟のスタッフを対象に、新生児のポジショニングを主とした DC に関する勉強会を開催 (10 月)
 - 2) PNS のペア間で受け持ち患者の DC に関する指導・相談を実施

【指 導】

1. 所属病棟内スタッフ指導

NICU 教育計画に基づき、NICU 看護経験 4 年目以下のスタッフと病棟間異動者を対象に、看護実践やアセスメントを指導

2. 新生児蘇生法 (NCPR) のインストラクター

新生児医療に携る県内の医療従事者と救急救命士を対象とした講習会 (NCPR A コース: 1 回、B コース: 3 回、S コース: 3 回)

消防学校学生を対象とした講義 (11 月に 2 回)

3. 看護学生を対象とした NICU 看護に関する講義

高崎健康福祉大学講義 (11 月)

【相 談】

新生児看護技術や家族看護、スタッフ指導に関する相談に対応した

(小林理恵)

新生児集中ケア認定看護師活動報告

【実践】

1. NICU 入院中のハイリスク新生児と家族への看護実践
 - 1) 呼吸・循環確立と安定化の看護、保育器での体温管理
 - 2) 発達促進のためのディベロップメンタルケア
 - 3) 親子関係形成のための家族支援

【指導】

1. 新生児看護の指導
 - 1) NICU 看護スタッフへの看護技術指導(挿管患者ケア、体位交換、ポジショニング等)
 - 2) 院内ラダー別研修: 新人研修「バランスの良いケア」
2. NCPR インストラクター活動として新生児蘇生法の判断・手技指導
 - 1) NCPR 講習会のインストラクター
 - 10・1・2月 S コース 3回
 - 10・2月 B コース 2回
 - 1月 A コース 1回
 - 11月 消防学校 NCPR 講習(2日間)
3. ハイリスク新生児看護に関する院外講師
 - 1) 6月 伊勢崎敬愛看護学院講義
 - 2) 9月 高崎医師会立看護専門学校助産師学科講義

【相談】

1. 低出生体重児の発達に合わせたポジショニング方法

【その他】

1. 新生児看護学会評議員活動(ニュースレター発行、表彰論文選考のための投稿論文採点)
(齊藤織恵)

小児救急看護認定看護師活動報告

【実践】

1. PICU における急性期患者の看護実践
 - 1) 日常業務の中での看護実践の充実、個別性のある看護展開をタイムリーに実施した。
2. PICU での救急患者対応整備
 - 1) PICU の現状から必要な物品準備の声掛けを行った。緊急入室や急変時のシミュレーションを実施することはできなかった。
3. 院内の救急カート・急変時対応整備
 - 1) 救急カート WG を 4 回開催し院内統一救急カートの見直しを実施
 - 2) 院内統一救急カートを周知するための説明会を 3 回開催(新人研修内、院内勉強会)
 - 3) 救急カート WG メンバーが各部署で伝達講習するための勉強会を実施
 - 4) 認定会のラウンドで救急カートの現状を確認し、救急カート WG で現状提示
4. 認定看護師・認定看護師会活動

- 1) 認定看護師会活動: 月に1回認定看護師会に参加し、情報共有と院内活動を実施
- 2) 認定看護師会ラウンド: 救急カート整備と生体モニター管理、ベッド周囲の環境を中心
- 3) 参加学会: 日本小児救急医学会、小児循環器学会、小児看護学会、小児集中治療ワークショップ、成人先天性心疾患セミナー
- 4) 院外ネットワーク活動 (県内・全国小児救急看護認定看護師会、JACHRI 小児集中治療ネットワーク、小児集中治療・成人先天性心疾患患者に関わる看護師)

【指 導】

1. PICUにおける急性期患者への看護実践指導
2. 勉強会 (院内: 救急カート、新人研修、インターンシップ 病棟: 退院指導)
3. 院外活動
 - 1) 講師活動 (重症心身障害看護師育成、高崎健康福祉大学、小児救急市民公開フォーラム、前橋赤十字病院)

【相 談】

1. 退院患者家族への急変時対応指導、救急カート、急変対応、呼吸器管理等の急性期や重症系の相談に対応

【課 題】

1. PICU 看護の質の向上と環境の充実
2. 統一救急カートの修正・周知と急変時対応整備

(木島久仁子)

皮膚・排泄ケア認定看護師活動報告

【実 践】

1. 第32回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会の当番幹事を務める。
 - 1) 具体的に計画することで、計画通りに進行することができ、無事に開催することができた。
2. JACHRI 看護研究「極低出生体重児のストーマケアの実際」をまとめて学会で発表する。
 - 1) 回収したアンケートをまとめている途中であり、発表には至らなかった。
3. 褥瘡対策委員会や褥瘡 WG 委員会の有意義な活動を実践する。
 - 1) 褥瘡委員会規格による院内勉強会を開催した (テーマ: 体圧分散マットレスについて)。
 - 2) 褥瘡 WG 委員会は、リンクナースは自部署でのスキントラブル症例の特徴を把握することができた。しかし、それらのケア方法の統一や予防に対するの対策は十分とは言えない現状である。
4. 自己研鑽
 - 1) 参加学会等: 群馬ストーマ排泄リハビリテーション研究会
群馬スキンケア症例検討会
日本褥瘡学会関東甲信越地方会群馬支部学術大会
日本小児・ストーマ・排泄・失禁・創傷管理研究会
5. 日本小児ストーマ・排泄・管理セミナーや群馬ストーマリハビリテーション講習会に参加できるように啓蒙活動を実施する。

- 1) 日本小児ストーマ・排泄・失禁・創傷管理セミナーに NICU から 1 名、群馬ストーマリハビリテーション講習会には NICU から 1 名が参加した。

【指 導】

1. 看護スタッフが書類 (褥瘡対策に関する診療計画書、褥瘡発生報告書) の記載を適切に記入できる。
 - 1) 褥瘡委員会や褥瘡 WG 委員会にて、繰り返し説明することで周知することができた。
2. 外来患者やその家族に対して、正しいスキンケア方法や情報を提供する。
 - 1) 外来から相談がある場合は、速やかに対応することに心がけた。また、継続してフォローが必要な場合には、事前に外来日を把握することで、家族の負担とならないように配慮した。
3. 人工肛門人口膀胱術前処置加算登録看護師がストーマサイトマーキングに関われる。
 - 1) ストーマサイトマーキングが必要な場面では、研修を終えた看護師や登録している看護師に積極的にマーキングを実施してもらった。
 - 2) 登録看護師に必要な研修に運営参加した (日本小児ストーマ・排泄・失禁・創傷管理セミナー、群馬ストーマリハビリテーション講習会)。

【相 談】

1. 所属病棟や他病棟、医師からの皮膚排泄ケア領域の相談を受け、適切なアドバイスやケア方法を提供する。また、相談に内容を把握し今後の対応やケア方法に生かす。
 - 1) 所属病棟や他病棟からの相談時には、可能な限りタイムリーに対応できた。
 - 2) 相談用紙の活用は、少しずつ広まってきている。今後は、記載内容を充実できるように周知していく必要がある。

【課 題】

1. 褥瘡 WG リンクナースが自部署で積極的に活動できる。
2. 相談用紙の記載内容が充実する。

(茂木ゆう子)

感染管理認定看護師活動報告

【実 践】

1. 医療関連感染サーベイランスを実践する。

耐性菌サーベイランス (NICU/GCU/PICU の MRSA・PICU へ報告書提出)、手指消毒使用量調査、手指衛生実施状況、症候性サーベイランス (インフルエンザ) などを実施
2. 感染対策マニュアルの改訂、環境設備の改善、標準予防策・経路別予防策の順守・評価など実践できる。
 - 1) 感染対策マニュアルの改訂
 - 2) 週 1 回 ICT ラウンド・抗菌薬ラウンド実施・報告書作成・配布
 - 3) リンクナース会活動 (手指衛生他者評価・感染管理ベストプラクティスの作成)
 - 4) 清掃担当者会議: 部署別ゴミ分別集計結果報告・改善活動
 - 5) 中材提出器材伝票記載改善活動

3. 広報活動を実践する。
 - 1) ICT だよりを年 6 回発行
 - 2) 感染症注意喚起実施 (病院入り口・病院ホームページなど)
 - 3) 群馬県感染症情報注意報・警報などポスター掲示
4. 感染防止対策加算の算定条件をクリアできる
 - 1) 感染防止対策加算 1 取得施設間の相互チェック実施・連携している感染防止対策加算 2 取得施設との合同カンファレンスを年 4 回開催
 - 2) 群馬県感染症連絡協議会 ICN 会会議・小児総合医療施設協議会会議出席
5. その他
 - 1) 感染管理担当看護師業務手順書作成
 - 2) 病院局感染対策担当者会議出席

【指 導】

1. 感染対策勉強会の年間計画を立案し、実施・評価できる
 - 1) 全職種対象者研修 2 回・任意研修 3 回・部門別研修 13 回開催
2. その他
 - 1) 群馬県看護協会「感染管理」研修講師
 - 2) 感染管理認定看護師教育課程修了者へ感染対策室活動内容説明
 - 3) 赤城特別支援学校構内医学研修講師

【相 談】

1. 各部署より感染対策相談に対応し、実践経過を記録・評価する。
 - 1) 平成 30 年度の相談件数は 85 件。疾患別の対応方法・流行性ウイルス疾患への対応方法・感染症患者・接触者の家族面会についてなどの相談あり

【課 題】

自部署で問題意識を持ち、活動できるリンクナースの育成

(北爪幸子)

緩和ケア認定看護師活動報告

【目 標】

1. 多職種カンファレンスの開催を行う
2. グリーフケア (遺族会の開催、グリーフカードの送付) を充実させる

【実 践】

1. 疼痛コントロールの支援
 - 1) 急性膵炎患者の疼痛コントロール
 - 2) 採血・静脈ライン確保時の局所麻酔薬使用
2. 家族ケア、きょうだい支援
 - 1) 子どもと家族のサポートチーム介入省令において家族と面談し、思いを傾聴した。
 - 2) 医師から提示された治療方針等の意思決定支援

- 3) きょうだい面会の実施
3. 多職種カンファレンスの開催、カンファレンス内容の共有
 - 1) 毎月第1木曜日の17時から子どもと家族のサポートチームの会議を開催し、多職種で緩和ケアチーム介入患者に関する情報共有、意見交換の実施
 - 2) 個別症例検討カンファレンスを開催し、主治医・担当看護師中心とした医療チームと情報共有・意見交換の実施
3. グリーフケア
 - 1) 5月、2月に血液腫瘍科の遺族会を開催した
 - 2) グリーフカンファレンスの実施
 - 3) 当院で亡くなられた全患者を対象としたグリーフパンフレット、グリーフカードの作成に向けた体制整備
4. 看護研究
 - 1) 第42回死の臨床研究会年次大会に共同研究者として参加
5. 自己研鑽
 - 1) 日本緩和医療学会学術大会、教育セミナー
 - 2) 日本小児がん看護学会、群馬小児がん研究会
 - 3) 日本臨床倫理学会臨床倫理士
 - 4) 救急医療学会脳死判定対応セミナー
6. その他
 - 1) 群馬県緩和ケア関連認定看護師会に出席(1回/2カ月)
 - 2) JACRI小児がん看護ネットワーク会議に出席

【指 導】

1. 新人看護職者研修の開催:「緩和ケア」「子どもの権利と倫理」
2. 看護部ラダー別研修の開催:「看護倫理」Ⅰ～Ⅳ
3. 渋川看護専門学校講義

【相 談】

1. 子どもと家族のサポートチームへのコンサルテーション件数は12件であった。内訳は循環器科7件、血液腫瘍科2件、新生児科1件、整形外科1件であった。

【課 題】

1. グリーフケアの体制整備
2. きょうだい支援
3. 各病棟における倫理カンファレンスの開催

(石関梨華)

(20) サービス向上委員会

委員長: 都丸八重子(看護副部長) 副委員長: 篠澤雅之(総務課課長)

委員: 今井正浩(事務局長)、関直人(医事課主事)、佐藤達也(産科医長)、道和百合(神経内科部長) 諸岡望(検体検査課)、木暮義法(放射線課)、青柳のどか(リハ)、神保直樹(栄養)、丸山陽子(薬剤)、若井美佳(歯科衛生士)、長峰雅史(地域連携室)、石坂泰子(第三病棟師長)、小林洋子(第一病棟)、高橋裕也(第二病棟)、塩谷愛(第三病棟)、黒岩智香(NICU)、井田智巳(GCU)、田中絢子(産科病棟)、高野朝乃(PICU)、熊谷扶美子(手術室)、瀬谷由美(外来)、山田拓支(中央監視室)

開催日: 定例開催日 隔月第3火曜日 17:15～

【目 的】

1. 職員一人ひとりの接遇の向上を図る。
2. 患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。
3. 活動報告

1) 患者満足度調査

入院患者・家族 96 名、外来患者・家族 241 名の回答を得た。ご回答いただいた件数は昨年度より外来が増加、入院では減少した。満足度に関しては入院全体では 64%と昨年より低下、外来全体は 78%で昨年より上昇した。施設面など大幅な改善が難しいこともあるが、患者・家族の満足が得られるよう、サービス向上に努めていきたい。

2) ご意見箱

総数 60 件(感謝 4 件、改善対応 27 件、対応困難 11 件、取組継続 5 件、その他重複)であり、総数について昨年より増加した。改善対応については昨年とほぼ同数件であり、また取り組み継続に関しては減数した。対応困難事例は設備の老朽化に伴い改善できない事案も微増したが、対応について、外来や病棟の環境に関する意見には可能な限り改善し安全な環境づくりに努めた。

3) 接遇研修・接遇マニュアル

テーマ:「苦情対応の手順一例」

日時: 平成 31 年 2 月 8 日(水) 17:30～18:30

講師: 大阪大学医学部附属病院 管理課経営企画係 榊原章人

(診療情報管理士・社会福祉士・日本 DMAT 隊員)

参加者は 61 名であり、アンケート結果から満足度の高い結果だった。患者対応の仕方やシステム作りなどが大切であり、また法的手段等普段知らない事も聴くことができた。具体的な対応事例が聴けると良かった等の意見もあった。また苦情を予防するためには、日頃の接遇態度が大切であり、それが身を守ることである。接遇強化週間として挨拶運動を 2019 年 3 月 12 日より 2 週間行った。

4) ボランティア

入院中の患者・家族を対象にミニコンサートやクリスマス会を開催できた。G-FIVE によるショーに子ども・家族だけでなく参加した全てのボランティア(職員も含む)が楽しい一時を過ごすことが出来た。また、花壇の整備ボランティア『ひまわり』、宿泊棟管理『ひまわり会』読み聞かせ『おはなしの風 のん気・こん気・元気』『アロマセラピー ハンドマッサージ』の活動を「ボランティア便り」を発行しボランティア紹介を行った。

平成 30 年度も 5 グループが協力して、患者・家族へのサービス向上と職員の接遇に向けて活動を行った。

(都丸八重子)

平成 30 年 (第 12 回) 患者満足度調査

I 目 的

「患者・家族に満足していただける病院」を目標に、院内のサービスに関する現状を把握し、サービス向上への課題を見出す。

II 調査期間

病棟: 平成 30 年 12 月 4 日～12 月 10 日

外来: 平成 30 年 12 月 17 日・12 月 18 日

III 調査対象

調査期間内に当センターに入院または外来受診した患者と家族

病棟: 第一病棟・第二病棟・第三病棟・産科病棟・PICU・NICU・GCU

外来: 総合内科・循環器科・神経内科・アレルギー科・新生児科・腎臓内科・呼吸器科・形成外科・外科・心臓血管外科・整形外科・血液腫瘍科・耳鼻科・脳神経外科・麻酔科・内分泌代謝科・産科

IV 結 果

* 「満足+やや満足」の割合で満足度を評価した

1. 回答数

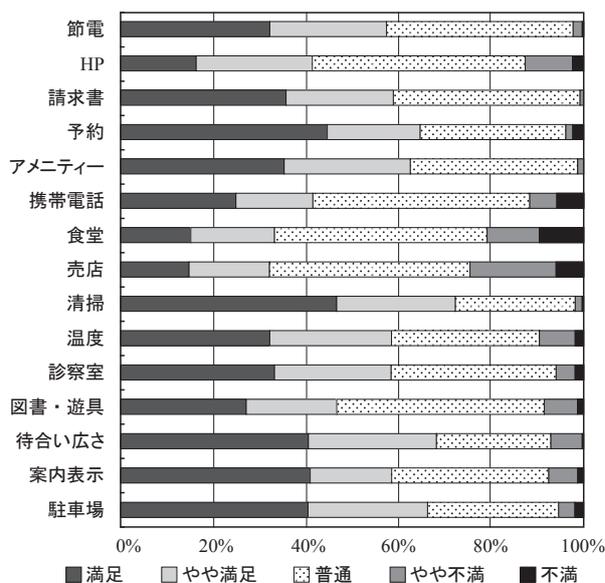
外来: 241 名

入院: 96 名

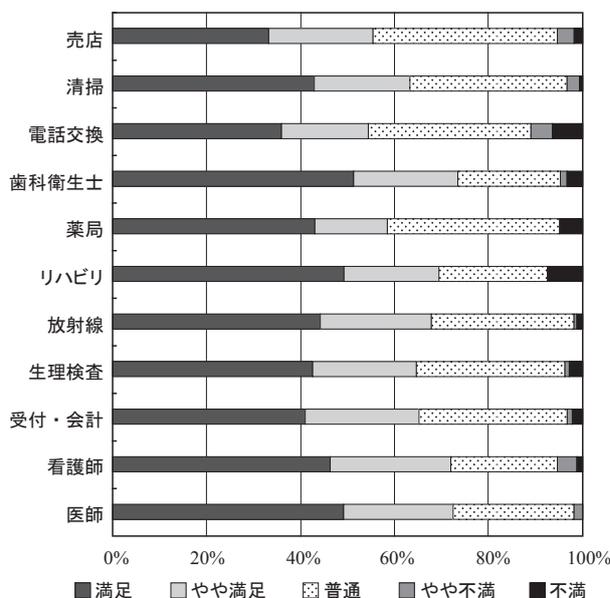
2. 外 来

1) 施設・設備・情報提供

満足度の高い項目は、清掃 72%・待合 69%で例年通りであった。駐車場は今年度改修工事が行われ、昨年の 30%から、66%に上昇した。一方満足度の低い項目は、売店 32%・食堂 33%であった。自由記載では「売店の食品を増やしてほしい」「レシートを出して欲しい」「食堂がいつも混んでいる」などの意見があった。



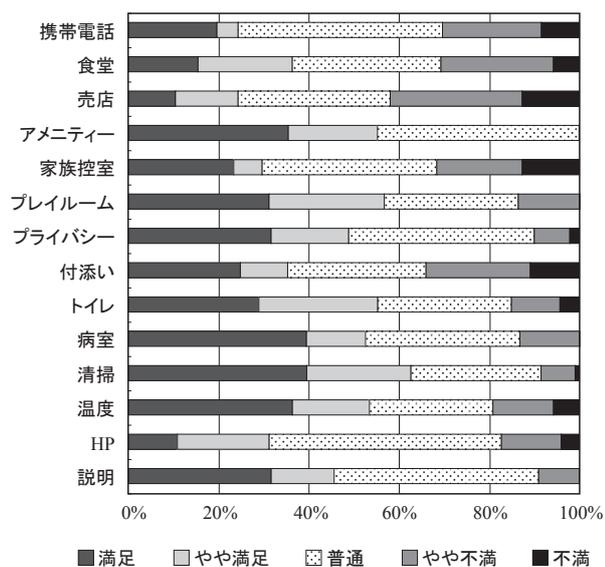
2) 職員の対応



満足度の高い職種は、医師と歯科衛生士 72%・看護師 71%・リハビリと放射線技師 68%、他の職種も 55%以上の評価であった。自由記載では、「親切に対応してくれた」「電話で医師や看護師に相談出来て助かる」等の評価の一方、「とにかく待ち時間が長い」「予約なのに 2 時間以上待たされた」など、待ち時間に関する不満が多かった。

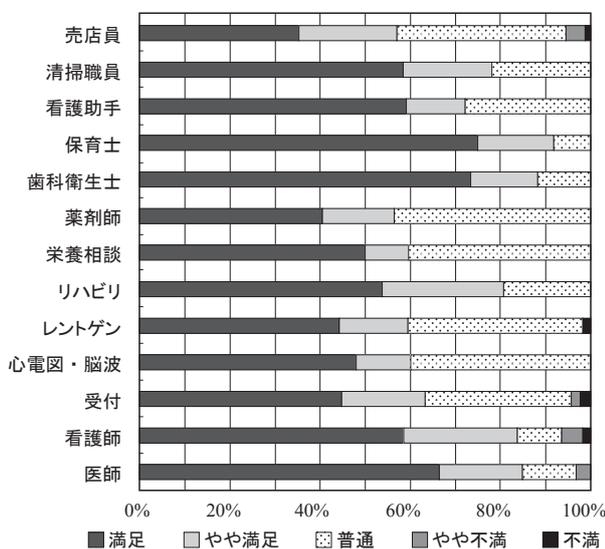
3. 入院

1) 施設・設備・入院生活



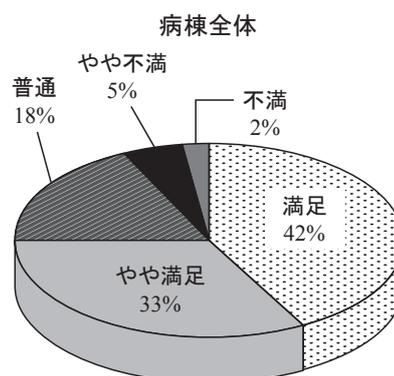
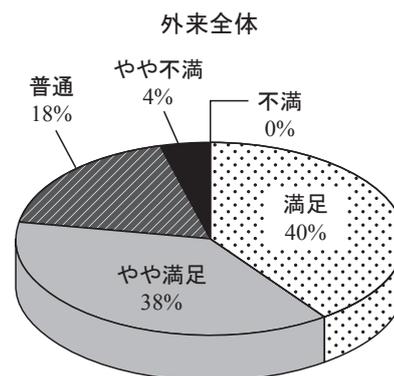
満足度の高い項目は、清掃 63%・トイレと病室で 33%であった。満足度の低い項目は、ホームページ 16%・携帯電話 18%・売店 23%であった。

2) 職員の対応



満足度の高い職種は、保育士 88%・歯科衛生士 82%・看護師と医師 82%であった。自由記載では「スタッフが親切だった」「病棟を移っても引き継ぎができていた」等の評価の一方、「入院のルールを徹底して欲しい」「病棟や看護師によって、答えが違って戸惑った」との不満もあった。

4. 全体



全体の評価では、外来78%・病棟68%の満足度であった。

V まとめ

外来病棟ともに、職員の対応や全体の満足度は高い評価を受けた。自由記載では、付き添いに関しては「浴室や宿泊棟の設備の老朽化や使いづらさ」、外来では「オムツ替えスペースが少ない」などの意見があった。小児専門病院としての設備・機能を求められていると思われる。これらの意見を真摯に受け止め、サービス向上に努めたい。

アンケート調査にご協力いただいたサービス向上委員、スタッフの皆さまに感謝いたします。

(サービス向上委員会)

(2) 在宅療養支援委員会

委員長: 金井みち子 副委員長: 富澤はるみ

委員: 瀬谷由美 (外来)、藤井 蘭 (第一病棟)、狩野ひかる (第二病棟)、大河原美穂 (第三病棟)、青木幸枝 (NICU)、羽鳥悌枝 (GCU)

【平成 30 年度年度活動目標】

1. 委員が在宅療養生活に関する知識を得て退院指導ができるよう病棟スタッフに指導的に関わる。退院支援一覧表、指導チェックリストの活用、評価、検討
2. スムースなショートケア受け入れのため業務改善や看護記録の見直し
ショートケア手順の修正・マニュアルの整備

【活動内容】 定例開催日 第 4 木曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|--|
| 5 月 24 日 | 年間活動計画について 訪問看護師対象の勉強会について |
| 6 月 28 日 | 在宅療養支援マニュアルの変更「外来連携用紙」「CV カテーテルへパロック用持ち帰りの流れ」 ショートケア資料整備 |
| 7 月 26 日 | ショートケア資料整備 「外来持帰り物品手順」の見直し |
| 9 月 27 日 | 在宅小児経管栄養法指導管理料について |
| 10 月 26 日 | 保健適応物品予約票の変更について 訪問看護師向け医療的ケア勉強会のアンケートについて |
| 11 月 22 日 | 退院指導一覧表修正内容の確認 「合同カンファ・支援会議・訪問看護資料」作製について |
| 12 月 27 日 | 医療的ケアマニュアル改定項目確認 訪問看護師向け勉強会のアンケート結果について |
| 1 月 24 日 | 平成 30 年度活動振り返り |
| 2 月 28 日 | 平成 31 年度活動案について |

【活動評価】

目標 1 について

在宅療養支援マニュアルを、現状の動きにあった手順の見直しや用紙の変更等行った。病棟スタッフが退院に向けた支援、準備が早期から行えるようになってきている。

目標 2 について

ショートケアの見直しにより、院内の受け入れ人数、利用日数の増加となったため、ショートケア資料の見直しを行った。委員を通して病棟に内容の周知を図り、今まで利用の少なかった病棟でもスムーズな受け入れができた。

【課 題】

1. 在宅医療的ケアマニュアルの見直し
2. 訪問看護師向けの医療的ケア勉強会を充実した内容を企画し運営する。

(金井みち子)

(22) 褥瘡対策 WG 委員会

委員長: 茂木ゆう子 副委員長: 大平典子

委員: 星野麗菜 (第一病棟)、阿部 栞 (第二病棟)、本多喜美代 (第三病棟)、金子優子 (PICU)、大澤あゆみ (NICU)、野村幸枝 (GCU)、高橋健一 (手術室)、小林恭子 (産科)

【目 標】

各委員は、リンクナースとしての自覚を持ち、所属部署で起こっているスキントラブルを把握し、予防に努めることができる。

1. 各病棟内のスキントラブルや褥瘡発生状況の把握をする。
 - 1) 各病棟内のスキントラブルに関連したインシデントを集計して委員会で報告する。
毎月集計して、委員会で報告し対策を検討していく。
2. 各病棟内で発生するスキントラブルの症例検討をする。
3. スキンケアの勉強会を委員会で実施する。
4. 各病棟内でのケア方法についてリンクナースが注意深く観察し、必要に応じて指導していく。
5. スキントラブルに関して根拠を持って実施したケアについて結果がどうだったかを振り返る。
 - 1) 日々のケアの中で実践した看護ケア (スキンケアなど) に関して、症例としてまとめる。
→まとめた症例を発表する機会を設ける。
6. 各委員が積極的に研修やセミナーに参加し自己研鑽に努める。
7. 皮膚ケアマニュアルを確認する。

【活動内容】 定例開催日 第3木曜日 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|--|
| 5月17日 | 自己紹介 委員会の活動内容の検討と目標設定 |
| 6月21日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 「褥瘡対策に関する診療計画書」変更点の周知 勉強会: スキンケア |
| 7月19日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 粘着剥離剤の検討 (サンプルを準備して各病棟で意見をもらう) |
| 9月20日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 SPD 内の粘着剥離剤の整理のため診療材料委員会に申請 |
| 10月18日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 |
| 11月15日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 スキントラブル症例を記載する際のアセスメントの強化 |
| 12月13日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 第32回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会についての説明 |
| 1月17日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 褥瘡回診依頼の方法についての検討 |
| 2月21日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 各部署でのスキンケアに関する症例をパワーポイントにまとめて発表 |
| 3月14日 | 各病棟の先月分のスキントラブル症例についての報告と検討 各リンクナースより一年の振り返りを発表 |

【活動評価】

1. 各病棟内のスキントラブルに関連したインシデントを集計して委員会で報告することで、病棟内のスキントラブルや褥瘡発生状況の把握をすることができた。
2. 各病棟内で発生したスキントラブル症例や検討したいことに対して、症例を提示してもらうことで検討・解決していくことができた。
3. 褥瘡対策に関する診療計画書が更新されたため、新たに追加された「スキントケア」について知識の共有を図った。
4. 自部署でリンクナースとして活発な活動を行うに至らなかったが、各部署のスキントラブルの傾向を知ることは出来ていた。
5. 自部署で発生した症例をまとめて発表することで、普段のケアを振り返り根拠に基づいたケアを実施していることを再確認することができた。
6. 日本小児ストーマ・排泄・失禁・創傷管理セミナーには1名の看護師が参加、群馬ストーマ排泄リハビリテーション研究会には1名の看護師が参加した。継続して参加できるよう周知していきたい。

【課題】

1. リンクナースは自部署で起きているスキントラブルを把握し、積極的に予防対策を行い同じスキントラブルを起こさないように活動できる。

(茂木ゆう子)

(23) 電子カルテ WG

委員長: 村上容子 副委員長: 本間美樹恵 (GCU)

委員: 荻野健太 (第一病棟)、倉持有紀子 (第二病棟)、佐藤和美 (2月まで) 中島 徹 (第三病棟)、兵藤有希恵 (NICU)、井田智巳 (GCU)、関口由美 (産科)、諏佐和也 (PICU)、石北淳美 (手術室)、富沢三枝 (外来)

【平成 30 年度活動目標】

1. 各種マスタの見直しと更新を行う
2. 業務上の課題に応じた運用の見直しとマニュアルの更新を行う

【活動内容】 定期開催日 第1木曜日から第2木曜日へ変更 14:00～15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|--------------------------|
| 5月10日 | 各部署の問題と昨年度の検討課題の確認、チーム分け |
| 6月14日 | 医事課との診療点数早見表の勉強会について |
| 7月12日 | HISのコスト伝票の不足項目の洗い出し |
| 9月13日 | 医療事務顧問から「診療報酬」について学習会① |
| 10月11日 | 医事課との学習会② |
| 11月8日 | 医事課との学習会③ |
| 12月13日 | HISのコスト伝票の不足項目の洗い出し |

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-------|-------------------------------|
| 1月10日 | 診療点数早見表とコスト伝票のマスタ整備状況 |
| 2月14日 | コスト伝票のマスタ整備状況とコスト伝票に関する不明点の整理 |
| 3月14日 | 活動内容の振り返り、次年度の課題について |

【活動評価】

前年度からのコスト伝票の記載もれの問題は病院経営や時間外業務にも関わることであり、今年度も継続課題として取り組んだ。診療報酬とコスト伝票の流れについて、医療事務顧問と医事課と学習会を行い、コスト伝票についての理解を深めることができた。今後は各部署で学習内容のスタッフへの周知が課題となる。各部署で診療科別にマスタの見直しを行ったが電子カルテの更新が3月実施だったため、マスタの修正については次年度に持ち越しとなった。

【課 題】

1. 診療報酬に関する知識を深めて、各部署でスタッフに周知していく。
2. 操作マニュアルの見直しはシステムサポートと連携していく。
3. コスト伝票と連動する指示簿の見直しは医師との協力を得ながら行う。

(村上容子)

(24) 子どもと家族のサポートチーム

委員長: 石関梨華 副委員長: 石坂泰子

委 員: 朴 明子(血液腫瘍科)、松本直樹(麻酔科)、渡辺美緒(神経内科)、池田健太郎(循環器)、市之宮健二(新生児科)、島田修平(外科)、山本由記子(第一病棟)、千木良千春(第二病棟)、樺澤 彩(第三病棟)、石井理恵(NICU)、山田和子(GCU)、千明理恵(産科)、高山広志(薬剤部)、木暮義法(放射線課)、磯田有香(栄養課)、瀬下愛子(歯科)、川崎陽子・貝瀬千里(臨床心理士)、長峰雅史(MSW)、井野良美(リハビリ)

【平成30年度活動目標】

1. グリーフケアの充実
2. 処置時の苦痛緩和

【活動内容】 定例開催日 第1木曜日 17:00～18:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-------|--|
| 5月18日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・今年度の活動予定 ・エムラパッチの使用方法について |
| 6月19日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 7月6日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 ・逝去時の対応について |

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|--------|--|
| 9月6日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 ・リレーフォーライフについて ・エムラクリーム使用効果の報告 |
| 10月16日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 11月1日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 12月6日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 1月10日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 2月7日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 |
| 3月7日 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと家族のサポートチーム介入症例の情報共有 ・グリーフカードについての検討 ・今年度の評価、活動の振り返り、来年度の目標検討 |

【活動評価】

1. グリーフケアの充実を図る

- 1) 全患者を対象にグリーフカードを送付できるように作成方法、手順、マニュアルを整備中である。
- 2) 遺族会は血液腫瘍科で年2回開催することができた。他の疾患でも遺族会を開催できるようにそれぞれの診療科の医師と検討をするための準備をすすめている。
- 3) 霊安室の壁の飾り付けや祭壇の変更などを行い、改善を行うことができた。

【課 題】

1. きょうだい支援の充実
2. 子どもと家族のサポートチームマニュアルの作成

(石関梨華)

(25) 保育士会議

委員長: 石坂泰子 副委員長: 岡田睦美 (保育士)

メンバー: 後藤麗美 (第一病棟→第三病棟)、浅見真生 (第二病棟)、田部井美玖 (第二病棟→第一病棟)、狩野美紀 (第二病棟)、神谷圭子 (第三病棟)、矢島美季 (第三病棟)

【目 的】

子どもたちに合わせた療養環境整備や母親の育児支援、子どもたちや付添家族の QOL の向上、子どもたちの緊張やストレスの軽減を目指し、療育環境と保育実践を検討することを目的とする。

【平成 30 年度活動目標】

連携の仕方を工夫し、保育の専門性を発揮する

< 第一病棟 >

4 月から患者さんの割合が、今までと変わったので変化に合わせた行事を取り入れる

- ・カンファレンスを必要に応じて行う
- ・スピンドライザー注射施行時の保育士介入の準備をする

< 第二病棟 >

- ・看護師、リハビリとの連携を続け、長期入院児へ良い環境づくりをする

< 第三病棟 >

- ・季節の行事を年間通して取り入れ、子どもの入院生活を充実させる
- ・保育係との話し合いを密に取り入れ、お互いの情報を共有していく

【活動内容】

開催日 毎月 2 回: 第 2・第 4 金曜日 (第 4 金曜日は保育物品準備日) 14:00~15:00

| 開催日 | 活 動 内 容 |
|-----------|---|
| 4 月 13 日 | 第 1 回保育士会議 鯉のぼり飾り |
| 4 月 27 日 | 第 2 回保育士会議 年間予定の検討 |
| 5 月 11 日 | 第 3 回保育士会議 鯉のぼり片付け・反省 夏祭りの出し物決定 |
| 5 月 25 日 | 第 4 回保育士会議 夏祭りについて検討 |
| 6 月 8 日 | 第 5 回保育士会議 夏祭り準備 |
| 6 月 20 日 | 第 20 回群馬県病棟保育士ネットワーク協議会 小児医療センター |
| 6 月 22 日 | 第 6 回保育士会議 夏祭り準備 |
| 7 月 13 日 | 第 7 回保育士会議 夏祭り準備 |
| 7 月 27 日 | 第 8 回保育士会議夏祭り準備 各病棟夏祭り開催 (第 1: 7/25 第 2: 7/26 第 3: 7/27) |
| 8 月 10 日 | 第 9 回保育士会議 夏祭り振り返り |
| 8 月 24 日 | 第 10 回保育士会議 クリスマス会について検討 |
| 9 月 14 日 | 第 11 回保育士会議 クリスマス会準備 |
| 9 月 28 日 | 第 12 回保育士会議 クリスマス会準備 |
| 10 月 12 日 | 第 13 回保育士会議 おもちゃの事例検討 クリスマス会準備 |
| 10 月 17 日 | 第 21 回群馬県病棟保育士ネットワーク協議会 前橋赤十字病院 |
| 10 月 26 日 | 第 14 回保育士会議 クリスマス会準備 各病棟にてハロウィン実施 |
| 11 月 9 日 | 第 15 回保育士会議 クリスマス会準備 |
| 12 月 7 日 | 第 16 回保育士会議 クリスマス会準備 |
| 12 月 14 日 | 第 17 回保育士会議 クリスマス会準備 クリスマス会 (20 日: 第 3 病棟 21 日: 第 2 病棟 25 日: 第 1 病棟) |

| | | |
|-------|-----------|------------------|
| 1月11日 | 第18回保育士会議 | クリスマス会振り返り |
| 1月25日 | 第19回保育士会議 | 次年度鯉のぼりについて検討 |
| 2月8日 | 第20回保育士会議 | おもちゃの事例報告 鯉のぼり制作 |
| 2月22日 | 第21回保育士会議 | 鯉のぼり制作 |
| 3月8日 | 第22回保育士会議 | 1年の振り返り |
| 3月22日 | 第23回保育士会議 | 鯉のぼり制作 |

【活動評価と今後の課題】

平成30年度は、新たな取り組みとしておもちゃや遊びの事例検討を行った。それぞれの病棟で人気があったり流行ったりしている遊びの情報交換をして、自部署の子どもたちの療養環境への働きかけを行った。今後も継続してさらに有意義な検討・実践を行えるように取り組んでいきたい。また、それぞれの部署では保育係の看護師とのカンファレンスや相談を活発に実施したり、朝の打ち合わせや電カルからの情報収集を実施したりすることから、計画的な保育に取り組むことができた。次年度も新たな取り組みや既存の取り組みのブラッシュアップに努めていきたい。

【保育士参加研修・その他の活動】

| | | |
|-----------|--------------------------------|----|
| 5月21日 | 新人看護研修 「子どもとのコミュニケーション」 | 1名 |
| 6月23～24日 | 第22回日本医療保育学会 ポスター発表 | 1名 |
| 7月20日 | 県民健康科学大学看護学生研修「子どもとのコミュニケーション」 | 1名 |
| 8月17日 | 小児がん研究会 | 1名 |
| 11月5日 | あさがおの会 | 2名 |
| 11月21日 | メディカルスタッフ コロキウム in 群馬 | 1名 |
| 12月7日 | 高崎健康福祉大学 保育学科学生への講義「病棟保育士の役割」 | 1名 |
| H31年1月26日 | 第11回HPS国際シンポジウム&研究発表 | 1名 |
| 1月27日 | 第7回HPSスキルアップ講座参加 | 1名 |
| 2月23～24日 | 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会 | 1名 |

(石坂泰子)

17. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、センター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

平成30年度の母子保健室の室員は、室長(院長が兼務)、保健師3名(駐在1名・駐在嘱託1名・嘱託1名)、臨床心理士2名(嘱託)の5名体制で、地域医療連携室のMSWや在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、医療的ケア児の在宅療養や周産期の問題など、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

(2) 平成30年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診同席を行いながら受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

30年度の受診者は95人、受診結果は要観察50人(52.6%)、要治療30人(31.5%)で、要観察児は当センター外来又は市町村でフォローアップされている。

②子どものこころの発達相談

子どもの心理的な発達を支援するため、月4回臨床心理士によるカウンセリングと必要に応じて保健師による相談を実施し、相談終了後には主治医を含めたカンファレンスを行っている。

相談者は、院内各診療科からの紹介と前年度の継続事例であり、実人数37人、延べ人数100人で、30年度への継続事例18人(48.6%)、相談終了は17人(45.9%)、他機関紹介は、0人であった。相談内容は発達に関係した養育や育児環境の調整が最も多く、行動の問題が次いでいる。

③新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、30年度の訪問依頼件数は225件であった。

訪問依頼への返信数は203件、そのうち、訪問実施は199件(98.7%)で、件は訪問に替えて乳児健診等で対応されていた。平成30年度は情報提供書として退院後2週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

④育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が647件、市町村との連携が533件、院内関係部署との連絡調整が487件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は2,138件で、連絡方法別

にみると、電話が 1,465 件、面接が 673 件であった。

⑤関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関(市町村、児童相談所、学校、保育所等)との間で連携会議を開催しており、30年度は16回開催した。

⑥子ども虐待防止対策事業(母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

詳細については、地域医療連携室の事業内容を参照していただきたい。

⑦臨床心理士による発達検査及び心理カウンセリング

当院は総合周産期母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認(1歳6か月・3歳・6歳時点の発達検査等)及びその他主治医が必要とした児の発達検査やカウンセリングを行い、必要に応じて地域との連携を行っている。また、発達相談日以外にも緊急度により心理カウンセリングを行っている。平成30年度における発達相談日以外の心理カウンセリングは、対象119家族で延べ589回、新生児科からの依頼が28%、続いて神経内科から25%であった。11月から臨床心理士が1名減となったため、相談件数が昨年度より減少した。

⑧研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修での講師なども勤めた。

⑨先天性代謝異常等マス・スクリーニング事業

本事業の事務局として、患者情報の管理(精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ)を行っている。平成25年10月からタンデムマス法検査の導入がされ、発見可能な疾患が20疾患となった。保護者の不安等への対応については、地域機関である保健所・保健福祉事務所と連携して不安の軽減と解消に努めている。

また、毎年度、先天性代謝異常等対策委員会を開催している。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は婚姻外出産、育児経験不足(養育力低下)、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

また、30年度から開始した口唇口蓋裂の患者・家族会の交流会は今年度2回開催することができた。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるようひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多

職種のチームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(高橋雪子)

18. 地域医療連携室

地域医療連携室業務をより充実させるため、本年度4月から地域医療連携室を2階のリハビリテーション室の隣に新設した(母子保健室内から移動)。新設の地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名、在宅療養支援担当の看護師長1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)はこれまでと同様に受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。本年度は退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

【平成30年度実績】

①医療相談

医療相談は主にMSWが行い、医療給付・福祉サービスに関する相談や、転院・入院、退院後のフォローに至るまで多岐にわたる相談に対応している。30年度の相談件数は5,318件(面接:1,757件、電話:2,821件、カンファレンス:740件)であり、このうち新規相談が1,472件、継続相談が3,846件であった。

相談内容別に見ると医療給付制度が987件と最も多く、次いでその他が887件、福祉サービスが742件の順に多かった。また病棟・外来別に見ると、外来が1,872件と最も多く、新生児病棟が894件の順であった。昨年に比べて、その他の相談と他職種連携に関する相談件数が増加している。

②在宅療養支援事業

入通院児の在宅療養を円滑に推進する事も目的に、院内(病棟・外来)と地域機関(市町村、訪問看護ステーション、学校、障害者相談支援事業所等)との間で支援会議を開催している。

支援会議では事例に応じた支援方針及び各機関の役割に関する検討等、支援体制の構築に向けた協議が行われている。30年度は地域医療連携室が主催で41回の会議が開催された。

③子ども虐待防止対策事業

虐待が疑われる事例の緊急対応のためCAPS委員会を3回開催した。

事例の「大腿骨転子下骨折の事例」については、対応協議、児童相談所との情報共有を行い、「心因性腹痛でフォローしていた身体的虐待を疑った事例」では児童相談所へ通告、警察対応を行った。

また、奇数月に「要支援事例検討会」を開催しており、うち研修会「医療機関における虐待発生時(疑いを含む)の初期対応について」を1回開催、検討会を5回開催し、要支援家庭の情報共有の場としている。平成30年度検討の実数は22件(9件は前年度からの継続、延60件)であった。検討事例の内容は身体的虐待が6件、ネグレクトによるものが3件、養育環境が9件、母の精神面が4件という状況であった。

④研修等参加

今年度の研修会等の参加状況は以下のとおりである。

| 件 名 | 期 日 | 場 所 |
|--------------------------|-------|-------|
| 渋川市要保護児童対策地域協議会 第一回実務者会議 | 4/12 | 群 馬 県 |
| 渋川市要保護児童対策地域協議会 第三回実務者会議 | 6/14 | 群 馬 県 |
| 小児がん看護セミナー① | 9/8 | 東 京 都 |
| H30 年度日本小児総合医療施設協議会SW連絡会 | 11/15 | 埼 玉 県 |
| 小児がん看護セミナー② | 1/19 | 東 京 都 |
| 第 30 回 お母さんと子どもの元気セミナー | 3/16 | 東 京 都 |

(山田佳之)

19. 医療安全管理室

1. 平成 30 年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 副院長 小林富男

専任医療安全管理者(ゼネラルリスクマネージャー: GRM) 看護師長 福田 円

非常勤職員 1名

| 委員会等 | 開催日 | 構成員 | H29 開催実績 |
|---|--------------------|------|----------|
| 医療安全管理委員会 ＜医療安全管理体制の方針決定機関＞ 委員長: 小林副院長 副委員長: 福田 GRM | 原則毎月 第 2 火曜日 | 22 名 | 定例 12 回 |
| 診療関連死原因検討委員会 委員長: 小林副院長 副委員長: 浜島医療局長 | 原則月 1 回 開催日随時決定 | 19 名 | 8 回開催 |
| リスクマネジメント委員会 ＜医療安全対策の実行機関＞ 委員長: 福田 GRM 副委員長: 片貝師長 | 原則毎月 第 3 水曜日 | 28 名 | 定例 12 回 |
| 看護部リスクマネジメント委員会 ＜看護部内の医療安全対策検討＞ 委員長: 福田 GRM 副委員長: 片貝師長 | 原則毎月 第 3 水曜日 | 11 名 | 定例 12 回 |
| 患者相談窓口 | 責任者: GRM 福田 | | 相談件数 7 件 |

2. 医療安全管理年間目標

1) 医療安全文化の醸成

- (1) 自部署の問題解決取り組みを支援する
- (2) 医療安全講演会(研修)の開催し、医療安全意識の向上を図る
- (3) 臨床倫理研修会の開催し、倫理的な問題について考える機会を提供する

2) 予防活動の充実を図る

- (1) 患者誤認による事故を削減する
 - ・患者確認 2 点確認の徹底
 - ・実施直前の患者確認行動の強化

【実践評価】

1)-(1)について

昨年度より取り組んだ KYT(危険予知訓練トレーニング)研修を継続。自部署の問題に気づき、部署内での取り組みを支援した。問題解決方法や安全文化の醸成、職場風土の改善等に取り組み、それぞれ成果を出すことができた。

1)-(2)(3)について

H30 年度医療安全講演会・研修開催状況

| 対象 | 開催日 | 参加人数 | 演 題 | 講 師 |
|---------|----------------------------|----------|---|-------------------------------------|
| 全職員対象 | H30.8.3 16・17・21・29 | 356 | 医療事故の経験から伝えたいこと | 聖徳大学患者・家族と医療をつなぐNPO法人架け橋 高山詩穂 先生 |
| | H30.10.15 締切 | | 患者確認自己評価 | |
| | H30.6.11・12・13・14・15 | 426 | 患者誤認防止 | 群馬県立小児医療センター 医療安全管理室 GRM 福田 円 |
| BLS | 5月/6月/7月・9月・10月/11月/12月・2月 | 80 | BLS 研修 | 群馬県立小児医療センター 歯科 木下 樹 部長 |
| | H30.10.25 | 45 | 医療安全講演会「判決から見た小児医療における法と倫理」 | 稲葉一人 先生 |
| | H31.1.21 | 43 | 「使える？それとも修理？ ME 機器異常時見極めポイント」 | 高橋祐樹 技師 |
| 臨床倫理勉強会 | H30.4.27 | 26 | 「DNAR に関する倫理」 ～ DNR 間違った意味で使っていませんか？～ | 朴 明子 部長 |
| | H30.5.25 | 36 | 「告知」 ～伝えると言うことの意味について一緒に考えてみませんか？～ | 朴 明子 部長 川崎陽子さん |
| | H30.6.29 | 67 | 「22 週未満で診断された胎児先天性疾患の告知」 ～将来の可能性についてどこまで話すのか？～ | 朴 明子 部長 京谷琢治 部長 |
| | H30.7.27 | 51 | 「13・18 トリソミーの治療選択をめぐる」 | 朴 明子 部長 丸山憲一 部長 |
| | H30.8.24 | 60 | 「医療行為の中止について、ECMO の中止について」 | 朴 明子 部長 岡 徳彦 部長 |
| | H30.9.28 | 40 | 「遺伝性疾患における倫理」 | 朴 明子 部長 山口 有 部長 |
| | H30.10.26 | 29 | 「親と医療者の意見が違う時～親の裁量範囲について考える～」 | 朴 明子 部長 |
| | H30.11.30 | 33 | 「人間の尊厳について考える」 ～身体拘束と脳死下臓器移植について～ | 朴 明子 部長 丸山美幸 師長 |
| | H31.2.22 | 27 | 「難しいコミュニケーションについて」 | 朴 明子 部長 |
| | 医療局 | H30.4.26 | 40 | 医療安全について |
| ピリリハ | H30.6.4 | 10 | 気管切開・カニューレ管理 | |
| | H30.4.6 | 12 | 安全の基本 | |
| 看護部 | H30.10.22 | 8 | 医療安全の実践 | 上武大学 看護学部 千明政好 先生 |
| | H30.5.28 | 23 | KYT 危険予知訓練・部署目標 | |
| | H30.10.29 | 23 | KYT 危険予知訓練・中間フォローアップ | |
| | H31.2.25 | 23 | KYT 危険予知訓練・最終取り組み報告 | |

全職員対象研修の参加率は、85.9%と 92.2%であった。臨床倫理の研修は、計 9 回開催。延べ 409 人の参加し、臨床の中の倫理について多職種で考える機会となった。

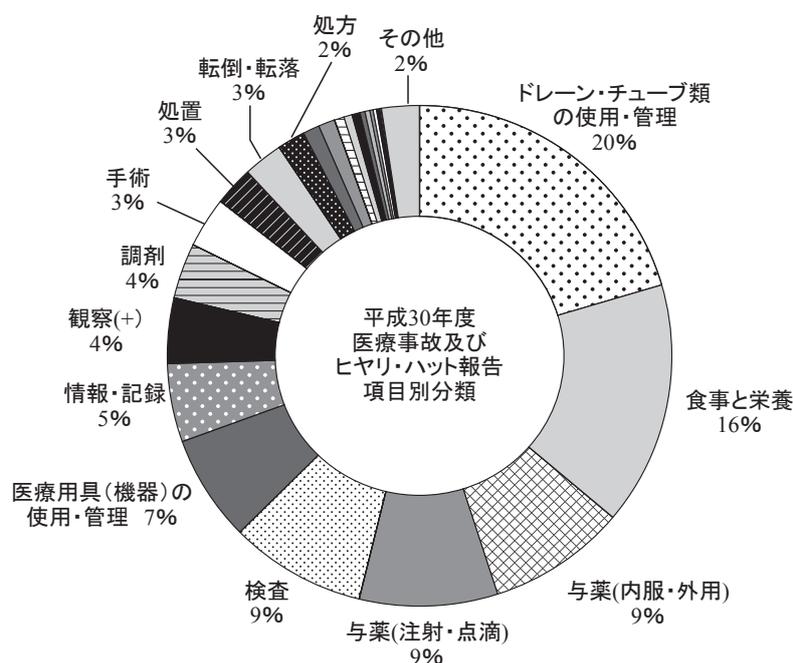
2) について

患者誤認ヒヤリ・ハット報告は、上期 18 件、下期 11 件 計 29 件であった。レベル別では 3a レベル: 1件、母乳間違い。2レベル: 1件、栄養投与間違い。その他は1レベル (24%) と 0レベル (70%)

で患者への影響のないものであった。いずれも思い込みにより確認のルールを逸脱し、最終確認を怠ったものである。レベル0～1の軽微な事象報告が多く、患者誤認防止取り組みにおいて職員の意識向上が図れた結果、報告数が増加し確認行動が徹底されていないことが明らかになった。次年度も継続して目標として活動していく。

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

医療事故及びヒヤリ・ハット報告数は、949件。H29年度比較208件削減(18%) 3b: 2件増減なし。0レベル: 77件(18%)、1レベル: 69件(16%)、2レベル: 53件(21%)、3aレベル: 9件(20%)の削減。レベル2～3aの方が削減率が高いことや、報告内容からも報告する文化が衰退したわけではないと評価する。確認行動の可視化後、確認行動が実践に結びついてきた結果と考える。項目別発生割合に大きな変化はなく例年通り。事故発生日時では、平日日勤10時～11時がピークとなっていた。



| | 件数 | レベル | | | | | |
|------------------|-----|-----|----|----|----|----|--|
| | | 0 | 1 | 2 | 3a | 3b | |
| ドレーン・チューブ類の使用・管理 | 194 | 10 | 82 | 77 | 25 | 0 | |
| 食事と栄養 | 149 | 95 | 42 | 11 | 1 | 0 | |
| 与薬(注射・点滴) | 84 | 27 | 57 | 0 | 0 | 0 | |
| 与薬(内服・外用) | 84 | 21 | 45 | 18 | 0 | 0 | |
| 検査 | 83 | 39 | 36 | 7 | 1 | 0 | |
| 医療用具(機器)の使用・管理 | 65 | 21 | 33 | 9 | 2 | 0 | |
| 観察(+) | 48 | 45 | 3 | 0 | 0 | 0 | |
| 情報・記録 | 40 | 1 | 16 | 21 | 2 | 0 | |
| 調剤 | 34 | 33 | 0 | 1 | 0 | 0 | |
| 輸血 | 31 | 15 | 9 | 5 | 1 | 1 | |

| | レベル 件数 | 0 | 1 | 2 | 3a | 3b |
|---------------------|-----------|-----|-----|-----|----|----|
| 手術 | 24 | 2 | 10 | 7 | 4 | 1 |
| 処置 | 24 | 1 | 10 | 13 | 0 | 0 |
| 転倒・転落 | 17 | 11 | 4 | 2 | 0 | 0 |
| 処方 | 10 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 説明 | 10 | 1 | 5 | 4 | 0 | 0 |
| 環境整備 | 6 | 2 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 感染防止 | 5 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 歯科医療用具(機器)・材料の使用・管理 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| リハビリテーション | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 事務 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 麻酔 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分娩 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 移送 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 排泄の介助 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 清拭・入浴介助等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 23 | 14 | 5 | 4 | 0 | 0 |
| 合 計 | 949 | 352 | 371 | 188 | 36 | 2 |

4. 患者・家族相談件数

| 相 談 内 容 | 件数 |
|---------|-----|
| 医療に関する事 | 2件 |
| 医師に関する事 | 2件 |
| 看護に関する事 | 3件 |
| | 計7件 |

5. 医療安全地域連記加算に係る相互評価

| 日 程 | 評価を実施した施設 | 評価を受けた施設 |
|-----------------|---------------------|---------------------|
| 平成30年 10月23日 | 加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター | 加算Ⅰ 群馬県立心臓血管センター |
| 平成30年 11月19日 | 加算Ⅰ 群馬県立心臓血管センター | 加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター |
| 平成31年 2月12日 | 加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター | 加算Ⅱ 北関東循環器病院 |

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 福田 円

副委員長: 片貝まさみ

委員: 高澤部長 (外科)、福田部長 (新生児科)、大和医長 (血腫科)、道和部長 (内科)、友保部長 (心外科)、黒岩部長 (麻酔科)、佐藤医長 (産科)、新井医長 (循環器科)、水落宏彰 (第一病棟)、田子尚代 (第二病棟)、柴田夕貴子 (第三病棟)、内田良徳 (NICU)、宮本佳子 (GCU)、塚本久美栄 (産科)、田中満静 (手術室)、青木秀佳 (PICU)、佐川有子 (外来)、高山主任 (薬剤部)、田原主任 (検査課)、下田実務研修 (放射線課)、磯田主任 (栄養課)、六本木主任 (リハビリ)、高橋技師 (ME)、田村主幹 (総務課)、楠実務研修 (歯科)

1) 活動内容

- (1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得
- (2) WG 活動

| | |
|----------|--------------------------------------|
| フィッシュ活動 | コミュニケーションの活性化を図るため、THANKS カードを導入し表彰 |
| 相互チェック | マニュアルの作成・地域連携加算相互チェック準備 |
| シミュレーション | システムダウンに備えたマニュアルの作成、電子カルテシステム更新時に活用 |
| 5S 活動 | 院内ラウンドによる日頃の評価と 5S 取り組みを 1 月発表会実施、表彰 |

7. 看護部リスクマネジメント委員会活動

委員長: 福田 円

副委員長: 片貝まさみ

委員: 水落宏彰 (第一病棟)、田子尚代 (第二病棟)、柴田夕貴子 (第三病棟)、内田良徳 (NICU)、宮本佳子 (GCU)、塚本久美栄 (産科)、田中満静 (手術室)、青木秀佳 (PICU)、佐川有子 (外来)

【平成 30 年度活動計画】

1. 確認行動の評価

- 1) 輸液確認行動監査の実施
- 2) 内服薬確認行動の PFC 作成

2. 看護部で発生しているヒヤリ・ハット医療事故事例・問題の情報共有と解決

【活動内容】

定例開催日 第 3 水曜日 16:00～17:00

| | 活 動 内 容 |
|-----|-----------------------------------|
| 4 月 | 委員会の目的・活動計画 |
| 5 月 | 輸液確認行動の実施状況の確認と評価 院内統一指さし唱和の実施 |
| 6 月 | 患者確認行動の実施状況の確認 |
| 7 月 | 内服薬確認行動の実施状況と問題の抽出 |

| | 活 動 内 容 |
|------|-----------------------------|
| 8 月 | 内服与薬 PFC 作成 |
| 9 月 | 輸液確認行動監査 (自己評価) |
| 10 月 | 輸液確認行動監査 (他者評価) 上期評価 |
| 11 月 | 輸液確認行動監査結果集計 |
| 12 月 | 輸液確認行動監査評価・対策 |
| 1 月 | 抗生剤投与間違い (薬剤取り違い) 事例分析・対策立案 |
| 2 月 | 抗生剤確認のタイミングと方法についての実施状況の確認 |
| 3 月 | 今年度評価・次年度計画 |

【活動評価】

1. 輸液確認行動監査 2 年目となり、輸液確認行動の周知は進んできたが、実際に正しい行動が実施されていないことが明らかになり、各部署対策を実施した。輸液に関するヒヤリ・ハット医療事故件数は 84 件で、前年度比較で 32.8%の削減となっていることから、確認行動の統一や監査を実施することがエラー削減につながっていると評価する。次年度も継続して実施状況の評価と監査を実施し、行動レベルの維持を図る。
2. 看護部内のエラーを実践者である委員の中で検討することで、実践的な対策と各部署での実施状況を確認・評価することができた。看護部 683 件、178 件・20.6%削減となっていることから看護部の問題解決につながっていると考える。

【課 題】

1. 内服薬確認行動の統一
2. 輸液確認行動の定着

8. 今後の課題

- 1) 患者誤認防止自己評価表の見直しを行い、部署別・職種別の問題を抽出し、具体的な対策を実施して患者誤認エラーの削減を図る。
- 2) 地域連携加算に係る相互チェックを実施し、当院の医療安全活動の評価と見直しを実施する。

(福田 円)

20. 感染対策室

1. 平成 30 年度感染対策体制

感染対策室長 山田佳之医師

感染対策医師 小泉亜矢医師 清水彰彦医師

感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 北爪幸子看護師

感染対策担当薬剤師 高橋大輔薬剤師

感染対策担当検査技師 佐藤敦子検査技師

| 委員会等 | 開催日 | 構成員 | H 29 開催実績 |
|---|-----------|------|---------------------------|
| 院内感染対策委員会 委員長: 山田佳之 | 毎月第 4 水曜日 | 46 名 | 第 4 水曜日と緊急時開催 計 20 回開催 |
| ICT委員会 委員長: 山田佳之 副委員長: 小泉亜矢 副委員長: 清水彰彦 副委員長: 北爪幸子 佐藤敦子 高橋大輔 | 第 1・3 火曜日 | 26 名 | 第 1・3 火曜日開催 計 20 回開催 |
| リンクナース会 委員長: 北爪幸子 副委員長: 大平典子 | 第 3 月曜日 | 11 名 | 第 3 月曜日開催 計 10 回開催 |

2. 感染対策室年間目標

1) 院内感染対策の実施

- (1) 院内感染発生時の分析並びに院内感染拡大防止及び再発防止策の検討・実施
- (2) 院内感染対策のための啓発、教育及び広報
- (3) 平時の感染予防策方法の検討・見直し

2) 職員が正しい感染防止対策行動がとれるよう、感染対策に関する相談に対応する

- (1) 相談内容の分析・検討
- (2) 感染対策マニュアルの改訂

【実践評価】

1)-(1)について

MRSA対策として、医師、放射線技師などの看護師以外の職種への勉強会を実施した。次に、MRSA検出状況を監視し、新規MRSA患者の発生状況により、対策レベルを4つに層別化した。新規MRSA患者が発生していない場合は、MRSAなど耐性菌保菌者のみに接触感染対策を実施するレベル1とした。新規MRSA患者が1件発生した場合は、レベル1対策に追加して全患者に使い捨てビニールエプロンと手袋を着用して対応し、入室時と定期的にMRSAのスクリーニングを実施するレベル2とした。レベル2の対応をとっている中で新規MRSA患者が4週間に3件発生した場合は、レベル2の対応に追加してICNによる手洗い監視と講習会を実施するレベル3とした。そして、レベル3の対策を実施しているにもかかわらず重篤な院内MRSA感染症が発症した場合は、レベル3の対応策に追加して職員の保菌調査、感染対策委員会での報告、入院制限、職員全員が手指消毒薬持参するなど

の必要に応じた対策を実施するレベル4とした。このようにMRSAを含め、耐性菌の検出状況を常に監視し、必要な対策を実施できたことでレベル2以上の対応を実践することなく経過できている。

1)-(2)について

院内感染状況、コンサルテーション内容、ICTラウンドの結果、または最新の感染の知見に基づき、必要と考えられた研修を計画・実施した。結果、看護部職員の感染対策研修年2回参加率が昨年度92.8%から今年度98.3%と上昇できた。内容、参加率は以下表に表す。

平成30年度研修内容

◇全職種対象

| 年 月 日 | 内 容 | 講 師 | 参加人数 | 備 考 |
|--------------|-----------|-----------|------|----------|
| 5月21日から6月23日 | 手指衛生研修 | ICT / ICM | 406人 | 参加率98.8% |
| 10月26・29・30日 | インフルエンザ研修 | 北爪看護師 | 369人 | 参加率89.8% |

◇任意研修

| 年 月 日 | 内 容 | 講 師 | 参加人数 |
|-------------|-------------------|----------------|-------------------|
| 5月7・8・9・10日 | N95 マスク研修 | 北爪看護師 | 139人 |
| 12月7日 | ICT/AST研修 | 清水彰彦医師 / 北爪看護師 | 75人 |
| 3月15日 | 第12回感染対策講演会・AST研修 | 高橋薬剤師 / 坂本史衣先生 | 82人 +後日DVD視聴8人 |

◇部門別研修

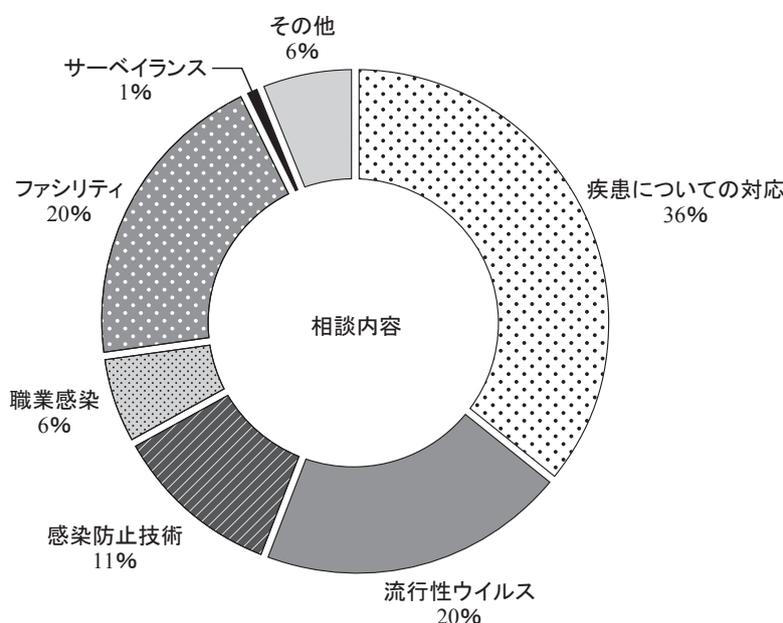
| 年 月 日 | 内 容 | 講 師 | 参加人数 | 対 象 |
|----------|----------------------|----------------|------|--------|
| 4月9日 | 新入職者研修 | 山田医師 / 北爪看護師 | 14人 | 新入職者 |
| 5月9・16日 | MRSAについて | 清水彰彦医師 / 北爪看護師 | 15人 | PICU職員 |
| 5月24日 | 感染対策について MRSAについて | 清水彰彦医師 / 北爪看護師 | 8人 | 外科医師 |
| 7月5日 | 看護ラダーⅠ 感染 | 北爪看護師 | 7人 | 看護部職員 |
| 7月9日 | MRSAについて | 清水彰彦医師 / 北爪看護師 | 10人 | 放射線技師 |
| 9月27日 | 感染対策について | 北爪看護師 | 10人 | GCU職員 |
| 10月22日 | 新入職者フォローアップ研修 | 北爪看護師 | 8人 | 新人看護師 |
| 11月16日 | 看護ラダーⅢ 感染 | 北爪看護師 | 20人 | 看護部職員 |
| 11月26日 | NICU手指衛生監査・MRSAについて | 清水彰彦医師 / 北爪看護師 | 22人 | NICU職員 |
| 12月5・7日 | 看護助手研修 | 北爪看護師 | 19人 | 看護部助手 |
| 12月13日 | 感染勉強会 | 北爪看護師 | 8人 | 手術室職員 |
| 1月21日 | 新入職者フォローアップ研修 | 北爪看護師 | 8人 | 看護部職員 |
| 1月21・23日 | 手指衛生勉強会(第二病棟) | 山田看護師 | 12人 | 第二病棟職員 |

1-(3)について

ICT委員のうち、山田佳之医師、小泉亜矢医師、清水彰彦医師、北爪幸子看護師、高橋大輔薬剤師、佐藤敦子検査技師により、毎週木曜日院内ICTラウンドおよびASTラウンドを実施した。院内ICTラウンドでは月別にラウンド内容を変更し、感染管理上問題点を写真付き報告書にまとめ、各部署職員に周知した。また、感染防止対策地域連携加算チェックの際に改善を求められた点が、継続して改善できているか確認することができた。ASTラウンドでは抗菌薬使用患者毎にカンファレンスを実施し、必要と判断された場合、感染対策担当医師、感染対策担当薬剤師から各主治医に介入することができた。

2-(1)について

感染対策室に寄せられた相談内容を 1: 疾患についての対応 2: 流行性ウイルス (麻疹・水痘・風疹・ムンプ) 3: 感染防止技術 4: マニュアル 5: 職業感染 6: ファシリティ (洗浄・消毒・滅菌、廃棄物、リネン) 7: 教育 8: サーベイランス 9: その他の9項目に分けて集計した。集計結果は以下の通りである。



2-(2)について

2-(1)の集計結果から、主に疾患についての対応や流行性ウイルスについて、感染対策マニュアルの内容を改訂した。相談内容を基に感染対策マニュアルを見直し、汚染された患者ケア物品の取り扱い、環境整備の方法、水痘について、針刺し・粘膜曝露後の対応方法について、食中毒への対応について、インフルエンザの対応についてなど計8回改訂を実施することができた。

3. ICT委員会

委員長: 山田佳之医師

副委員長: 小泉亜矢医師 清水彰彦医師 北爪幸子看護師 佐藤敦子検査技師
高橋大輔薬剤師

委員: 下山伸哉 松本直樹 佐藤達也 高本尚弘 福田円 大平典子 磯田有香

吉田有希 井野良美 坂口真弓 田村英昭 山崎綾美 山田めぐみ 渡邊佳世
須藤 亘 高倉和枝 中島寿恵 富樫哲雄 川浦秀明 石川さやか

1) 活動内容

- (1) 院内細菌・ウイルス検出状況報告・情報共有
- (2) 院内感染状況報告・情報共有
- (3) 抗菌薬適正使用ラウンド報告・ICTラウンド報告
- (4) その他: 勉強会・研修会案内、感染防止対策地域連携加算相互チェック案内など

4. ICTリンクナース委員会

看護部 ICTリンクナース会のページ参照。

(石川さやか)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 道和百合, 渡辺美緒, 迫 恭子, 椎原 隆. 清肺湯は重症心身障害児者の呼吸状態を改善させる. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018. 5. 31.
- 2) 渡辺美緒, 清水有紀, 鈴木江里子, 道和百合, 椎原 隆, 品川 穰, 大木康史. ヌシネルセン髄注を導入した脊髄性筋萎縮症 I 型の乳児例. 第 207 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 群馬, 2018. 6. 10.
- 3) Yuri Dowa, Tomoyuki Akiyama, Kosei Hasegawa, Fumitaka Inoue, Takashi Shiihara. Compound heterozygote of novel ALDH7A1. 乳幼児けいれん研究会国際シンポジウム, Rome. 2018. 9. 21.
- 4) Takashi Shiihara, Kyoko Hazama, Hiroyuki Tsukagoshi, Shunji Hasegawa, Yuri Dowa, Mio Watanabe. A case of mumps-related acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion. The 15th International Child Neurology Congress (ICNC2018), ムンバイ, インド, 2018. 11. 15.

<循環器科>

- 1) Hennig M, Shimoyama S, Ewering L, Ewald D, Thierfelder L, Jux C, Drenckhahn J. Dietary protein restriction throughout intrauterine development and postnatal life alters myocardial tissue composition but not left ventricular function in the adult mouse heart. Frontiers in Cardiovascular Biology (FCVB) Meeting of the European Society of Cardiology, Vienna, Italy, 2018. 4. 20-22.
- 2) Shuhei Arai, Tomio Kobayashi, Mitsuru Seki, Kensuke Tanaka, Kentaro Ikeda, Shinya Shimoyama. Three-day steps protocol of prednisolone administration in the patients of acute Kawasaki disease. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018. 6. 12-15.
- 3) 浅見雄司, 他. 乳児期に発症し弁置換を施行した, 交連乳頭筋癒合によると思われる孤発性僧帽弁閉鎖不全症の一例. 第 54 回日本小児循環器学会・学術集会, 横浜, 2018. 7. 5-7.
- 4) 大谷祐介, 池田健太郎, 田中健佑, 新井修平, 浅見雄司, 石井陽一郎, 関 満, 下山伸哉, 小林富男, 市之宮健二, 片山彩香. 胎児期の急速な心拡大, 心機能低下と病理所見でびまん性の心筋石灰化を認めた胎児心筋炎疑いの 1 例. 第 54 回日本小児循環器学会・学術集会, 横浜, 2018. 7. 5-7.
- 5) 新井修平, 関 満, 浅見雄司, 田中健佑, 中島公子, 石井陽一郎, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 初回治療反応性による IVIG+PSL 併用療法 不応重症川崎病の予測. 第 54 回日本小児循環器学会・学術集会, 横浜, 2018. 7. 5-7.
- 6) 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 石井陽一郎, 関 満, 池田健太郎, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦, 宮本隆司, 小林富男. 当院で経験した劇症型心筋炎の 4 例, 第 54 回日本小児循環器学会・学術集会, 横浜, 2018. 7. 5-7.
- 7) 下山伸哉, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 岡 徳彦, 小林富男. 当院に搬送された劇症型心筋炎の 4 例. 第 26 回小児集中治療ワークショップ, 京都, 2018. 10. 13.
- 8) 浅見雄司, 他. 川崎病に対する infliximab 投与後に多形滲出性紅斑を示した 2 症例. 第 38 回日本川崎病学会・学術集会, 和歌山, 2018. 11. 16-17.
- 9) 池田健太郎, 新井修平, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男. 当院における乳幼児に対するアミオダロンの使用経験. 第 23 回日本小児心電学会学術集会, 奈良, 2018. 11. 30.

<新生児科>

- 1) 鍋木浩太, 丸山憲一, 宮川陽一, 市之宮健二, 福田一代, 井上文孝, 小泉垂矢. 右肺低形成を合併した

- OAVS の 2 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 20.
- 2) 小泉亜矢, 丸山憲一, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 宮川陽一. 声門下狭窄を合併した先天性食道閉鎖の 2 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 21.
 - 3) 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 小児病院の周産期センター化前後での極低出生体重児の 5 ~ 7 歳時の神経発達予後. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 22.
 - 4) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 鍋木浩太, 宮川陽一, 池田健太郎. 心筋の高度な石灰化と構造異常を伴った心原性胎児水腫の 1 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 22.
 - 5) 小泉亜矢, 丸山憲一, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 肺の異所性石灰化を合併した 18 トリソミーの 1 例. 第 54 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2018. 6. 15.
 - 6) 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 極低出生体重児の 5 ~ 7 歳時の体格に関連する因子に関する検討. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018. 7. 9.
 - 7) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 鍋木浩太, 宮川陽一. 超大量ビオチン投与に加え栄養療法を要したホロカルボキシラーゼ合成酵素欠損症の 1 例. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018. 7. 9.
 - 8) 福田一代, 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 重篤な凝固異常を伴ったカポジ型リンパ管腫症の 1 例. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018. 7. 10.
 - 9) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鍋木浩太, 宮川陽一, 朴 明子, 末盛晋一郎, 菅野 仁. 診断に苦慮した新生児遺伝性球状赤血球症の一例. 第 17 回新生児黄疸管理研究会, つくば, 2018. 10. 6.
 - 10) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太, 宮川陽一. 当院における在胎 22 週・23 週出生児の呼吸管理と予後に関する検討. 第 31 回新生児慢性肺疾患研究会, 埼玉, 2018. 10. 20.
 - 11) 鍋木浩太, 丸山憲一, 宮川陽一, 山崎 優, 市之宮健二, 福田一代, 小泉亜矢. 胎児期に胎盤血管腫を認めた新生児肝血管内皮腫の 1 例. 第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会, 東京, 2018. 11. 22.
 - 12) 宮川陽一, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太, 朴 明子. 肝悪性ラブドイド腫瘍を認めた極低出生体重児の 1 例. 第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会, 東京, 2018. 11. 22.
 - 13) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太, 宮川陽一, 内藤 敦, 根本 篤, 小林 真美, 長谷部洋平, 前林祐樹, 斎藤千里, 榊原あい子, 井上みゆき. NICU 退院時の母乳投与と極低出生体重児の発達予後との関連: 総合周産期母子医療センター2 施設における検討. 第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会, 東京, 2018. 11. 23.
 - 14) 小泉亜矢, 丸山憲一, 朴 明子, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太, 宮川陽一. 在宅用の high flow nasal canula を用いて多職種連携により在宅での緩和ケアを行った 18 トリソミーの 1 例. 第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会, 東京, 2018. 11. 24.
 - 15) 宮川陽一, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太, 西 明. 難治性の先天性乳び腹水を認めた低出生体重児の 1 例. 第 208 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 前橋, 2018.

12. 2.

- 16) 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 鎗木浩太, 宮川陽一. 極低出生体重児の 5 ~ 7 歳時の体格に関連する因子に関する検討. 第 3 回群馬で子どもの成長を考えるフォーラム, 前橋, 2019. 2. 13.
- 17) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎗木浩太, 宮川陽一. 当院における在胎 22 週・23週出生児の呼吸管理と予後に関する検討. 日本小児科学会群馬地方会第209回講和会, 桐生, 2019. 3. 17.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之, 迫 恭子, 渡辺美緒, 道和百合, 椎原 隆. オマリズマブが奏功した重症心身障害に合併した難治性気管支喘息の 1 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 21.
- 2) 関根涼太, 吉原彬文, 近藤康人, 須永芳幸, 山田佳之, 高井まどか. 3 次元マイクロファイバーシステムを用いた細胞捕捉におけるマーカー分子の発現量の寄与. 化学とマイクロ・ナノシステム学会第 37 回研究会, つくば, 2018. 5. 21.
- 3) 吉原彬文, 山崎裕一, 山田佳之, 高井まどか. 白血病細胞の選択的回収を目指した多機能ペプチドの設計. 第 67 回高分子学会年次大会, 名古屋, 2018. 5. 23.
- 4) 高橋 裕, 山田佳之, 塚越博之, 黒田 誠. 院内で続発した *Pseudomonas aeruginosa* 分離株の次世代シーケンサー解析の有用性の検討. 第 66 回日本化学療法学会総会, 岡山, 2018. 6. 2.
- 5) 山田佳之, 鎌 裕一, 清水真理子, 西 明, 加藤政彦. 軽症の小児好酸球性胃腸炎の検討 (ミニシンポジウム). 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018. 6. 22.
- 6) 鎌 裕一, 加藤政彦, 山田佳之, 額賀真理子, 煙石真弓, 田端秀之, 平井康太, 望月博之. 小児気管支喘息の急性増悪時における細菌感染の関与 (ポスター). 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018. 6. 22.
- 7) 道和百合, 山田佳之. 食物誤嚥で気管支喘息発作を発症した健常児童の症例. 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会, 横浜, 2018. 7. 13.
- 8) 山田佳之, 磯田有香, 西 明, 鎌 裕一, 清水真理子, 神保裕子, 加藤政彦. 好酸球性胃腸炎に対する経験的多種食物抗原除去療法の効果. アレルギー・好酸球研究会 2018, 東京, 2018. 9. 22.
- 9) 鎌 裕一, 加藤政彦, 山田佳之, 額賀真理子, 煙石真弓, 田端秀之, 平井康太, 望月博之. 小児気管支喘息の急性増悪時における細菌感染の関与とサイトカインの検討. アレルギー・好酸球研究会 2018, 東京, 2018. 9. 22.
- 10) 清水真理子, 迫 恭子, 道和百合, 渡辺美緒, 椎原 隆, 山田佳之. 神経・筋疾患に合併した難治性気管支喘息に対するオマリズマブの効果. 第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会, 岡山, 2018. 10. 20.
- 11) 山田佳之. 非 IgE 依存性消化管アレルギー研究のまとめと新たな展開 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 (炎) Minds 準拠ガイドラインの作成経過. 第 55 回日本小児アレルギー学会学術大会, 岡山, 2018. 10. 20.
- 12) Sekine R, Yoshihara A, Kondo Y, Sunaga Y, Yamada Y, Takai M. The development of cell-capture and -release device for leukemia prognosis improvement. 第 28 回日本 MRS 年次大会, 北九州, 2018. 12. 18~20.
- 13) Yamada Y. Eosinophilic Gastroenteritis That Remitted and Maintained in the Absence of Long-term Systemic Steroids and/or Elimination of Multiple Foods. 2019 AAAAI Annual Meeting, San Francisco (USA), 2019. 2. 24.

- 14) 鎌 裕一, 加藤政彦, 山田佳之, 額賀真理子, 煙石真弓, 田端秀之, 平井康太, 望月博之. 小児気管支喘息の急性増悪時における細菌感染の関与とサイトカイン/ケモカインの検討. 第 1 回日本小児アレルギー学会関東地方会, 秋葉原, 2019. 3. 16.
- 15) 清水真理子, 島袋美起子, 清水彰彦, 山田佳之. 複数の食物を原因とした新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症の 1 例. 第 1 回日本小児アレルギー学会関東地方会, 秋葉原, 2019. 3. 16.

<血液腫瘍科>

- 1) 鍋木多映子, 大和玄季, 柴 徳生, 原 勇介, 大木健太郎, 外松 学, 荒川浩一, 清河信敬, 富澤大輔, 足立壮一, 多賀 崇, 堀部敬三, 林 泰秀. 小児急性骨髄性白血病における PTPN11, RAS, CBL 変異の臨床的意義と予後解析. 口演. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018. 10. 12-14.
- 2) 鍋木多映子, 大和玄季, 原 勇介, 柴 徳生, 大木健太郎, 外松 学, 嶋田 明, 長谷川大輔, 真部 淳, 林 泰秀. 再発時に KIT-ITD を認めた t(8; 21)-AML の一例. 口頭. 第 60 回日本小児血液がん学会学術集会, 京都, 2018. 11. 14-16.
- 3) Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Hara Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hayashi Y. Clinical significance and prognostic analyses of PTPN11, RAS, and CBL mutations in pediatric AML –the JCCG study, JPLSG AML-05, 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2018), Kyoto, 2018. 11. 16-19.
- 4) Yamato G, Kawai N, Shiba N, Ohki K, Hara Y, Kiyokawa N, Tomizawa D, Shimada A, Sotomatsu M, Arakawa H, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hata K, Hayashi Y. Prognosis of pediatric AML patient with FLT3-ITD is predicted by DNA methylation pattern –the JCCG study, JPLSG AML-05, 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2018), Kyoto, 2018. 11. 16-19.
- 5) Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Adachi S, Hayashi Y. Comprehensive Analysis of 343 Genes using Targeted Sequencing Panel by Next-Generation Sequencer In 77 Pediatric AML Patients with Normal and Complex Karyotypes: JCCG Study, JPLSG AML-05. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018. 12. 1-4.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明, 内田康幸, 五嶋 翼, 谷 有希子, 高澤慎也. Hirschsprung 病類縁疾患の 11 例の治療経過. 第 48 回日本小児消化管機能研究会, 仙台, 2018. 2. 11.
- 2) 五嶋 翼, 内田康幸, 谷 有希子, 高澤慎也, 西 明. 低位鎖肛に重複肛門が合併していると考えられたクラリーノ症候群の 1 例. 第 41 回関東小児外科症例検討会, 東京, 2018. 3. 11.
- 3) Shinya Takazawa, Akira Nishi, Yukiko Tani, Tsubasa Goshima, Yasuyuki Uchida. Laparoscopic-assisted percutaneous endoscopic gastrostomy is recommended for the older patients with severe scoliosis, IPEG's 27th Annual Congress for Endosurgery in Children, Seattle, 2018. 4. 12.
- 4) Tsubasa Goshima, Hiroyuki Uchida, Yukiko Tani, Shinya Takazawa, Akira Nishi, Jun Fujishiro. Investigation of 19cases of non-palpable testicles at the single institution, PAPS, Sapporo, 2018. 5. 13.
- 5) 高澤慎也, 西 明, 谷 有希子, 五嶋 翼, 内田康幸. 手術枠ネット予約システムに対する満足度調査. 第 55 回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018. 5. 30.
- 6) 内田康幸, 五嶋 翼, 谷 有希子, 高澤慎也, 西 明. 先天性胆道拡張症初回手術時に胆管癌を認めた

- 小児の1例. 第55回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018. 5. 30.
- 7) 谷 有希子, 内田康幸, 五嶋 翼, 高澤慎也, 西 明. 右停留精巣摘出後に右腹腔内精巣を認めた1例. 第55回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018. 5. 30.
 - 8) 西 明, 内田康幸, 五嶋 翼, 谷 有希子, 高澤慎也. 鼠径ヘルニア術後精巣挙上25例の検討. 第55回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018. 5. 31.
 - 9) 五嶋 翼, 内田康幸, 谷 有希子, 高澤慎也, 西 明. 高位鎖肛に対して, 根治術大気中に重症感染症を発症し, 救命し得なかった1例. 第55回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018. 5. 31.
 - 10) 高澤慎也, 西 明, 高本尚弘, 内田康幸, 島田脩平. 胃固定術後に網嚢ヘルニアをきたした一例. 第116回東京小児外科研究会, 東京, 2018. 6. 5.
 - 11) 高本尚弘, 島田脩平, 内田康幸, 高澤慎也, 西 明. 右腎芽腫 diffuse anaplasia の1例. 第53回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018. 10. 13.
 - 12) 島田脩平, 高本尚弘, 内田康幸, 高澤慎也, 西 明. 肝悪性ラブドイド腫瘍を認めた極低出生体重児の1例. 第53回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2018. 10. 13.
 - 12) 高本尚弘, 島田脩平, 内田康幸, 高澤慎也, 西 明. 啼泣後に全身チアノーゼを認める巨大な喉頭蓋嚢胞に対して内視鏡下嚢胞円蓋部切除を行った1例. 第38回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 東京, 2018. 10. 26.
 - 13) 高澤慎也, 西 明, 高本尚弘, 内田康幸, 島田脩平, 朴 明子, 大和玄季, 鍋木多映子, 平戸純子, 外松 学. 集学的治療7年後に3度目の再発をきたした aggressive fibromatosis の1例. 第60回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018. 11. 14.
 - 14) 高澤慎也, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 西 明. 科学的根拠に基づいた外科教育～単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術における斜視鏡の視野方向について～. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018. 12. 8.
 - 15) 高本尚弘, 島田脩平, 内田康幸, 高澤慎也, 平戸純子, 西 明. 胎児期に診断された腹腔内肺分画症に対して腹腔鏡下分画肺切除を施行した1例. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018. 12. 6.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人, 瀧田泰志, 林 稔, 徳中亮平. Nuss法におけるバー抜去後の仮骨形成—3D-CTによる検討—. 第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 12.
- 2) 林 稔, 徳中亮平, 上塘彩子, 藤橋政堯, 浜島昭人, 瀧田泰志, 門松香一. 培養表皮生着過程に基づいた臨床応用. 第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 12.
- 3) 藤橋政堯, 林 稔, 徳中亮平, 上塘彩子, 浜島昭人, 瀧田泰志, 門松香一. 当院における VACulta による周期的自動洗浄陰圧閉鎖療法の治療経験. シンポジウム「感染と NPWT (negative pressure wound therapy): 持続洗浄, 間欠洗浄 or ?」. 第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 12.
- 4) 上塘彩子, 林 稔, 徳中亮平, 藤橋政堯, 浜島昭人, 瀧田泰志, 門松香一. 血管塞栓療法後の合併症に対するリカバリ戦略. 第61回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018. 4. 12.
- 5) 浜島昭人, 水上高秀, 宗内 巖. ガイドラインシンポジウム「急性創傷」1. 切創, 裂創, 擦過創, 刺創, 異物 (汚染のない創). 第10回日本創傷外科学会総会学術集会, さいたま, 2018. 7. 5
- 6) 林 稔, 藤巻広也, 浜島昭人, 常岡明加, 徳中亮平, 古賀康史, 上塘彩子, 瀧田泰志, 藤橋政堯. 症候群性頭蓋縫合早期癒合症に対する皮膚静脈還流を極力温存した後頭蓋骨延長術の経験. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 札幌, 2018. 10. 12.
- 7) 佐々木淑恵, 浜島昭人, 浜島昭人, 林 稔. 眼窩に及ぶ乳児血管腫に対してプロプラノロール内服と

- レーザー併用治療が奏功した2例. 第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 札幌, 2018. 10. 11.
- 8) 浜島昭人, 佐々木淑恵, 荒木夏枝. 3D-CTによるNuss法バー抜去後仮骨形成の検討. 第18回Nuss法漏斗胸手術手技研究会, 大阪, 2018. 11. 10.

<整形外科>

- 1) 浅井伸治, 富沢仙一, 柳川天志, 斎藤健一, 品川知司. 骨線維異形成骨切除後の広範な骨欠損に対するMasquelet法にHexapod型創外固定器が有用であった1例. 平成30年度秋季群馬県医学会, 前橋, 2018. 12. 1.

<心臓血管外科>

- 1) Norihiko Oka, Kagami Miyaji. Risk factors for Liver diseases after Fontan operation The 32nd Annual Meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS), Milan, Italy, 2018.

◆産科

- 1) 佐藤達也, 木暮さやか, 京谷琢治, 高木 剛. FLP術後のTAPSの1例. 第25回オープンカンファレンス, 前橋, 2018. 3. 24.
- 2) 佐藤達也, 京谷琢治, 高木 剛. 母体酸素投与により手術療法を回避できた胎児大動脈縮窄症の1例. 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018. 7. 8-10.
- 3) 佐藤達也. 超音波二次精査の実際 18trisomy 編. 第1回群馬産科婦人科超音波セミナー, 前橋, 2018. 7. 25.
- 4) 松田知子, 飯野彩奈, 佐藤達也, 木暮さやか, 京谷琢治. 臍帯付着部に発生した胎盤羊膜下血腫の1例. 第34回群馬周産期研究会, 前橋, 2018. 10. 13.
- 5) 飯野彩奈, 松田知子, 木暮さやか, 佐藤達也, 京谷琢治. 梅毒感染妊婦の1例. 第34回群馬周産期研究会, 前橋, 2018. 10. 13.
- 6) 佐藤達也, 鍋木浩太. 母体に胎盤血管腫を認め児に肝血管内皮腫を認めた1例. 第26回オープンカンファレンス, 前橋, 2018. 12. 8.
- 7) 松田知子, 佐藤達也, 木暮さやか. 先天性胎児十二指腸閉鎖と胎児診断されていた先天性胆道拡張症の1例. 第26回オープンカンファレンス, 前橋, 2018. 12. 8.

◆麻酔科

- 1) 黒岩陽介, 高田 亮, 松本直樹, 金本匡史, 黒田昌孝, 志賀達哉. 僧帽弁輪速度と人工心肺使用開心術術後カテコラミン投与の関連性の検討. 日本心臓血管麻酔学会 第22回学術大会, 栃木県, 2017. 9. 17.
- 2) 茂木彩加, 黒岩陽介, 廣木 茜, 山崎聡子, 松本直樹. 13トリソミー2症例の全身麻酔と術後経過. 日本小児麻酔学会 第23回大会, 福岡市, 2017. 10. 8.

◆歯科

- 1) 瀬下愛子, 中島 淳, 楠 幸代, 坂口真弓, 石田圭吾, 萩原大子, 大嶋 瑛, 木下 樹. 口唇口蓋裂児・家族の会開催のためのアンケート—小児専門病院歯科衛生士の役割—. 第35回日本障害者歯科学会大会, 東京, 2018. 11. 18.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 新井菜津子, 三宅妙子, 田中伸久, 佐藤敦子. 当院における血液培養検査の検討. 第 67 回日本医学検査学会, 浜松市, 2018. 5. 12.
- 2) 上田正徳, 松井重憲, 笠原 渉, 富岡千鶴子, 竹内浩司. 新生児・未熟児患者に対する CKMBmass 試薬の検討. 第 55 回日臨技関甲信支部・首都圏支部 医学検査学会, 高崎市, 2018. 10. 27.
- 3) 笠原 渉, 上田正徳, 松井重憲, 富岡千鶴子. 小児医療センターにおける ZS050 と DRI-CHEM4000i との相関性についての検討. 第 37 回群馬県庁検査技師会学術発表会, 太田市, 2019. 2. 3.

◆放射線課

- 1) 下田寛貴, 清水宏史, 木暮義法, 木暮初男, 萩原祐輔, 戸塚綾美, 吉田有希, 茂木利雄, 都丸健一. 小児心臓カテーテル検査の安全確保について. 第 41 回日本小児放射線技術研究会, 横浜市, 2018. 4. 14.
- 2) 都丸健一, 畠山信逸. 検索が不十分となった死産児 Ai-MRI の 1 例, 第 16 回オートプシーイメージング学会学術総会, つくば市, 2018. 7. 21.
- 3) 都丸健一, 戸塚綾美, 山田照枝, 木暮初男, 下田寛貴, 吉田有希, 茂木彰子, 木暮義法, 清水宏史, 茂木利雄. 詳細な画像情報が死後検索画像のみとなった症例の Ai の有用性. 第 34 回日本診療放射線技師学術大会, 下関市, 2018. 9. 21.
- 4) 都丸健一. 当院での Ai 実施状況について. 第 1 回 PMMR ミーティング, 洪江市, 2018. 12. 8.
- 5) 萩原祐輔, 都丸健一, 戸塚綾美, 山田照枝, 下田寛貴, 茂木彰子, 吉田有希, 木暮義法, 清水宏史, 茂木利雄. ポータブル撮影装置における基礎的検討. 第 27 回群馬県庁放射線技師会学術部研究発表会, 前橋市, 2019. 3. 9.
- 6) 下田寛貴, 清水宏史, 木暮義法, 木暮初男, 萩原祐輔, 戸塚綾美, 吉田有希, 茂木利雄, 都丸健一. 業績報告 小児心臓カテーテル検査の安全確保について. 第 27 回群馬県庁放射線技師会学術部研究発表会, 前橋市, 2019. 3. 9.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 関 満, 新井修平, 浅見雄司, 石井陽一郎, 池田健太郎, 岡 徳彦, 宮本隆司, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における ICU-AW 発症状況とその関連因子の検討. 第 54 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 横浜, 2018. 7. 5.
- 2) 熊丸めぐみ, 鳥越和哉, 下山伸哉, 池田健太郎, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後に ICU-AW を発症した患者の特徴について. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018. 7. 14.
- 3) 鳥越和哉, 熊丸めぐみ, 井野良美, 代 美穂, 臼田由美子, 塩谷 愛, 下田隼人, 浅見雄司, 小林富男. 左心低形成症候群を有する重症心身障害者の在宅復帰に向けた取り組み. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2018. 7. 14.
- 4) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 深町直之, 木島久仁子, 岡 徳彦, 小林富男. 無気肺を呈した先天性心疾患児に対する気道陽圧システム (EzPAP) の使用経験—高濃度酸素投与例への適応—. 第 46 回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2019. 3. 3.

◆栄養調理課

- 1) 磯田有香, 高澤慎也, 神保直樹, 神保裕子, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 西 明. 牛乳アレルギー—検査陽性の便秘に対し乳制限食が有効であった 2 小児例. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2019. 2. 14.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. 小児低酸素療法において NHF を使用した一例. 第17回群馬県臨床工学技士会学術大会, 前橋, 2018. 7. 29.

◆看護部

- 1) 石関梨華, 朴 明子. 小児専門病院における緩和ケアチームの活動報告と今後の課題. 日本緩和医療学会学術大会, 兵庫, 2018. 6. 15~16.
- 2) 曾根ちひろ, 石沢恵理, 福島富美子, 朴 明子, 下山伸哉, 岡 徳彦, 宮本隆司, 小林富男. PICU 入室中のきょうだい面会に対する家族の思い 循環器疾患をもつ子どもの家族に焦点を当てて. 第54回日本小児循環器学会総会・学術集会, 神奈川, 2018. 7. 7.
- 3) 高橋里奈, 星野美穂, 浅野 香, 都丸八重子, 清水奈保. 慢性疾患をもつ学童・思春期の子どもの内服に対する思いと親の関わり. 第28回小児看護学会・学術集会, 愛知, 2018. 7. 21~22.
- 4) 荻野順子, 清水栄子, 丸山公子, 北爪明子, 大橋香織, 茂木百合子, 清水奈保, 松村郁子, 高田つたえ, 都丸八重子. 県立病院看護師長の学習ニード・教育ニードの分析—看護師長の教育プログラム立案に向けて—. 第49回日本看護学会看護管理学術集会, 宮城, 2018. 8. 9~10.
- 5) 塩谷 愛, 石関梨華. PICUと一般病棟間の継続看護の検討—予期せず終末期を迎えた先天性心疾患の子ども之母親の思いから—. 第42回日本死の臨床研究会, 新潟, 2018. 12. 8~9.
- 6) 大澤あゆみ, 茂木ゆう子, 大平典子. 超・極低出生体重児のストーマケアに対して NICU 看護師が直面している困難. 第32回群馬ストーマ・排泄リハビリテーション研究会, 群馬, 2019. 3. 2.

2. 誌上発表

◆小児内科

<神経内科>

- 1) Hazama K, Shiihara T, Tsukagoshi H, Matsushige T, Dowa Y, Watanabe M. Rhinovirus-associated acute encephalitis/encephalopathy and cerebellitis. *Brain Dev.* 41: 551-554, 2019.
- 2) Yuri Dowa, Yoshiyuki Yamada, Masahiko Kato, Naoki Matsumoto, Yuichi Kama, Takashi Shiihara. Sweet Potato Was Not So Sweet: Undetected Foreign-body Aspiration in a Healthy Child Leading to Acute Bronchial Asthma. *THE TOKAI JOURNAL of EXPERIMENTAL and CLINICAL MEDICINE.* 44: 1-4, 2019.

<新生児科>

- 1) Ichinomiya K, Maruyama K, Koizumi A, Inoue F, Fukuda K, Kaburagi K, Miyakawa Y. Neonatal Research Network of Japan. Comparison of neurodevelopmental outcomes between monochorionic and dichorionic twins with birth weight ≤ 1500 g in Japan: a register-based cohort study. *Journal of Perinatology.* 38: 1407-1413, 1407, 2018.
- 2) 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 宮川陽一. 早産児, 低出生体重児への母乳投与: 第2報 新生児集中治療室退院後1カ月における検討. *日本新生児成育医学会雑誌* 30: 77-83, 2018.
- 3) 丸山憲一. 肝芽腫の評価と対応方法を教えてください. *周産期医学* 48: 1151-1153, 2018.

<アレルギー・感染免疫・呼吸器科>

- 1) Muto M, Taguchi T, Tomomasa T, Nio M, Tamai H, Tamura M, Sago H, Toki A, Nosaka S, Kuroda T, Yoshida M, Nakajima A, Kobayashi H, Sou H, Masumoto K, Watanabe Y, Kanamori Y, Hamada Y, Yamataka A, Shimojima N, Kubota A, Ushijima K, Haruma K, Fukudo S, Araki Y, Kudo T, Obata S, Sumida W, Watanabe T, Fukahori S, Fujii Y, Yamada Y, Jimbo K, Kawai F, Fukuoka T, Onuma S, Morizane T, Ieiri S, Esumi G, Jimbo T, Yamasaki T, Matsufuji H. Japanese Clinical Practice Guidelines for Allied Disorders of Hirschsprung's Disease, 2017. *Pediatrics International*. 60(5): 400-410, 2018.
- 2) Yagi H, Takizawa T, Sato K, Inoue T, Nishida Y, Ishige T, Tatsuki M, Hatori R, Kobayashi Y, Yamada Y, Arakawa H. Severity scales of non-IgE-mediated gastrointestinal food allergies in neonates and infants. *Allergol Int*. Volume 68 Issue 2: 178-184, 2018.
- 3) Dowa Y, Yamada Y, Kato M, Matsumoto N, Kama Y, Shiihara T. Sweet Potato Was Not So Sweet: Undetected Foreign-body Aspiration in a Healthy Child Leading to Acute Bronchial Asthma. *Tokai J Exp Clin Med*. Vol.44 No.1: 1-4, 2019.
- 4) Kobayashi Y, Konno Y, Kanda A, Yamada Y, Yasuba H, Sakata Y, Fukuchi M, Tomoda K, Iwai H, Ueki S. Critical role of CCL4 in eosinophil recruitment into the airway. *Clin Exp Allergy*. in press, 2019.
- 5) Shimizu A, Shimabukuro M, Shimizu M, Asai S, Tomizawa S, Hatakeyama S, Yamada Y. Painful Subcutaneous Edema of the Lumbar Region in IgA Vasculitis. *Pediatrics International*. in press, 2019.
- 6) 畠山信逸, 清水真理子, 山田佳之, 五十嵐恒雄, 宮寄 治. 画像診断 今月の症例 細菌性肺炎(気腫と胸水/膿胸の合併; complicated pneumonia with pneumatocele and empyema) (図説). *小児科臨床*. 71 巻 3 号: 273-277, 2018.
- 7) 山田佳之, 今井孝成, 大嶋勇成. ガイドライン解説 食物アレルギー診療ガイドライン 2016 (第 12 章) 消化管アレルギーとその関連疾患 (解説). *日本小児アレルギー学会誌*. 32 巻 2 号: 282-287, 2018.
- 8) 山田佳之. 好酸球と消化管アレルギー. *日本小児アレルギー学会誌*. 32 巻 5 号: 798-806, 2018.
- 9) 山田佳之. 消化管アレルギー 食物アレルギー ~最近の話題・ガイドラインをふまえて~. *アレルギー・免疫*. Vol.25 No.1: 66-73, 2018.
- 10) 山田佳之, 西 明. 先天性食道狭窄およびその術後狭窄に続発した好酸球性食道炎の 1 例. 胃と腸好酸球性食道炎の診断と治療. 第 53 巻 第 3 号: 343-346, 2018.
- 11) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギー: 病因および疾病分類 赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本. *周産期医学*. vol.48 増刊号: 575-578, 2018.
- 12) 山田佳之. 鶏卵による消化管アレルギー. *ドクターサロン*. 62 巻 10 号: 721-725, 2018.
- 13) 山田佳之. 特別座談会 食物アレルギー診療の現状と課題. *Vita*. Vol.35 No.4 (通巻 No.146): 1-24, 2018.

<血液腫瘍科>

- 1) Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Okubo J, Park MJ, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Hayashi Y. RUNX1 mutations in pediatric acute myeloid leukemia are associated with distinct genetic features and an inferior prognosis. *Blood*. 131: 2266-2270, 2018.
- 2) Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Nakatani K, Noguchi Y, Takasaki S, Noura M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Okada A, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M,

Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S. Recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia. *Blood Adv.* 21: 2879-2889, 2018.

- 3) 大和玄季, 金兼弘和. 自己免疫性溶血性貧血を発見の契機とする先天性免疫異常. *血液内科* 78 巻 2 号 P239-244, 2019.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) Takazawa S, Ishimaru T, Harada K, Deie K, Hinoki A, Uchida H, Sugita N, Mitsuishi M, Iwanaka T, Fujishiro J. Evaluation of Surgical Devices Using an Artificial Pediatric Thoracic Model: A Comparison Between Robot-Assisted Thoracoscopic Suturing Versus Conventional Video-Assisted Thoracoscopic Suturing. *J Laparoendosc Adv Surg Tech A.* 28: 622-627, 2018.
- 2) 高澤慎也. 卵巣奇形腫手術+新生児卵巣嚢腫手術. *小児外科.* 50: 1254-1257, 2018.
- 3) 高澤慎也, 西 明, 谷 有希子, 五嶋 翼, 内田康幸. 停留精巣術後再発に対する再固定術の至適時期についての検討. *日本小児泌尿器科学会雑誌.* 27: 47-51, 2018.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人, 荒木夏枝, 大嶋美喜子, 林 稔, 徳中亮平. Nuss 法におけるスタビライザーに関連した合併症. *形成外科* 61(5): 596-603, 2018.
- 2) 渡邊 峻, 黒岩 実, 浜島昭人. 耳介の形態異常. *小児科臨床* 71 増刊号. 1927-1931, 2018.
- 3) 渡邊 峻, 黒岩 実, 浜島昭人. 舌小帯短縮症. *小児科臨床* 71 増刊号. 1933-1935, 2018.

<整形外科>

- 1) 浅井伸治, 富沢仙一, 大澤敏久, 浜島昭人, 鳥越和哉, 山田めぐみ, 平井幸太. 右下腿開放性骨折 Gustilo type-B の初期治療後に遺残した脛骨偽関節・変形, 尖足変形に対する治療経験. *群馬医学.* No.108 (39-43 頁) 2018 別冊.

◆産 科

- 1) 森田晶人, 高木 剛, 木暮さやか, 京谷琢治. 尿管開存症における臍帯ヘルニアの発生機序が推定できた一例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 54 巻 3 号. Page872-875, 2018. 9.

◆放射線科

- 1) 八木夏希, 松井 敦, 畠山信逸, 外松 学, 肥沼淳一, 杉立 玲, 柴 梓, 清水真理子, 溝口史剛, 荒川浩一. 進行性骨化性線維異形成症の 1 歳女児例. *日本小児放射線学会誌.* 34(1): 49-53, 2018.

◆歯 科

- 1) 大嶋 瑛, 木下 樹, 中島 淳, 萩原大子, 瀬下愛子, 深山治久. 自閉症スペクトラム症を伴うインヒビター高力価陽性血友病 A 患者の全身麻酔下歯科治療経験. *日本歯科麻酔学会雑誌.* 46-3: 127-129, 2018.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 田中伸久, 上田正徳. 当院新生児におけるアンバウンドビリルビン値および総ビリルビン/アルブミン比の検討. 医学検査. 67(2): 164-169, 2018.
- 2) 田中伸久, 三宅妙子, 新井菜津子, 佐藤敦子. 小児における血液培養陽性例と感染指標. 医学検査. 67(5): 766-771, 2018.

◆放射線課

- 1) 下田寛貴. 小児心臓カテーテル検査の安全確保について. 日本小児放射線技術研究会誌. No.44 MARCH: 13-16, 2019.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 障害を持った子の内部障害その②循環器～先天性心疾患～. 小児リハビリテーション. (2): 84-89, 2018.
- 2) 六本木温子, 萩原絵梨. 目と手の協調性獲得に対してスイッチ遊びを導入した一症例. ぐんま作業療法研究. 21: 9-13, 2018.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 小林富男. 川崎病学 Ⅲ: 診断と急性期の検査, 7. 特殊な病型の特徴および診断, c. 年長児の特徴. 日本川崎病学会編, 東京, 診断と治療社, 2018, p100-101.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. アレルギー疾患 物理アレルギー. 福井次矢, 高木 誠, 小室一成総編集, 今日の治療指針 2018 私はこう治療している, 東京, 医学書院, 2018, p821-823.
- 2) 山田佳之. 食物アレルギーについて. 海老澤元宏, 伊藤浩明, 藤澤隆夫監修, 子どもの食に関わる方々へ 食物アレルギーハンドブック 2018, 東京, 協和企画, 2018, p7-12.
- 3) 山田佳之. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症. 伊藤修司編集, 小児コモン 60 疾患 実践的ガイドライン活用術, 東京, 中山書店, 2018, p8-12.
- 4) 山田佳之. 食物アレルギー [特殊型] 新生児・乳児消化管アレルギー. 海老澤元宏監修, 食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2017 準拠 食物アレルギーの栄養指導, 東京, 医歯薬出版, 2018, p5-8.

◆小児外科

<形成外科>

- 1) 大久保文雄, 浜島昭人. 臍ヘルニア/臍ヘルニアの手術 巨大臍ヘルニアの手術: 鬼塚法. 臍の外科 小児の臍疾患治療と臍を利用した手術, メジカルビュー社, 2018, 42-45.

<心臓血管外科>

- 1) 岡 徳彦. 低侵襲心臓手術の基本と実践 始めたいひとと始めたひと 心房中隔欠損, 小児における MICS, 南江堂.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. わかる！できる！心臓リハビリテーション Q & A. 114. 乳幼児の心臓外科手術後に保護者にすべき生活指導のポイントを教えてください, 東京, 医歯薬出版, 2018, p252-p253.
- 2) 熊丸めぐみ. 心臓血管外科リハビリテーションゴールド・スタンダード. 第 V 章. 小児心疾患, 神奈川, ヒューマンプレス, 2018, p210-212.

4. 班会議等報告書

◆小児内科

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業). 平成 30 年度分担研究報告書, 2018; in press.

5. 講演

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. NICU における腹部超音波検査. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018. 7. 8.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. こどもの感染症について. 平成 30 年度前橋市感染症予防研修会, 前橋, 2018. 6. 15.
- 2) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギー. 第 12 回相模原臨床アレルギーセミナー, 横浜, 2018. 8. 5.
- 3) 山田佳之. 小児低ガンマグロブリン血症に対する免疫グロブリン補充療法. 東京血液・免疫セミナー, 東京, 2018. 10. 22.
- 4) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギー・好酸球性消化管疾患. 第 5 回総合アレルギー講習会, 大阪, 2018. 12. 16.
- 5) 山田佳之. 子どもの救急ってどんなとき? 平成 30 年度群馬県地域密着型子どもの救急啓発事業, 群馬県長野原, 2019. 3. 4.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 小児の外科的救急疾患. 小児救急医師研修会, 高崎, 2018. 2. 27.

◆歯科

- 1) 木下 樹. 知っておきたいお口の話. あさがおの会, 群馬県立小児医療センター, 2018. 6. 11.
- 2) 木下 樹. 障害児の口腔衛生管理. 日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修会, 埼玉, 2018. 10. 12.
- 3) 木下 樹. 発達障害児の口腔ケア. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2018. 10. 17.
- 4) 木下 樹. 病院での歯科治療. 平成 30 年度医療通訳ボランティアスキルアップ講座, 前橋, 2019. 3. 9.
- 5) 木下 樹. 小児・障害児の摂食嚥下と口腔ケア. 平成 30 年度第 2 回前橋摂食嚥下研究会, 前橋,

2019. 3. 13.

6) 木下 樹. お口から見た子育て. 口唇口蓋裂の会, 群馬県立小児医療センター, 2019. 3. 14.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 竹内浩司. 症例から学ぶ超音波検査の考え方 (胆, 膵). 群馬県超音波研究会, 前橋, 2018. 4. 18.
- 2) 竹内浩司. 症例から学ぶ超音波検査の考え方 (肝, 膵). 群馬県超音波研究会, 前橋, 2019. 3. 26.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 医療専門職の臨床現場での活躍と実際～小児先天性心疾患の外科治療を支える臨床工学～. パース大学 公開講座, 高崎, 2018. 10. 13.
- 2) 深町直之. 最新小児医療を支える臨床工学と医療現場で求められるスキル. 東京工科大学 招聘講演, 東京, 2019. 2. 8.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒. 気管切開とその管理. 小児在宅医療に係る「医療的ケア研修会」, 高崎, 2019. 1. 17.
- 2) 渡辺美緒. 医療①. 医療的ケア児等コーディネーター養成研修, 前橋, 2019. 1. 29.
- 3) 渡辺美緒. 2017 年度医療的ケアを要する小児などの実数調査報告. 小児在宅医療に係る「医療的ケア研修会」, 前橋, 2019. 3. 8.
- 4) 道和百合. わたしをよく使う漢方. 在宅医療勉強会, 2019. 3. 8.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 赤ちゃんを母乳で育てよう. 太田市鳥之郷行政センター母乳育児講座, 太田, 2018. 9. 5.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. タスクフォース (運営指導) 全国自治体病院協議会 第 146 回臨床研修指導医講習会, 神戸, 2018. 8. 30～9. 2.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 上田正徳. 第 9 回ぐんま CPX 入門セミナー in 茨城 (実習補助/講師). 茨城, 2018. 6. 17.
- 2) 上田正徳. 第 10 回ぐんま CPX 入門セミナー in 前橋【基礎編】(実習補助/講師). 前橋, 2018. 6. 30.
- 3) 上田正徳. 第 11 回ぐんま CPX 入門セミナー in 前橋【応用編】(実習補助/講師). 前橋, 2018. 7. 1.
- 4) 竹内浩司. 超音波実技講習会. 前橋, 2018. 7. 22.
- 5) 竹内浩司. 超音波実技講習会. 前橋, 2018. 10. 14.
- 6) 上田正徳. 第 12 回ぐんま CPX 入門セミナー in 大阪 (実習補助/講師). 大阪, 2018. 12. 22.
- 7) 上田正徳. 第 13 回ぐんま CPX 入門セミナー in 倉敷 (実習補助/講師). 倉敷, 2019. 1. 19.

◆放射線課

- 1) 都丸健一. 放射線課・検査について. 平成 30 年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬県立小児医療センター, 2018. 5. 21.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 人工呼吸療法中の小児のリハビリテーション. 日本小児集中治療研究会 第5回メディカルスタッフ向けセミナー東京, 2018. 7. 14.
- 2) 代 美穂. 呼吸障害とポジショニング. 二葉高等特別支援学校校内研修, 高崎, 2018. 7. 31.
- 3) 六本木温子. 不器用さをかかえる子ども達への支援. 吾妻郡特別支援教育コーディネーター研修会, 中之条, 2018. 10. 4.
- 4) 熊丸めぐみ. 循環器疾患の理学療法. 理学療法士講習会基礎編, 福井, 2018. 12. 1-12. 2.
- 5) 臼田由美子. 呼吸理学療法. 2018年度小児アレルギーエドゥケーター認定講習会, 東京, 2018. 12. 1.
- 6) 臼田由美子. 重症心身障害児の呼吸理学療法. 第一病棟勉強会, 院内, 2018. 12. 6.
- 7) 臼田由美子. 排痰法とポジショニング. 看護新人教育勉強会, 院内, 2019. 2. 26.
- 8) 松下郁江. ことばを育む. 口唇口蓋裂の患者・家族の会, 院内, 2019. 3. 14.

◆栄養調理課

- 1) 神保直樹. 失敗しない! ペースト食の作り方. 在宅療養支援委員会主催第2回勉強会, 群馬県立小児医療センター, 2018. 8. 21.
- 2) 神保裕子. 離乳食について. あさがおの会, 群馬県立小児医療センター, 2018. 11. 5.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. ME 機器の取り扱い. 平成30年度看護部新規採用者オリエンテーション, 渋川, 2018. 4. 10.
- 2) 高橋祐樹. 使える? それとも修理? ME 機器異常時見極めポイント. 医療安全研修, 渋川, 2019. 1. 21.

◆薬 剤 部

- 1) 高橋大輔. AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策講演会, 渋川, 2019. 3. 15.

◆看 護 部

- 1) 茂木ゆう子. 群馬ストーリーリハビリテーション講習会. 群馬大学附属病院, 前橋, 2018. 9. 9~9. 10.
- 2) 高橋健一. 保健医療学部看護学科キャリアアップ講座. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2018. 9. 21.
- 3) 北爪幸子. 感染管理~職場で中心となって活動するポイント~. 群馬県看護協会, 前橋, 2018. 9. 25.
- 4) 木島久仁子. 小児救急市民公開フォーラム「子どもの急な病気への対応」. 高崎市総合保健センター, 高崎, 2018. 11. 18.
- 5) 木島久仁子. 小児をみる看護スタッフのための勉強会. 前橋赤十字病院, 前橋, 2019. 2. 12.
- 6) 木島久仁子. 小児をみる看護スタッフのための勉強会. 前橋赤十字病院, 前橋, 2019. 3. 15.

◆母子保健室・地域医療連携室

- 1) 高橋雪子. 就園、就学、進学について. いちごの会, 小児医療センター, 2018. 10. 28.
- 2) 高橋雪子. 医療機関における保健師活動. 群馬大学医学部保健学科地域看護学方法論 I, 群馬大学医学部保健学科, 2018. 12. 7.
- 3) 高橋雪子. NICU からの在宅移行支援. 医療的ケア時等コーディネーター養成研修, 社会福祉総合センター, 2019. 1. 29.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 小林富男. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会 (座長), 一般口演, 「術後遠隔, 合併症」, 神奈川, 2018. 7. 5.
- 2) 小林富男. 第 38 回日本川崎病学会学術集会 (座長), 一般口演, 「急性期の治療」, 和歌山, 2018. 11. 17.
- 3) 小林富男. 第 30 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会 (座長), ポスター, 「ADO」, 埼玉, 2019. 1. 24.
- 4) 池田健太郎. 第 23 回日本小児心電学会学術集会 (座長), 一般口演, 「心電図」, 奈良, 2018. 11. 30.

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 第 60 回日本小児神経学会総会, 一般演題 (ポスター) 座長, てんかん・けいれん 6 診断・遺伝, 幕張, 千葉, 2018. 5. 31.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 54 回日本小児放射線学会学術集会, 一般口演 8 「胎児 2」, 東京, 2018. 6. 15.
- 2) 丸山憲一. 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 一般演題 (口演) 「消化器・肝・胆道-1」, 東京, 2018. 7. 9.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 渡邊美砂, 山田佳之. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会 (ミニシンポジウム座長), 「食物アレルギー: 消化管アレルギー1」, 千葉, 2018. 6. 22.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 第 55 回日本小児外科学会学術集会 (座長), 一般演題 「胃瘻」, 東京, 2018. 5. 31.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 座長 4. 画像評価. 第 18 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 大阪, 2018. 11. 10.

<整形外科>

- 1) 富沢仙一. 第 4 回群馬大学整形外科学教室同門会講演会 (座長), 小児整形外科診療のポイント 町田治郎, 前橋, 2018. 7. 28.
- 2) 富沢仙一. 第 18 回群馬大学整形外科卒後研修会 (座長), 骨形成不全症と軟骨無形成症について 鬼頭 浩史, 前橋, 2018. 9. 1.

◆リハビリテーション課

- 1) 六本木温子. 群馬県作業療法士会 新人症例発表会 (座長), 症例検討, 高崎, 2018. 4. 22.
- 2) 熊丸めぐみ. 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (座長), 一般演題口述 13 理学療法・ADL2/一般演題口述 18 トレーニング様式・運動処方 2, 横浜, 2018. 7. 14.

- 3) 臼田由美子. 第 51 回日本小児呼吸器学会 (座長), シンポジウム 2 —呼吸理学療法をどんな症例に、いつやる? 何をする?—, 札幌, 2018. 9. 28.
- 4) 臼田由美子. 第 5 回日本小児理学療法学会学術大会 (司会), 小児呼吸理学療法 —アセスメントと実際—, 大阪, 2018. 12. 23.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 第 28 回 日本臨床工学会 (座長) 一般演題 (デジタルポスター) 「集中治療 (評価・呼吸管理)」, 横浜, 2018. 5. 26.
- 2) 深町直之. 第 17 回群馬県臨床工学技士会学術大会 (座長) 一般演題 「呼吸器・機器管理・教育」, 桐生, 2018. 7. 29.
- 3) 深町直之. 第 11 回 群馬クリティカルケア研究会 (座長) 合同シンポジウム 「集中治療における多職種連携～現状と障壁をお互いが理解し、更なる前進を～」, 高崎, 2018. 11. 17.

◆看護部

- 1) 金子友香. 実習指導者としての役割遂行を支えた研究成果とその活用過程. 第 28 回日本看護教育学学会学術集会, 2018. 8. 22.
- 2) 金子友香. 自部署の問題点 「時間外勤務削減」に向けて～スタッフ看護師だから実戦できること～. 第 33 回看護経済・政策研究会研究会, 群馬, 2018. 9. 23.

8. 学生講義

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生 「臨床医学 4」 神経・精神系疾患①発作性神経疾患, 重症心身障害者 (児), 群馬, 2018. 9. 4.
- 2) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生 「臨床医学 4」 神経・精神系疾患③神経筋疾患と神経免疫疾患, 群馬, 2018. 9. 11.

<循環器科>

- 1) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患 I. 平成 30 年度群馬大学大学院医学系研究科臨床医学 I, 前橋, 2019. 1. 10.
- 2) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患 II. 平成 30 年度群馬大学大学院医学系研究科臨床医学 I, 前橋, 2019. 1. 23.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論 VII. 渋川看護専門学校, 渋川 2018. 4. 11, 18, 5. 2, 23, 30, 6. 6, 13, 20, 27.
- 2) 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論 II. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2018. 4. 11, 18, 25, 5. 2, 9, 16, 23, 30, 6. 6, 13, 20, 27, 7. 3, 11, 18, 12. 5, 7, 2019. 1. 9.
- 3) 丸山憲一. 子どもの保健 IA. 新島学園短期大学, 高崎, 2018. 4. 13, 27, 5. 11, 18, 25, 6. 1, 8, 22, 29, 7. 6, 13, 20, 21, 27, 8. 3.
- 4) 丸山憲一. 小児・新生児, 新生児蘇生法実習. 群馬県消防学校, 前橋, 2018. 11. 16, 19.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 群馬大学医学部チームワーク実習. 群馬県立小児医療センター, 渋川, 2018. 6. 21-22.
- 2) 山田佳之. 応急措置総論. 群馬県消防学校, 前橋, 2018. 11. 7.

◆歯科

- 1) 木下 樹. 老年看護学各論 I, 渋川看護専門学校看護学生講義. 渋川看護専門学校, 2018. 5. 25.
- 2) 木下 樹. 人体の構造と機能IV, 渋川看護専門学校看護学生講義. 渋川看護専門学校, 2018. 5. 31-6. 7.
- 3) 木下 樹. (口唇口蓋裂のチーム医療), 群馬大学医学部チームワーク実習. 群馬県立小児医療センター, 2018. 6. 22.
- 4) 木下 樹. 歯科麻酔学実習 (ACLS 実習), 東京医科歯科大学歯学部学生実習. 東京, 2018. 6. 29.
- 5) 木下 樹. 健康障害と回復過程各論 II, 渋川看護専門学校看護学生講義・実習. 渋川看護専門学校, 2018. 9. 5.
- 6) 木下 樹. 歯科麻酔学実習 (全身麻酔術前評価実習), 東京医科歯科大学歯学部学生実習. 東京, 2018. 10. 11.
- 7) 木下 樹. 障害児、有病児の歯科保健, 東京工科大学看護学生実習講義. 東京工科大学蒲田キャンパス, 2018. 12. 7.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学保健医療学部, 高崎, 2018. 4. 1. -9. 23. (計 5 回)
- 2) 六本木温子. 発達過程作業療法学 II. 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部, 前橋, 2018. 6. 6, 6. 13.
- 3) 熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人 秋田大学, 秋田, 2018. 11. 5.
- 4) 熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人 秋田大学, 秋田, 2018. 11. 5.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 体外循環の理解. 東京工科大学医療保健学部臨床工学科, 東京, 2018. 4. 13~6. 1. (毎週金曜日)
- 2) 深町直之. 補助人工心臓・心臓移植. 東京工科大学医療保健学部臨床工学科, 東京, 2018. 6. 8~7. 27. (毎週金曜日)
- 3) 深町直之. 循環代行技術学「PCPS・IABP」. 北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科, 新潟, 2018. 7. 14.
- 4) 深町直之. 生体機能代行装置実習 I. 北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科, 新潟, 2018. 7. 21, 2018. 8. 24.
- 5) 深町直之. 生体機能代行装置実習 II. 北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科, 新潟, 2018. 8. 31, 2018. 9. 28.

◆看護部

- 1) 石坂泰子. 基礎助産学Ⅲ. 群馬パース大学, 高崎, 2018. 4. 23.
- 2) 清水奈保. 小児看護の魅力. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 5. 9.
- 3) 金井みち子. 障害のある子どもと家族の看護. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2018. 5. 9, 5. 16.
- 4) 清水奈保. 小児看護の変遷と課題. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 5. 16.
- 5) 福島富美子. 子どもにおける疾病の経過と看護. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2018. 5. 23, 5. 30, 6. 6.
- 6) 齋藤織恵. 小児看護学方式. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2018. 6. 13.
- 7) 金子友香. 小児看護学方法. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2018. 6. 20.
- 8) 齋藤織恵. 小児看護学方式. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2018. 6. 27.
- 9) 武井貴代美. 小児看護学各論Ⅰ「さまざまな状況にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 7. 3.
- 10) 高橋敦子. さまざまな状況にある子どもと家族の看護. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 7. 10, 7. 19, 7. 31.
- 11) 木島久仁子. 重症心身障害児の障害と看護「救急対応」. 日本重症心身障害福祉協会, 東京, 2018. 8. 4.
- 12) 齋藤織恵. ハイリスク新生児の看護. 高崎医師会看護専門学校, 高崎, 2018. 9. 7.
- 13) 永沢育子. 助産診断・助産技術Ⅰ・Ⅱ. 高崎医師会看護専門学校, 高崎, 2018. 9. 10, 9. 11.
- 14) 都丸八重子. 小児看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 9. 21.
- 15) 片貝まさみ. 小児看護学各論Ⅰ「さまざまな状況にある子どもと家族の看護、手術を受ける子どもと家族」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 9. 27.
- 16) 都丸八重子. 小児看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 9. 28.
- 17) 宮川裕子. 小児看護学各論「先天的な問題を持つ子ども・障がいのある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 10. 4, 10. 11.
- 18) 石関梨華. 小児看護学各論Ⅰさまざまな状況にある子どもの看護「小児がんの子どもの看護」、「痛みや苦痛がある子どもの看護」、「死に逝く子どもとその家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 11. 8, 11. 22.
- 19) 大平典子. 小児看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 11. 13.
- 20) 小林理恵. 小児看護学方法論Ⅱ「ハイリスク新生児と家族への看護」. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2018. 11. 14.
- 21) 村上容子. 小児看護学各論Ⅱ看護技術. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 11. 19, 11. 26, 12. 3.
- 22) 大平典子. 小児看護学各論Ⅰ. 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 11. 20.
- 23) 浅野 香. 小児看護学各論Ⅱ小児看護技術救急救命(救急救命が必要な小児と家族). 渋川看護専門学校, 渋川, 2018. 11. 27, 12. 4.
- 24) 岡田睦美. 子どもと医療「病院保育士の役割」. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2018. 12. 7.
- 25) 木島久仁子. 小児看護学方法論Ⅱ「技術演習の指導」. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 1. 16.
- 26) 富樫哲夫. 小児看護学方法論Ⅱ「技術演習の指導」. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 1. 16.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

| | | | |
|-------------|-------------|-----------------------|--|
| 月曜日 | 8:00～8:30 | PICU カンファレンス | |
| | 16:45～ | 産科病棟カンファレンス | |
| | 17:00～17:30 | PICU カンファレンス | |
| | 17:00～ | 内科系合同カンファレンス | |
| | 17:00～ | 新生児科カンファレンス | |
| | 17:00～ | 小児外科合同カンファレンス | |
| | 17:15～ | 第一病棟カンファレンス | |
| | 17:30～ | 血液腫瘍科カンファレンス | |
| | 18:00～ | 血液腫瘍科抄読会 | |
| | 18:00～19:00 | 循環器カンファレンス | |
| | 18:00～ | 第一病棟・新生児科カンファレンス (適時) | |
| | 火曜日 | 8:00～8:30 | PICU カンファレンス |
| | | 13:30～ | 産科・新生児科合同カンファレンス 産科・新生児科合同カンファレンス終了後～産科・新生児科抄読会 |
| 15:00～16:00 | | 麻酔科抄読会 | |
| 16:30～17:00 | | 心臓カテーテルカンファレンス | |
| 17:00～17:30 | | PICU カンファレンス | |
| 水曜日 | | 8:00～8:30 | PICU カンファレンス |
| | 16:00～16:30 | 出生前合同カンファレンス | |
| | 17:00～17:30 | PICU カンファレンス | |
| 木曜日 | 8:00～8:30 | PICU カンファレンス | |
| | 10:30～12:00 | 全科症例検討会・総回診 | |
| | 13:00～15:00 | 外科病棟症例カンファレンス | |
| | 14:00～16:00 | 群大小児科教授回診 (第3木曜) | |
| | 16:30～ | 出生前診断カンファレンス (適時) | |
| | 16:45～ | 産科病棟カンファレンス | |
| | 17:00～17:30 | PICU カンファレンス | |
| | 17:00～ | 神経内科症例検討会 (月1回) | |
| 金曜日 | 7:45～8:30 | 循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス | |
| | 8:00～8:30 | PICU カンファレンス | |
| | 9:00～9:30 | 抄読会 | |
| | 12:30～ | アレルギー・感染免疫・呼吸器科勉強会 | |
| | 16:00～17:00 | 心臓外科症例カンファレンス | |
| | 17:00～17:30 | 第三病棟会 | |
| | 17:00～17:30 | PICU カンファレンス | |
| | 17:30～ | 産科・新生児科合同カンファレンス | |

10. 小児医療センター講話会

1) 第 132 回 2018. 10. 18

講話会: 18:00~19:00

座長: 部長 (神経内科) 渡辺美緒

招請講演

「地域支援活動から編み出されたコミュニケーション支援」

京都大学名誉教授, 四天王寺大学看護学部教授 鈴木真知子

11. クルズス (臨床講義)

実施なし

12. CPC

1) 第 104 回 2018. 6. 6.

No298 神経内科: 椎原

15 歳女 (臨床診断: 急性脳症)

2) 第 105 回 2018. 12. 12.

No299 循環器科: 池田

9 歳女 (臨床診断: 肺静脈狭窄症, 総肺静脈還流以上, 右肺欠損)

No300 産科: 佐藤

0 日男 (臨床診断: 心臓逸脱症, カントレルン症候群疑い)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

<循環器科>

1) 池田健太郎. 冠動脈エコーのコツ. 第 7 回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2018. 7. 21.

2) 下山伸哉. 関連病院からご紹介いただいた患者様の経過報告 (心筋炎の臨床経過のまとめ). 第 7 回群馬小児循環器セミナー, 渋川, 2018. 7. 21.

3) 新井修平, 小林富男, 高間典明, 大谷祐介, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉. large ASD, severe PH に対し PGI2 持続静注療法, fenestrated ASD closure 後に ASO を施行した成人例. 北関東先天性心疾患肺高血圧研究会, 大宮, 2018. 9. 1.

4) 小林富男. 学校心臓検診で発見された重症例. 平成 30 年度学校心臓検診講習会, 前橋, 2018. 9. 14.

5) 池田健太郎. 2 次検診の進め方. 群馬県学校検診セミナー, 2018. 9. 14.

6) 新井修平, 小林富男, 高間典明, 大谷祐介, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉. large ASD, severe PH に対し PGI2 持続静注療法, fenestrated ASD closure 後に ASO を施行した成人例. 群馬県肺高血圧症研究会, 前橋, 2018. 11. 2.

7) 下山伸哉. 「当院 PICU に入室した小児の救急疾患 ~循環器疾患を中心に~」. 高崎市医師会平成 30 年度第 1 回小児救急医師研修会, 高崎, 2018. 12. 3.

<新生児科>

1) 第 17 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (B コース), 2018. 10. 4.

2) 第 1 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (S コース), 2018. 10. 11.

- 3) 群馬県消防学校 新生児蘇生法実習, 2018. 11. 16, 19.
- 4) 平成 30 年度群馬県新生児蘇生法研修会S コース (第 1 回), 2018. 11. 17.
- 5) 平成 30 年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 1 回), 2018. 11. 17.
- 6) 平成 30 年度群馬県新生児蘇生法研修会S コース (第 2 回), 2019. 1. 20.
- 7) 平成 30 年度群馬県新生児蘇生法研修会 (第 3 回), 2019. 1. 20.
- 8) 平成 30 年度群馬県新生児蘇生法研修会S コース (第 3 回), 2019. 2. 2.
- 9) 平成 30 年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 2 回), 2019. 2. 2.

◆産科・新生児科

- 1) 第 26 回総合周産期母子医療センターオープンカンファレンス, 2018. 12. 8.
- 2) 第 27 回総合周産期母子医療センターオープンカンファレンス, 2019. 3. 24.

◆リハビリテーション課

- 1) 青柳のどか. 家庭での環境調整にて/s/の構音操作の獲得が認められたが会話レベルからの構音定着に難渋した機能性構音障害の症例. 群馬県言語聴覚士会 新人症例発表, 前橋, 2018. 5. 27.
- 2) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 大谷祐介, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 岡 徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者における ICU-AW 発症状況と身体機能回復に関する調査. 群馬小児循環器研究会, 前橋, 2018. 10. 6.
- 3) 熊丸めぐみ, 下山伸哉, 臼田由美子, 岡 徳彦, 小林富男. 先天性心疾患手術後患者における ICU-AW 発症状況と短期予後. 小児集中治療ワークショップ 2018, 京都, 2018. 10. 13 -10. 14.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

| No. | 研 究 テ ー マ | 氏 名 |
|-----|----------------------------------|---------|
| 1 | 小児急性骨髄性白血病における新規原因遺伝子と予後因子の同定 | 大 和 玄 季 |
| | | 鏑 木 多映子 |
| 2 | 小児用ドライボックスでの折り鶴の練習が手術手技に与える影響の検討 | 高 本 尚 弘 |
| 3 | 小児胸部手術後の胸郭変形の3D計測 | 高 澤 慎 也 |
| 4 | 脊髄性筋萎縮症に対するリハビリテーションについての検討 | 六本木 温 子 |
| | | 白 田 由美子 |
| | | 鳥 越 和 哉 |
| | | 加 藤 英 子 |
| | | 渡 辺 美 緒 |

■一般テーマ

| No. | 研 究 テ ー マ | 氏 名 |
|---------|---|---------|
| 1 | 手術室プレパレーション ～DVD作成を取り入れて～ | 高 橋 健 一 |
| | | 川 浦 秀 明 |
| 2 | 障害児の口腔ケアに関するコメディカルへの教育プログラムの開発 | 木 下 樹 |
| 3 | フォンタン術後患者および患者家族のための教育セミナー「いちごの会」の実施とその継続 | 池 田 健太郎 |
| | | 小 林 富 男 |
| | | 横 尾 美知代 |
| | | 金 井 みち子 |
| | | 石 坂 泰 子 |
| | | 林 範 子 |
| | | 石 沢 恵 理 |
| | | 本 多 喜代美 |
| | | 小 谷 洋 子 |
| | | 佐 川 有 子 |
| | | 若 林 大 介 |
| | | 福 島 富美子 |
| | | 木 島 久仁子 |
| | | 小 島 専 司 |
| 熊 丸 めぐみ | | |

| No. | 研 究 テ ー マ | 氏 名 |
|---------|---|---------|
| 4 | 消防学校救急課程における新生児蘇生法の教育について | 丸 山 憲 一 |
| 5 | 漏斗胸に対する Nuss 法術後のバー周囲仮骨形成の検討 | 浜 島 昭 人 |
| | | 佐々木 淑 恵 |
| 6 | ハンディ3D スキャナーを用いた術前術後の漏斗胸胸郭の形態評価 | 佐々木 淑 恵 |
| | | 浜 島 昭 人 |
| 7 | 小児心臓カテーテル検査におけるディストラクションの試み | 浜 本 和 美 |
| | | 樺 澤 彩 |
| 8 | 情緒の発達を促すための行事の実施 | 荒 木 理 佐 |
| | | 轟 木 由加里 |
| | | 宮 嶋 佑 紀 |
| 9 | PICU でのグリーフケア | 平 田 裕 香 |
| | | 石 関 梨 華 |
| | | 福 島 富美子 |
| 10 | 放射線技師における手指の職業被ばく線量の把握 | 清 水 宏 史 |
| 11 | 尿中白血球定性試験と沈渣白血球との比較検討 | 田 中 伸 久 |
| 12 | 超音波ガイド下腹直筋鞘ブロックにおける局所麻酔薬の広がり方と腹直筋の厚みの関係性の検討 | 廣 木 茜 |
| 13 | 先天奇形症候群児の家族の愛着形成 | 道 和 百 合 |
| | | 金 井 みち子 |
| | | 高 橋 雪 子 |
| 14 | 医療的ケア児の家族支援体制の構築に対する検討 | 渡 辺 美 緒 |
| | | 朴 明 子 |
| | | 市之宮 健 二 |
| | | 金 井 みち子 |
| | | 浅 野 香 |
| | | 高 橋 雪 子 |
| | | 瀬 下 明日香 |
| | | 白 田 由美子 |
| 近 藤 愛 子 | | |
| 15 | フィッシュ活動による職場環境改善の試み | 水 落 宏 彰 |
| | | 高 澤 慎 也 |
| | | 山 崎 聡 子 |
| | | 大 和 玄 季 |
| | | 柴 田 夕貴子 |
| | | 宮 本 佳 子 |
| | | 六本木 温 子 |
| 福 田 円 | | |

| No. | 研 究 テ ー マ | 氏 名 |
|-----|---|-----------|
| 16 | 心臓カテーテル検査における水晶体被ばく線量把握 | 木 暮 義 法 |
| 17 | 小児検査における代替機 DRI CHEM の有用性についての検討 | 笠 原 涉 |
| | | 上 田 正 徳 |
| | | 松 井 重 憲 |
| 18 | 検体検査試薬管理におけるタブレット端末の有効性の検討 | 松 井 重 憲 |
| | | 上 田 正 徳 |
| | | 笠 原 涉 |
| 19 | Extended-spectrum β -lactamases (ESBL) 産生菌の遺伝子型解析 | 中 村 瑠 里 |
| | | 佐 藤 敦 子 |
| 20 | 転倒・転落防止プログラム ～入院オリエンテーションに DVD 視聴を取り入れて～ | 福 田 円 |
| 21 | KB テストと血液ガス分析による HbF 測定の比較検討 | 田 原 貴 子 |
| | | 松 井 重 憲 |
| | | 新 井 菜 津 子 |
| 22 | 髄液検査項目における参考基準範囲の設定 | 新 井 菜 津 子 |
| | | 田 中 伸 久 |
| 23 | 周産期における不規則抗体産出状況の検討 | 熊 野 悠 美 子 |
| 24 | 食品酵素剤を用いた調理効果、栄養価の向上 | 神 保 直 樹 |
| | | 神 保 裕 子 |
| | | 磯 田 有 香 |
| | | 狩 野 知 子 |
| 25 | 麻酔導入時に一過性房室接合部調律をきたす患者における術前心電図解析 | 黒 岩 陽 介 |
| 26 | 小児先天性心疾患患者に対する TCPC 術中に於ける心外導管の血流方向・分布が予後に及ぼす影響 | 松 本 直 樹 |
| 27 | 鍍銀染色の基礎的検討 | 三 宅 妙 子 |
| 28 | 学校における椅子座位姿勢設定が、机上動作や学習効率に及ぼす影響についての検討 | 萩 原 絵 梨 |
| | | 六 本 木 温 子 |
| | | 加 藤 英 子 |
| 29 | EzPAP 使用時の吸入酸素濃度について | 熊 丸 めぐみ |
| | | 下 山 伸 哉 |
| | | 深 町 直 之 |
| 30 | ポータブル撮影装置における低管電流時間積の精度検証 | 萩 原 祐 輔 |
| 31 | 運動器 2 次検診者における運動指導とその効果の検討 | 鳥 越 和 哉 |
| | | 富 沢 仙 一 |
| | | 浅 井 伸 治 |
| | | 臼 田 由 美 子 |
| 32 | AST 活動による効果の検討 | 高 橋 大 輔 |

| No. | 研 究 テ ー マ | 氏 名 |
|-----|-----------------------------------|---------|
| 33 | 後発医薬品採用による医薬品購入金額削減効果 | 藤 波 洋 征 |
| | | 高 橋 大 輔 |
| 34 | 血漿交換時の凝固系の評価 | 下 山 伸 哉 |
| 35 | 患者の最後の場所でもある霊安室の改善 ～グリーンケアの一步として～ | 都 丸 八重子 |
| | | 石 関 梨 華 |
| 36 | 新生児敗血症におけるサイトカインの検討 | 小 泉 亜 矢 |
| | | 丸 山 憲 一 |

2 院外研究費による研究

(1) 県立病院総合研究(群馬県)(平成30年度)

- 1) 患者と医療者の利便性向上を目的とした手術枠ネット予約システムの試験導入. 主任研究者: 高澤慎也. 副主任研究者: 西 明. 分担研究者: 谷 有希子, 五嶋 翼, 内田康幸, 松本直樹, 浅野 香, 片貝まさみ, 村上容子, 猪岡忠仁, 太田知幸.
- 2) ダウン症候群と非ダウン症候群でみられる血液疾患の遺伝子異常と臨床像の解析. 主任研究者: 川島 淳. 副主任研究者: 大和玄季, 朴 明子. 分担研究者: 原 勇介(群馬大学小児科), 外松 学.
- 3) 小児便秘症患者に対する食事療法の検討—食物繊維摂取量を考慮した栄養指導の効果及び牛乳アレルギーの関与について—. 主任研究者: 磯田有香. 副主任研究者: 高澤慎也. 分担研究者: 河野美咲, 神保裕子, 内田康幸, 西 明, 清水真理子, 山田佳之.

(2) その他院外研究費による研究

- 1) 山田佳之. 平成30年日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C(一般). 消化管アレルギー性炎症との関連からの先天性消化管閉塞性疾患の病態関連分子の解明. 研究代表者: 山田佳之.
- 2) 山田佳之. 平成30年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C(一般). ウイルス感染喘息の病態における自然型及び獲得型アレルギーの病態解明と新規制御機構の検討. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 加藤政彦.
- 3) 山田佳之. 平成30年度厚生労働省厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業). 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 野村伊知郎.
- 4) 山田佳之. 平成30年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費(難治性疾患実用化研究事業). 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法に関するエビデンス創出研究. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 野村伊知郎.
- 5) 山田佳之. 平成30年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費(革新的医療技術創出拠点プロジェクト, 橋渡し研究戦略的推進プログラム: シーズA). 3次元構造マイクロファイバーによる白血病微小残存病変モニタリング—がん(悪性腫瘍)の転移・再発指標としての血中循環腫瘍細胞モニタリングへの発展に向けて—. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 高井まどか.
- 6) 山田佳之. 平成30年度県立病院総合研究. 小児便秘症患者に対する食事療法の検討—食物繊維摂取量を考慮した栄養指導の効果及び牛乳アレルギーの関与について—. 分担研究者: 山田佳之, 主任研究者: 磯田有香.

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

| 区 分 | | 単位 | 30 年度 | 29 年度 | | |
|-----------------------|----------------------------|-------------------|-----------|-------|--------|--------|
| 病 床 利 用 率 | | % | 76.2 | 70.9 | | |
| 患 者 数 | 1 日 平 均 患 者 数 | 入 院 | 人 | 114.2 | 106.3 | |
| | | 外 来 | 人 | 197.7 | 189.9 | |
| | 外 来 入 院 比 率 | | % | 115.7 | 119.4 | |
| | 職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数 | 医 師 | 入 院 | 人 | 2.6 | 2.6 |
| | | | 外 来 | 人 | 4.5 | 4.6 |
| | | 看 護 師 | 入 院 | 人 | 0.5 | 0.5 |
| 外 来 | | | 人 | 0.9 | 0.9 | |
| 収 入 | 患 者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入 | 入 院 診 療 収 入 | | 円 | 85,762 | 84,584 |
| | | う ち | 薬 品 収 入 | 円 | 6,197 | 3,366 |
| | | | 検 査 収 入 | 円 | 729 | 736 |
| | | | 放 射 線 収 入 | 円 | 130 | 141 |
| | | 外 来 診 療 収 入 | | 円 | 16,019 | 16,557 |
| | | う ち | 薬 品 収 入 | 円 | 3,746 | 4,648 |
| | | | 検 査 収 入 | 円 | 2,702 | 2,706 |
| | | | 放 射 線 収 入 | 円 | 911 | 973 |
| 費 用 | 患 者 1 人 1 日 当 り 材 料 費 | 材 料 費 | | 円 | 12,538 | 12,815 |
| | | う ち | 薬 品 費 | 円 | 7,391 | 7,365 |
| | | | 診 療 材 料 費 | 円 | 4,855 | 5,113 |
| 診 療 収 入 に 対 する 割 合 | 投 薬 ・ 注 射 収 入 | | % | 10.1 | 8.5 | |
| | 検 査 収 入 | | % | 3.7 | 3.8 | |
| | 放 射 線 収 入 | | % | 1.1 | 1.2 | |
| 対 医 業 収 益 比 | 医 療 材 料 費 | 薬 品 費 | | % | 14.8 | 15.0 |
| | | そ の 他 の 医 療 材 料 費 | | % | 9.8 | 10.5 |
| | | 計 | | % | 24.7 | 25.5 |
| | 職 員 給 与 費 | | % | 77.3 | 81.4 | |
| 検 査 の 状 況 | 患 者 100 人 当 り | 検 査 件 数 | | 件 | 522 | 552 |
| | | 放 射 線 件 数 | | 件 | 40 | 42 |
| | 検 査 技 師 1 人 当 り | 検 査 件 数 | | 件 | 46,990 | 42,742 |
| | | 検 査 収 入 | | 千円 | 16,071 | 13,992 |
| | X 線 技 師 1 人 当 り | 放 射 線 件 数 | | 件 | 5,998 | 5,896 |
| | | 放 射 線 収 入 | | 千円 | 8,226 | 8,428 |

| 28 年度 | 27 年度 | 26 年度 | 25 年度 | 24 年度 | 23 年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 71.4 | 73.5 | 69.2 | 73.5 | 74.3 | 75.8 |
| 107.1 | 110.3 | 103.8 | 110.2 | 111.4 | 113.7 |
| 190.7 | 193.9 | 191.2 | 190.8 | 189.1 | 184.7 |
| 118.5 | 116.7 | 123.1 | 115.7 | 113.9 | 108.3 |
| 2.4 | 2.5 | 2.4 | 2.4 | 2.7 | 2.8 |
| 4.3 | 4.3 | 4.4 | 4.2 | 4.5 | 4.5 |
| 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| 0.9 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 0.8 | 0.8 |
| 81,467 | 80,675 | 87,441 | 78,463 | 79,433 | 72,948 |
| 1,861 | 1,917 | 2,002 | 5,656 | 6,483 | 7,097 |
| 945 | 762 | 684 | 1,080 | 1,134 | 947 |
| 157 | 108 | 124 | 489 | 468 | 342 |
| 16,854 | 16,636 | 15,614 | 15,437 | 14,100 | 12,737 |
| 4,781 | 5,140 | 4,393 | 4,540 | 4,014 | 3,546 |
| 2,574 | 2,407 | 2,262 | 2,303 | 2,059 | 2,004 |
| 952 | 830 | 842 | 791 | 779 | 743 |
| 11,940 | 11,885 | 12,412 | 11,415 | 11,252 | 10,568 |
| 6,683 | 6,528 | 6,490 | 5,057 | 6,256 | 6,003 |
| 4,939 | 5,040 | 5,624 | 4,840 | 4,996 | 4,565 |
| 7.4 | 7.9 | 6.9 | 11.3 | 11.2 | 12.4 |
| 3.9 | 3.6 | 3.3 | 3.9 | 3.4 | 3.4 |
| 1.3 | 1.1 | 1.1 | 1.5 | 1.3 | 1.3 |
| 13.9 | 13.6 | 13.1 | 13.6 | 13.5 | 13.8 |
| 10.4 | 11.2 | 11.9 | 11.0 | 10.8 | 10.5 |
| 24.3 | 24.8 | 25.0 | 24.6 | 24.2 | 24.3 |
| 85.1 | 81.0 | 78.7 | 78.7 | 75.6 | 79.9 |
| 548 | 509 | 519 | 481 | 476 | 470 |
| 39 | 47 | 45 | 43 | 41 | 23 |
| 42,528 | 37,115 | 39,911 | 37,959 | 41,417 | 45,289 |
| 14,204 | 12,013 | 11,951 | 13,698 | 14,152 | 14,413 |
| 5,614 | 6,793 | 6,393 | 6,257 | 5,873 | 3,355 |
| 8,381 | 7,244 | 7,333 | 9,417 | 9,189 | 7,954 |

②収益的收入及び支出

| 科 目 | 30 年 度 | | 29 年 度 | | 28 年 度 | |
|---------------------------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 |
| 病 院 事 業 収 益 | 6,396,400 | 100.0 | 5,961,445 | 100.0 | 5,839,593 | 100.0 |
| 医 業 収 益 | 4,479,634 | 70.0 | 4,182,516 | 70.2 | 4,102,408 | 70.3 |
| 入 院 収 益 | 3,576,198 | 55.9 | 3,281,682 | 55.0 | 3,185,180 | 54.5 |
| 外 来 収 益 | 772,741 | 12.1 | 767,134 | 12.9 | 781,018 | 13.4 |
| そ の 他 医 業 収 益 | 130,695 | 2.0 | 133,700 | 2.2 | 136,210 | 2.3 |
| 医 業 外 収 益 | 1,916,766 | 30.0 | 1,778,930 | 29.8 | 1,736,409 | 29.7 |
| 受 取 利 息 配 当 金 | 99 | 0.0 | 100 | 0.0 | 171 | 0.0 |
| 補 助 金 | 19,650 | 0.3 | 19,486 | 0.3 | 19,751 | 0.3 |
| 負 担 金 ・ 交 付 金 | 1,460,339 | 22.8 | 1,331,884 | 22.3 | 1,309,745 | 22.4 |
| 長 期 前 受 金 戻 入 | 251,611 | 3.9 | 256,644 | 4.3 | 249,955 | 4.3 |
| そ の 他 医 業 外 収 益 | 185,066 | 2.9 | 170,815 | 2.9 | 156,786 | 2.7 |
| 特 別 利 益 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 777 | 0.0 |
| 病 院 事 業 費 用 | 6,340,695 | 100.0 | 6,132,370 | 100.0 | 6,103,576 | 100.0 |
| 医 業 費 用 | 6,206,980 | 97.9 | 6,024,962 | 98.2 | 5,980,166 | 98.0 |
| 給 与 費 | 3,462,586 | 54.6 | 3,404,643 | 55.5 | 3,491,030 | 57.2 |
| 材 料 費 | 1,127,088 | 17.8 | 1,090,952 | 17.8 | 1,020,160 | 16.7 |
| 経 費 | 1,124,717 | 17.7 | 1,031,407 | 16.8 | 982,641 | 16.1 |
| 減 価 償 却 費 | 445,725 | 7.0 | 453,151 | 7.4 | 416,370 | 6.8 |
| 資 産 減 耗 費 | 11,320 | 0.2 | 5,113 | 0.1 | 24,189 | 0.4 |
| 研 究 研 修 費 | 35,544 | 0.6 | 39,695 | 0.6 | 45,775 | 0.7 |
| 医 業 外 費 用 | 103,383 | 1.6 | 107,408 | 1.8 | 92,321 | 1.5 |
| 支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費 | 13,849 | 0.2 | 15,155 | 0.2 | 15,945 | 0.3 |
| 母 子 保 健 指 導 費 | 193 | 0.0 | 201 | 0.0 | 116 | 0.0 |
| 雑 損 失 | 89,341 | 1.4 | 92,053 | 1.5 | 76,260 | 1.2 |
| 特 別 損 失 | 30,332 | 0.5 | 0 | 0.0 | 31,089 | 0.5 |
| 収 支 差 | 55,705 | | ▲ 170,925 | | ▲ 263,984 | |

(単位：千円・%)

| 27年度 | | 26年度 | | 25年度 | | 24年度 | | 23年度 | |
|-----------|-------|-------------|-------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
| 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 |
| 5,894,218 | 100.0 | 5,966,108 | 100.0 | 5,677,776 | 100.0 | 5,644,941 | 100.0 | 5,422,776 | 100.0 |
| 4,192,060 | 71.1 | 4,200,095 | 70.4 | 4,033,456 | 71.0 | 4,037,532 | 71.5 | 3,773,312 | 69.6 |
| 3,256,138 | 55.2 | 3,313,567 | 55.5 | 3,156,562 | 55.6 | 3,230,146 | 57.2 | 3,036,976 | 56.0 |
| 783,789 | 13.3 | 728,444 | 12.2 | 718,698 | 12.7 | 653,336 | 11.6 | 574,041 | 10.6 |
| 152,133 | 2.6 | 158,083 | 2.6 | 158,196 | 2.8 | 154,050 | 2.7 | 162,295 | 3.0 |
| 1,702,141 | 28.9 | 1,765,729 | 29.6 | 1,644,320 | 29.0 | 1,607,409 | 28.5 | 1,649,464 | 30.4 |
| 541 | 0.0 | 524 | 0.0 | 479 | 0.0 | 333 | 0.0 | 372 | 0.0 |
| 19,597 | 0.3 | 20,106 | 0.3 | 43,925 | 0.8 | 42,283 | 0.7 | 42,509 | 0.8 |
| 1,327,036 | 22.5 | 1,361,337 | 22.8 | 1,478,695 | 26.0 | 1,441,863 | 25.5 | 1,533,393 | 28.3 |
| 237,182 | 4.0 | 235,035 | 3.9 | | | | | | |
| 117,785 | 2.0 | 148,727 | 2.5 | 121,221 | 2.1 | 122,930 | 2.2 | 73,190 | 1.3 |
| 17 | 0.0 | 284 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| 5,988,480 | 100.0 | 7,186,361 | 100.0 | 5,485,445 | 100.0 | 5,311,825 | 100.0 | 5,161,525 | 100.0 |
| 5,847,341 | 97.6 | 5,777,535 | 80.4 | 5,382,080 | 98.1 | 5,180,352 | 102.6 | 5,079,853 | 100.6 |
| 3,394,094 | 56.7 | 3,305,522 | 46.0 | 3,175,105 | 57.9 | 3,053,602 | 60.5 | 3,016,281 | 59.7 |
| 1,039,635 | 17.4 | 1,049,436 | 14.6 | 990,649 | 18.1 | 978,925 | 19.4 | 915,875 | 18.1 |
| 955,823 | 16.0 | 970,270 | 13.5 | 950,423 | 17.3 | 871,021 | 17.2 | 829,686 | 16.4 |
| 405,399 | 6.8 | 404,954 | 5.6 | 220,381 | 4.0 | 235,228 | 4.7 | 278,823 | 5.5 |
| 9,531 | 0.2 | 5,730 | 0.1 | 4,779 | 0.1 | 7,232 | 0.1 | 6,234 | 0.1 |
| 42,859 | 0.7 | 41,623 | 0.6 | 40,743 | 0.7 | 34,344 | 0.7 | 32,954 | 0.7 |
| 110,000 | 1.8 | 102,502 | 1.4 | 102,917 | 1.9 | 116,238 | 2.3 | 81,186 | 1.6 |
| 17,154 | 0.3 | 17,203 | 0.2 | 18,830 | 0.3 | 20,602 | 0.4 | 22,294 | 0.4 |
| 363 | 0.0 | 339 | 0.0 | 440 | 0.0 | 774 | 0.0 | 701 | 0.0 |
| 92,482 | 1.5 | 84,960 | 1.2 | 83,647 | 1.5 | 94,862 | 1.9 | 58,191 | 1.2 |
| 31,139 | 0.5 | 1,306,324 | 18.2 | 448 | 0.0 | 15,235 | 0.3 | 486 | 0.0 |
| ▲ 94,261 | | ▲ 1,220,252 | | 192,331 | | 333,116 | | 261,251 | |

③月別医業収益内訳

| 区分 | | 月別 | | | | | | |
|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
| 入院収益 | 入院料 | 121,446,468 | 161,636,402 | 252,555,165 | 241,056,212 | 190,484,441 | 207,768,400 | 211,726,937 |
| | 給食料 | 2,626,385 | 3,491,190 | 5,198,685 | 4,647,279 | 4,539,016 | 3,911,637 | 4,543,636 |
| | 投薬 | 739,720 | 900,210 | 897,139 | 1,233,306 | 1,043,097 | 627,402 | 1,048,523 |
| | 注射 | 31,225,630 | 22,774,240 | 22,881,003 | 14,221,456 | 24,581,350 | 22,499,767 | 35,119,772 |
| | 処置及び手術 | 50,390,480 | 65,884,460 | 63,565,053 | 51,141,773 | 60,156,435 | 50,411,260 | 73,330,315 |
| | 検査 | 2,271,100 | 2,298,750 | 2,539,225 | 2,216,927 | 3,446,153 | 2,871,895 | 3,983,450 |
| | X線 | 370,980 | 326,620 | 458,642 | 413,470 | 376,276 | 617,130 | 725,065 |
| | その他 | 6,565,810 | 4,905,150 | 4,088,207 | -667,398 | 4,027,086 | 3,602,103 | 4,736,832 |
| | 計 | 215,636,573 | 262,217,022 | 352,183,119 | 314,263,025 | 288,653,854 | 292,309,594 | 335,214,530 |
| 外来収益 | 初診料 | 1,503,250 | 1,439,420 | 1,655,153 | 1,878,908 | 1,985,784 | 1,594,161 | 1,735,363 |
| | 再診料 | 4,810,530 | 4,925,490 | 4,875,313 | 5,270,871 | 5,843,597 | 4,810,080 | 5,444,493 |
| | 投薬 | 151,530 | 657,590 | 127,945 | 987,028 | 877,142 | 163,383 | 906,477 |
| | 注射 | 663,500 | 173,290 | -97,211 | -178,746 | 14,595,293 | 18,989,680 | 21,680,660 |
| | 処置及び手術 | 3,669,170 | 4,169,700 | 3,276,678 | 4,958,966 | 4,060,657 | 2,800,317 | 4,975,603 |
| | 検査 | 9,922,270 | 10,058,980 | 10,238,299 | 12,087,973 | 13,748,341 | 9,979,843 | 11,880,589 |
| | X線 | 3,113,630 | 2,990,810 | 3,334,643 | 4,271,662 | 5,179,313 | 3,300,082 | 4,374,578 |
| | その他 | 21,067,073 | 24,399,473 | 22,690,832 | 22,606,778 | 25,532,512 | 25,396,161 | 24,191,941 |
| | 計 | 44,900,953 | 48,814,753 | 46,101,652 | 51,883,440 | 71,822,639 | 67,033,707 | 75,189,704 |
| その他 | 6,839,722 | 7,836,669 | 8,665,885 | 10,998,734 | 10,698,414 | 6,300,625 | 9,687,827 | |
| 合計 | 267,377,248 | 318,868,444 | 406,950,656 | 377,145,199 | 371,174,907 | 365,643,926 | 420,092,061 | |

(単位：円・%)

| 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 30年度計 | 29年度計 | 対前年比 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|---------------|-------|
| 210,357,011 | 238,991,256 | 210,006,928 | 229,890,025 | 205,828,651 | 2,481,747,896 | 2,300,516,687 | 107.9 |
| 4,843,499 | 4,914,976 | 4,113,560 | 4,380,590 | 4,662,662 | 51,873,115 | 47,015,249 | 110.3 |
| 1,424,636 | 1,790,941 | 1,287,898 | 1,260,063 | 667,828 | 12,920,763 | 13,907,952 | 92.9 |
| 2,704,540 | 15,398,755 | 25,614,450 | 13,518,760 | 14,963,573 | 245,503,296 | 116,691,123 | 210.4 |
| 62,552,912 | 55,387,698 | 63,339,688 | 44,534,692 | 59,533,855 | 700,228,621 | 724,363,398 | 96.7 |
| 2,333,648 | 1,508,032 | 2,421,410 | 1,679,750 | 2,815,323 | 30,385,663 | 28,544,304 | 106.5 |
| 465,972 | 380,137 | 424,686 | 299,232 | 562,909 | 5,421,119 | 5,471,532 | 99.1 |
| 4,858,632 | 4,389,410 | 3,516,861 | 4,294,511 | 3,800,902 | 48,118,106 | 45,171,877 | 106.5 |
| 289,540,850 | 322,761,205 | 310,725,481 | 299,857,623 | 292,835,703 | 3,576,198,579 | 3,281,682,122 | 109.0 |
| 1,677,200 | 1,671,856 | 1,747,669 | 1,427,850 | 1,574,266 | 19,890,880 | 18,180,662 | 109.4 |
| 5,145,443 | 5,264,261 | 4,999,580 | 4,871,430 | 5,482,774 | 61,743,862 | 58,765,465 | 105.1 |
| 160,543 | 1,516,038 | 226,500 | 205,252 | 295,881 | 6,275,309 | 7,391,044 | 84.9 |
| 23,973,702 | 28,199,263 | 26,767,709 | 29,367,287 | 10,281,638 | 174,416,065 | 207,963,568 | 83.9 |
| 4,422,840 | 4,345,133 | 3,774,960 | 3,368,290 | 4,409,131 | 48,231,445 | 43,976,700 | 109.7 |
| 9,983,438 | 11,447,798 | 9,654,964 | 9,641,297 | 11,675,833 | 130,319,625 | 125,370,234 | 103.9 |
| 3,386,977 | 4,142,782 | 3,034,166 | 2,958,520 | 3,850,282 | 43,937,445 | 45,094,583 | 97.4 |
| 25,832,348 | 24,875,400 | 25,984,685 | 23,181,098 | 22,180,518 | 287,938,819 | 260,400,804 | 110.6 |
| 74,582,491 | 81,462,531 | 76,190,233 | 75,021,024 | 59,750,323 | 772,753,450 | 767,143,060 | 100.7 |
| 8,952,386 | 5,967,198 | 11,350,809 | 6,302,712 | 39,951,609 | 133,552,590 | 136,877,297 | 97.6 |
| 373,075,727 | 410,190,934 | 398,266,523 | 381,181,359 | 392,537,635 | 4,482,504,619 | 4,185,702,479 | 107.1 |

2 診療業務

(1) 総括表

| 区 分 | | 30 年度 | 29 年度 | 28 年度 | | |
|--------|---------------|-------|--------------------------------|----------|----------|---------|
| 外 来 | 診 療 日 数 | A | 244 日 | 244 日 | 243 日 | |
| | 新 患 者 数 | B | 3,284 人 | 3,007 人 | 3,141 人 | |
| | 延 患 者 数 | C | 48,239 人 | 46,334 人 | 46,340 人 | |
| | 平 均 通 院 日 数 | D | C/B | 14.7 日 | 15.4 日 | 14.8 日 |
| | 日 平 均 新 患 者 数 | E | B/A | 13.5 人 | 12.3 人 | 12.9 人 |
| | 日 平 均 患 者 数 | F | C/A | 197.7 人 | 189.9 人 | 190.7 人 |
| 入 院 | 診 療 日 数 | G | 365 日 | 365 日 | 365 日 | |
| | 病 床 数 | H | 150 床 | 150 床 | 150 床 | |
| | 新 入 院 患 者 数 | I | 3,311 人 | 3,021 人 | 3,026 人 | |
| | 退 院 患 者 数 | J | 3,297 人 | 3,033 人 | 3,025 人 | |
| | 延 入 院 患 者 数 | K | 41,699 人 | 38,798 人 | 39,098 人 | |
| | 病 床 利 用 率 | L | $K/G \times 100$ | 76.2% | 70.9% | 71.4% |
| | 病 床 回 転 率 | M | $\{(I+J) \times 1/2\} / H / L$ | 28.9 回 | 28.5 回 | 28.2 回 |
| | 平 均 在 院 日 数 | N | $K / \{(I+J) / 2\}$ | 12.6 日 | 12.8 日 | 12.9 日 |
| | 外 来 入 院 比 率 | O | $C / K \times 100$ | 115.7% | 119.4% | 118.5% |
| | 入 院 率 | P | $I / B \times 100$ | 100.8% | 100.5% | 96.3% |
| | 日 平 均 新 入 院 数 | Q | I/G | 9.1 人 | 8.3 人 | 8.3 人 |
| | 日 平 均 患 者 数 | R | K/G | 114.2 人 | 106.3 人 | 107.1 人 |

| 27年度 | 26年度 | 25年度 | 24年度 | 23年度 | 22年度 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 243日 | 244日 | 244日 | 245日 | 244日 | 243日 |
| 3,333人 | 3,143人 | 3,145人 | 2,934人 | 2,763人 | 3,113人 |
| 47,114人 | 46,654人 | 46,558人 | 46,337人 | 45,070人 | 46,090人 |
| 14.1日 | 14.8日 | 14.8日 | 15.8日 | 16.3日 | 14.8日 |
| 13.7人 | 12.9人 | 12.9人 | 12.0人 | 11.3人 | 12.8人 |
| 193.9人 | 191.2人 | 190.8人 | 189.1人 | 184.7人 | 189.7人 |
| 366日 | 365日 | 365日 | 365日 | 366日 | 365日 |
| 150床 | 150床 | 150床 | 150床 | 150床 | 150床 |
| 3,084人 | 2,954人 | 2,778人 | 2,757人 | 2,696人 | 2,663人 |
| 3,075人 | 2,948人 | 2,788人 | 2,761人 | 2,695人 | 2,665人 |
| 40,361人 | 37,895人 | 40,230人 | 40,665人 | 41,632人 | 41,059人 |
| 73.5% | 69.2% | 73.5% | 74.3% | 75.8% | 75.0% |
| 27.9回 | 28.4回 | 25.2回 | 24.8回 | 23.7回 | 23.7回 |
| 13.1日 | 12.8日 | 14.5日 | 14.7日 | 15.4日 | 15.4日 |
| 116.7% | 123.1% | 115.7% | 113.9% | 108.3% | 112.3% |
| 92.5% | 94.0% | 88.3% | 94.0% | 97.6% | 85.5% |
| 8.4人 | 8.1人 | 7.6人 | 7.6人 | 7.4人 | 7.3人 |
| 110.3人 | 103.8人 | 110.2人 | 111.4人 | 113.7人 | 112.5人 |

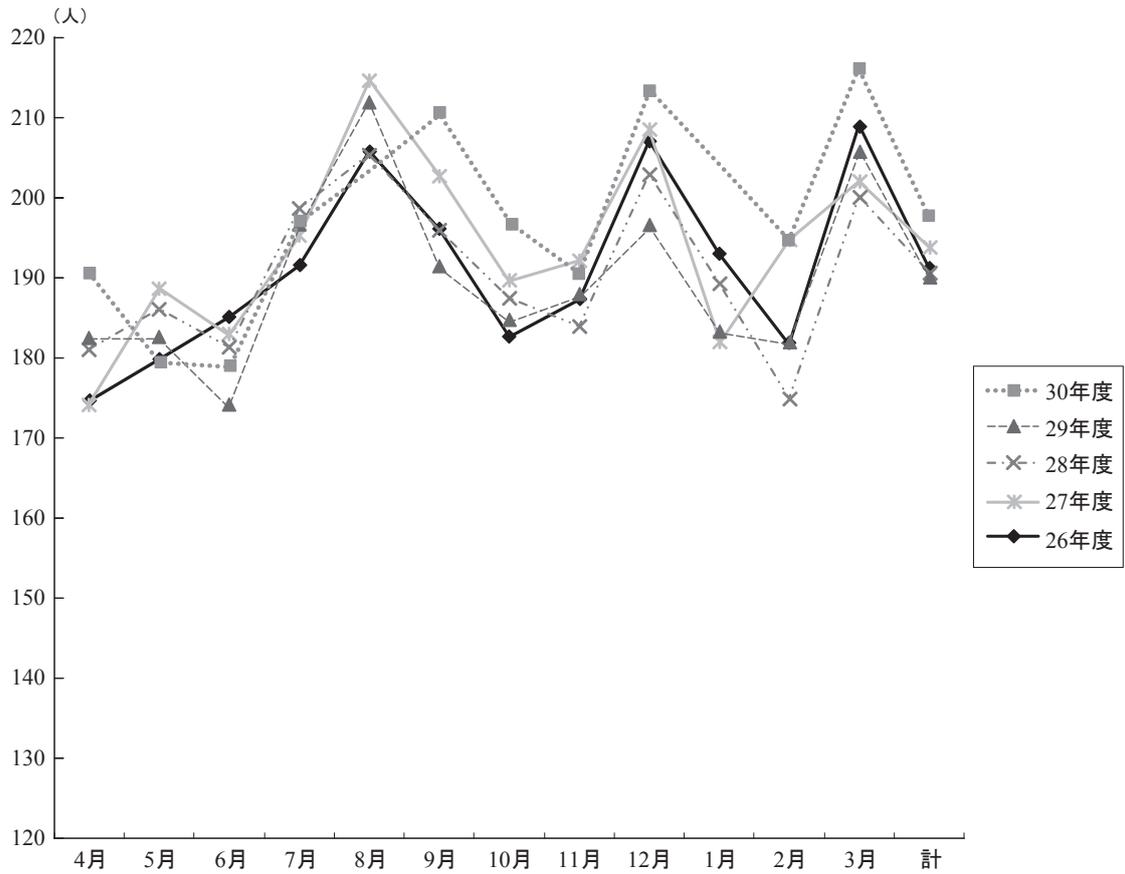
(2) 月別・科別外来患者受診の状況（人）

| 区分 | 月別 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 一般内科 | 初診 | 29 | 53 | 45 | 51 | 71 | 61 |
| | 再診 | 136 | 171 | 166 | 229 | 235 | 175 | 200 |
| | 延数 | 165 | 224 | 211 | 280 | 306 | 236 | 233 |
| 内分泌代謝科 | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再診 | 66 | 55 | 46 | 57 | 87 | 64 | 59 |
| | 延数 | 66 | 55 | 46 | 57 | 87 | 64 | 59 |
| 腎臓内科 | 初診 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 |
| | 再診 | 59 | 69 | 70 | 74 | 94 | 64 | 62 |
| | 延数 | 59 | 69 | 71 | 75 | 98 | 65 | 63 |
| アレルギー 感染免疫科 | 初診 | 0 | 3 | 3 | 10 | 4 | 2 | 3 |
| | 再診 | 233 | 182 | 197 | 179 | 189 | 177 | 221 |
| | 延数 | 233 | 185 | 200 | 189 | 193 | 179 | 224 |
| 血液腫瘍科 | 初診 | 1 | 4 | 1 | 3 | 2 | 4 | 2 |
| | 再診 | 59 | 71 | 65 | 91 | 98 | 69 | 76 |
| | 延数 | 60 | 75 | 66 | 94 | 100 | 73 | 78 |
| リハビリ | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再診 | 468 | 480 | 477 | 507 | 517 | 445 | 546 |
| | 延数 | 468 | 480 | 477 | 507 | 517 | 445 | 546 |
| 小児精神科 | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再診 | 13 | 15 | 15 | 14 | 20 | 12 | 19 |
| | 延数 | 13 | 15 | 15 | 14 | 20 | 12 | 19 |
| 遺伝科 | 初診 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| | 再診 | 11 | 14 | 22 | 10 | 28 | 15 | 13 |
| | 延数 | 11 | 14 | 23 | 13 | 28 | 15 | 14 |
| 眼科 | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再診 | 8 | 8 | 5 | 10 | 4 | 8 | 9 |
| | 延数 | 8 | 8 | 5 | 10 | 4 | 8 | 9 |
| 耳鼻咽喉科 | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 再診 | 30 | 12 | 26 | 22 | 41 | 18 | 32 |
| | 延数 | 30 | 12 | 26 | 22 | 41 | 19 | 32 |
| 循環器科 | 初診 | 25 | 21 | 42 | 52 | 58 | 54 | 73 |
| | 再診 | 389 | 408 | 394 | 467 | 593 | 436 | 547 |
| | 延数 | 414 | 429 | 436 | 519 | 651 | 490 | 620 |
| 神経内科 | 初診 | 22 | 8 | 8 | 9 | 12 | 13 | 16 |
| | 再診 | 332 | 328 | 378 | 346 | 352 | 321 | 353 |
| | 延数 | 354 | 336 | 386 | 355 | 364 | 334 | 369 |
| 一般外科 | 初診 | 31 | 38 | 49 | 42 | 43 | 33 | 45 |
| | 再診 | 345 | 344 | 329 | 415 | 437 | 425 | 372 |
| | 延数 | 376 | 382 | 378 | 457 | 480 | 458 | 417 |
| 形成外科 | 初診 | 36 | 38 | 32 | 38 | 38 | 38 | 36 |
| | 再診 | 324 | 292 | 275 | 350 | 359 | 306 | 370 |
| | 延数 | 360 | 330 | 307 | 388 | 397 | 344 | 406 |
| 整形外科 | 初診 | 22 | 14 | 17 | 14 | 13 | 14 | 25 |
| | 再診 | 327 | 248 | 249 | 292 | 360 | 246 | 300 |
| | 延数 | 349 | 262 | 266 | 306 | 373 | 260 | 325 |
| 脳神経外科 | 初診 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 再診 | 0 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 2 |
| | 延数 | 0 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 2 |
| 新生児科 | 初診 | 25 | 31 | 25 | 19 | 37 | 24 | 30 |
| | 再診 | 263 | 279 | 259 | 245 | 339 | 262 | 297 |
| | 延数 | 288 | 310 | 284 | 264 | 376 | 286 | 327 |
| 産科 | 初診 | 35 | 33 | 38 | 39 | 25 | 29 | 40 |
| | 再診 | 197 | 199 | 180 | 183 | 212 | 180 | 190 |
| | 延数 | 232 | 232 | 218 | 222 | 237 | 209 | 230 |
| 歯科 | 初診 | 19 | 10 | 15 | 12 | 15 | 15 | 13 |
| | 再診 | 308 | 339 | 326 | 351 | 391 | 275 | 345 |
| | 延数 | 327 | 349 | 341 | 363 | 406 | 290 | 358 |
| 合計 | 初診 | 245 | 253 | 277 | 293 | 322 | 289 | 318 |
| | 再診 | 3,568 | 3,515 | 3,481 | 3,844 | 4,359 | 3,499 | 4,013 |
| | 延数 | 3,813 | 3,768 | 3,758 | 4,137 | 4,681 | 3,788 | 4,331 |
| 診療実日数 | | 20 | 21 | 21 | 21 | 23 | 18 | 22 |
| 日平均患者数 | | 190.7 | 179.4 | 179.0 | 197.0 | 203.5 | 210.4 | 196.9 |

(単位：人・%)

| 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 30年度計 | 29年度計 | 対前年比 |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 33 | 30 | 45 | 32 | 43 | 526 | 540 | 97.4 |
| 212 | 228 | 202 | 184 | 231 | 2,369 | 2,380 | 99.5 |
| 245 | 258 | 247 | 216 | 274 | 2,895 | 2,920 | 99.1 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.0 |
| 43 | 47 | 53 | 38 | 45 | 660 | 783 | 84.3 |
| 43 | 47 | 53 | 38 | 45 | 660 | 784 | 84.2 |
| 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 14 | 28 | 50.0 |
| 54 | 75 | 47 | 54 | 73 | 795 | 972 | 81.8 |
| 55 | 75 | 49 | 55 | 75 | 809 | 1,000 | 80.9 |
| 5 | 2 | 1 | 8 | 3 | 44 | 42 | 104.8 |
| 177 | 207 | 198 | 195 | 232 | 2,387 | 2,195 | 108.7 |
| 182 | 209 | 199 | 203 | 235 | 2,431 | 2,237 | 108.7 |
| 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 21 | 22 | 95.5 |
| 67 | 84 | 65 | 81 | 89 | 915 | 849 | 107.8 |
| 68 | 85 | 65 | 83 | 89 | 936 | 871 | 107.5 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 531 | 536 | 487 | 490 | 492 | 5,976 | 5,571 | 107.3 |
| 531 | 536 | 487 | 490 | 492 | 5,976 | 5,571 | 107.3 |
| 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 皆増 |
| 17 | 15 | 14 | 18 | 11 | 183 | 138 | 132.6 |
| 17 | 15 | 14 | 20 | 11 | 185 | 138 | 134.1 |
| 2 | 3 | 1 | 4 | 3 | 18 | 5 | 360.0 |
| 17 | 24 | 17 | 16 | 32 | 219 | 84 | 260.7 |
| 19 | 27 | 18 | 20 | 35 | 237 | 89 | 266.3 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 6 | 7 | 9 | 11 | 10 | 95 | 104 | 91.3 |
| 6 | 7 | 9 | 11 | 10 | 95 | 104 | 91.3 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | — |
| 22 | 32 | 25 | 26 | 33 | 319 | 291 | 109.6 |
| 22 | 32 | 25 | 26 | 33 | 320 | 291 | 110.0 |
| 37 | 36 | 30 | 27 | 22 | 477 | 396 | 120.5 |
| 385 | 439 | 379 | 331 | 453 | 5,221 | 4,963 | 105.2 |
| 422 | 475 | 409 | 358 | 475 | 5,698 | 5,359 | 106.3 |
| 10 | 13 | 10 | 5 | 11 | 137 | 110 | 124.5 |
| 360 | 321 | 315 | 321 | 321 | 4,048 | 4,034 | 100.3 |
| 370 | 334 | 325 | 326 | 332 | 4,185 | 4,144 | 101.0 |
| 42 | 38 | 39 | 33 | 35 | 468 | 423 | 110.6 |
| 366 | 407 | 386 | 350 | 472 | 4,648 | 4,302 | 108.0 |
| 408 | 445 | 425 | 383 | 507 | 5,116 | 4,725 | 108.3 |
| 37 | 45 | 30 | 37 | 44 | 449 | 378 | 118.8 |
| 356 | 290 | 322 | 299 | 366 | 3,909 | 3,930 | 99.5 |
| 393 | 335 | 352 | 336 | 410 | 4,358 | 4,308 | 101.2 |
| 11 | 14 | 20 | 18 | 15 | 197 | 195 | 101.0 |
| 279 | 270 | 238 | 244 | 305 | 3,358 | 3,129 | 107.3 |
| 290 | 284 | 258 | 262 | 320 | 3,555 | 3,324 | 106.9 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — |
| 3 | 1 | 3 | 0 | 3 | 21 | 24 | 87.5 |
| 3 | 1 | 3 | 0 | 3 | 21 | 24 | 87.5 |
| 27 | 25 | 28 | 20 | 25 | 316 | 306 | 103.3 |
| 308 | 286 | 303 | 280 | 311 | 3,432 | 3,387 | 101.3 |
| 335 | 311 | 331 | 300 | 336 | 3,748 | 3,693 | 101.5 |
| 37 | 35 | 38 | 37 | 30 | 416 | 365 | 114.0 |
| 196 | 179 | 209 | 191 | 209 | 2,325 | 2,362 | 98.4 |
| 233 | 214 | 247 | 228 | 239 | 2,741 | 2,727 | 100.5 |
| 21 | 14 | 18 | 25 | 21 | 198 | 196 | 101.0 |
| 335 | 352 | 346 | 324 | 383 | 4,075 | 3,829 | 106.4 |
| 356 | 366 | 364 | 349 | 404 | 4,273 | 4,025 | 106.2 |
| 264 | 256 | 262 | 251 | 254 | 3,284 | 3,007 | 109.2 |
| 3,734 | 3,800 | 3,618 | 3,453 | 4,071 | 44,955 | 43,327 | 103.8 |
| 3,998 | 4,056 | 3,880 | 3,704 | 4,325 | 48,239 | 46,334 | 104.1 |
| 21 | 19 | 19 | 19 | 20 | 244 | 244 | 100.0 |
| 190.4 | 213.5 | 204.2 | 194.9 | 216.3 | 197.7 | 190.7 | 103.7 |

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

| 月 年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 30年度 | 190.7 | 179.4 | 179.0 | 197.0 | 203.5 | 210.4 | 196.9 | 190.4 | 213.5 | 204.2 | 194.9 | 216.3 | 197.7 |
| 29年度 | 182.3 | 182.4 | 173.7 | 196.3 | 212.0 | 191.2 | 184.4 | 187.7 | 196.3 | 181.7 | 181.7 | 205.8 | 189.6 |
| 28年度 | 181.1 | 186.1 | 181.3 | 198.7 | 205.4 | 196.0 | 187.5 | 184.0 | 202.9 | 189.3 | 174.9 | 200.1 | 190.7 |
| 27年度 | 174.0 | 188.7 | 182.8 | 195.0 | 214.7 | 202.8 | 189.7 | 192.1 | 208.6 | 181.8 | 194.7 | 202.2 | 193.9 |
| 26年度 | 174.7 | 179.9 | 185.1 | 191.5 | 205.8 | 196.1 | 182.6 | 187.3 | 207.1 | 193.0 | 181.7 | 209.1 | 191.2 |

(3) 月別入退院患者数

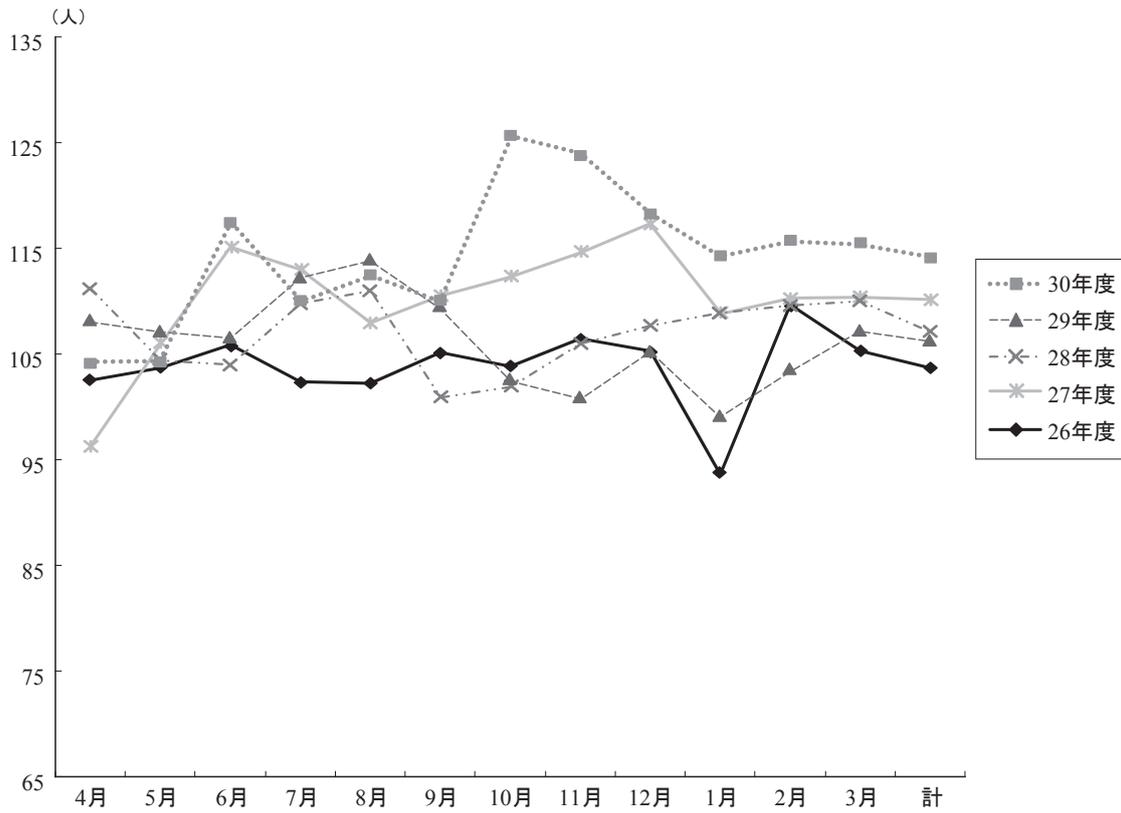
(単位：人・%)

| 病棟 | 月別 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 30年度計 | 29年度計 | 対前年比 |
|---------|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|----------------|-------------|
| | | 第 | 入院 | (3) 66 | (5) 92 | (9) 81 | (7) 76 | (6) 90 | (3) 84 | (9) 83 | (9) 82 | (2) 76 | (8) 91 | (6) 76 | (6) 87 | (73) 984 |
| 一 | 退院 | (2) 66 | (3) 91 | (1) 85 | (3) 83 | (3) 94 | (1) 88 | (3) 87 | (5) 81 | (2) 88 | (7) 81 | (5) 83 | (3) 87 | (38) 1,014 | (28) 841 | 120.6 |
| | 月末在院者数 | 19 | 22 | 26 | 23 | 22 | 20 | 22 | 27 | 15 | 26 | 20 | 23 | | | |
| | 延患者数 | 594 | 756 | 752 | 752 | 732 | 697 | 802 | 774 | 747 | 728 | 660 | 810 | 8,804 | 8,085 | 108.9 |
| | 1日平均 | 19.8 | 24.4 | 25.1 | 24.3 | 23.6 | 23.2 | 25.9 | 25.8 | 24.1 | 23.5 | 23.6 | 26.1 | 24.1 | 22.2 | 108.7 |
| 第 | 入院 | (8) 79 | (9) 81 | (9) 98 | (6) 102 | (14) 129 | (11) 83 | (10) 101 | (12) 99 | (8) 90 | (9) 98 | (8) 82 | (8) 99 | (112) 1,141 | (77) 1,081 | 105.6 |
| 二 | 退院 | (9) 80 | (6) 80 | (10) 103 | (7) 95 | (12) 128 | (11) 89 | (9) 98 | (12) 94 | (7) 104 | (6) 88 | (8) 85 | (6) 110 | (103) 1,154 | (81) 1,079 | 107.0 |
| | 月末在院者数 | 16 | 20 | 14 | 20 | 23 | 17 | 21 | 26 | 13 | 26 | 23 | 14 | | | |
| | 延患者数 | 645 | 616 | 711 | 603 | 716 | 594 | 761 | 699 | 761 | 725 | 626 | 646 | 8,103 | 7,472 | 108.4 |
| | 1日平均 | 21.5 | 19.9 | 23.7 | 19.5 | 23.1 | 19.8 | 24.5 | 23.3 | 24.5 | 23.4 | 22.4 | 20.8 | 22.2 | 20.5 | 108.3 |
| 第 | 入院 | (13) 29 | (9) 40 | (12) 46 | (16) 50 | (10) 52 | (11) 43 | (12) 59 | (9) 44 | (13) 47 | (10) 47 | (11) 31 | (9) 50 | (135) 538 | (147) 479 | 112.3 |
| 三 | 退院 | (6) 32 | (7) 39 | (15) 47 | (11) 52 | (9) 59 | (9) 45 | (9) 55 | (8) 44 | (11) 57 | (10) 43 | (10) 35 | (6) 48 | (111) 556 | (106) 523 | 106.3 |
| | 月末在院者数 | 21 | 24 | 20 | 23 | 17 | 17 | 24 | 25 | 17 | 21 | 18 | 23 | | | |
| | 延患者数 | 608 | 629 | 695 | 736 | 662 | 623 | 751 | 767 | 747 | 713 | 645 | 705 | 8,281 | 7,518 | 110.1 |
| | 1日平均 | 20.3 | 20.3 | 23.2 | 23.7 | 21.4 | 20.8 | 24.2 | 25.6 | 24.1 | 23.0 | 23.0 | 22.7 | 22.7 | 20.6 | 110.1 |
| P | 入院 | (14) 6 | (12) 4 | (19) 5 | (20) 8 | (23) 4 | (19) 9 | (12) 7 | (17) 4 | (19) 3 | (15) 2 | (21) 3 | (11) 4 | (202) 59 | (165) 52 | 113.5 |
| I | 退院 | (19) 1 | (16) 1 | (22) 1 | (27) 1 | (26) 1 | (23) 2 | (19) 1 | (21) 1 | (21) 1 | (18) 1 | (22) 2 | (15) 1 | (249) 11 | (207) 11 | 100.0 |
| C | 月末在院者数 | 5 | 4 | 5 | 5 | 5 | 8 | 7 | 7 | 8 | 7 | 7 | 6 | | | |
| U | 延患者数 | 193 | 175 | 183 | 162 | 143 | 172 | 218 | 228 | 213 | 232 | 202 | 200 | 2,321 | 2,155 | 107.7 |
| | 1日平均 | 6.4 | 5.6 | 6.1 | 5.2 | 4.6 | 5.7 | 7.0 | 7.6 | 6.9 | 7.5 | 7.2 | 6.5 | 6.4 | 5.9 | 107.8 |
| 新生児・未熟児 | 入院 | 24 | 29 | 22 | 17 | 34 | 20 | 28 | 25 | 24 | 24 | 18 | 25 | 290 | 290 | 100.0 |
| | 退院 | (2) 20 | (3) 28 | (1) 16 | (1) 25 | (3) 24 | | (3) 20 | (1) 27 | (1) 30 | (3) 16 | | (4) 21 | (22) 266 | (20) 270 | 98.5 |
| | 月末在院者数 | 31 | 29 | 34 | 25 | 32 | 32 | 30 | 31 | 24 | 29 | 31 | 31 | | | |
| | 延患者数 | 942 | 841 | 904 | 832 | 914 | 955 | 993 | 955 | 904 | 834 | 875 | 978 | 10,927 | 10,368 | 105.4 |
| | 1日平均 | 31.4 | 27.1 | 30.1 | 26.8 | 29.5 | 31.8 | 32.0 | 31.8 | 29.2 | 26.9 | 31.3 | 31.5 | 29.9 | 28.4 | 105.4 |
| 産科 | 入院 | 19 | 25 | 27 | 27 | 19 | 25 | 33 | 26 | 21 | (3) 33 | 19 | 25 | (3) 299 | 30 | 983.6 |
| | 退院 | 17 | 24 | 22 | 25 | 24 | 21 | 35 | 27 | 22 | (1) 36 | (1) 17 | 26 | (2) 296 | 309 | 95.8 |
| | 月末在院者数 | 5 | 6 | 11 | 13 | 8 | 12 | 10 | 9 | 8 | 7 | 8 | 7 | | | |
| | 延患者数 | 144 | 214 | 282 | 321 | 322 | 255 | 365 | 300 | 291 | 308 | 229 | 232 | 3,263 | 3,200 | 102.0 |
| | 1日平均 | 4.8 | 6.9 | 9.4 | 10.4 | 10.4 | 8.5 | 11.8 | 10.0 | 9.4 | 9.9 | 8.2 | 7.5 | 8.9 | 8.8 | 101.6 |
| 合計 | 入院 | (38) 223 | (35) 271 | (49) 279 | (49) 280 | (53) 328 | (44) 264 | (43) 311 | (47) 280 | (42) 261 | (45) 295 | (46) 229 | (34) 290 | (525) 3,311 | (442) 3,021 | 109.6 |
| | 退院 | (38) 216 | (35) 263 | (49) 274 | (49) 281 | (53) 330 | (44) 265 | (43) 303 | (47) 269 | (42) 301 | (45) 264 | (46) 238 | (34) 293 | (525) 3,297 | (442) 3,033 | 108.7 |
| | 月末在院者数 | 97 | 105 | 110 | 109 | 107 | 106 | 114 | 125 | 85 | 116 | 107 | 104 | | | |
| | 延患者数 | 3,126 | 3,231 | 3,527 | 3,406 | 3,489 | 3,296 | 3,890 | 3,723 | 3,663 | 3,540 | 3,237 | 3,571 | 41,699 | 38,798 | 107.5 |
| | 1日平均 | 104.2 | 104.2 | 117.6 | 109.9 | 112.5 | 109.9 | 125.5 | 124.1 | 118.2 | 114.2 | 115.6 | 115.2 | 114.2 | 106.3 | 107.4 |
| | 病床利用率 | 69.5 | 69.5 | 78.4 | 73.3 | 75.0 | 73.2 | 83.7 | 82.7 | 78.8 | 76.1 | 77.1 | 76.8 | 76.2 | 70.9 | 107.4 |

(注) 入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数150床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位：人)

| 月 年度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 30年度 | 104.2 | 104.2 | 117.6 | 109.9 | 112.5 | 109.9 | 125.5 | 124.1 | 118.2 | 114.2 | 115.6 | 115.2 | 114.2 |
| 29年度 | 108.1 | 107.1 | 106.5 | 112.2 | 113.9 | 109.4 | 102.4 | 100.8 | 105.3 | 99.1 | 103.3 | 107.2 | 106.3 |
| 28年度 | 111.2 | 104.4 | 104.0 | 109.8 | 111.0 | 100.9 | 101.9 | 106.0 | 107.7 | 108.9 | 109.6 | 110.0 | 107.1 |
| 27年度 | 96.2 | 105.9 | 115.3 | 113.0 | 108.0 | 110.5 | 112.3 | 114.7 | 117.5 | 108.8 | 110.4 | 110.5 | 110.3 |
| 26年度 | 102.6 | 103.8 | 105.9 | 102.5 | 102.3 | 105.2 | 103.9 | 106.5 | 105.3 | 93.6 | 109.7 | 105.4 | 103.8 |

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

| 月別 管内別 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 30 年度 計 | 構 成 比 | 29 年 度 計 | 対 前 年 比 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------------|-------------|-------------------|------------------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前橋市 | 49 | 58 | 56 | 63 | 70 | 55 | 60 | 68 | 68 | 58 | 55 | 58 | 718 | 21.9 | 639 | 112.4 |
| 高崎市 | 53 | 49 | 57 | 54 | 60 | 46 | 56 | 41 | 41 | 42 | 46 | 44 | 589 | 17.9 | 577 | 102.1 |
| 安中 | 3 | 1 | 5 | 3 | 5 | 8 | 7 | 4 | 2 | 3 | 3 | 4 | 48 | 1.5 | 52 | 92.3 |
| 渋川 | 29 | 49 | 47 | 56 | 51 | 41 | 49 | 37 | 39 | 38 | 40 | 43 | 519 | 15.8 | 463 | 112.1 |
| 藤岡 | 5 | 8 | 4 | 10 | 9 | 4 | 7 | 5 | 6 | 5 | 4 | 4 | 71 | 2.2 | 54 | 131.5 |
| 富岡 | 9 | 3 | 5 | 2 | 8 | 4 | 6 | 6 | 2 | 6 | 6 | 4 | 61 | 1.9 | 49 | 124.5 |
| 吾妻 | 13 | 6 | 21 | 18 | 11 | 15 | 23 | 12 | 13 | 9 | 8 | 8 | 157 | 4.8 | 171 | 91.8 |
| 利根沼田 | 19 | 14 | 14 | 16 | 21 | 31 | 23 | 21 | 11 | 16 | 14 | 21 | 221 | 6.7 | 199 | 111.1 |
| 伊勢崎 | 28 | 18 | 24 | 20 | 26 | 40 | 43 | 30 | 34 | 31 | 28 | 27 | 349 | 10.6 | 318 | 109.7 |
| 桐生 | 7 | 11 | 9 | 5 | 11 | 12 | 10 | 8 | 8 | 4 | 4 | 13 | 102 | 3.1 | 95 | 107.4 |
| 太田 | 13 | 10 | 6 | 12 | 1 | 13 | 12 | 11 | 10 | 17 | 17 | 7 | 129 | 3.9 | 110 | 117.3 |
| 館林 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 0 | 4 | 2 | 1 | 6 | 5 | 1 | 38 | 1.2 | 24 | 158.3 |
| 県外 | 14 | 22 | 26 | 30 | 44 | 20 | 18 | 19 | 21 | 27 | 21 | 20 | 282 | 8.6 | 256 | 110.2 |
| 30年度計 | 245 | 253 | 277 | 293 | 322 | 289 | 318 | 264 | 256 | 262 | 251 | 254 | 3,284 | 100.0 | — | 109.2 |
| 29年度計 | 252 | 258 | 253 | 304 | 282 | 244 | 251 | 242 | 239 | 208 | 224 | 250 | — | — | 3,007 | — |

(注) この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

| 区 分 | 30 年度 | 29 年度 | 対前年比 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 総 計 | 3,284 | 3,007 | 109.2 |
| 市 計 | 2,473 | 2,248 | 110.0 |
| 町 村 計 | 529 | 503 | 105.2 |
| 県 外 計 | 282 | 256 | 110.2 |
| 前橋市保健所 | 718 | 639 | 112.4 |
| 前 橋 市 | 718 | 639 | 112.4 |
| 高崎市保健所 | 589 | 577 | 102.1 |
| 高 崎 市 | 589 | 577 | 102.1 |
| 安中保健福祉事務所 | 48 | 52 | 92.3 |
| 安 中 市 | 48 | 52 | 92.3 |
| 渋川保健福祉事務所 | 519 | 463 | 112.1 |
| 渋 川 市 | 327 | 282 | 116.0 |
| 榛 東 村 | 55 | 55 | 100.0 |
| 吉 岡 町 | 137 | 126 | 108.7 |
| 藤岡保健福祉事務所 | 71 | 54 | 131.5 |
| 藤 岡 市 | 69 | 54 | 127.8 |
| 神 流 町 | 2 | | — |
| 上 野 村 | | | — |

| 区 分 | 30 年度 | 29 年度 | 対前年比 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 富岡保健福祉事務所 | 61 | 49 | 124.5 |
| 富 岡 市 | 43 | 35 | 122.9 |
| 下 仁 田 町 | 1 | 7 | 14.3 |
| 南 牧 村 | | | — |
| 甘 楽 町 | 17 | 7 | 242.9 |
| 吾妻保健福祉事務所 | 157 | 171 | 91.8 |
| 中 之 条 町 | 48 | 49 | 98.0 |
| 東 吾 妻 町 | 36 | 45 | 80.0 |
| 長 野 原 町 | 18 | 20 | 90.0 |
| 嬬 恋 村 | 20 | 19 | 105.3 |
| 草 津 町 | 26 | 32 | 81.3 |
| 高 山 村 | 9 | 6 | 150.0 |
| 利根沼田保健福祉事務所 | 221 | 199 | 111.1 |
| 沼 田 市 | 139 | 118 | 117.8 |
| 片 品 村 | 13 | 16 | 81.3 |
| 川 場 村 | 4 | 10 | 40.0 |
| み な か み 町 | 39 | 34 | 114.7 |
| 昭 和 村 | 26 | 21 | 123.8 |

(単位：人・%)

| 区 分 | 30年度 | 29年度 | 対前年比 |
|------------|------|------|-------|
| 伊勢崎保健福祉事務所 | 349 | 318 | 109.7 |
| 伊勢崎市 | 300 | 280 | 107.1 |
| 玉村町 | 49 | 38 | 128.9 |
| 桐生保健福祉事務所 | 102 | 95 | 107.4 |
| 桐生市 | 61 | 62 | 98.4 |
| みどり市 | 41 | 33 | 124.2 |
| 太田保健福祉事務所 | 129 | 110 | 117.3 |
| 太田市 | 129 | 110 | 117.3 |
| 館林保健福祉事務所 | 38 | 24 | 158.3 |
| 館林市 | 9 | 6 | 150.0 |
| 板倉町 | 2 | | — |
| 明和町 | | | — |
| 千代田町 | 2 | 3 | 66.7 |
| 大泉町 | 18 | 10 | 180.0 |
| 邑楽町 | 7 | 5 | 140.0 |

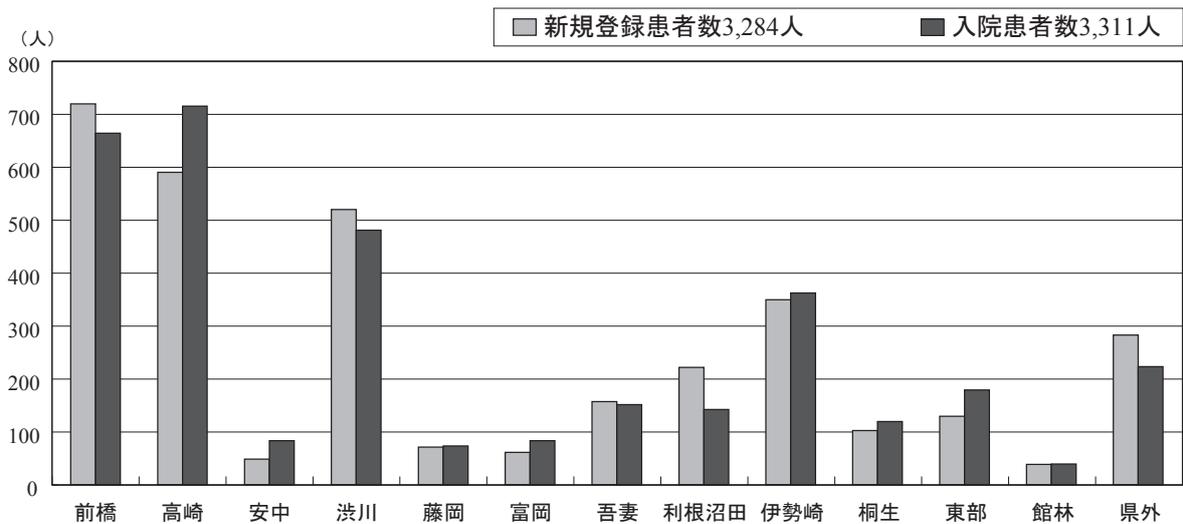
| 区 分 | 30年度 | 29年度 | 対前年比 |
|------|------|------|-------|
| 県外計 | 282 | 256 | 110.2 |
| 北海道 | 1 | 3 | 33.3 |
| 宮城県 | | 1 | |
| 福島県 | 1 | 4 | 25.0 |
| 茨城県 | 7 | 3 | 233.3 |
| 栃木県 | 15 | 6 | 250.0 |
| 埼玉県 | 134 | 110 | 121.8 |
| 千葉県 | 16 | 10 | 160.0 |
| 東京都 | 69 | 59 | 116.9 |
| 神奈川県 | 21 | 29 | 72.4 |
| 新潟県 | 1 | 6 | 16.7 |
| 富山県 | | 1 | |
| 石川県 | 1 | | |
| 山梨県 | 2 | 3 | 66.7 |
| 長野県 | 1 | 11 | 9.1 |
| 静岡県 | 5 | 3 | 166.7 |
| 愛知県 | 1 | 1 | 100.0 |
| 滋賀県 | | | |
| 京都府 | 1 | 2 | 50.0 |
| 大阪府 | 1 | | |
| 兵庫県 | 1 | 1 | 100.0 |
| 鳥取県 | 1 | | |
| 広島県 | 1 | 1 | 100.0 |
| 愛媛県 | | 1 | |
| 福岡県 | | 1 | |
| 鹿児島県 | 1 | | |
| 国内計 | 281 | 256 | 109.8 |
| 国外 | 1 | | |

◆地域別入院患者の状況（再入院を含む）

| 区 分 | 30 年度 | 29 年度 | 対前年比 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 総 計 | 3,311 | 3,017 | 109.7 |
| 市 計 | 2,609 | 2,324 | 112.3 |
| 町 村 計 | 479 | 456 | 105.0 |
| 県 外 計 | 223 | 237 | 94.1 |
| 前橋市保健所 | 663 | 562 | 118.0 |
| 前 橋 市 | 663 | 562 | 118.0 |
| 高崎市保健所 | 714 | 675 | 105.8 |
| 高 崎 市 | 714 | 675 | 105.8 |
| 安中保健福祉事務所 | 83 | 79 | 105.1 |
| 安 中 市 | 83 | 79 | 105.1 |
| 渋川保健福祉事務所 | 480 | 437 | 109.8 |
| 渋 川 市 | 308 | 277 | 111.2 |
| 榛 東 村 | 62 | 50 | 124.0 |
| 吉 岡 町 | 110 | 110 | 100.0 |
| 藤岡保健福祉事務所 | 73 | 56 | 130.4 |
| 藤 岡 市 | 73 | 56 | 130.4 |
| 神 流 町 | | | — |
| 上 野 村 | | | — |

| 区 分 | 30 年度 | 29 年度 | 対前年比 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 富岡保健福祉事務所 | 83 | 58 | 143.1 |
| 富 岡 市 | 52 | 29 | 179.3 |
| 下 仁 田 町 | 5 | 9 | 55.6 |
| 南 牧 村 | | | — |
| 甘 楽 町 | 26 | 20 | 130.0 |
| 吾妻保健福祉事務所 | 151 | 176 | 85.8 |
| 中 之 条 町 | 51 | 44 | 115.9 |
| 東 吾 妻 町 | 45 | 59 | 76.3 |
| 長 野 原 町 | 15 | 18 | 83.3 |
| 嬭 恋 村 | 20 | 15 | 133.3 |
| 草 津 町 | 12 | 24 | 50.0 |
| 高 山 村 | 8 | 16 | 50.0 |
| 利根沼田保健福祉事務所 | 142 | 144 | 98.6 |
| 沼 田 市 | 89 | 103 | 86.4 |
| 片 品 村 | 12 | 6 | 200.0 |
| 川 場 村 | 4 | 4 | 100.0 |
| み な か み 町 | 25 | 13 | 192.3 |
| 昭 和 村 | 12 | 18 | 66.7 |

◆地域別利用状況（市保健所・保健福祉事務所管内別の状況 平成30年度）



(単位：人・%)

| 区 分 | 30年度 | 29年度 | 対前年比 |
|------------|------|------|-------|
| 伊勢崎保健福祉事務所 | 362 | 316 | 114.6 |
| 伊勢崎市 | 318 | 286 | 111.2 |
| 玉村町 | 44 | 30 | 146.7 |
| 桐生保健福祉事務所 | 119 | 99 | 120.2 |
| 桐生市 | 97 | 72 | 134.7 |
| みどり市 | 22 | 27 | 81.5 |
| 太田保健福祉事務所 | 179 | 150 | 119.3 |
| 太田市 | 179 | 150 | 119.3 |
| 館林保健福祉事務所 | 39 | 28 | 139.3 |
| 館林市 | 11 | 8 | 137.5 |
| 板倉町 | 5 | | — |
| 明和町 | 1 | 2 | 50.0 |
| 千代田町 | 1 | 2 | 50.0 |
| 大泉町 | 12 | 12 | 100.0 |
| 邑楽町 | 9 | 4 | 225.0 |

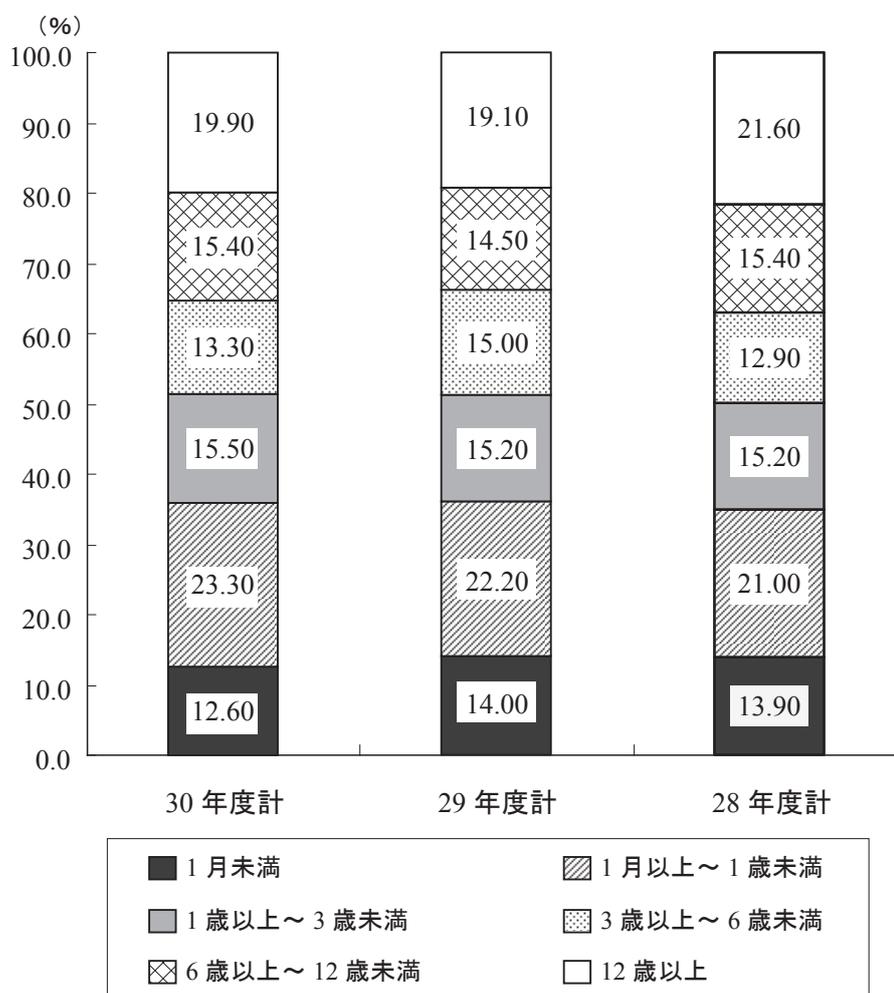
| 区 分 | 30年度 | 29年度 | 対前年比 |
|------|------|------|-------|
| 県外計 | 223 | 237 | 94.1 |
| 北海道 | | 4 | |
| 福島県 | 1 | 2 | 50.0 |
| 茨城県 | 1 | 2 | 50.0 |
| 栃木県 | 10 | 3 | 333.3 |
| 埼玉県 | 155 | 164 | 94.5 |
| 千葉県 | 7 | 4 | 175.0 |
| 東京都 | 29 | 27 | 107.4 |
| 神奈川県 | 10 | 12 | 83.3 |
| 新潟県 | 1 | 4 | 25.0 |
| 山梨県 | 1 | | — |
| 長野県 | 2 | 9 | 22.2 |
| 静岡県 | 2 | 2 | 100.0 |
| 愛知県 | 1 | | — |
| 京都府 | | 2 | |
| 兵庫県 | 1 | | — |
| 広島県 | | 2 | |
| 鹿児島県 | 2 | | — |
| 国内計 | 223 | 237 | 94.1 |
| 国外 | | | — |

(5) 年齢階層別状況（新規登録患者）

（単位：人・％）

| 年齢 | 区分 | 男 | 女 | 30年度計 | 29年度計 | 対前年比 |
|------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1月未満 | | 206 | 208 | 414 | 421 | 98.3 |
| 1月以上～1歳未満 | | 359 | 407 | 766 | 668 | 114.7 |
| 1歳以上～3歳未満 | | 294 | 216 | 510 | 458 | 111.4 |
| 小計 | | 859 | 831 | 1,690 | 1,547 | 109.2 |
| 3歳以上～6歳未満 | | 237 | 199 | 436 | 450 | 96.9 |
| 6歳以上～12歳未満 | | 290 | 216 | 506 | 436 | 116.1 |
| 12歳以上 | | 136 | 516 | 652 | 574 | 113.6 |
| 29年度計 | | 1,522 | 1,762 | 3,284 | | 109.2 |
| 28年度計 | | 1,496 | 1,837 | | 3,007 | |
| 対前年比 | | 101.7 | 95.9 | 109.2 | 95.7 | |

◆年齢階層別状況（新規登録患者）平成28年度～平成30年度



(6) 救急医療

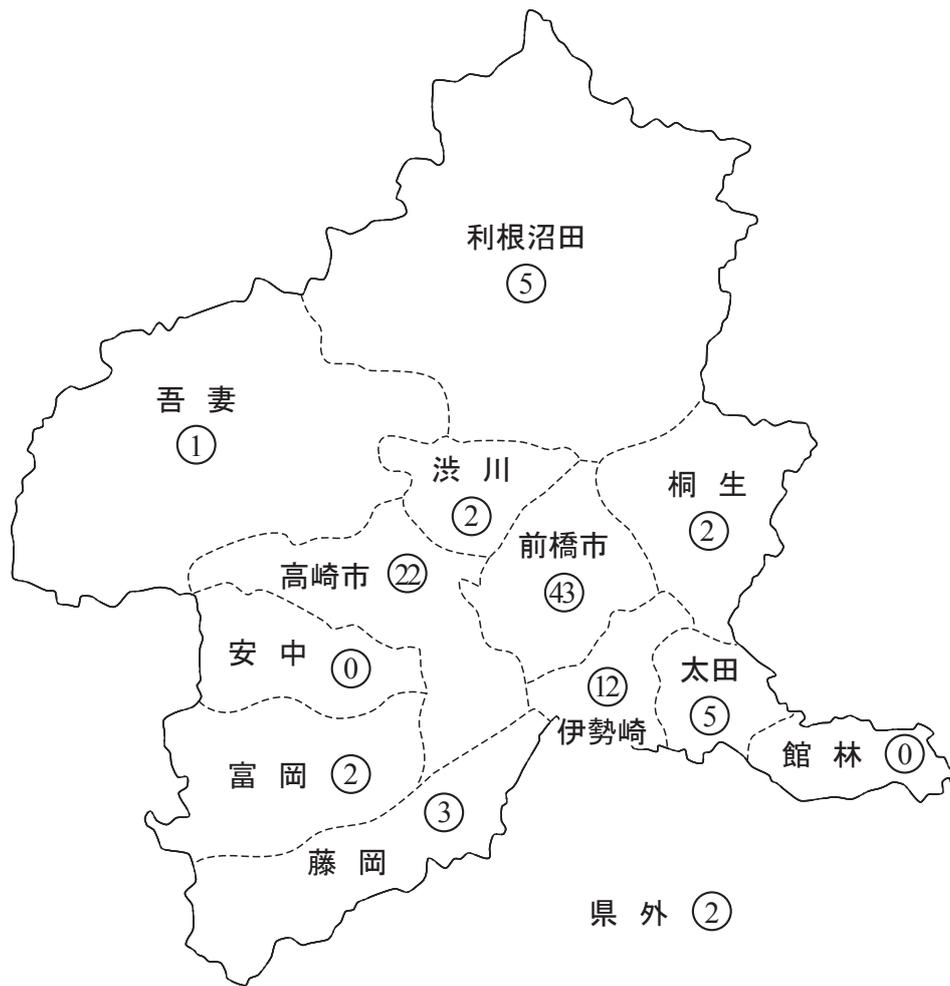
①救急医療の状況（診療状況より）

（単位：人・％）

| 区分 | | 月別 | | | | | | | | | | | | 30年度計 | 29年度計 | 対前年比 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| NICU車 | 時間外 | 5 | 6 | 2 | 0 | 5 | 0 | 3 | 2 | 4 | 2 | 1 | 2 | 32 | 33 | 97.0 |
| | 時間内 | 6 | 5 | 3 | 2 | 7 | 5 | 7 | 5 | 4 | 2 | 1 | 4 | 51 | 56 | 91.1 |
| | 休日 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 3 | 0 | 16 | 6 | 266.7 |
| | 計 | 13 | 12 | 6 | 4 | 13 | 6 | 11 | 9 | 10 | 4 | 5 | 6 | 99 | 95 | 104.2 |
| 救急車・その他 | 時間外 | 63 | 73 | 91 | 100 | 106 | 95 | 81 | 70 | 65 | 74 | 68 | 86 | 972 | 894 | 108.7 |
| | 時間内 | 7 | 17 | 11 | 16 | 15 | 16 | 20 | 21 | 11 | 12 | 18 | 12 | 176 | 162 | 108.6 |
| | 休日 | 40 | 58 | 22 | 53 | 47 | 60 | 40 | 35 | 57 | 75 | 33 | 30 | 550 | 485 | 113.4 |
| | 計 | 110 | 148 | 124 | 169 | 168 | 171 | 141 | 126 | 133 | 161 | 119 | 128 | 1,698 | 1,541 | 110.2 |
| 合計 | | 123 | 160 | 130 | 173 | 181 | 177 | 152 | 135 | 143 | 165 | 124 | 134 | 1,797 | 1,636 | 109.8 |

（注）「時間内」とは、平日の8：30～17：15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。
土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



| 年度 | | 30年度 | | 29年度 出動件数 | 28年度 出動件数 | 27年度 出動件数 | 26年度 出動件数 | 25年度 出動件数 | 24年度 出動件数 | 23年度 出動件数 | 22年度 出動件数 | 21年度 出動件数 |
|------|-------------|------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 出動件数 | 対前年比 | | | | | | | | | |
| 救急患者 | | 99 | 104.2% | 95 | 90 | 99 | 55 | 87 | 57 | 43 | 41 | 42 |
| 内訳 | 休日及び 時間外 | 48 | 123.1% | 39 | 40 | 58 | 31 | 40 | 32 | 25 | 22 | 21 |
| | 時間内 | 51 | 91.1% | 56 | 50 | 41 | 24 | 47 | 25 | 18 | 19 | 21 |
| その他 | | 20 | 40.8% | 49 | 43 | 31 | 48 | 45 | 32 | 38 | 35 | 41 |
| 合計 | | 119 | 82.6% | 144 | 133 | 130 | 103 | 132 | 89 | 81 | 76 | 83 |

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| B C G | | | | 1 | 1 | | | | 3 | 1 | | | 6 |
| ポ リ オ | | | | | | | | | | | | | |
| 四種混合 | | | | 3 | 1 | | 3 | 5 | 6 | 5 | 3 | 3 | 29 |
| 三種混合 | | | | | | | | | | | | | |
| 二種混合 | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 麻しん・風しん | 1 | | 1 | | | 1 | | | | 1 | | 1 | 5 |
| 麻 し ん | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 風 し ん | | | | | | | | | | | | | |
| 日本脳炎 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| ヒ ブ | | | | 2 | 1 | | 3 | 4 | 3 | 4 | 1 | 2 | 20 |
| 肺炎球菌 | | | | 2 | 1 | | 3 | 4 | 6 | 4 | 1 | 3 | 24 |
| 子宮頸がん予防 | | | | | | | | | | | | | |
| 水 痘 | | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | 3 |
| B型肝炎 | | 1 | | 2 | | | 4 | 4 | 3 | 2 | 1 | 2 | 19 |
| 計 | 1 | 1 | 2 | 10 | 5 | 2 | 13 | 17 | 22 | 17 | 6 | 13 | 109 |

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

| | 前橋市 | 高崎市 | 安中 | 渋川 | 藤岡 | 富岡 | 中之条 | 利根沼田 | 伊勢崎 | 桐生 | 東部 | 館林 | 県外 | 計 |
|---------|-----|-----|----|----|----|----|-----|------|-----|----|----|----|----|-----|
| B C G | 1 | | | 2 | 1 | | | | 2 | | | | | 6 |
| ポ リ オ | | | | | | | | | | | | | | |
| 四種混合 | 3 | 6 | 2 | 6 | 3 | | | | 4 | 1 | 4 | | | 29 |
| 三種混合 | | | | | | | | | | | | | | |
| 二種混合 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 麻しん・風しん | | 1 | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 5 |
| 麻 し ん | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 風 し ん | | | | | | | | | | | | | | |
| 日本脳炎 | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| ヒ ブ | 3 | 2 | 2 | 4 | 2 | | | | 2 | 1 | 4 | | | 20 |
| 肺炎球菌 | 3 | 3 | 2 | 5 | 3 | | | | 3 | 1 | 4 | | | 24 |
| 子宮頸がん予防 | | | | | | | | | | | | | | |
| 水 痘 | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | 3 |
| B型肝炎 | 2 | 3 | 1 | 4 | 2 | | | | 3 | | 4 | | | 19 |
| 計 | 13 | 15 | 7 | 22 | 12 | | 1 | | 18 | 5 | 16 | | | 109 |

③推 移

| 年 度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 実施件数 | 247 | 234 | 269 | 235 | 233 | 231 | 154 | 157 | 95 | 82 | 56 | 50 | 109 |

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

| | | |
|----------------|---------|--------|
| 神経内科 | 422 人 | 40.0% |
| アレルギー感染免疫・呼吸器科 | 484 人 | 45.9% |
| 循環器科 | 58 人 | 5.5% |
| 血液腫瘍科 | 2 人 | 0.2% |
| 外科 | 18 人 | 1.7% |
| 歯科 | 52 人 | 4.9% |
| 総合内科 | 18 人 | 1.7% |
| 合 計 | 1,054 人 | 100.0% |

②第二病棟

| | | | |
|-------------------------|-----|----------------|-----|
| (他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む) | | 胆道閉鎖症 | 12 |
| <u>頸部</u> | | 胆道拡張症 | 9 |
| 正中頸嚢胞、側頸瘻 | 5 | 脾臓摘出目的 | |
| 気管切開(喉頭気管分離)目的 | 6 | <u>腫瘍</u> | |
| <u>肺・気管支</u> | | 神経芽腫 | 0 |
| 気胸 | 2 | 肝芽腫 | 0 |
| 肺分画症 | 0 | 腎芽腫 | 2 |
| 肺嚢胞性疾患 | 3 | その他の悪性腫瘍 | 6 |
| <u>横隔膜</u> | | 良性腫瘍 | 5 |
| 横隔膜ヘルニア | 3 | <u>生殖泌尿器</u> | |
| <u>食道</u> | | 水腎症 | 9 |
| 先天性食道狭窄 | 0 | 膀胱尿管逆流症 | 1 |
| 先天性食道閉鎖症 | 4 | 停留精巣(萎縮含む) | 46 |
| 食道アカラシア | 0 | <u>皮膚、筋、骨格</u> | |
| 胃食道逆流症 | 37 | リンパ節腫大 | 3 |
| <u>腹壁</u> | | リンパ管腫 | 5 |
| 白線ヘルニア | 0 | 血管腫 | 0 |
| <u>鼠径ヘルニア</u> | | <u>その他</u> | |
| 鼠径ヘルニア(精索水腫含む) | 169 | 便秘 | 18 |
| <u>胃</u> | | 内視鏡(治療含む) | 65 |
| 肥厚性幽門狭窄症 | 8 | CVカテーテル敗血症 | 6 |
| 胃軸捻転 | 0 | CVカテーテル挿入目的 | 28 |
| 胃瘻造設目的 | 7 | 腸炎 | 8 |
| <u>十二指腸・小腸、結腸、腸間膜</u> | | その他 | 95 |
| 小腸閉鎖・狭窄 | 4 | | |
| 腸回転異常 | 13 | 合計 | 681 |
| Hirschsprung病 | 6 | | |
| Hirschsprung病類縁疾患 | 5 | | |
| 短腸症候群 | 4 | | |
| 消化管穿孔(新生児以外) | 1 | | |
| 人工肛門閉鎖目的 | 10 | | |
| <u>虫垂</u> | | | |
| 急性虫垂炎 | 20 | | |
| <u>直腸、肛門</u> | | | |
| 直腸肛門奇形 | 20 | | |
| 肛門疾患 | 7 | | |
| <u>イレウス</u> | | | |
| 腸重積症 | 9 | | |
| イレウス(保存治療) | 8 | | |
| イレウス(手術治療) | 12 | | |
| <u>胆道、脾臓</u> | | | |

形成外科

(うちカッコ内は Day Surgery の入院患者数)

| | | | |
|-------------|--------|-----------|--------|
| 口唇裂 | 2 | 多指症・合指症 | 9 |
| 口唇顎裂 | 9 | 多趾症・合趾症 | 4 |
| 口唇口蓋裂 | 15 | 多合趾症 | 3 |
| 口蓋裂 | 2 | 先天性絞扼輪症候群 | 1 |
| 副耳 | 15(12) | 母斑 | 21(10) |
| 耳瘻孔 | 6(2) | 皮膚腫瘍 | 19(8) |
| 小耳症 | 6 | 血管腫・血管奇形 | 12(6) |
| 立ち耳 | 3 | | |
| 折れ耳 | 1 | 癍痕 | 8 |
| 睫毛内反症 | 10(4) | 褥瘡 | 2 |
| 小顎症 | 1 | | |
| 先天性胸鎖関節部皮膚瘻 | 1(1) | | |
| 漏斗胸 | 16 | | |
| 臍ヘルニア | 35(21) | | |
| 臍腸管遺残 | 1 | | |

整形外科

【手術件数】90 件

| | | | |
|------------|----|-----------|----|
| 関節鏡 | | 骨、軟部腫瘍 | |
| 膝 | 0 | 摘出術 | 0 |
| 足 | 0 | 先天性ばね指 | |
| 関節造影 | | 腱鞘切開 | 0 |
| 股関節 | 3 | 骨関節感染症 | |
| 膝関節 | 7 | 切開、洗浄 | 0 |
| 足関節 | 0 | 創形成術 | 0 |
| 自己血採血 | 3 | 軟部組織感染症 | 0 |
| 骨生検 | 0 | 先天性内反足 | |
| 筋性斜頸 | 6 | 後内方解離 | 2 |
| 先天性股関節脱臼 | | エバンス | 2* |
| 徒手整復 | 0 | 三関節固定術 | 0 |
| 観血整復 | 0 | 尖足変形 | |
| Salter 手術 | 2 | 後方解離 | 0 |
| 減捻内反骨切術 | 0 | 先天性垂直距骨 | |
| ペルテス病 | | 内外前方解離 | 0 |
| 徒手整復 | 0 | 脳性麻痺 | |
| 内反骨切り | 1 | 股関節観血授動術 | 0 |
| 大腿骨頭こり症 | 2 | 膝関節観血授動術 | 2 |
| 骨折観血的整復固定術 | 0 | 足関節観血授動術 | 10 |
| 偽関節手術 | 1 | 二分脊椎 | |
| 矯正骨切り術 | 0 | 後方解離 | 0 |
| 創外固定器使用手術 | 6* | 後内方解離 | 0 |
| 骨延長術 | | エバンス | 0 |
| 大腿骨 | 3 | 組み合わせ | 0 |
| 脛骨 | 3 | 三関節固定術 | 0 |
| 成長軟骨抑制術 | | 抜釘術 | 28 |
| 大腿骨遠位 | 7 | 創外固定器除去手術 | 3 |
| 脛骨近位 | 7 | 計 | 90 |

*同時処置として重複を示す

③第三病棟

血液腫瘍科

| 腫瘍性疾患 | 実患者数 | 新規患者数 |
|----------------|------|-------|
| 急性リンパ性白血病 | 17 | 6 |
| 急性骨髄性白血病 | 3 | 2 |
| 非ホジキンリンパ腫 | 3 | 2 |
| Wims 腫瘍 | 3 | 0 |
| 肝芽腫 | 2 | 0 |
| 神経芽腫 | 2 | 0 |
| 血管腫 | 11 | 10 |
| 小計 | 40 | 20 |
| 非腫瘍性疾患 | 実患者数 | 新規患者数 |
| 再生不良性貧血 | 2 | 2 |
| 骨髄線維症 | 1 | 1 |
| 血球貪食症候群 | 3 | 2 |
| 自己免疫性血小板減少性紫斑病 | 1 | 1 |
| 好中球減少症 | 2 | 2 |
| 溶血性貧血 | 3 | 1 |
| その他 | | |
| 小計 | 12 | 9 |

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

| | 院内出生 | 院外出生 | 総 数 |
|--------------|------|------|-----|
| 500g 未満 | 1 | 0 | 1 |
| 500～ 999g | 22 | 4 | 26 |
| 1,000～1,499g | 20 | 1 | 21 |
| 1,500～1,999g | 32 | 13 | 45 |
| 2,000～2,499g | 38 | 19 | 57 |
| 2,500g 以上 | 46 | 92 | 138 |
| 計 | 159 | 129 | 288 |

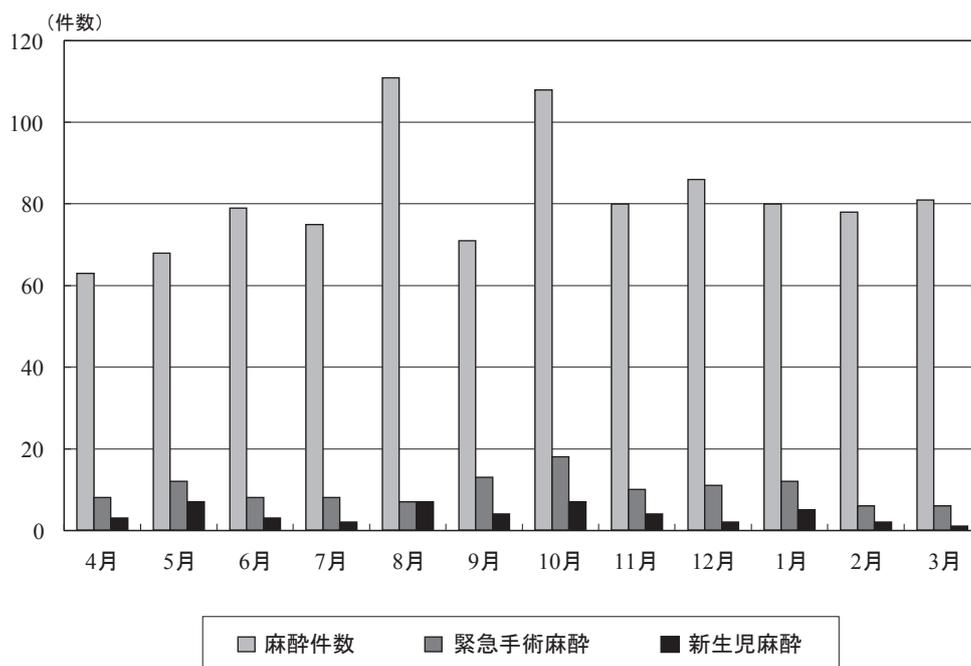
◆在胎期間の分布

| | 院内出生 | 院外出生 | 総 数 |
|------|------|------|-----|
| 21 週 | 1 | 0 | 1 |
| 22 週 | 1 | 0 | 1 |
| 23 週 | 0 | 0 | 0 |
| 24 週 | 3 | 2 | 5 |
| 25 週 | 7 | 1 | 8 |
| 26 週 | 10 | 0 | 10 |
| 27 週 | 5 | 1 | 6 |
| 28 週 | 5 | 0 | 5 |
| 29 週 | 4 | 1 | 5 |
| 30 週 | 2 | 1 | 3 |
| 31 週 | 8 | 1 | 9 |
| 32 週 | 6 | 1 | 7 |
| 33 週 | 11 | 2 | 13 |
| 34 週 | 10 | 9 | 19 |
| 35 週 | 7 | 2 | 9 |
| 36 週 | 9 | 11 | 20 |
| 37 週 | 12 | 21 | 33 |
| 38 週 | 22 | 26 | 48 |
| 39 週 | 19 | 24 | 43 |
| 40 週 | 14 | 21 | 35 |
| 41 週 | 3 | 5 | 8 |
| 計 | 159 | 139 | 288 |

(9) 麻 酔

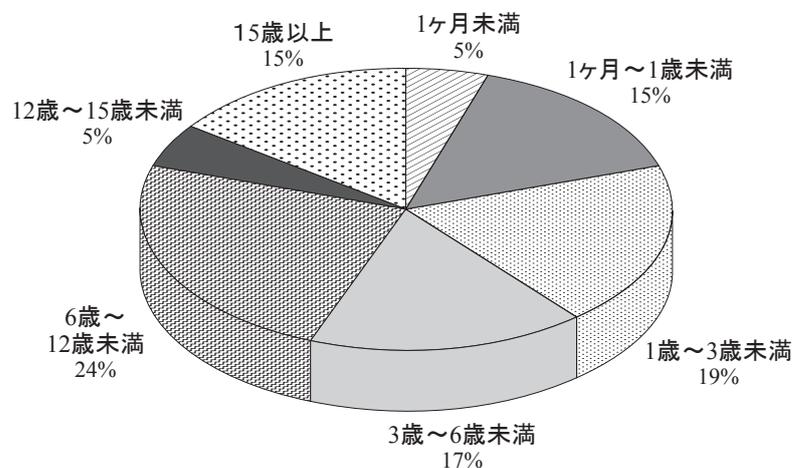
①月別麻酔件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 麻酔件数 | 63 | 68 | 79 | 75 | 111 | 71 | 108 | 80 | 86 | 80 | 78 | 81 |
| 緊急手術麻酔 | 8 | 12 | 8 | 8 | 7 | 13 | 18 | 10 | 11 | 12 | 6 | 6 |
| 新生児麻酔 | 3 | 7 | 3 | 2 | 7 | 4 | 7 | 4 | 2 | 5 | 2 | 1 |



②年齢階層別状況

| | |
|-----------|-----|
| 1ヶ月未満 | 49 |
| 1ヶ月～1歳未満 | 145 |
| 1歳～3歳未満 | 183 |
| 3歳～6歳未満 | 164 |
| 6歳～12歳未満 | 233 |
| 12歳～15歳未満 | 51 |
| 15歳以上 | 142 |



(10) 放射線

① 依頼科別件数

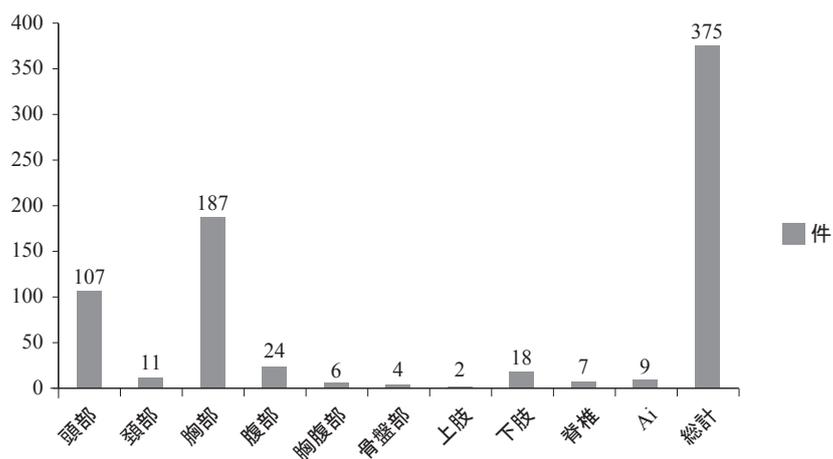
| 検査 依頼科 | CT | MRI | RI | X線TV | エコー | カテーテル | 一般撮影 | ポータブル | フィルム コピー | 総計 (件) |
|-----------|-----|-------|-----|------|-------|-------|--------|--------|-------------|-----------|
| アレルギー科 | 12 | 20 | 16 | 18 | 56 | 1 | 274 | 220 | 50 | 667 |
| リハビリ科 | | | | | | | 67 | | | 67 |
| 遺 伝 科 | 1 | 1 | | | 8 | | 16 | 3 | 26 | 55 |
| 一 般 内 科 | 15 | 21 | | | 53 | | 326 | 42 | 53 | 510 |
| 外 科 | 33 | 166 | 140 | 382 | 1,093 | | 1,258 | 1,501 | 322 | 4,895 |
| 形 成 外 科 | 68 | 22 | 52 | 1 | 93 | | 736 | 89 | 39 | 1,100 |
| 血 液 腫 瘍 科 | 12 | 162 | | 5 | 129 | | 237 | 78 | 48 | 671 |
| 産 科 | 8 | 35 | | | | | 80 | 139 | 24 | 286 |
| 歯 科 | 25 | | | 3 | | | 257 | 19 | 9 | 313 |
| 耳 鼻 科 | 4 | | | | | | 4 | | 8 | 16 |
| 循環器内科 | 116 | 103 | 77 | 25 | 35 | 1,106 | 3,286 | 4,224 | 365 | 9,337 |
| 心臓血管外科 | | | | | | | 6 | 381 | 4 | 391 |
| 新生児科 | 27 | 230 | 12 | 52 | 221 | 10 | 224 | 2,706 | 117 | 3,599 |
| 神経内科 | 23 | 162 | 4 | 49 | 33 | | 198 | 317 | 295 | 1,081 |
| 腎臓内科 | 1 | 5 | 5 | 2 | 68 | | 17 | | 5 | 103 |
| 整形外科 | 29 | 137 | 8 | 19 | 99 | | 11,652 | 520 | 272 | 12,736 |
| 正常新生児科 | | 6 | | 1 | 8 | | 27 | 1 | | 43 |
| 内分泌代謝科 | | 5 | | | 9 | | 48 | | 6 | 68 |
| 脳外科 | 1 | 7 | | | | | 3 | | 2 | 13 |
| 放射線科 | | | | | 3 | | 10 | 2 | 20 | 35 |
| 総 計 | 375 | 1,082 | 314 | 557 | 1,908 | 1,117 | 18,726 | 10,242 | 1,665 | 35,986 |

② 月別件数

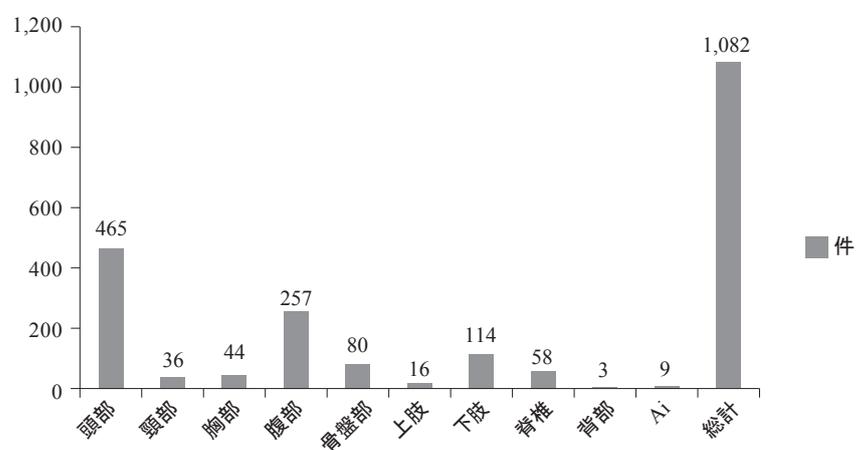
| 検査 検査月 | CT | MRI | RI | X線TV | エコー | カテーテル | 一般撮影 | ポータブル | フィルム コピー | 総計 (件) |
|-----------|-----|-------|-----|------|-------|-------|--------|--------|-------------|-----------|
| 4月 | 23 | 58 | 21 | 38 | 120 | 105 | 1,470 | 841 | 128 | 2,804 |
| 5月 | 31 | 90 | 12 | 55 | 145 | 96 | 1,343 | 787 | 139 | 2,698 |
| 6月 | 32 | 89 | 8 | 39 | 131 | 102 | 1,408 | 844 | 154 | 2,807 |
| 7月 | 33 | 106 | 57 | 48 | 149 | 104 | 1,607 | 780 | 118 | 3,002 |
| 8月 | 33 | 111 | 65 | 43 | 175 | 139 | 2,096 | 721 | 132 | 3,515 |
| 9月 | 35 | 82 | 12 | 46 | 148 | 110 | 1,375 | 812 | 145 | 2,765 |
| 10月 | 40 | 102 | 37 | 55 | 170 | 116 | 1,912 | 1,059 | 185 | 3,676 |
| 11月 | 24 | 95 | 20 | 43 | 167 | 69 | 1,508 | 916 | 136 | 2,978 |
| 12月 | 37 | 102 | 24 | 47 | 155 | 72 | 1,621 | 886 | 116 | 3,060 |
| 1月 | 28 | 82 | 9 | 56 | 182 | 72 | 1,391 | 979 | 123 | 2,922 |
| 2月 | 30 | 62 | 20 | 42 | 155 | 52 | 1,312 | 775 | 129 | 2,577 |
| 3月 | 29 | 103 | 29 | 45 | 211 | 80 | 1,683 | 842 | 160 | 3,182 |
| 総計 | 375 | 1,082 | 314 | 557 | 1,908 | 1,117 | 18,726 | 10,242 | 1,665 | 35,986 |

③検査種別件数

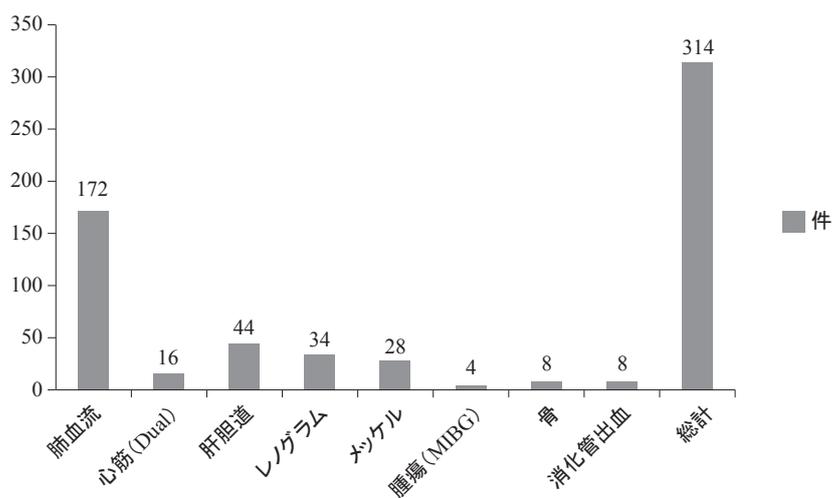
ア CT



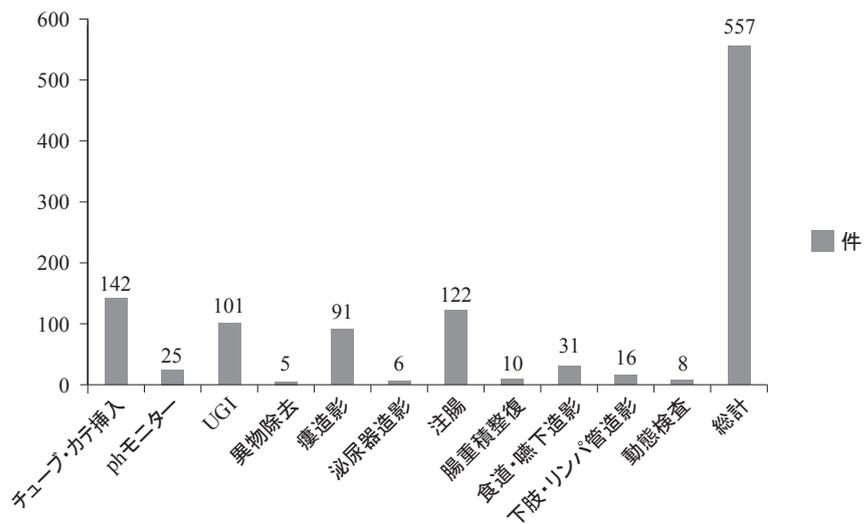
イ MRI



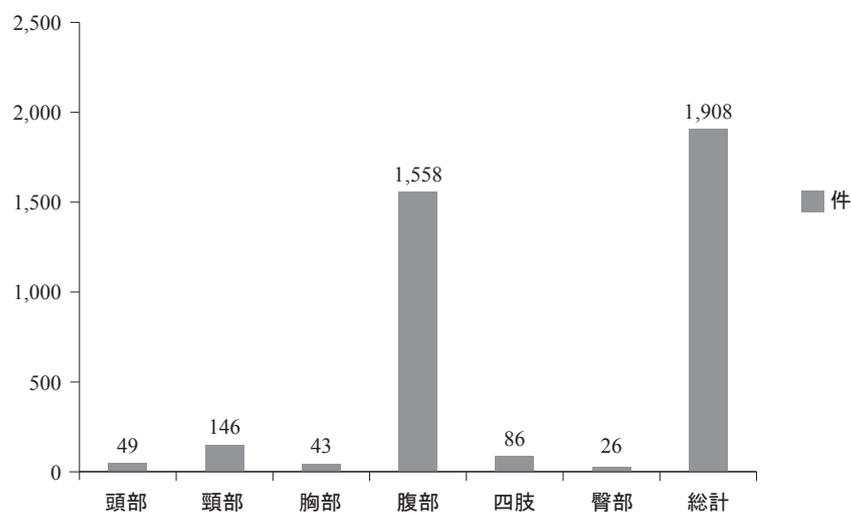
ウ RI



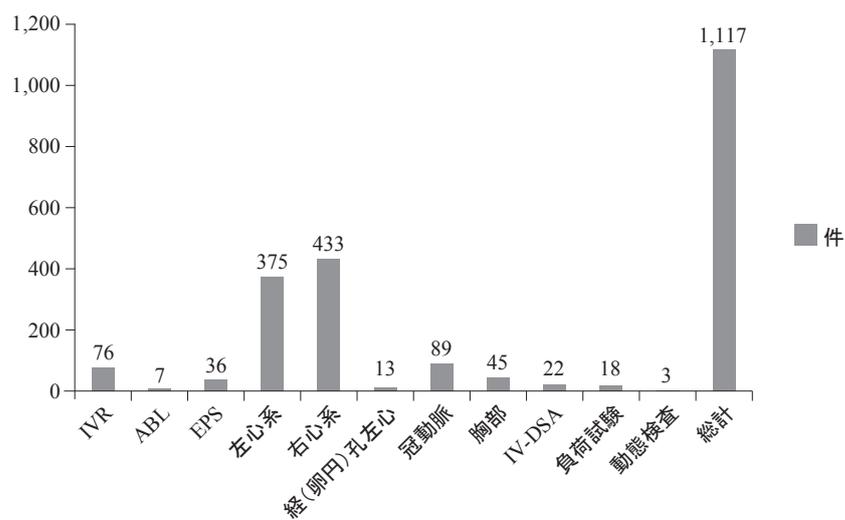
エ X-TV



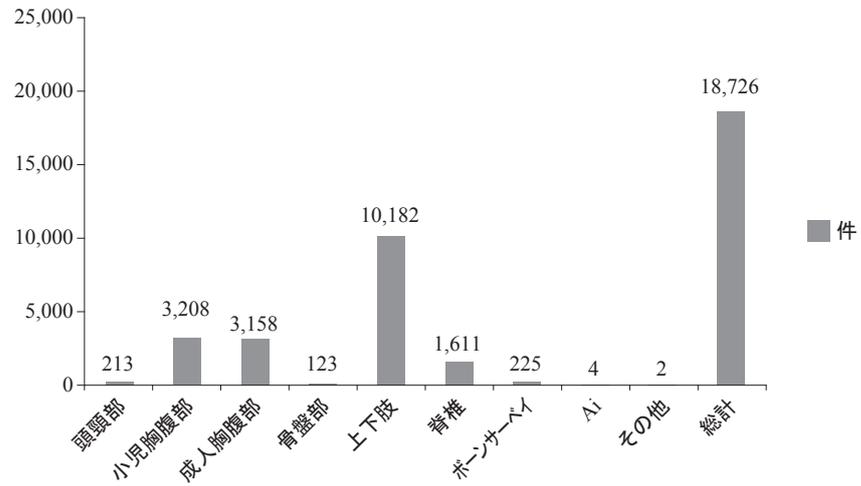
オ US



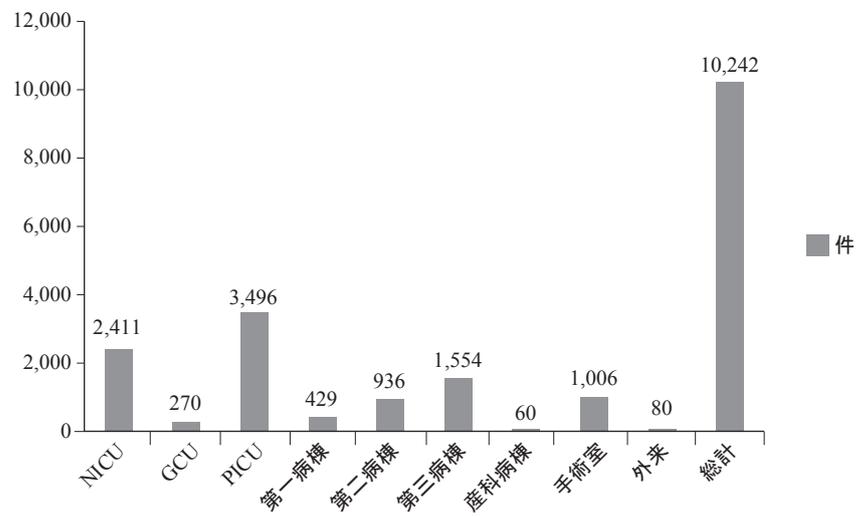
カ 心臓カテーテル



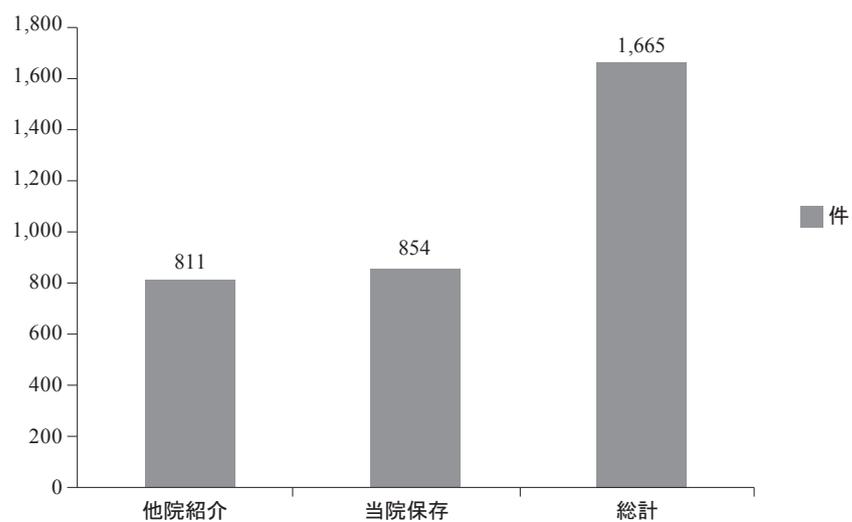
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(1) 臨床検査

①検査の状況

| 区 分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 生 化 学 | 22,956 | 23,825 | 25,162 | 25,318 | 26,863 | 23,099 | 28,340 | 26,684 | 26,973 |
| 血 液 | 5,040 | 5,647 | 6,290 | 5,575 | 5,541 | 4,847 | 6,225 | 6,333 | 5,871 |
| 免疫血清 | 2,791 | 2,957 | 2,953 | 3,122 | 3,397 | 2,889 | 3,568 | 3,201 | 3,377 |
| 一 般 | 1,121 | 1,049 | 1,139 | 1,061 | 1,364 | 965 | 1,303 | 1,052 | 988 |
| 生 理 | 1,032 | 954 | 1,032 | 1,250 | 1,328 | 938 | 1,203 | 926 | 1,034 |
| 細 菌 | 1,148 | 1,254 | 1,201 | 1,023 | 1,269 | 1,258 | 1,376 | 1,283 | 1,300 |
| 病 理 | 191 | 134 | 312 | 144 | 198 | 283 | 275 | 187 | 201 |
| 輸 血 | 260 | 299 | 322 | 334 | 319 | 328 | 402 | 378 | 311 |
| 薬物(再掲) | 99 | 86 | 100 | 81 | 77 | 86 | 129 | 110 | 98 |
| アレルギー(再掲) | 372 | 301 | 382 | 409 | 300 | 243 | 383 | 419 | 406 |
| 特殊検査(再掲) | 19 | 10 | 10 | 30 | 28 | 29 | 41 | 29 | 20 |
| 外部委託 | 654 | 759 | 595 | 647 | 935 | 546 | 634 | 718 | 680 |
| 総合計(再掲除く) | 35,193 | 36,878 | 39,006 | 38,474 | 41,214 | 35,153 | 43,326 | 40,762 | 40,735 |

②血液製剤取り扱い状況

| 区 分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|---------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 赤 血 球 液 | 1 単位 | 34 | 30 | 41 | 32 | 27 | 43 |
| | 2 単位 | 13 | 41 | 43 | 36 | 29 | 27 |
| 洗 浄 赤 血 球 液 | 1 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 2 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 小 計 | 47 | 71 | 84 | 68 | 56 | 70 | |
| 新 鮮 凍 結 血 漿 | 120 | 10 | 24 | 25 | 8 | 6 | 9 |
| | 240 | 14 | 39 | 38 | 36 | 28 | 26 |
| | 480 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 小 計 | 24 | 65 | 63 | 44 | 34 | 37 | |
| 濃 厚 血 小 板 | 2 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 5 単位 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 |
| | 10 単位 | 18 | 27 | 21 | 14 | 14 | 10 |
| | 15 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 20 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 濃厚血小板HLA | 10 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 洗 浄 血 小 板 | 10 単位 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 6 |
| 洗 浄 血 小 板 HLA | 10 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 小 計 | 18 | 27 | 22 | 19 | 19 | 17 | |
| 合 成 血 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 自 己 血 | 0 | 0 | 1 | 4 | 4 | 1 | |
| 顆 粒 球 輸 血 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合 計 | 89 | 163 | 170 | 135 | 113 | 125 | |

③分割取り扱い状況

| 区 分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|-------|-------|----|----|----|----|----|----|
| 赤血球液 | 1 単位 | 28 | 9 | 13 | 8 | 8 | 23 |
| | 2 単位 | 0 | 18 | 15 | 10 | 7 | 8 |
| 小 計 | 28 | 27 | 28 | 18 | 15 | 31 | |
| 濃厚血小板 | 5 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 10 単位 | 13 | 16 | 12 | 6 | 4 | 12 |
| | 15 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 20 単位 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 小 計 | 13 | 16 | 12 | 6 | 4 | 12 | |
| 合 計 | 41 | 43 | 40 | 24 | 19 | 43 | |

④幹細胞保存

| 区 分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 幹細胞保存 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(単位：件、%)

| 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 前年度 | 前年度比 |
|--------|--------|--------|---------|---------|-------|
| 27,519 | 24,447 | 26,625 | 307,811 | 303,582 | 101.4 |
| 6,162 | 5,808 | 6,057 | 69,396 | 72,636 | 95.5 |
| 3,441 | 2,967 | 3,232 | 37,895 | 37,331 | 101.5 |
| 891 | 916 | 1,229 | 13,078 | 15,944 | 82.0 |
| 880 | 799 | 1,021 | 12,397 | 12,280 | 101.0 |
| 1,261 | 1,103 | 1,191 | 14,667 | 13,826 | 106.1 |
| 230 | 195 | 214 | 2,564 | 2,134 | 120.1 |
| 392 | 294 | 292 | 3,931 | 3,630 | 108.3 |
| 68 | 115 | 82 | 1,131 | 907 | 124.7 |
| 283 | 439 | 521 | 4,458 | 4,435 | 100.5 |
| 10 | 9 | 15 | 250 | 117 | 213.7 |
| 603 | 656 | 678 | 8,105 | 8,799 | 92.1 |
| 41,379 | 37,185 | 40,539 | 469,844 | 470,162 | 99.9 |

(単位：件、%)

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 前年度 | 対前年度比 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|
| 58 | 43 | 6 | 9 | 1 | 8 | 332 | 815 | 40.7 |
| 28 | 40 | 48 | 78 | 53 | 51 | 487 | 417 | 116.8 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 86 | 83 | 54 | 87 | 54 | 59 | 819 | 1,232 | 66.5 |
| 17 | 27 | 3 | 9 | 14 | 26 | 178 | 654 | 27.2 |
| 28 | 51 | 36 | 59 | 44 | 40 | 439 | 312 | 140.7 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 8 | 50.0 |
| 45 | 78 | 39 | 68 | 58 | 66 | 621 | 974 | 63.8 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 10 | 12 | 83.3 |
| 14 | 17 | 13 | 23 | 12 | 15 | 198 | 542 | 36.5 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| 0 | 1 | 5 | 2 | 1 | 1 | 10 | 4 | 250.0 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 57 | |
| 7 | 2 | 0 | 0 | 0 | 9 | 31 | 6 | 516.7 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | |
| 23 | 21 | 18 | 26 | 13 | 26 | 249 | 640 | 38.9 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | |
| 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 12 | 19 | 63.2 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 154 | 182 | 113 | 181 | 125 | 151 | 1,701 | 2,871 | 59.2 |

(単位：bag数、%)

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 前年度 | 対前年度比 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-------|
| 32 | 16 | 9 | 16 | 2 | 25 | 189 | 134 | 141.0 |
| 8 | 27 | 19 | 33 | 36 | 26 | 207 | 77 | 268.8 |
| 40 | 43 | 28 | 49 | 38 | 51 | 396 | 211 | 187.7 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 8 | 9 | 2 | 2 | 10 | 11 | 105 | 135 | 77.8 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 8 | 9 | 2 | 2 | 10 | 11 | 105 | 135 | 77.8 |
| 48 | 52 | 30 | 51 | 48 | 62 | 501 | 346 | 144.8 |

(単位：件)

| 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----|----|----|----|
| 0 | 0 | 0 | 1 |

(12) 薬 剤

① 調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

| 区 分 | 単 位 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | |
|-------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----|
| 外 来 | 枚 数 | 137 | 165 | 136 | 182 | 181 | 161 | |
| | 件 数 | 230 | 299 | 222 | 286 | 299 | 265 | |
| | 剤 数 | 1,404 | 2,239 | 1,510 | 1,527 | 1,855 | 2,130 | |
| 入 院 | 枚 数 | 1,047 | 1,278 | 1,271 | 1,261 | 1,313 | 1,140 | |
| | 件 数 | 2,566 | 3,087 | 2,935 | 2,999 | 2,983 | 2,417 | |
| | 剤 数 | 13,134 | 16,181 | 14,759 | 16,020 | 15,098 | 12,262 | |
| | 麻薬 (内数) | 枚 数 | 30 | 33 | 46 | 24 | 40 | 34 |
| | | 件 数 | 30 | 33 | 46 | 24 | 40 | 34 |
| | | 剤 数 | 30 | 33 | 46 | 24 | 40 | 34 |
| 合 計 | 枚 数 | 1,184 | 1,443 | 1,407 | 1,443 | 1,494 | 1,301 | |
| | 件 数 | 2,796 | 3,386 | 3,157 | 3,285 | 3,282 | 2,682 | |
| | 剤 数 | 14,538 | 18,420 | 16,269 | 17,547 | 16,953 | 14,392 | |
| 院外処方箋 | 枚 数 | 1,169 | 1,204 | 1,147 | 1,211 | 1,238 | 1,149 | |
| | 発行率(%) | 89.5 | 87.9 | 89.4 | 86.9 | 87.2 | 87.7 | |

イ 調剤件数内訳

| 区 分 | 錠 剤 | 散 剤 | 水 剤 | 外 用 | 注射薬 | 計 |
|--------|-------|--------|-------|-------|------|--------|
| 外 来 | 882 | 671 | 126 | 1,304 | 269 | 3,252 |
| 入 院 | 6,920 | 17,304 | 4,018 | 6,797 | 141 | 35,180 |
| 割 合(%) | 20.3% | 46.8% | 10.8% | 21.1% | 1.1% | 38,432 |

② 注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

| 区 分 | 単 位 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | |
|------------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 個人セット | 枚数 | 1,907 | 1,969 | 2,206 | 2,071 | 2,094 | 1,970 | |
| | 本数 | 20,777 | 19,185 | 24,106 | 18,623 | 20,060 | 22,701 | |
| | HIS (内数) | 枚数 | 1,729 | 1,815 | 2,037 | 1,941 | 1,965 | 1,817 |
| | | 本数 | 17,242 | 15,954 | 20,153 | 16,610 | 17,537 | 19,796 |
| | PICU (内数) | 枚数 | 178 | 154 | 169 | 130 | 129 | 153 |
| | | 本数 | 3,535 | 3,231 | 3,953 | 2,013 | 2,523 | 2,905 |
| 血液製剤 (外用剤を含む) | 枚数 | 80 | 130 | 173 | 119 | 82 | 61 | |
| | 本数 | 148 | 234 | 252 | 202 | 150 | 124 | |
| | 外用剤 (内数) | (枚数) | 1 | 3 | 6 | 3 | 0 | 2 |
| | | (本数) | 7 | 12 | 10 | 10 | 5 | 3 |
| 麻 薬 | 枚数 | 136 | 163 | 175 | 134 | 162 | 144 | |
| | 本数 | 543 | 674 | 654 | 419 | 635 | 365 | |
| 毒 薬 | 枚数 | 90 | 111 | 110 | 97 | 115 | 98 | |
| | 本数 | 270 | 364 | 319 | 190 | 199 | 231 | |
| 輸液 (高カロリー) | 本数 | 144 | 154 | 146 | 119 | 148 | 110 | |
| 薬品請求伝票 | 枚数 | 279 | 265 | 268 | 277 | 314 | 308 | |
| | 本数 | 2,100 | 2,217 | 1,828 | 2,062 | 2,332 | 2,182 | |
| ビドマー | 本数 | 6,263 | 5,991 | 6,096 | 5,729 | 6,232 | 5,583 | |
| 合 計 | 枚数 | 2,492 | 2,638 | 2,932 | 2,698 | 2,767 | 2,581 | |
| | 本数 | 30,245 | 28,819 | 33,401 | 27,344 | 29,756 | 31,296 | |

(※) IVH-枚数：1日1枚として集計。

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 162 | 151 | 155 | 174 | 145 | 164 | 1,913 |
| 282 | 254 | 288 | 270 | 268 | 285 | 3,248 |
| 1,970 | 1,398 | 2,604 | 1,604 | 1,631 | 3,146 | 23,018 |
| 1,486 | 1,445 | 1,339 | 1,404 | 1,283 | 1,307 | 15,574 |
| 3,255 | 3,120 | 2,916 | 2,978 | 2,938 | 2,986 | 35,180 |
| 17,150 | 15,714 | 17,003 | 15,735 | 15,393 | 14,871 | 183,320 |
| 36 | 37 | 25 | 28 | 27 | 27 | 387 |
| 36 | 37 | 25 | 28 | 27 | 27 | 387 |
| 36 | 37 | 25 | 28 | 27 | 27 | 387 |
| 1,648 | 1,596 | 1,494 | 1,578 | 1,428 | 1,471 | 17,487 |
| 3,537 | 3,374 | 3,204 | 3,248 | 3,206 | 3,271 | 38,428 |
| 19,120 | 17,112 | 19,607 | 17,339 | 17,024 | 18,017 | 206,338 |
| 1,266 | 1,184 | 1,293 | 1,262 | 1,178 | 1,380 | 14,681 |
| 88.7 | 88.8 | 89.5 | 88.1 | 89.0 | 89.4 | 88.5 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 2,418 | 2,556 | 2,315 | 2,466 | 2,074 | 2,129 | 26,175 |
| 26,945 | 30,784 | 27,633 | 30,400 | 27,358 | 23,408 | 291,980 |
| 2,214 | 2,344 | 2,103 | 2,263 | 1,895 | 1,990 | 24,113 |
| 22,742 | 26,473 | 23,604 | 26,615 | 23,326 | 19,959 | 250,011 |
| 204 | 212 | 212 | 203 | 179 | 139 | 2,062 |
| 4,203 | 4,311 | 4,029 | 3,785 | 4,032 | 3,449 | 41,969 |
| 176 | 187 | 137 | 164 | 158 | 148 | 1,615 |
| 244 | 255 | 208 | 257 | 246 | 225 | 2,545 |
| 3 | 1 | 1 | 5 | 2 | 4 | 31 |
| 8 | 2 | 10 | 19 | 9 | 8 | 103 |
| 220 | 214 | 249 | 263 | 228 | 275 | 2,363 |
| 735 | 578 | 720 | 898 | 648 | 1,000 | 7,869 |
| 125 | 114 | 109 | 113 | 106 | 114 | 1,302 |
| 419 | 289 | 336 | 338 | 198 | 302 | 3,455 |
| 183 | 266 | 274 | 292 | 240 | 134 | 2,210 |
| 360 | 328 | 290 | 317 | 289 | 272 | 3,567 |
| 2,714 | 2,340 | 2,362 | 2,697 | 2,288 | 1,854 | 26,976 |
| 7,500 | 7,195 | 7,166 | 6,876 | 6,261 | 6,704 | 77,596 |
| 3,299 | 3,399 | 3,100 | 3,323 | 2,855 | 2,938 | 35,022 |
| 38,740 | 41,707 | 38,699 | 41,758 | 37,239 | 33,627 | 412,631 |

イ 抗がん薬調製数

| 区 分 | 単 位 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|
| 抗がん薬調製数 | 本数 | 57 | 83 | 93 | 78 | 65 | 45 |

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

| 区 分 | 単 位 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 薬品請求伝票 | 枚 数 | 123 | 116 | 124 | 127 | 137 | 118 |
| | 本 数 | 1,350 | 1,508 | 1,344 | 1,583 | 1,421 | 1,326 |
| ビドマー支給 | 本 数 | 1,197 | 1,489 | 1,075 | 1,329 | 1,332 | 919 |
| 合 計 | 枚 数 | 123 | 116 | 124 | 127 | 137 | 118 |
| | 本 数 | 2,547 | 2,997 | 2,419 | 2,912 | 2,753 | 2,245 |

④薬剤情報件数等

| 区 分 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|---------------|------|----|----|----|----|----|----|
| 薬剤情報提供件数 | | 35 | 44 | 40 | 70 | 54 | 49 |
| 服薬指導件数（退院時） | | 15 | 24 | 18 | 20 | 19 | 12 |
| 薬剤管理指導（保険請求分） | | 3 | 5 | 16 | 32 | 33 | 22 |
| D I 情 報 | | 30 | 16 | 9 | 12 | 20 | 25 |
| 薬剤鑑別 | 患者数 | 7 | 2 | 4 | 2 | 3 | 5 |
| | 延べ剤数 | 18 | 3 | 7 | 4 | 7 | 7 |
| 医薬品安全性情報報告件数 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

⑤製剤等の状況（種類別、製剤件数及び量）

| 区 分 | 単 位 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 散 剤 | 件 数 | 68 | 56 | 53 | 55 | 72 | 63 |
| 内 用 液 剤 | 件 数 | 18 | 10 | 16 | 16 | 18 | 11 |
| 軟 膏 | 件 数 | 1 | 2 | 1 | 5 | 0 | 0 |
| 坐 剤 | 件 数 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 数量(本) | 45 | 106 | 0 | 0 | 0 | 45 |
| 外 用 液 剤 | 件 数 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 外用液剤(無菌調製) | 件 数 | 13 | 8 | 10 | 9 | 14 | 8 |
| 注射剤(無菌調製) | 件 数 | 32 | 49 | 59 | 46 | 24 | 24 |
| 合 計 | 件 数 | 134 | 127 | 140 | 132 | 128 | 107 |

<主な製剤内訳>

| | | |
|--------|-----------------|---------|
| 液剤（内用） | ミダゾラムシロップ | 1.3 L |
| | 検査用トリクロールシロップ | 160 本 |
| 散剤（内服） | HMS-1 | 654 件 |
| | トロミ剤 | 106 件 |
| 軟 膏 | 30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏 | 17.0 Kg |
| 坐 剤 | ワコビタール坐剤 2mg | 16 個 |
| | ワコビタール坐剤 10mg | 360 個 |
| 無菌製剤 | フラッシュ用生食 (5mL) | 502 本 |
| | エタノールロック注 (1mL) | 222 本 |
| | MK注腸液 (2.6mL) | 380 本 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 113 | 127 | 69 | 69 | 40 | 89 | 928 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 137 | 136 | 143 | 131 | 121 | 111 | 1,524 |
| 1,416 | 1,582 | 1,441 | 1,301 | 1,399 | 1,325 | 16,996 |
| 1,586 | 1,203 | 1,138 | 1,441 | 1,257 | 1,336 | 15,302 |
| 137 | 136 | 143 | 131 | 121 | 111 | 1,524 |
| 3,002 | 2,785 | 2,579 | 2,742 | 2,656 | 2,661 | 32,298 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 49 | 54 | 46 | 74 | 39 | 30 | 584 |
| 26 | 16 | 24 | 11 | 11 | 14 | 210 |
| 35 | 25 | 29 | 27 | 19 | 22 | 268 |
| 19 | 17 | 8 | 19 | 24 | 6 | 205 |
| 8 | 6 | 7 | 12 | 5 | 14 | 75 |
| 22 | 17 | 36 | 43 | 26 | 42 | 232 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 85 | 67 | 63 | 47 | 80 | 51 | 760 |
| 18 | 18 | 15 | 12 | 12 | 9 | 173 |
| 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 17 |
| 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 6 |
| 90 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 376 |
| 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 9 | 15 | 17 | 17 | 11 | 14 | 145 |
| 64 | 82 | 41 | 42 | 23 | 61 | 547 |
| 180 | 183 | 138 | 119 | 128 | 137 | 1,653 |

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

| 薬効分類 | 平成29年度 | 平成30年度 | 構成比率 |
|--------------|-------------|-------------|--------|
| 中枢神経系用薬 | 49,216,580 | 192,406,378 | 29.4% |
| 末梢神経系用薬 | 6,998,555 | 5,943,343 | 0.9% |
| 感覚器官用薬 | 352,814 | 337,405 | 0.1% |
| アレルギー用薬 | 878,191 | 692,898 | 0.1% |
| 循環器官用薬 | 35,097,371 | 27,623,956 | 4.2% |
| 呼吸器官用薬 | 8,598,430 | 10,463,677 | 1.6% |
| 消化器官用薬 | 3,757,323 | 3,361,155 | 0.5% |
| ホルモン剤 | 43,785,678 | 54,774,538 | 8.4% |
| 泌尿生殖器官及び肛門用薬 | 1,151,108 | 789,168 | 0.1% |
| 外皮用薬 | 1,344,351 | 1,525,105 | 0.2% |
| ビタミン剤 | 1,777,965 | 807,990 | 0.1% |
| 滋養強壯剤 | 9,413,439 | 10,065,586 | 1.5% |
| 血液及び体液用剤 | 15,696,951 | 17,087,957 | 2.6% |
| その他の代謝性医薬品 | 23,284,681 | 31,728,403 | 4.8% |
| 腫瘍用剤 | 13,354,372 | 9,063,986 | 1.4% |
| 抗生物質製剤 | 19,880,911 | 18,917,370 | 2.9% |
| 化学療法剤 | 205,087,254 | 183,618,595 | 28.0% |
| 生物学的製剤 | 57,959,543 | 71,638,251 | 10.9% |
| 調剤用薬 | 4,391,085 | 4,675,720 | 0.7% |
| 診断用薬 | 2,123,554 | 2,048,644 | 0.3% |
| 麻薬 | 2,994,244 | 2,921,984 | 0.7% |
| その他 | 6,639,323 | 4,431,900 | 1.1% |
| 計 | 513,783,723 | 654,924,009 | 100.0% |

(13) リハビリテーション

①診療点数

| 区 分 | 理学療法 | 作業療法 | 言語療法 | 合 計 |
|-----|-----------|-----------|---------|-----------|
| 入 院 | 1,340,055 | 497,174 | 66,875 | 1,904,104 |
| 外 来 | 1,317,327 | 953,115 | 776,670 | 3,047,112 |
| 合 計 | 2,657,382 | 1,450,289 | 843,545 | 4,951,216 |

②延べ治療件数

| 区 分 | 理学療法 | 作業療法 | 言語療法 | 合 計 |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| 入 院 | 3,380 | 1,386 | 225 | 4,991 |
| 外 来 | 3,000 | 2,235 | 1,602 | 6,837 |
| 合 計 | 6,380 | 3,621 | 1,827 | 11,828 |

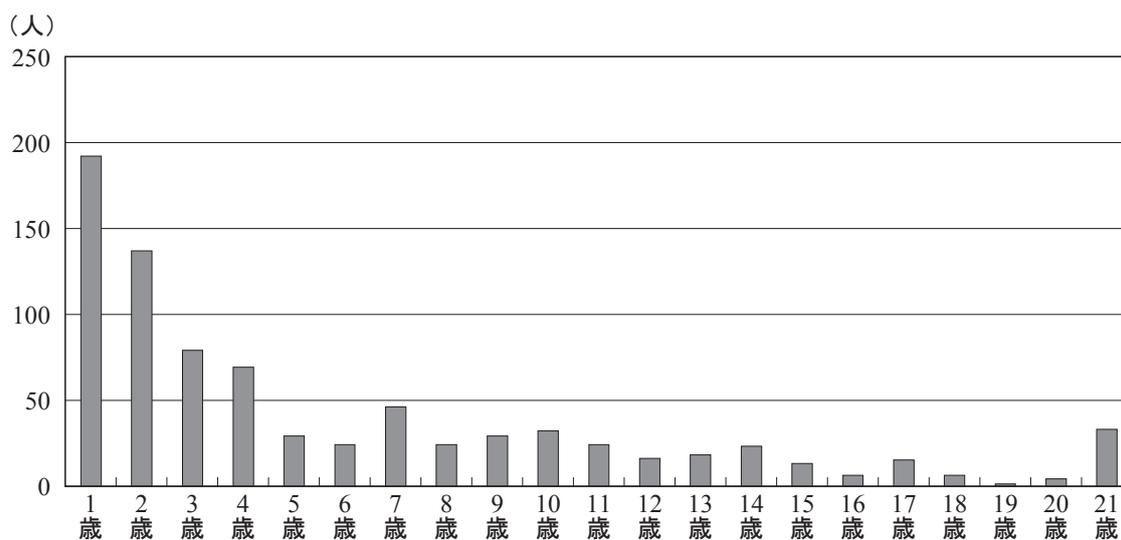
③延べ単位数

| 区 分 | 理学療法 | 作業療法 | 言語療法 | 合 計 |
|-----|--------|-------|-------|--------|
| 入 院 | 5,801 | 2,183 | 212 | 8,196 |
| 外 来 | 6,259 | 4,397 | 3,607 | 14,263 |
| 合 計 | 12,060 | 6,580 | 3,819 | 22,459 |

④新患リハビリテーション患者数

| | 入 院 | 外 来 | 合 計 |
|----------|-----|-----|-----|
| 平成 28 年度 | 344 | 283 | 627 |
| 平成 29 年度 | 395 | 290 | 685 |
| 平成 30 年度 | 474 | 346 | 820 |

⑤年齢別新規患者数



⑥リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

| | 入 院 | | 外 来 | |
|-------------------------------|-------|-----------|-------|-----------|
| | 単 位 数 | 診療点数 | 単 位 数 | 診療点数 |
| 運動器疾患リハビリテーションⅠ | 1,379 | 255,115 | 302 | 55,870 |
| 早期リハ加算(運動Ⅰ) | 665 | 19,950 | 6 | 180 |
| 初期加算(運動Ⅰ) | 344 | 15,480 | 2 | 90 |
| 呼吸器疾患リハビリテーションⅠ | 1,195 | 209,125 | 53 | 9,275 |
| 早期リハ加算(呼吸Ⅰ) | 1,006 | 30,180 | 0 | 0 |
| 初期加算(呼吸Ⅰ) | 767 | 34,515 | 0 | 0 |
| 心大血管疾患リハビリテーションⅠ | 1,939 | 397,495 | 115 | 23,575 |
| 早期リハ加算(心Ⅰ) | 1,185 | 35,550 | 0 | 0 |
| 初期加算(心Ⅰ) | 804 | 36,180 | 0 | 0 |
| 脳血管疾患リハビリテーションⅡ | 230 | 46,000 | 26 | 5,200 |
| 早期リハ加算(脳Ⅱ) | 145 | 4,350 | 0 | 0 |
| 初期加算(脳Ⅱ) | 53 | 2,385 | 0 | 0 |
| がん患者リハビリテーション料 | 325 | 66,625 | 0 | 0 |
| 廃用症候群リハビリテーションⅡ | 0 | 0 | 12 | 1,752 |
| 早期リハ加算(廃用Ⅱ) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 初期加算(廃用Ⅱ) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 障害者リハビリ(6歳未満) | 235 | 52,875 | 3,662 | 823,950 |
| 障害者リハビリ(6歳～18歳) | 481 | 93,795 | 1,841 | 358,995 |
| 障害者リハビリ(18歳以上) | 17 | 2,635 | 248 | 38,440 |
| 合 計 | 5,801 | 1,302,255 | 6,259 | 1,317,327 |
| その他 (退院時リハビリ指導料/リハ総合計画評価料) | | 37,800 | | |

作業療法

| | 入 院 | | 外 来 | |
|-------------------------------|-------|---------|-------|---------|
| | 単 位 数 | 診療点数 | 単 位 数 | 診療点数 |
| 運動器疾患リハビリテーションⅠ | 31 | 5,735 | 15 | 2,775 |
| 早期リハ加算(運動Ⅰ) | 17 | 510 | 0 | 0 |
| 初期加算(運動Ⅰ) | 6 | 270 | 0 | 0 |
| 呼吸器疾患リハビリテーションⅠ | 293 | 49,810 | 2 | 340 |
| 早期リハ加算(呼吸Ⅰ) | 146 | 6,570 | 0 | 0 |
| 初期加算(呼吸Ⅰ) | 236 | 10,620 | 0 | 0 |
| 心大血管疾患リハビリテーションⅠ | 81 | 16,605 | 14 | 2,870 |
| 早期リハ加算(心Ⅰ) | 24 | 1,080 | 0 | 0 |
| 初期加算(心Ⅰ) | 10 | 450 | 0 | 0 |
| 脳血管疾患リハビリテーションⅡ | 212 | 42,400 | 52 | 10,400 |
| 早期リハ加算(脳Ⅱ) | 175 | 5,250 | 0 | 0 |
| 初期加算(脳Ⅱ) | 86 | 3,870 | 0 | 0 |
| がん患者リハビリテーション料 | 177 | 36,285 | 0 | 0 |
| 廃用症候群リハビリテーションⅡ | 19 | 2,774 | 0 | 0 |
| 早期リハ加算(廃用Ⅱ) | 19 | 570 | 0 | 0 |
| 初期加算(廃用Ⅱ) | 19 | 855 | 0 | 0 |
| 障害者リハビリ(6歳未満) | 1,057 | 237,825 | 3,202 | 720,450 |
| 障害者リハビリ(6歳～18歳) | 297 | 57,915 | 1,098 | 214,110 |
| 障害者リハビリ(18歳以上) | 16 | 2,480 | 14 | 2,170 |
| 合 計 | 2,183 | 481,874 | 4,397 | 953,115 |
| その他 (退院時リハビリ指導料/リハ総合計画評価料) | | 15,300 | | |

言語療法

| | 入 院 | | 外 来 | |
|-------------------------------|-------|--------|-------|---------|
| | 単 位 数 | 診療点数 | 単 位 数 | 診療点数 |
| 脳血管疾患リハビリテーションⅡ | 60 | 12,000 | 115 | 23,000 |
| 早期リハ加算(脳血Ⅱ) | 48 | 1,440 | 0 | 0 |
| 初期加算(脳血Ⅱ) | 26 | 1,170 | 0 | |
| 障害者リハビリ(6歳未満) | 123 | 27,675 | 2,379 | 535,275 |
| 障害者リハビリ(6歳～18歳) | 29 | 5,655 | 1,110 | 216,450 |
| 障害者リハビリ(18歳以上) | 0 | 0 | 3 | 465 |
| 摂食機能療法(3ヶ月以内) | 91件 | 16,835 | 2件 | 370 |
| 摂食機能療法(3ヶ月以上) | 0件 | 0 | 6件 | 1,110 |
| 合 計 | 212 | 64,775 | 3,607 | 776,670 |
| その他 (退院時リハビリ指導料/リハ総合計画評価料) | | 2,100 | | |

(14) 栄 養

①一般食の種類と食数

| 食種 | 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 比率 (%) |
|----------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-----------|
| 幼児食 | 1 | 293 | 456 | 310 | 330 | 427 | 337 | 336 | 463 | 485 | 318 | 168 | 374 | 4,297 | 12.65 |
| | 2 | 316 | 375 | 482 | 354 | 397 | 345 | 321 | 291 | 258 | 538 | 369 | 383 | 4,429 | 13.04 |
| 学童食 | 1 | 120 | 177 | 181 | 147 | 154 | 156 | 352 | 637 | 615 | 234 | 169 | 297 | 3,239 | 9.54 |
| | 2 | 301 | 364 | 413 | 364 | 465 | 316 | 364 | 250 | 188 | 288 | 332 | 404 | 4,049 | 11.92 |
| | 3 | 327 | 276 | 237 | 224 | 301 | 310 | 280 | 189 | 196 | 104 | 123 | 238 | 2,805 | 8.26 |
| | 4 | 173 | 68 | 161 | 72 | 303 | 15 | 122 | 140 | 474 | 395 | 295 | 215 | 2,433 | 7.16 |
| 妊産婦食 | | 340 | 530 | 700 | 809 | 848 | 545 | 827 | 728 | 728 | 639 | 504 | 522 | 7,720 | 22.73 |
| 全粥食 | | 197 | 135 | 167 | 280 | 224 | 246 | 305 | 244 | 106 | 329 | 297 | 229 | 2,759 | 8.12 |
| 七分粥食 | | 6 | 3 | 3 | 6 | 12 | 8 | 1 | 1 | 10 | 1 | 11 | 6 | 68 | 0.20 |
| 五分粥食 | | 6 | 6 | 11 | 32 | 11 | 42 | 15 | 9 | 18 | 10 | 7 | 11 | 178 | 0.52 |
| 三分粥食 | | 3 | 3 | 6 | 7 | 3 | 11 | 6 | 4 | 79 | | 3 | 3 | 128 | 0.38 |
| 流動食 | | 64 | 45 | 25 | 59 | 11 | 11 | 6 | 39 | 13 | 12 | 22 | 14 | 321 | 0.95 |
| 心カテ食 | | 19 | 23 | 19 | 32 | 48 | 22 | 25 | 27 | 13 | 21 | 1 | 14 | 264 | 0.78 |
| 術前食 | | 1 | | | | | 1 | 2 | | 1 | | | 1 | 6 | 0.02 |
| DAY食 | | 6 | 7 | 11 | 4 | 13 | 13 | 10 | 10 | 12 | 10 | 11 | 11 | 118 | 0.35 |
| 歯科DAY食 | | 28 | 31 | 28 | 26 | 26 | 25 | 27 | 30 | 25 | 26 | 24 | 32 | 328 | 0.97 |
| 食物負荷DAY食 | | 3 | 6 | 3 | 4 | 6 | 10 | 6 | 6 | 10 | 13 | 14 | 15 | 96 | 0.28 |
| 遅延食 | | 44 | 48 | 50 | 54 | 91 | 49 | 75 | 70 | 80 | 49 | 52 | 65 | 727 | 2.14 |
| 計 | | 2,247 | 2,553 | 2,807 | 2,804 | 3,340 | 2,462 | 3,080 | 3,138 | 3,311 | 2,987 | 2,402 | 2,834 | 33,965 | 100.0 |

(注) 幼児食 1 (1歳～2歳) 学童食 2 (8歳～9歳)
 幼児食 2 (3歳～5歳) 学童食 3 (10歳～11歳)
 学童食 1 (6歳～7歳) 学童食 4 (12歳以上)

②離乳食の種類と食数

| 食種 | 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 比率 (%) |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----------|
| 離乳食 | 初期 | 8 | 16 | 82 | 152 | 152 | 129 | 42 | 132 | 55 | 55 | 46 | 80 | 949 | 20.3 |
| | 中期 | 268 | 223 | 266 | 205 | 111 | 150 | 172 | 73 | 40 | 12 | 27 | 21 | 1,568 | 33.6 |
| | 後期 | 102 | 141 | 185 | 69 | 31 | 211 | 84 | 91 | 48 | 122 | 94 | 74 | 1,252 | 26.8 |
| | 完了期 | 68 | 58 | 149 | 75 | 91 | 42 | 65 | 42 | 92 | 101 | 67 | 50 | 900 | 19.3 |
| 計 | | 446 | 438 | 682 | 501 | 385 | 532 | 363 | 338 | 235 | 290 | 234 | 225 | 4,669 | 100.0 |

③特別食の種類と食数

| 食種 | 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 比率 (%) |
|---------|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|-----------|
| ネフローゼ食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | 9 | | | | | | | | | | | | 9 | 1.5 |
| 腎 蔵 食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | | | | | | | 11 | 6 | | | | | 17 | 2.9 |
| 糖 尿 病 食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | | | | | | | | | 51 | | | | 51 | 8.7 |
| | 妊産婦 | 21 | 10 | 36 | 8 | | | 20 | 25 | 2 | 12 | 3 | 46 | 183 | 31.1 |
| 高脂血症食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | | | | 4 | 14 | | | | | | 64 | 5 | 87 | 14.8 |
| 肝 炎 食 | 幼児 | | | | | 19 | | | | | | | | 19 | 3.2 |
| | 学童 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| 膵 炎 食 | 幼児 | | | | | 14 | 32 | 16 | 24 | 26 | 2 | | | 114 | 19.4 |
| | 学童 | | | | | 3 | 6 | | | | | | 27 | 36 | 6.1 |
| 潰 瘍 食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | 0.3 |
| 貧 血 食 | 幼児 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 学童 | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 |
| | 妊産婦 | | | | | | | | 10 | 7 | | | | 17 | 2.9 |
| 低 残 渣 食 | 幼児 | | | 7 | | | | | | | 2 | 3 | | 12 | 2.0 |
| | 学童 | 11 | | | | 5 | 8 | | 1 | | 1 | | | 26 | 4.4 |
| | 妊産婦 | | | | | | 12 | 4 | | | | | | 16 | 2.7 |
| 計 | | 41 | 10 | 43 | 12 | 55 | 58 | 51 | 66 | 86 | 17 | 72 | 78 | 589 | 100.0 |

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

| 種 類 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 普通ミルク | 人数 | 726 | 721 | 827 | 774 | 747 | 813 | 885 | 837 | 786 | 668 | 673 | 703 | 9,160 |
| | 本数 | 4,395 | 4,751 | 5,376 | 5,149 | 4,992 | 5,015 | 5,567 | 5,421 | 5,367 | 4,574 | 4,462 | 4,871 | 59,940 |
| L B W | 人数 | 179 | 219 | 287 | 218 | 130 | 131 | 273 | 286 | 103 | 158 | 221 | 173 | 2,378 |
| | 本数 | 1,588 | 2,016 | 2,492 | 1,809 | 1,047 | 1,136 | 2,428 | 2,384 | 872 | 1,346 | 1,818 | 1,503 | 20,439 |
| ニューMA-1 | 人数 | 63 | 37 | 35 | 1 | 23 | 20 | 35 | 7 | 9 | | 2 | 1 | 233 |
| | 本数 | 471 | 259 | 190 | 4 | 86 | 160 | 264 | 42 | 70 | | 8 | 2 | 1,556 |
| M C T | 人数 | 40 | 28 | 51 | 16 | | | 51 | 79 | 54 | 60 | 78 | 63 | 520 |
| | 本数 | 208 | 220 | 378 | 128 | | | 388 | 724 | 580 | 588 | 603 | 480 | 4,297 |
| エレメンタル フォーミュラ | 人数 | 1 | 16 | 58 | 59 | 71 | 29 | 29 | 2 | 22 | 11 | 3 | 3 | 304 |
| | 本数 | 5 | 122 | 489 | 460 | 575 | 232 | 213 | 10 | 115 | 68 | 9 | 18 | 2,316 |
| ノンラクト | 人数 | | 9 | | | | | | | | | | | 9 |
| | 本数 | | 63 | | | | | | | | | | | 63 |
| S-23・無糖 MCT混合 | 人数 | 30 | 31 | 46 | 26 | | | | | | | | | 133 |
| | 本数 | 240 | 248 | 256 | 131 | | | | | | | | | 875 |
| 低K低P | 人数 | | | | | 6 | | | | | | | | 6 |
| | 本数 | | | | | 24 | | | | | | | | 24 |
| ケトンフォー ミュラー | 人数 | | | | | | | | | | 14 | | | 14 |
| | 本数 | | | | | | | | | | 35 | | | 35 |
| ARミルク | 人数 | 42 | 106 | 72 | 40 | 25 | 27 | 11 | 5 | 30 | | | | 358 |
| | 本数 | 280 | 729 | 489 | 200 | 200 | 212 | 80 | 40 | 240 | | | | 2,470 |
| 計 | 人数 | 1,081 | 1,167 | 1,376 | 1,134 | 1,002 | 1,020 | 1,284 | 1,216 | 1,004 | 911 | 977 | 943 | 13,115 |
| | 本数 | 7,187 | 8,408 | 9,670 | 7,881 | 6,924 | 6,755 | 8,940 | 8,621 | 7,244 | 6,611 | 6,900 | 6,874 | 92,015 |

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

| 種 類 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| エンシュア | 人数 | 22 | 88 | 60 | 94 | 85 | 87 | 18 | 41 | 40 | 19 | 16 | 56 | 626 |
| | 本数 | 104 | 572 | 350 | 604 | 472 | 489 | 109 | 276 | 222 | 122 | 85 | 299 | 3,704 |
| エンシュアH | 人数 | 2 | 7 | 2 | 8 | | | | | | 8 | 10 | 4 | 41 |
| | 本数 | 6 | 39 | 8 | 42 | | | | | | 12 | 25 | 24 | 156 |
| エネーボ | 人数 | 65 | 18 | 38 | 20 | 22 | 24 | 57 | 67 | 83 | 49 | 62 | 68 | 573 |
| | 本数 | 398 | 126 | 220 | 106 | 122 | 201 | 285 | 429 | 432 | 138 | 192 | 244 | 2,893 |
| ラコーラ | 人数 | 26 | 121 | 48 | 88 | 45 | 86 | 60 | 69 | 47 | 72 | 43 | 50 | 755 |
| | 本数 | 124 | 507 | 189 | 368 | 179 | 456 | 250 | 302 | 197 | 267 | 200 | 234 | 3,273 |
| ラコーラ (半固形) | 人数 | 46 | 26 | 35 | 66 | 39 | 54 | 101 | 31 | 58 | 61 | 71 | 124 | 712 |
| | 本数 | 180 | 52 | 80 | 246 | 139 | 174 | 388 | 77 | 172 | 206 | 300 | 488 | 2,502 |
| エレンタールP | 人数 | 258 | 200 | 128 | 142 | 124 | 108 | 109 | 85 | 114 | 121 | 148 | 156 | 1,693 |
| | 本数 | 1,878 | 1,381 | 779 | 960 | 737 | 711 | 555 | 567 | 897 | 913 | 919 | 1,031 | 11,328 |
| エレンタール | 人数 | 85 | 68 | 113 | 128 | 136 | 102 | 150 | 133 | 156 | 173 | 172 | 168 | 1,584 |
| | 本数 | 411 | 416 | 590 | 613 | 595 | 533 | 785 | 729 | 808 | 877 | 922 | 781 | 8,060 |
| C Z - H i | 人数 | 53 | 56 | 95 | 64 | 110 | 62 | 79 | 67 | 67 | 73 | 56 | 73 | 855 |
| | 本数 | 370 | 382 | 423 | 374 | 649 | 375 | 449 | 385 | 376 | 401 | 308 | 387 | 4,879 |
| ハイネーゲル | 人数 | | | | | | | | | | | | 21 | 21 |
| | 本数 | | | | | | | | | | | | 152 | 152 |
| ペプタメンス タンダード | 人数 | 3 | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 本数 | 15 | | | | | | | | | | | | 15 |
| ブルモケア | 人数 | | | | 10 | 20 | | | | | | 2 | | 32 |
| | 本数 | | | | 57 | 40 | | | | | | 11 | | 108 |
| アイソカルサ ポートソフト | 人数 | 30 | 36 | 56 | 31 | 31 | 30 | 31 | 30 | 31 | 31 | 28 | 43 | 408 |
| | 本数 | 120 | 149 | 256 | 124 | 124 | 120 | 124 | 120 | 124 | 124 | 112 | 142 | 1,639 |
| ブイアクセル | 人数 | 90 | 177 | 150 | 79 | 42 | 29 | 29 | 30 | 31 | 31 | 28 | 31 | 747 |
| | 本数 | 132 | 179 | 203 | 110 | 53 | 29 | 29 | 30 | 31 | 31 | 38 | 62 | 927 |
| テゾン | 人数 | 7 | 13 | 35 | 75 | 56 | 41 | 40 | 25 | 29 | 15 | 16 | 17 | 369 |
| | 本数 | 11 | 20 | 142 | 110 | 86 | 41 | 41 | 30 | 29 | 15 | 16 | 17 | 558 |
| ブイクレスCP10 | 人数 | | | | | | | 19 | | 19 | 28 | 28 | 3 | 97 |
| | 本数 | | | | | | | 19 | | 19 | 28 | 28 | 3 | 97 |
| 糖 水 | 人数 | 4 | 5 | | | 1 | 4 | 1 | 12 | 1 | 1 | | 3 | 32 |
| | 本数 | 32 | 40 | | | 8 | 25 | 8 | 89 | 1 | 8 | | 3 | 214 |
| ポカリスエット | 人数 | 34 | 50 | 80 | 84 | 93 | 88 | 106 | 98 | 89 | 77 | 84 | 167 | 1,050 |
| | 本数 | 87 | 89 | 158 | 140 | 162 | 147 | 230 | 234 | 200 | 182 | 215 | 368 | 2,212 |
| G F O 水 | 人数 | | | | | | 8 | 20 | 35 | 34 | 54 | 94 | 89 | 334 |
| | 本数 | | | | | | 36 | 60 | 81 | 133 | 195 | 394 | 362 | 1,261 |
| MCTオイル | 人数 | 284 | 294 | 153 | 131 | 96 | 160 | 225 | 156 | 159 | 132 | 235 | 156 | 2,181 |
| | 本数 | 731 | 686 | 403 | 420 | 355 | 250 | 306 | 156 | 180 | 156 | 573 | 312 | 4,528 |
| 計 | 人数 | 1,009 | 1,159 | 993 | 1,020 | 900 | 883 | 1,045 | 879 | 958 | 945 | 1,093 | 1,229 | 12,092 |
| | 本数 | 4,599 | 4,638 | 3,801 | 4,274 | 3,721 | 3,587 | 3,638 | 3,505 | 3,821 | 3,675 | 4,338 | 4,909 | 48,354 |

⑥ NST (栄養サポートチーム)

ア NST 介入状況

男女別 NST 介入者

| 性別 | 人数(人) |
|----|-------|
| 男 | 4 |
| 女 | 6 |
| 計 | 10 |

年齢別

| 年齢 | 人数(人) |
|--------|-------|
| 1歳未満 | 4 |
| 1～2歳 | 3 |
| 3～5歳 | 0 |
| 6～7歳 | 0 |
| 8～9歳 | 2 |
| 10～11歳 | 0 |
| 12歳～ | 1 |
| 計 | 10 |

介入後の経過

| 経過 | 人数(人) |
|---------|-------|
| 退院(改善) | 7 |
| 退院(継続) | 1 |
| 退院(その他) | 0 |
| 入院(改善) | 0 |
| 入院(継続) | 2 |
| 計 | 10 |

病棟別 NST 介入者

| 病棟 | 人数(人) |
|---------|-------|
| 第一病棟 | 2 |
| 第二病棟 | 1 |
| 第三病棟 | 4 |
| N I C U | 1 |
| P I C U | 2 |
| 計 | 10 |

主症状別 NST 介入者

| 主症状 | 人数(人) |
|------------|-------|
| 嘔吐、下痢、消化不良 | 4 |
| 体重減少・増加不良 | 3 |
| 低栄養予防 | 3 |
| その他 | 0 |
| 計 | 10 |

イ 院内 NST 勉強会実施状況

| 対象 | 実施日 | 内容 | 参加人数 |
|--------------|-------|---------------------------|------|
| 院内スタッフ | 5月1日 | 食物繊維食品について | 59名 |
| 院内スタッフ | 6月5日 | 微量栄養素補給栄養剤について | 64名 |
| 院内スタッフ | 7月3日 | 小児急性胃腸炎診療ガイドライン2017年版について | 56名 |
| 院内スタッフ | 9月4日 | 微量栄養素補給栄養剤について | 62名 |
| 院内スタッフ | 11月6日 | 乳酸菌生成エキスについて | 60名 |
| H30年度新採看護師 他 | 1月21日 | 小児の栄養、消化機能と特徴 | 11名 |
| 院内スタッフ | 2月5日 | 半固形栄養剤注入補助器具について | 61名 |
| 院内スタッフ | 2月19日 | ED チューブについて | 62名 |
| 院内スタッフ | 3月5日 | 介護食について | 46名 |

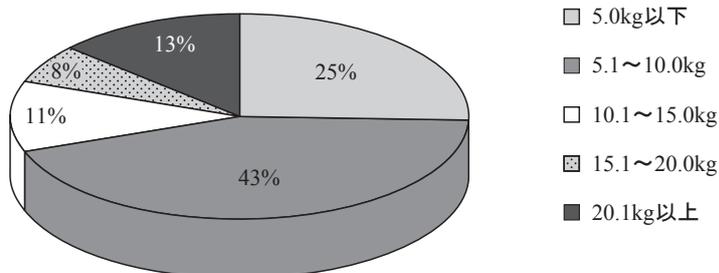
(15) 臨床工学課

①臨床業務件数

| | 体外循環 | 心臓カテーテル検査 | 血液浄化療法 | 補助循環 | 内視鏡手術 | NO吸入療法 | ペースメーカーチェック |
|-----|------|-----------|--------|------|-------|--------|-------------|
| 4月 | 3 | 17 | | | 4 | 1 | 7 |
| 5月 | 5 | 15 | 2 | | 7 | 5 | 6 |
| 6月 | 8 | 16 | 1 | | 12 | 2 | 3 |
| 7月 | 8 | 17 | 1 | | 10 | 4 | 3 |
| 8月 | 7 | 21 | | | 23 | 2 | 4 |
| 9月 | 4 | 17 | | | 12 | 5 | 9 |
| 10月 | 5 | 21 | | | 12 | 5 | 7 |
| 11月 | 5 | 11 | | | 13 | 2 | 3 |
| 12月 | 6 | 13 | 1 | | 16 | 4 | 4 |
| 1月 | 7 | 11 | | | 11 | 2 | 3 |
| 2月 | 5 | 9 | | | 8 | | 7 |
| 3月 | 4 | 13 | | | 13 | 3 | 5 |
| 合計 | 67 | 181 | 5 | 0 | 141 | 35 | 61 |
| 前年比 | 86% | 106% | 22% | 0% | 112% | 125% | 75% |

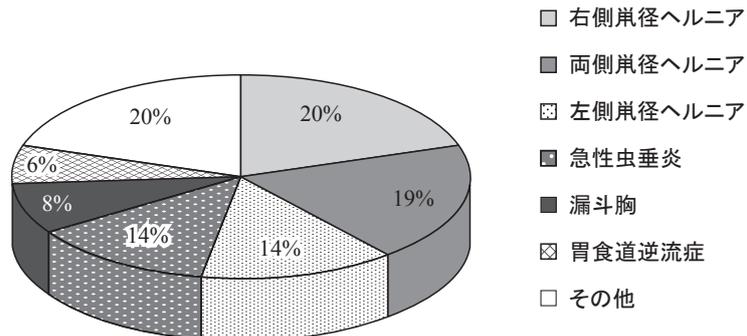
ア 体重別体外循環症例数

| 体 重 | 症例数 |
|-------------|-----|
| 5.0kg 以下 | 17 |
| 5.1～10.0kg | 29 |
| 10.1～15.0kg | 7 |
| 15.1～20.0kg | 5 |
| 20.1kg 以上 | 9 |



イ 疾患別内視鏡手術症例数

| 疾患 | 症例数 |
|----------|-----|
| 右側単径ヘルニア | 28 |
| 両側単径ヘルニア | 27 |
| 左側単径ヘルニア | 19 |
| 急性虫垂炎 | 19 |
| 漏斗胸 | 11 |
| 胃食道逆流症 | 9 |
| その他 | 28 |



②月別始業点検件数

| 機 種 名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 麻酔器 | | | | | | | | | | | | | |
| アバンス | 20 | 21 | 21 | 21 | 23 | 18 | 22 | 20 | 18 | 19 | 19 | 21 | 243 |
| エスティバ | 39 | 39 | 42 | 42 | 46 | 36 | 45 | 42 | 34 | 19 | 19 | 19 | 422 |
| アコマ | 3 | | 2 | 1 | 3 | 1 | 4 | 1 | 1 | 1 | 4 | 4 | 25 |
| ケアステーション | 40 | 42 | 43 | 43 | 45 | 35 | 44 | 43 | 43 | 57 | 57 | 62 | 554 |
| 人工呼吸器 | | | | | | | | | | | | | |
| Trilogy | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 | | 4 | 2 | 25 |
| BiPAP V60 | 8 | 2 | 2 | 5 | 4 | 2 | 4 | 4 | 4 | 2 | 3 | 1 | 41 |
| ハミング X | 4 | 3 | 4 | 2 | 6 | 4 | 8 | 4 | 6 | 6 | 3 | 4 | 54 |
| Avea | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 1 | | 5 |
| ハミング ビュー | 4 | 5 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 1 | 4 | 4 | 2 | 4 | 39 |
| プレジジョンフロー | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| ファビアン | | | | | 1 | | 1 | | | | | | 2 |
| ベネット 840 | 4 | 1 | 1 | | 3 | | 1 | 6 | 4 | 3 | 5 | | 28 |
| ハミング V | 2 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 1 | | 3 | 7 | | 2 | 20 |
| インファントフロー | 9 | 2 | | | 1 | 4 | 13 | 2 | 7 | 9 | 1 | 3 | 51 |
| サイパップ | 9 | 18 | 10 | 13 | 15 | 13 | 18 | 14 | 15 | 20 | 10 | 15 | 170 |
| ネーザル ハイフロー | 21 | 19 | 12 | 11 | 9 | 17 | 20 | 19 | 25 | 15 | 18 | 14 | 200 |
| RTX レスピロレーター | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| シリンジポンプ | 185 | 208 | 134 | 221 | 262 | 229 | 146 | 110 | 130 | 56 | 102 | 106 | 1,889 |
| 輸液ポンプ | 97 | 91 | 123 | 131 | 164 | 121 | 104 | 76 | 84 | 69 | 95 | 104 | 1,259 |
| 経腸栄養注入ポンプ | 2 | 3 | 3 | 1 | 4 | 1 | 5 | 5 | 3 | 1 | 1 | 3 | 32 |
| 外科用保育器 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 開放型保育器 | 16 | 16 | 11 | 11 | 13 | 12 | 14 | 15 | 15 | 13 | 2 | 8 | 146 |
| 光線治療器 | 4 | 1 | | 2 | 1 | | 1 | 3 | 2 | 1 | | 2 | 17 |
| 低圧持続吸引器 | 14 | 19 | 16 | 13 | 18 | 13 | 18 | 16 | 11 | 7 | 19 | 13 | 177 |
| 体温調節装置 | | | | | | 1 | 2 | | | | | 2 | 5 |
| 加温加湿器 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 2 | | | 2 | 1 | 2 | | 16 |
| パルスオキシメータ | | 1 | 1 | | 2 | | 2 | 4 | 4 | 4 | 2 | 1 | 21 |
| 搬送用モニター | 1 | 1 | | | | | | 1 | | | | | 3 |
| 合 計 | 488 | 497 | 432 | 522 | 629 | 516 | 480 | 392 | 418 | 316 | 369 | 390 | 5,449 |

③月別人工呼吸器使用中点検件数

| 機種名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| Trilogy | 85 | 89 | 57 | 56 | 69 | 76 | 80 | 87 | 88 | 78 | 79 | 82 | 926 |
| BiPAP V60 | 10 | 6 | 12 | 15 | 3 | 4 | 9 | 22 | 5 | 7 | 9 | 9 | 111 |
| ハミング X | 27 | 7 | 5 | 8 | 15 | 7 | 6 | 19 | 34 | 33 | 18 | 11 | 190 |
| Avea | | 1 | | | | | | | 11 | 10 | 3 | | 25 |
| BiPAP A40 | 9 | 22 | 23 | 22 | 7 | 11 | 13 | 27 | 4 | 22 | 16 | 10 | 186 |
| ASTRAL | 81 | 87 | 56 | 46 | 36 | 31 | 36 | 39 | 41 | 37 | 38 | 14 | 542 |
| ハミング ビュー | 12 | 3 | 3 | 15 | 11 | 11 | 33 | 35 | 23 | 22 | | 20 | 188 |
| プレジジョンフロー | 15 | | | | 4 | 11 | 3 | | | | | | 33 |
| ファビアン | | | 2 | | 2 | | | | | | | | 4 |
| Vivo 40 | | 11 | 4 | 12 | 2 | | 17 | 13 | 2 | | | 1 | 62 |
| ベネット 840 | 64 | 58 | 58 | 35 | 47 | 37 | 89 | 94 | 88 | 98 | 108 | 86 | 862 |
| ハミング V | 4 | | 1 | | | | | | | 21 | 15 | 16 | 57 |
| インファントフロー | 3 | | | | 2 | | 21 | 8 | 6 | 13 | 6 | 9 | 68 |
| サイパップ | 98 | 77 | 74 | 48 | 58 | 71 | 111 | 79 | 61 | 115 | 96 | 62 | 950 |
| ネーザルハイフロー | 100 | 130 | 111 | 76 | 53 | 87 | 106 | 100 | 83 | 112 | 69 | 82 | 1,109 |
| 合計 | 508 | 491 | 406 | 333 | 309 | 346 | 524 | 523 | 446 | 568 | 457 | 402 | 5,313 |

④月別院内修理件数

| 機種名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| シリンジポンプ | 7 | 4 | 8 | 48 | 23 | 3 | 3 | | 21 | 19 | | | 136 |
| 輸液ポンプ | 2 | 9 | 3 | | 3 | 1 | 3 | 2 | 3 | 5 | | 2 | 33 |
| 経腸栄養注入ポンプ | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ベネット 840 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| インファントフロー | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 新生児用保育器 | | | | | | | 7 | 17 | | | | | 24 |
| 搬送用保育器 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 光線治療器 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 除細動器 | | | | | | | | 3 | | | | | 3 |
| 体温調節装置 | | | | | 3 | | | | | | | | 3 |
| パルスオキシメータ | | 1 | | | 2 | | | | | | | | 3 |
| 合計 | 10 | 14 | 11 | 49 | 31 | 5 | 13 | 24 | 24 | 24 | 0 | 2 | 207 |

⑤月別定期点検件数

| 機種名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 麻酔器 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 3 |
| シリンジポンプ | | | | | | | | | 195 | 30 | | | 225 |
| 輸液ポンプ | | | | | | | | | 94 | 13 | | | 107 |
| 経腸栄養注入ポンプ | | | | | | | 5 | 5 | 1 | 2 | | | 13 |
| Trilogy | 6 | 10 | 8 | 7 | 7 | | 7 | 8 | 4 | 6 | 13 | 8 | 84 |
| BiPAP V60 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| パーカッション ベンチレータ | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ハミング X | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | 3 |
| BiPAP A40 | 3 | 1 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 15 |
| Babylog 8000plus | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| ASTRAL | 2 | 3 | 5 | 4 | 4 | 5 | 6 | 3 | 5 | 5 | 2 | 3 | 47 |
| ハミングビュー | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| ベネット 840 | | | | | | | 8 | | | | | | 8 |
| インファント フロー | | | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| サイパップ | | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 3 | 8 |
| ドリームステーション | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 新生児用保育器 | | | | | | | 2 | 9 | 19 | 2 | | | 32 |
| 開放型保育器 | | | | | | | 1 | 5 | 2 | 5 | | | 13 |
| 搬送用保育器 | | | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| 除細動器 | | | | | | | 4 | | 3 | | | | 7 |
| 人工心肺装置 | | | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| 補助循環用遠心ポンプ | | | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| 血液浄化装置 | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| 体外式ペースメーカー | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 分娩監視装置 | | | | | | | | 15 | 3 | | | | 18 |
| その他 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | 4 |
| 合計 | 12 | 14 | 14 | 18 | 15 | 22 | 42 | 62 | 311 | 61 | 18 | 20 | 609 |

(16) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

| 管 轄 | | 前 橋 | 高 崎 | 安 中 | 渋 川 | 藤 岡 | 富 岡 | 吾 妻 | 沼 田 | 伊 勢 崎 | 桐 生 | 太 田 | 館 林 | 県 外 | 計 |
|------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------|--------|-----|
| 受 診 者 数 | 30年 | 3 | 27 | 2 | 26 | 0 | 3 | 9 | 11 | 9 | 4 | 0 | 0 | 1 | 95 |
| | 29年 | 3 | 22 | 1 | 31 | 1 | 0 | 16 | 12 | 14 | 1 | 2 | 1 | 1 | 105 |

イ 科別・年齢別受診状況

| 科 名 | 受診者数 | 年 齢 別 受 診 者 数 | | | | | 29年度 受診者数 |
|-------------|------|---------------|----|----|----|------|--------------|
| | | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳以上 | |
| 一 般 小 児 内 科 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| 神 経 内 科 | 16 | 6 | 6 | 2 | 2 | 0 | 22 |
| 循 環 器 科 | 6 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 7 |
| 外 科 | 18 | 9 | 4 | 0 | 4 | 1 | 9 |
| 整 形 外 科 | 32 | 23 | 4 | 1 | 4 | 0 | 35 |
| 形 成 外 科 | 18 | 12 | 2 | 2 | 2 | 0 | 14 |
| 歯 科 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| そ の 他 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 合 計 | 95 | 51 | 20 | 5 | 18 | 1 | 105 |

ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

| 科名 \ 結果 | 実施者数 | 異常なし | 要観察 | 要治療 | 29年度 実施者数 |
|---------|------|------|-----|-----|--------------|
| 一般小児内科 | 1 | 1 | 0 | 0 | 10 |
| 神経内科 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 循環器内科 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 |
| 外科 | 4 | 0 | 4 | 0 | 0 |
| 形成外科 | 2 | 0 | 2 | 0 | 4 |
| 整形外科 | 3 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 歯科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 眼科 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 計 | 16 | 5 | 11 | 0 | 18 |

エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

| 科名 \ 結果 | 実施者数 | 異常なし | 要観察 | 要治療 | 29年度 実施者数 |
|---------|------|------|-----|-----|--------------|
| 一般小児科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 神経内科 | 5 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| 循環器内科 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 外科 | 2 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| 形成外科 | 4 | 0 | 1 | 3 | 3 |
| 整形外科 | 4 | 0 | 3 | 1 | 5 |
| 歯科 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 17 | 2 | 8 | 7 | 17 |

オ 科別受診状況及びその結果

| 科別疾患名 | 区分 受診者数 | 受 診 結 果 | | | | | 29 年度 受診者数 |
|------------|------------|---------|-----|-----|---------------|------------------|---------------|
| | | 異常なし | 要観察 | 要治療 | 要訓練 (重複あり) | その他 (重複あり紹介等) | |
| 一般小児内科総数 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 14 |
| 3 歳児健診再検尿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 体重増加不良・低身長 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 夜尿 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| その他 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 神経内科総数 | 16 | 3 | 7 | 6 | 3 | 0 | 22 |
| 精神運動発達遅滞 | 11 | 2 | 5 | 4 | 2 | 0 | 22 |
| その他 | 5 | 1 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| 循環器内科総数 | 6 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 心雑音 | 6 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 外科総数 | 18 | 0 | 12 | 6 | 0 | 0 | 9 |
| ソケイヘルニア | 4 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 2 |
| 停留・移動精巣 | 12 | 0 | 11 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 陰嚢水腫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| その他 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 整形外科総数 | 32 | 7 | 21 | 4 | 0 | 0 | 35 |
| 先天性股関節脱臼 | 19 | 5 | 12 | 2 | 0 | 0 | 26 |
| O脚・X脚 | 4 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 5 |
| その他 | 9 | 2 | 6 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| 形成外科総数 | 18 | 1 | 4 | 13 | 0 | 0 | 14 |
| 血管腫・母斑 | 8 | 0 | 2 | 6 | 0 | 0 | 7 |
| 蒙古斑 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 耳介異常・副耳 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ヘルニア | 4 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 4 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| 歯科総数 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 舌小帯 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| その他 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 視力検査異常 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総 数 | 95 | 15 | 50 | 30 | 3 | 0 | 105 |

②子どものこころの発達相談

ア 来院経路及び年齢別実施状況（実人員）

| 経路 | 実施者数 | 年 齢 別 | | | | | | | 29年度 実施者数 |
|----------|------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|--------------|
| | | 1歳未満 | 1～3 | 4～6 | 7～9 | 10～12 | 13～15 | 16～18 | |
| センター内 | 23 | 0 | 2 | 7 | 9 | 4 | 1 | 0 | 22 |
| 電話相談 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前年度からの継続 | 14 | 0 | 3 | 4 | 5 | 2 | 0 | 0 | 10 |
| 計 | 37 | 0 | 5 | 11 | 14 | 6 | 1 | 0 | 32 |

イ 相談件数及び相談後の対応状況

| 相談内容 | 実数（延べ数） | 相談後の経過 | | | 29年度実数 （延べ数） |
|-------------|---------|--------|-------|-----|-----------------|
| | | 継 続 | 他機関紹介 | 終 了 | |
| 発達の問題 | 26(72) | 12 | 0 | 14 | 24 (76) |
| 行動の問題 | 8(19) | 4 | 1 | 3 | 5 (13) |
| 神経性習慣 | 1(4) | 0 | 1 | 0 | 0 (0) |
| 心身症 | 1(4) | 1 | 0 | 0 | 0 (0) |
| 疾病に伴う母の心理支援 | 1(1) | 1 | 0 | 0 | 3 (7) |
| その他 | 0(0) | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |
| 合 計 | 37(100) | 18 | 2 | 17 | 32 (96) |

発達の問題：広汎性発達障害、自閉症、精神発達遅滞など
 行動の問題：多動、不登校、いじめ、社会不適応など
 心身症：心因性腹痛、頭痛、めまい、過呼吸、摂食の問題など
 その他：育児不安、養育支援、学校・家庭環境の調整等、他

③新生児・未熟児病棟 (A) および他病棟 (B) 入院患児の退院連絡

ア 退院連絡後の状況

| | 退院連絡依頼数 | 返信数 | 訪問実施数 | 電話連絡 (訪問希望なし) | その他 |
|---|---------|------------|------------|------------------|--------------------------|
| A | 191 | 172(90%) | 125(65.4%) | 7(3.7%) | 健診 3(1.6%) 死亡 1(0.5%) |
| B | 34 | 31(91.2%) | 23(67.6%) | 0(0%) | 外来 1(2.9%) |
| 計 | 225 | 203(90.2%) | 148(65.8%) | 7(3.1%) | |

返信数には H29 年度に依頼、H30 年度に返信が来たものも含まれる。

イ 体重別退院連絡実施状況

| | 退院連絡票 依頼数 | 体 重 別 実 施 状 況 | | | | 29年度 依頼数 |
|---|--------------|---------------|--------------|--------------|-----------|-------------|
| | | 999g 以下 | 1,000～1,499g | 1,500～1,999g | 2,000g 以上 | |
| A | 191 | 19 | 20 | 39 | 113 | 158 |
| B | 34 | 0 | 2 | 2 | 30 | 20 |
| 計 | 225 | 19 | 22 | 41 | 143 | 178 |

④関係機関との連携状況

①から③の事業以外の相談・問合せの数

| 区 分 | 家 族 | 院 内 | 県保 福児 関相 以外 係の | 保 健 福 祉 事 務 所 | 児 童 相 談 所 | 市 町 村 | 医 療 機 関 | 幼 学 校 ・ 稚 育 所 ・ 園 | ス 訪 テ ー シ ョ ン 看 護 | 施 設 | そ の 他 | 計 内 訳 (電話/面接) |
|----------------|--------|--------|----------------------------|---------------------------------|-----------------------|-------------|------------------|---|---|--------|-------------|------------------------|
| 養育支援 | 582 | 487 | 6 | 5 | 166 | 336 | 8 | 47 | 2 | 33 | 2 | 1,674 (939/735) |
| 療育支援 | 65 | 86 | 0 | 0 | 14 | 42 | 0 | 8 | 2 | 7 | 2 | 226 (139/87) |
| 成長発達 | 287 | 41 | 0 | 0 | 2 | 22 | 0 | 13 | 0 | 3 | 1 | 369 (78/291) |
| 病 気 | 8 | 16 | 0 | 2 | 2 | 11 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 44 (26/18) |
| 受診支援 | 14 | 30 | 4 | 1 | 14 | 21 | 0 | 5 | 0 | 0 | 1 | 91 (67/24) |
| 予防接種 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 (0/0) |
| 医療福祉 | 0 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 (7/1) |
| 保健医療 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 (0/0) |
| 患者家族会 | 43 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46 (33/13) |
| マス・ スクリーニング | 12 | 1 | 10 | 0 | 8 | 11 | 43 | 0 | 0 | 0 | 6 | 91 (87/4) |
| 遺伝相談 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 (6/5) |
| 妊娠・出産 相 談 | 14 | 22 | 1 | 0 | 2 | 21 | 7 | 1 | 0 | 0 | | 68 (43/25) |
| 研修・調査 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 (0/0) |
| そ の 他 | 26 | 66 | 10 | 2 | 17 | 30 | 2 | 19 | 0 | 2 | 8 | 182 (125/57) |
| 計 | 1,054 | 755 | 37 | 12 | 225 | 499 | 60 | 98 | 4 | 45 | 20 | 2,810 件 |
| 電話計 | 170 | 447 | 36 | 8 | 186 | 495 | 57 | 98 | 3 | 34 | 16 | 電話：1,550 |
| 面接計 | 884 | 308 | 1 | 4 | 39 | 4 | 3 | 0 | 1 | 11 | 4 | 面接：1,260 |

⑤関係機関との連携会議

| 検 討 内 容 | 実 数 | 延べ数 | 関係機関及び（ ）内は連携をとった延べ数 | センター職員 |
|-----------------|-----|-----|--|----------------------------------|
| 教育機関・地 域との調整 | 15 | 16 | 家族(10) 市町村(5) 児童相談所(4) 教育委員会(1) 小中学校(9) 支援学校(6) 高等学校(1) その他(4) | 医師、看護師、 MSW、保健師、臨 床心理士、保育士 |

⑥子ども虐待防止対策事業

地域医療連携室と協働して実施している。地域医療連携室(相談部門)のページ参照してください。

H30.7.11 院内研修会 「医療機関における虐待発生時(疑い含む)の初期対応について」

講師 前橋赤十字病院 小児科副部長 溝口史剛 先生

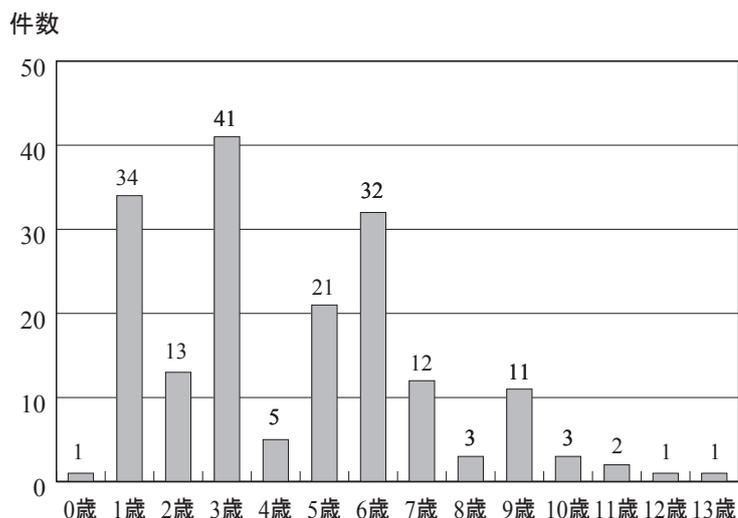
⑦心理判定・心理カウンセリング

<心理判定>

ア 心理判定（実施件数及び検査数）

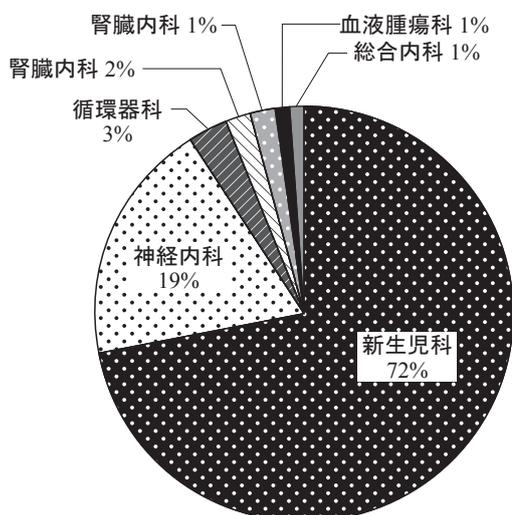
| | |
|---------------|-----|
| 新版 K 式発達検査 | 102 |
| WISC- IV 知能検査 | 56 |
| M-CHAT | 46 |
| PARS-TR | 6 |
| WPPI- III | 8 |
| 田中ビネー知能検査V | 3 |
| 描画テスト | 3 |
| SCQ | 1 |
| EAT-26 | 1 |
| 計 | 226 |

イ アの年齢別被検査者数 (n=141)



※一被験者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは1集計としている。

ウ 依頼科 (n=141)

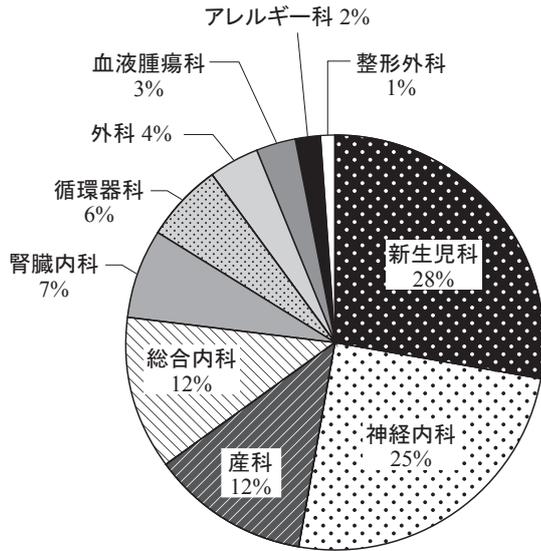


<心理カウンセリング>

ア 心理カウンセリング（実施内容及び件数）

| 心理カウンセリング内容 | 対象家族数 | 対象者数 | 述べ実施回数 |
|-----------------------|-------|------|--------|
| 気分障害 | 1 | 3 | 14 |
| ストレスが関連しているもの | 13 | 20 | 52 |
| 心身症状の問題 | 29 | 50 | 201 |
| 発達の問題 | 25 | 48 | 68 |
| 行動・情緒の問題 | 15 | 22 | 114 |
| 育児に関する悩み | 6 | 19 | 35 |
| 疾病に伴う心理的家族支援 | 5 | 12 | 20 |
| 周産期からの心理支援（乳児退院前後も含む） | 23 | 39 | 81 |
| スタッフへのコンサルテーション | 2 | 5 | 4 |
| 計 | 119 | 218 | 589 |

イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 (n=119)



<精神科コンサルト>

12回実施 (実人数 21人、延人数 43人)

⑧研修会等

○県主催の保健関係研修会 (難病関係・母子保健関係) ……企画及び運営に協力

○学生実習等

- ・群馬大学保健学科、群馬パース大学の学生等を病院実習の一環として講義を行った。146名
- ・群馬大学医学部保健学科にて専門教育科目における授業のゲスト講師を行った。

日程：平成30年12月7日

内容：地域看護学方法論Ⅰ「医療機関における保健師活動」 79名

- ・その他 新規看護職員研修、看護職員キャリアアップ研修・群馬大学チームワーク実習等、講義を実施した。

○群馬県医療的ケア児等コーディネーター養成研修実行委員会及び研修講師

⑨学会・研修会参加状況

| 日時 | 学会・研修会名 | 開催場所等 | 出席者 |
|------------------|------------------------------|-------------------|-------|
| H30.4.26 | 母子保健担当者会議 | 県庁 | 高橋 |
| H30.6.9 | 日本小児精神神経学会 | 跡見学園女子大学 | 川崎心理士 |
| H30.6.22 | 新生児スクリーニング事業基礎研修会 | 母子愛育会 | 安達保健師 |
| H30.6.14~15,7.13 | 医療対話推進者養成研修 | 県庁 | 高橋 |
| H30.9.19,10.2 | 新任保健師研修会 (前期) | 県庁・健科大 | 佐藤保健師 |
| H30.10.3 | H30年度医療的ケア児の地域支援構築に係る担当者合同会議 | 厚生労働省講堂 | 高橋 |
| H30.10.7 | 周産期心理士ネットワーク全国研修 | KTP 品川カンファレンスセンター | 川崎心理士 |
| H30.11.3 | 全国子ども病院保健師等連絡会 | 長野県立こども病院 | 高橋 |
| H30.11.30~12.1 | 日本子ども虐待防止学会 | 岡山県倉敷市 | 高橋 |
| H30.12.18 | 群馬県先天性代謝等検診対策委員会 | 県庁 | 安達・高橋 |

| 日 時 | 学 会・研 修 会 名 | 開 催 場 所 等 | 出 席 者 |
|-----------------|-------------------|-----------|-------|
| H31.2.5 | 長期療養児担当者会議 | 県庁 | 高橋 |
| H31.3.4, 3.15 | 新任保健師研修会（後期） | 県庁・健科大 | 佐藤保健師 |
| H31.3.18 | 周産期医療対策協議会 | 県庁 | 高橋 |
| H 3 1 . 3 . 1 3 | 小児在宅医療連絡協議会 | 県庁 | 高橋 |
| H 3 1 . 3 . 2 9 | 虐待ネットワーク事業病院間連絡会議 | 県庁 | 高橋 |

⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として患者情報の管理（精密検査対象児及び継続治療児達のフォローアップ）、予防治療及び管理体制の検討を行い、適切な療育環境を整えることを目的に、検査基準値、検査体制、支援体制の見直しを行うために、毎年、先天性代謝異常等検診対策委員会を開催している。

平成30年度は、現行のカットオフ値と陽性率の報告、クレチン症（TSH値）の治療経過と発達状況に関する調査研究の進捗状況の報告、及び追跡調査票の治療及び経過観察終了者の個別記録の保存期間について協議が行われた。

< 30年度患者発見状況報告 >

| | | |
|-------------|----------------|------------|
| ・一次検査実施実人数 | 14,058 人 | |
| ・再検査実施実人数 | 320 人 | |
| ・精密検査対象者実人数 | 45 人 | |
| ・患者確定人数 | | |
| | 先天性甲状腺機能低下症 | 10 人 (治療中) |
| | 軽症先天性甲状腺機能低下症 | 1 人 (経過観察) |
| | 軽症プロピオン酸血症 | 1 人 (経過観察) |
| | 軽症フェニルケトン尿症 | 2 人 (経過観察) |
| | 先天性門脈欠損症 I b 型 | 1 人 (経過観察) |

⑪親の会への支援

- ・ダウン症親の会（あさがお）の運営支援 2回/年 (H30.6.11 H30.11.5)
- ・13.18 トリソミー親の会（スマイル）の運営支援 2回/年 (H30.5.25 H30.12.10)
- ・口唇口蓋裂患者・家族交流会の運営支援 1回/年 (H30.9.27 H31.3.14)
- ・いちごの会（単心室術後の移行期支援）への協力 H30.10.28 講義「就学、進学について」

⑫その他

- ・平成30年度群馬県小児保健会研究集会及び総会 (H30.8.30) 参加者数：130名
事務局として会の企画・運営に参画。

(17) 地域医療連携室

①医療相談（平成30年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

| | 第一病棟 | 第二病棟 | 第三病棟 | 新生児病棟 | 産科病棟 | P I C U | 外来 | その他 | 合 計 | | |
|----------|------|------|------|-------|------|---------|-------|-----|-------|--------------------------|--------------|
| | | | | | | | | | 総計 | 内 訳 面接/電話/ カンファレンス | 内 訳 新規/継続 |
| 転院・退院・入所 | 283 | 45 | 135 | 121 | 0 | 11 | 38 | 81 | 714 | (150/474/90) | (26/688) |
| ショートケア | 28 | 2 | 19 | 4 | 0 | 0 | 96 | 48 | 197 | (86/107/4) | (56/141) |
| 指導管理料関係 | 17 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 11 | 18 | 51 | (5/42/4) | (25/26) |
| 訪問看護 | 124 | 44 | 50 | 62 | 0 | 3 | 173 | 78 | 534 | (107/392/35) | (109/425) |
| 他職種連携 | 32 | 17 | 8 | 119 | 28 | 0 | 31 | 116 | 351 | (17/60/274) | (246/105) |
| 退院後フォロー | 10 | 0 | 14 | 3 | 0 | 0 | 155 | 14 | 196 | (83/101/12) | (9/187) |
| 医療費・経済 | 11 | 6 | 13 | 13 | 38 | 2 | 53 | 5 | 141 | (46/86/9) | (32/109) |
| 医療給付制度 | 30 | 103 | 190 | 68 | 9 | 59 | 503 | 25 | 987 | (416/486/85) | (337/650) |
| 福祉サービス | 105 | 12 | 49 | 26 | 5 | 9 | 503 | 33 | 742 | (235/430/77) | (152/590) |
| 心理的 | 1 | 2 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 | 0 | 10 | (6/3/1) | (0/10) |
| 新生児入院面接 | 1 | 14 | 29 | 424 | 10 | 22 | 6 | 2 | 508 | (431/71/6) | (279/229) |
| その他 | 131 | 54 | 117 | 47 | 50 | 3 | 300 | 185 | 887 | (175/569/143) | (201/686) |
| 合 計 | 773 | 300 | 625 | 894 | 140 | 109 | 1,872 | 605 | 5,318 | (1757/2821/740) | (1472/3846) |

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

| 区 分 | 件 数 |
|---------------|--------------|
| 未 熟 児 養 育 医 療 | 207 |
| 育 成 医 療 | 181 |
| 小児慢性特定疾病医療給付 | 567 (481) |
| 指定難病医療給付 | 19 (14) |
| 通院医療費公費負担制度 | 7 (7) |
| 結核予防法第34条公費負担 | 0 |
| 合 計 | 981 (502) |

()内は継続数

ウ 身体障害者手帳

特別児童扶養手当等事務取扱件数

| 区 分 | 件 数 |
|----------|-------|
| 身体障害者手帳 | ※178 |
| 特別児童扶養手当 | ※118 |
| 障害児福祉手当 | ※83 |
| その他の診断書等 | 958 |
| 合 計 | 1,337 |

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

ア 院内 CAPS 開催状況

- 平成 30 年 4 月 2 日、4 月 3 日「大腿骨転子下骨折の事例」；対応協議、児童相談所と情報共有
- 平成 31 年 2 月 25 日「心因性腹痛でフォローしていた身体的虐待を疑った事例」；児童相談所へ通告、警察対応

イ 要支援事例検討会状況：年 6 回（奇数月）開催

| 月齢及び年齢 | 男 | | 女 | | 計 | |
|----------|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| | 実人数 | 延人数 | 実人数 | 延人数 | 実人数 | 延人数 |
| 1ヶ月未満 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1～6ヶ月 | 4(1) | 6 | 2 | 2 | 6(1) | 8 |
| 7～12ヶ月未満 | 3(1) | 10 | 1 | 1 | 4(1) | 11 |
| 1～2歳 | 2(2) | 10 | 3(1) | 7 | 5(3) | 17 |
| 3歳～学齢前児童 | 1(1) | 8 | 2(2) | 3 | 3(3) | 11 |
| 小学生 | 2 | 5 | 1(1) | 5 | 3(1) | 10 |
| 中学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 高校生・その他 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 3 |
| 計 | 12(5) | 39 | 10(4) | 21 | 22(9) | 60 |
| (29年度) | 14(4) | 30 | 6(2) | 14 | 20(6) | 44 |

()内は前年度からの継続人数

<分類>

| | 身体的 | 心理的 | ネグレクト | 性的 | 代理ミュン ヒハウゼン | 障害受容 | 養育環境 | 母の精神面 |
|--------|-----|-----|-------|----|----------------|------|------|-------|
| 30年度 | 6 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4 |
| (29年度) | 3 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 8 | 2 |

母の精神面については、精神科または心療内科受診歴がある場合を計上。

総括編

1. 沿革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和57年4月1日に開設し、同年7月1日から全面的に診療活動を開始した。

- 昭和47年9月 建設調査検討開始
- 48年5月 群馬県小児病院調査委員会発足(会長 吉野文郁、委員17名)
- 50年1月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申(規模:病床数200床程度)
- 50年6月 群馬県小児医療センター建設委員会発足(委員長 知事、委員22名)
- 52年3月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
- 52年8月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー9名
内容: 病床数60床(新生児科30、小児内科20、小児外科10)
- 53年3月 53年度当初予算7億9千万円議決(用地取得費290百万円、建設基金積立500百万円)
- 53年10月 小児医療センター建設準備室設置
- 53年12月 小児医療センター建設専門会議発足(議長 衛生環境部長、委員10名)
- 54年2月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定(病床規模60床)
- 54年3月 54年度当初予算8億9千万円議決(設計委託料、基本積立等)
- 54年9月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定(病床規模80床)
- 54年11月 設計委託契約の締結(株式会社アルコム)
- 55年3月 55年度当初予算7億6千万円議決(本館建設費等)
- 55年10月 小児医療センター起工式
- 56年3月 56年度当初予算34億1千万円議決(建設費、医療機器購入等)
- 56年4月 小児医療センター看護要員県外研修派遣(1年間、19名)
- 57年3月 小児医療センター建設完工
- 57年3月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
- 57年3月 医療法7条に基づく病院開設許可(80床)
- 57年4月 小児医療センター開設
- 57年5月 小児医療センター落成式
- 57年7月 診療活動を開始(川崎病患者については6月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和57年 4. 1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5. 1 保険医療機関の指定(勢医 1014. 5010042)
- 〃 療養取扱機関の申出の受理(勢国医 1014. 205145)
5. 27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6. 9 結核予防法による医療機関の指定(指定番号 1572)
6. 30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定(群馬県指令保福第6号)(未熟児収容定員 20人)
7. 1 生活保護法による医療機関の指定(勢医 68号)
10. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される(認定期間 1982年7月1日より 1987年6月30日)
10. 12 身体障害者福祉法指定医(障第 141号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12. 1 基準給食承認(食第 104号)
- 58年 1. 1 基準看護(特2類)(看護 47号)、基準寝具(寝第 127号)承認
2. 1 児童福祉法による育成医療機関(心臓血管外科)指定
5. 12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関(心臓血管外科)指定
3. 23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令(医)第 206号)病床数及び従業員数の変更
3. 30 病院施設使用許可(医第 213号)病床増に伴うもの(98床)
5. 1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認(群馬県指令保第 51号)基準看護(特2類)、給食、寝具(98床)
7. 1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認(群馬県指令保第 55号)看護 3床
8. 1 同 上(群馬県指令保第 62号)看護 7床、収容 2床
- 59年 3. 29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4. 1 群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
4. 11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60年 5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986年3月1日～1991年2月28日(認定番号 105号)
4. 1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5. 1 紹介型病院承認(許可番号(紹)第 1号)
8. 1 在宅酸素療法指導管理届出の受理(保第 810号)
9. 10 昭和 61年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催(支部長 神邊 譲)
- 62年 3. 1 児童福祉法による育成医療機関(小腸に関する医療)指定
6. 1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理(保第 659号)
- 63年 4. 1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理(保第 393号)
- 〃 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
7. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987年7月1日～1992年6月30日
8. 1 基準看護(外科特3類→特2類)の承認
- 平成元年 2. 1 臨床修練(小児疾患)指定病院(厚生省収健政第20号)(外国医師又は外国歯科医師)
3. 1 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
- 2年 2. 1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7. 1 紹介外来型病院の指定(厚生省収保第 1006号)
- 3年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年4.1 2代目院長として松山四郎 就任
〃 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
〃 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看I・II)
 - 8年3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
〃 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(I a-3)
〃 画像診断管理の施設基準に係る届出
〃 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
〃 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
〃 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
〃 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検I)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される

- 認定機関 2001 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (認定番号 105 号)
- 3 . 23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
 - 14年 4 . 1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
 - 7 . 19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更 (内科病棟 40 床→ 45 床)
 - 7 . 26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
 - 10 . 1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
 - 11 . 22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
 - 11 . 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→ 44 床、外科病棟 27 床→ 28 床)
 - 15年 1 . 14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4 . 1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→ 103 床) の変更
 - 8 . 1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
 - 16年 2 . 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→ 150 床)
 - 4 . 1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
 - 5 . 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
 - 5 . 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6 . 1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
 - 7 . 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
 - 8 . 9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11 . 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
 - 11 . 1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
 - 12 . 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
 - 17年 3 . 1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
 - 4 . 1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号

- 5. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
 - // 保険医療機関指定申請 (歯科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 - // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5. 2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更) (理Ⅱ) 第 72 号
- 6. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 - // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7. 14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更) (褥) 第 20 号
- 7. 27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 - // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8. 22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10. 1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18年 1. 1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1. 24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2. 1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 - // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3. 31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3. 29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4. 1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 - // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4 → 6) (集) 第 13 号
 - // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 - // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 - // 小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 - // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 - // 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 - // 呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 - // 歯科疾患総合指導料Ⅰの施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5. 1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)

- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願(群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出(医療安全)第 17 号
- 8.23 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定手続き(保予第 30023-12 号)
- 9.29 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出(運Ⅰ)第 59 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出(脳Ⅱ)第 70 号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出(診療録)第 38 号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出(ハイ分娩)第 10 号
- 19年 2.28 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)の指定通知について(障第 30052 -13 号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届(標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
 - 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理(通手)第 54 号
 - 4.9 呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)及び医学管理料(Ⅰ)の施設基準に係る届出(医師の変更)(呼Ⅰ)第 29 号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について(保予第 708-2 号)
 - 〃 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更(言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)指定の変更(医師の変更)障第 30052-3 号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出(臨床研修)第 21 号
 - 6.19 輸血管理料Ⅰの届出(輸血Ⅰ)第 8 号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出(褥)第 20 号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出(栄養管理)第 116 号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出(麻管)第 18 号
 - 〃 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出(診療録)第 38 号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング法(IABP)の施設基準に係る医師の変更届出(大)第 28 号
 - 〃 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届(ペ)第 47 号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書(歯科)健福第 839-31 号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更(医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出(薬)第 118 号
- 20年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更(無菌製剤室ほか 39 室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出(電子化)第 1362 号
 - 〃 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出(妊産婦)第 21 号
 - 〃 医療安全対策加算の施設基準に係る(医療安全)第 17 号
 - 〃 ハイリスク妊娠加算の施設基準に係る届出(ハイ妊娠)第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出(ハイ分娩)第 19 号

- 4. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
- 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
- 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
- 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
- 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 20年 5. 12 障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
- 6. 16 医療機能評価 (Ver.5.0) 認定 認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16~2013/6/15)
- 6. 27 障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
- 6. 30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
- 8. 1 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 8. 15 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
- 9. 1 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置) (小入 3) 第 16 号
- 9. 12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
- 10. 1 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
- 11. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
- 21年 1. 1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 3. 26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
- 4. 1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 10. 1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
- 12. 7 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
- 22年 4. 1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
- 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
- 5. 1 神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
- 6. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)

- 病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
10. 1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコー) 第 6 号
10. 20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
11. 1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
11. 24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23年 4. 1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
5. 23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
6. 1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
10. 13 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
11. 1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
12. 12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24年 2. 1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
4. 1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 // 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
5. 1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
6. 1 輸血管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
9. 1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
10. 1 登録医制度開始
 // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
11. 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
11. 12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
11. 26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25年 1. 1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号

- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届 (開設者の変更)
 - 〃 医師事務作業補助体制加算 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 42 号
 - 〃 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止) 第 15 号
- 6.7 病院機能評価 (Ver.6.0) 認定 認定番号: 第 JC1509-2 号 (2013/6/16~2018/6/15)
- 8.5 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-49 号)
 - 本館第二病棟 (外科) の増改築工事に伴う病棟各施設の変更
- 10.1 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 11.11 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26年 1.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 6 号
- 2.17 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-114 号)
 - 本館地下 1 階及び地上 1 階の用途変更
- 4.1 5 代目院長として丸山健一 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - 〃 DPC 対象病院に参加
 - 〃 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事補 1) 第 8 号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出 (脈動開) 第 1 号
 - 〃 輸血管理料 II の施設基準に係る届出 (輸血 II) 第 48 号
 - 〃 輸血管理料 I の施設基準に係る辞退届 (輸血 I) 第 17 号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (外来環) 第 97 号
 - 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯特連) 第 3 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
- 5.9 医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全 1) 第 17 号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.28 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料 1 の施設基準に係る届出 (新 1) 第 3 号

- 10. 1 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 10. 22 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
- 11. 25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11. 26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の
指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
 - 〃 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留
邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の
指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11. 28 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 6 号
- 12. 10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保
予第 30149-2 号)
- 12. 11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12. 24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
 - 〃 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関
の指定 (保予第 30327-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医
科) の指定 (保予 30018-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医
科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27年 1. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 6 号
- 1. 20 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
- 1. 23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
- 4. 1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 7 号
- 5. 15 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
 - 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
 - 〃 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコー) 第 6 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心
I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳
II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第
20 号

- 5.15 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
 - // CAD / CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - // 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
 - // 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号

- 11. 4 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(集3)第13号
- 11. 7 一般病棟入院基本料(7対1)の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院)第102号
- 12. 7 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-65号)
本館外来棟増築工事
- 12. 27 病院施設使用許可(群馬県指令医第551-14号)
歯科レントゲン室
- 29年 3. 27 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-111号)
建物構造等の一部変更(用途変更)
- 3. 28 本館外来棟増改築工事完成
- 6. 1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出(造設前)第36号
- 7. 3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全I)第17号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 〃 麻酔管理料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管II)第8号
- 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 7. 31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(外来環)第97号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(歯特連)第3号
- 〃 歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)の施設基準に係る従事者等変更の届出(医管)第155号
- 8. 1 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
- 8. 29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出(胎心エコー)第6号
- 11. 15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 12. 25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 30年 1. 4 診療用エックス線装置等変更届出
- 1. 10 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号

- 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第18号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅱ)第8号
 - 〃 小児入院管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(小入1)第20号
 - 〃 入院時生活療養(Ⅰ)の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出(食)第104号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(心Ⅰ)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(運Ⅰ)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(呼Ⅰ)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(障)第7号
 - 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(がんリハ)第33号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届(重)第38号
- 3.14 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更(64列以上→16列以上64列未満)の届出(C・M)第230号
- 4.1 6代目院長として外松学 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出(感染防止1)第15号
- 4.26 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出(集3)第13号
 - 〃 診療録管理体制加算2の施設基準に係る従事者変更の届出(診療録)第38号
- 5.1 麻酔管理料(Ⅱ)の辞退届
 - 〃 保険医療機関の指定(関厚発)第77号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(40対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 感染防止対策加算Ⅰの施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 5.31 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第80号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算1の施設基準に係る届出(後発使1)第47号
 - 〃 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出(乳腺ケア)第14号
- 8.3 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る届出(骨残測)第2号
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1に係る施設基準に係る届出(事補1)第35号(加算2からの区分替え)

- 9.1 レーザー機器加算の施設基準に係る届出(手光機)第165号
 - 〃 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出(口腔粘膜)第184号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算2の施設基準に係る届出(外来環2)第97号
 - 〃 急性期一般入院基本料1の施設基準に係る届出(一般入院)第102号
 - 〃 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出(病初診)第14号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出(患サポ)第71号
 - 〃 ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出(ヘッド)第19号
- 12.5 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出(遺伝検)第2号

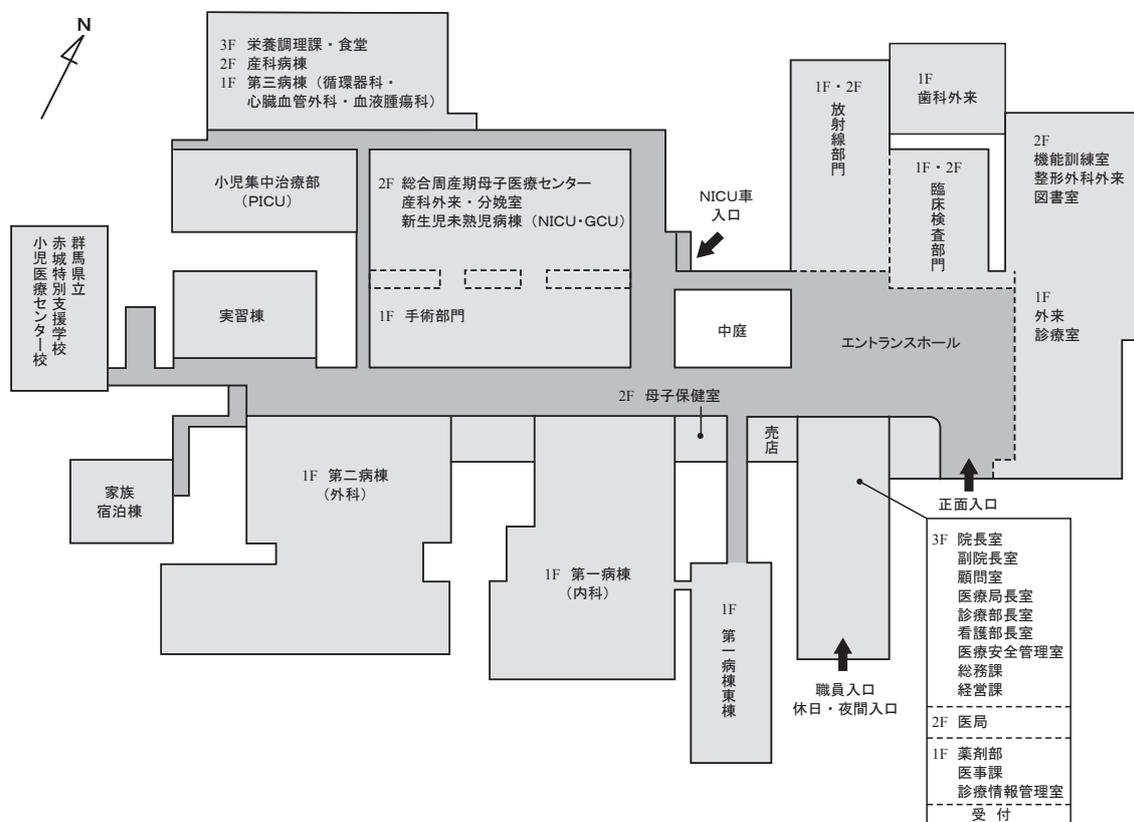
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

| | | |
|-------|-------------------|------------|
| 敷地 | | 53,031.42㎡ |
| 本館 | 鉄筋コンクリート地下1階地上3階建 | 18,441.17㎡ |
| 看護師宿舎 | 鉄筋コンクリート地上4階建 | 1,170.28㎡ |
| 職員宿舎 | 鉄筋コンクリート地上2階建 | 379.61㎡ |
| 実習棟 | 鉄筋コンクリート地上2階建 | 485.00㎡ |
| 家族宿泊棟 | 鉄筋プレハブ平屋建 | 200.00㎡ |

(2) 病棟構成並びに建物配置図

| 階 | 病棟名 | 設置病床数(平成30年4月1日現在) |
|----|----------|--------------------|
| 2階 | 新生児未熟児病棟 | 33床 |
| 2階 | 産科病棟 | 18床 |
| 1階 | 第一病棟 | 32床 |
| 1階 | 第二病棟 | 29床 |
| 1階 | 第三病棟 | 30床 |
| 1階 | 小児集中治療部 | 8床 |
| | 合計 | 150床 |



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

| 区 分 | 事業費 | 年 次 別 内 訳 | | | | | |
|---------|------------|--------------|-------------|--------------|------------------------|--------------------------------|----------------------|
| | | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 |
| 本 館 | 7,060,237 | | 911,600 | 1,914,690 | | 追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857 | 純水製造 装置 13,525 |
| 看護師宿舎 | 358,286 | | | 18,653 | | 上水槽配管 保温工事 697 | |
| 職員宿舎 | 120,674 | | | 73,180 | | 273 | |
| 実 習 棟 | 192,044 | | | | | | |
| 家族宿泊棟 | 43,575 | | | | | | |
| 設 計 | 234,481 | 本館 64,850 | 本館 8,646 | 本館 17,354 | | | |
| | | | 宿舎 6,150 | | | | |
| 外構工事等 | 599,783 | | | 494,829 | 追加工事 駐車場等 1,659 | 追加工事 植栽等 2,118 | フェンス 180 |
| 敷 地 | 625,643 | 290,000 | | 67,328 | | 191,228 | |
| 医 療 機 器 | 7,120,375 | | | 502,748 | 760,940 | 2,732 | 18,309 |
| 備 品 | 334,418 | | | 27,948 | 31,147 | | |
| 電話設置等 | 22,591 | | | 債権 870 | ポケットベル 加入保証金 200 | | |
| | | | | 架設加入料 482 | | | |
| 工事事務費 | 5,202 | | 1,394 | 3,536 | | | |
| 合 計 | 16,717,309 | 354,850 | 927,790 | 3,121,618 | 793,946 | 199,905 | 32,014 |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

| 区 分 | 年 次 別 内 訳 | | | | | | |
|---------|-------------------|---------------------|----------------|------------------|---------|---------|---------|
| | 60 | 61 | 62 | 63 | 元 | 2 | 3 |
| 本 館 | 照明工事等 1,605 | 11,923 | | 塩酸等貯留 槽 4,001 | | | |
| 看護師宿舎 | | | クーラー 10,093 | | | | |
| 職員宿舎 | | | クーラー 2,883 | | | | |
| 実 習 棟 | | | | | | | |
| 家族宿泊棟 | | | | | | | |
| 設 計 | | 390 | クーラー 700 | | | | |
| 外構工事等 | 定着液保留 槽 362 | 駐車場舗装 等 2,331 | 植栽工事等 3,496 | フェンス 570 | | | |
| 敷 地 | | | | | | | |
| 医 療 機 器 | 24,160 | 11,983 | 12,000 | 52,400 | 213,936 | 211,120 | 100,094 |
| 備 品 | 2,839 | 2,924 | 3,000 | | 4,619 | 9,995 | 6,660 |
| 電話設置等 | | | | | | | |
| 工事事務費 | | | | | | | |
| 合 計 | 28,966 | 29,551 | 32,172 | 56,971 | 218,555 | 221,115 | 106,754 |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

| 区 分 | 年 次 別 内 訳 | | | | | | |
|---------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 本 館 | 放射線棟 増築等 385,667 | 調理室冷房 増設等 49,247 | 冷凍機 更新工事等 42,035 | 屋上防水 工事等 12,087 | 冷凍機 更新工事等 75,767 | 中央監視 装置更新等 83,192 | 外来棟増設 353,619 |
| 看護師宿舎 | 田口住宅 124,364 | 改築 204,479 | | | | | |
| 職 員 宿 舎 | | 一部改築 44,338 | | | | | |
| 実 習 棟 | | | | | 192,044 | | |
| 家族宿泊棟 | | | | | | | |
| 設 計 | | 職員宿舎等 14,420 | | 実習棟 4,900 | | 外来棟 15,120 | |
| 外構工事等 | 駐車場舗装 等 8,918 | 外構舗装 927 | | 駐車場舗装 等 24,291 | | | |
| 敷 地 | 77,087 | | | | | | |
| 医 療 機 器 | 106,149 | 733,654 | 87,173 | 113,753 | 190,495 | 186,144 | 121,241 |
| 備 品 | | | | | 43,394 | | 6,369 |
| | 8,817 | 5,995 | 9,973 | 8,000 | 実習棟分 3,986 | 7,780 | 外来棟分 2,051 |
| 電話設置等 | 電話加入権 975 | 電話加入権 3,195 | 電話加入権 900 | 院内ポケベル システム更新 10,155 | コードレス増設 3,018 電話加入権 450 | | |
| 工事事務費 | 272 | | | | | | |
| 合 計 | 712,249 | 1,056,255 | 140,081 | 173,186 | 509,154 | 292,236 | 483,280 |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

| 区 分 | 年 次 別 内 訳 | | | | | | |
|---------|------------------------|------------------------|----------------------------|-------------------------|--|---------------------------|------------------------------------|
| | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 本 館 | ボイラー 純水装置 28,350 | 受水槽 更新工事等 20,822 | R-2 冷却塔 更新工事等 14,049 | 内科病棟 増築工事等 24,885 | 新病棟建築 工事等 18,726 非常用自家 発電機整備 11,000 | 新病棟建築 工事等 2,417,398 | |
| 看護師宿舎 | | | | | | | |
| 職員宿舎 | | | | | | | |
| 実 習 棟 | | | | | | | |
| 家族宿泊棟 | 43,575 | | | | | | |
| 設 計 | | | 内科病棟増 築 5,775 | 内科外科病 棟等改修 745 | 新病棟建築工 事実施設計 54,600 | | 外構工事 (電気工事を 含む) 1,659 |
| 外構工事等 | | | | | | | 駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809 |
| 敷 地 | | | | | | | |
| 医 療 機 器 | 104,808 | 114,158 | 129,964 | 109,703 | 87,716 | 1,048,076 | 328,243 |
| 備 品 | 4,996 | 9,000 | 5,390 | 3,271 | 2,715 | 82,548 | 4,968 |
| 電話設置等 | | | | | コードレス交 換機更新 2,346 | | |
| 工事事務費 | | | | | | | |
| 合 計 | 181,729 | 143,980 | 155,178 | 138,604 | 177,103 | 3,548,022 | 394,972 |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

| 区 分 | 年 次 別 内 訳 | | | | | | |
|---------|-------------------|-----------------------|------------------|---------|----------------------|----------------------|---------------------------|
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 本 館 | 集塵配管更新工事 5,985 | PICUトランス増設工事 3,780 | 歯科改修工事 10,133 | | 新生児病棟改修 150,433 | 管理棟増築建築工事 22,827 | 冷凍機更新工事 22,869 |
| | | 新システムLAN配線 10,448 | | | 薬剤クリーンルーム空調 3,360 | 管理棟増築機械設備工事 4,641 | 電源設備改修・電気供給設備工事 58,992 |
| 看護師宿舎 | | | | | | | |
| 職員宿舎 | | | | | | | |
| 実習棟 | | | | | | | |
| 家族宿泊棟 | | | | | | | |
| 設 計 | | 歯科改修 735 | | | 新生児病棟改修 9,229 | | 電気・空調設備改修 2,310 |
| | | | | | 管理棟改修 1,785 | | |
| 外構工事等 | | | | | | | |
| 敷 地 | | | | | | | |
| 医 療 機 器 | 53,102 | 233,517 | 336,857 | 175,807 | 358,277 | 301,860 | 289,256 |
| 備 品 | 4,613 | 4,851 | 5,241 | 4,934 | 4,971 | 6,423 | 5,000 |
| 電話設置等 | | | | | | | |
| 工事事務費 | | | | | | | |
| 合 計 | 63,700 | 253,331 | 352,231 | 180,741 | 528,055 | 335,751 | 378,427 |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

| 区 分 | 年 次 別 内 訳 | | | | | | |
|---------|---------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--|
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
| 本 館 | 冷凍機(R-1)更新工事 50,400 | 外科病棟改修及び増築工事 302,357 | 変電設備更新工事 5,378 | 外来棟増築及び改修等工事 547,408 | エントランスホール屋上防水改修 5,368 | 放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861 | |
| | 外科病棟改修及び増築工事 32,000 | 変電設備更新工事 11,146 | ピット配管等改修工事 29,117 | | 第二病棟ピット配管工事 20,044 | B棟受水槽全目地補修工事 7,560 | |
| | NICU バックアップ空調設置 12,285 | | 第一病棟東棟空調改修工事 7,398 | | B棟漏電警報器設置工事 9,537 | 第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106 | |
| | | | | | 中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043 | | |
| 看護師宿舎 | | | エアコン設置工事 2,783 | | 熱源等改修工事 14,450 | | |
| 職員宿舎 | | | エアコン設置工事 274 | | | | |
| 実 習 棟 | | | | | | | |
| 家族宿泊棟 | | | | | | | |
| 設 計 | 冷凍機(R-1)更新工事 1,029 | | 外来棟増築及び改修等工事 34,744 | | | 設備改修工事 2,700 | |
| | 外科病棟改修及び増築工事 21,384 | | | | | | |
| 外構工事等 | | | | | 駐車場舗装等 28,062 | | |
| 敷 地 | | | | | | | |
| 医 療 機 器 | 169,184 | 227,313 | 301,794 | 353,450 | 199,226 | 501,696 | |
| 備 品 | 4,987 | 5,000 | 4,939 | 10,654 | 20,276 | 7,130 | |
| 電話設置等 | | | | | | | |
| 工事事務費 | | | | | | | |
| 合 計 | 291,269 | 545,816 | 386,427 | 911,512 | 299,006 | 536,053 | |

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

| 設備名 | 設置機械 | 数量 | 型式及び性能 |
|------|--------------|---|--|
| 熱源設備 | ボイラー | 2 | 炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9m ² 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油 |
| | 危険物地下タンク | 1 | コロッケ式 A 重油 容量 36,000L |
| | 純水製造装置 | 1 | MASP-100 型 処理水量 6 m ³ /h × 100 m ³ /cycle |
| | 冷凍機 | 1 | 蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw |
| | | 1 | チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw |
| | 冷温水発生機 | 2 | 重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw |
| | 冷却塔 | 4 | 角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw × 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm × 3 ②冷却能力 537kw × 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm × 1 ③冷却能力 1,279kw × 2 送風機 3.7kw × 4 口径 1,600mm × 4 |
| | 冷水二次ポンプ | 4 | 片吸込渦巻型 1,100L/min × 27m × 11kw |
| 熱交換器 | 2 | 温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw × 2 温水ポンプ × 2 渦巻型 500L/min 5.5kw | |
| 空調設備 | エアハンドリングユニット | 19 | 水平型 × 11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型 × 8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 |
| | バックアップ用エアコン | 1 | パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ³ /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ³ /min 3.7kw |

| 設備名 | 設置機械 | 数量 | 型式及び性能 |
|-------|----------------|-----|--|
| 空調設備 | 全熱交換機 | 1 | 床置型給排気ファン 5.5kw × 2 |
| | 外調機 | 13 | 別置き電気式 蒸気加湿器付き × 10 別置き電気式 蒸気加湿器なし × 4 水気化式 加湿器付き × 1 |
| | ファンコイル | 463 | |
| | 給気・排気ファン | 59 | 片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台) |
| | エアコン等 | 134 | 冷房能力合計 2,070kw、暖房能力合計 1,318kw |
| | 恒温庫ユニット | 1 | 冷却能力 1.9kw |
| 電気設備等 | 高圧受変電設備 | 1 | 本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器 × 9 2,425kVA 契約電力 1,200kW |
| | 副高圧変電設備 | 2 | 高圧変圧器 × 5 1,750KVA + 高圧変圧器 × 2 500KVA |
| | 非常用自家発電設備 | 2 | 水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA |
| | 無停電電源装置 | 1 | 容量 100KVA × 2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah |
| | 電気時計設備 | 1 | パネル型水晶発信式 8 回線 子時計 30 個/1 回線 |
| | 電話交換機 | 1 | デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式 |
| | コードレス 電話交換機 | 1 | 沖デジタルコードレスシステム 120 |
| | 放送設備 | 1 | 一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き |
| 昇降設備 | 低速エレベーター | 9 | 寝台用 × 4 750kg 45m/min 荷物用 × 2 750~900kg 45m/min 乗用 × 2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min |
| | ダムウェーター | 3 | B1F ~ 2F 用 B1F ~ 1F 用 100~400kg 15~30m/min |
| 防災設備 | スプリンクラー | 1 | 900L/min × 65~75m × 18.5kw ヘッド × 1,920 流水作動弁 × 11 |
| | 屋内消火栓 | 1 | 750L/min × 50m × 15kw 放水口 × 17 補助散水栓 × 26 60L/min |

| 設備名 | 設置機械 | 数量 | 型式及び性能 |
|------|------------|-----|---|
| 防災設備 | 自働火災報知器 | 843 | GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×231熱作動式×489定温式×87 |
| | 排煙機 | 1 | 29,400 m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19 |
| | ハロゲン化物消火設備 | 1 | ハロゲン 1301 ポンベ×6本 |
| | 二酸化炭素消火設備 | 1 | CO ₂ ポンベ 55kg×22本 |
| | フード消火設備 | 2 | 栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各1 |
| | 火災通報装置 | 4 | 表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式 |
| | 防火水槽 | 1 | 40ton |
| 衛生設備 | 上水受水槽 | 3 | 42t×2 FRP製保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製保温型2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4 |
| | 井水受水槽 | 1 | 320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4 |
| | 深井戸ポンプ | 1 | 800L/min×0.83MPa×18.5kw |
| | 貯湯槽 | 4 | 蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C |
| | 温水ボイラー | 2 | 真空式2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa |
| | 液酸タンク | 1 | 4,942L 供給圧力 0.43MPa |
| | 医療用ガスポンベ | 16 | 笑気×4本 窒素×8本 |
| | 医療用圧空・吸引機 | 9 | コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台 |
| | 合併処理浄化槽 | 2 | 長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量 145 m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52 m ³ /日 743人槽 |
| | 薬液処理槽 | 1 | 酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10 m ³ /日 |

| 設備名 | 設置機械 | 数量 | 型式及び性能 |
|------|--------|----|--|
| 衛生設備 | RI 処理槽 | 1 | BDO 分離接触ばつき+接触ばつき方式 RI 貯留法+希釈法 排水量 20 人 A系統 600L/日 B 系統 2,000L/日 |
| | 薬液処理槽 | 1 | 湿式 処理風量 19.9 m ³ -27KPa 30kw 乾式 処理風量 10.5 m ³ -38KPa 15kw |

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

| 分類 | 資産名称 | 構造規格 | 数量 | 取得年度 |
|-----------|----------------------|---------------------------------------|------|------|
| 薬局 | 散薬分包機(全自動) | IO-9090TPD(トーショー) | 1 | 2004 |
| | 散薬分包機(全自動) | Ai-8080(トーショー) | 1 | 2016 |
| 検査 | ヘモクロン(血液凝固計) | コアグレックス 800(シスメックス) | 1 | 2003 |
| | 脳波計 | EEG-1518 他(日本光電) | 1 | 2004 |
| | 誘発電位筋電図検査装置 | MEB-9204(日本光電) | 1 | 2005 |
| | 全自動生化学分析装置 | JCA-BM6050(日本光電) | 1 | 2008 |
| | 血液自動分析機 | XE-5000(シスメックス) | 1 | 2009 |
| | 全自動細菌検査システム | マイクロスキャン Walkway40 plus(シーメンス) | 1 | 2009 |
| | 脳波計 | EEG-1200(日本光電) | 1 | 2010 |
| | 全自動血液培養検査装置 | VersaTREK240(コージンバイオ) | 1 | 2011 |
| | フローサイトメーター(自動細胞解析装置) | FACS Canto II(日本BD) | 1 | 2012 |
| | 凍結切片作成装置 | クリオスター NX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック) | 1 | 2012 |
| | 超音波診断装置 | Vivid E9(GEヘルスケアジャパン) | 1 | 2012 |
| | X線照射装置 | MBR-1520A-3(日立メディコ) | 1 | 2015 |
| | 密閉式自動固定包埋装置 | ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン) | 1 | 2015 |
| | 全自動輸血検査装置 | WADiana Compact(カインス) | 1 | 2015 |
| | 脳波計 | EEG-1218(日本光電) | 1 | 2017 |
| | 超音波診断装置 | TUS-AI900(キヤノンメディカルシステムズ) | 1 | 2017 |
| 生化学自動分析装置 | JCA-ZS050(日本電子) | 1 | 2018 | |
| 脳波計 | EEG-1214(日本光電) | 1 | 2018 | |
| 放射線 | 超音波診断装置 | Aplio80(東芝) | 1 | 2004 |
| | CRシステム | REGIUS170(コニカミノルタ) | 2 | 2004 |
| | 超伝導磁気共鳴診断装置(MRI) | Intera Achieva 1.5T Nova Dual(フィリップス) | 1 | 2005 |
| | 画像支援ワークステーション | AdvantageWorkstation4.2 1FP(GE製) | 1 | 2005 |
| | 循環器画像解析装置 | CCIP-310/W(カテックス) | 1 | 2005 |
| | 循環器診断・治療システム | 循環器診断システム INFx-8000V/JB 他(東芝メディカル) | 1 | 2008 |
| | 一般撮影装置 | Discovery XR650(GEヘルスケア) | 1 | 2009 |
| | 外科用X線TV装置 | OEC 9900 Elite(GEヘルスケア) | 1 | 2009 |
| | デジタルX線透視診断装置 | CUREVISTA(日立メディコ) | 1 | 2010 |
| | 全身用コンピュータ断層装置・PACS | SOMATOM Definition AS+(シーメンス) | 1 | 2011 |
| | 動画ネットワークシステム | Kada-Serve(フォトロン) | 1 | 2013 |
| | 2検出器型ガンマカメラ | Symbia Evo(シーメンス) | 1 | 2015 |
| | 医用画像管理システム更新に伴う周辺機器 | 「テクマトリックス製 NOBORI サービス」導入に伴うもの | 1 | 2017 |
| 栄養調理 | オートクレーブ | NSS-009W(サクラ機械) | 1 | 2004 |
| | ユニット式調乳水製造装置 | CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V(三田理化工業) | 1 | 2017 |
| ME(集中管理) | 人工呼吸器(新生児用) | ハミングV(メラン) | 1 | 2003 |

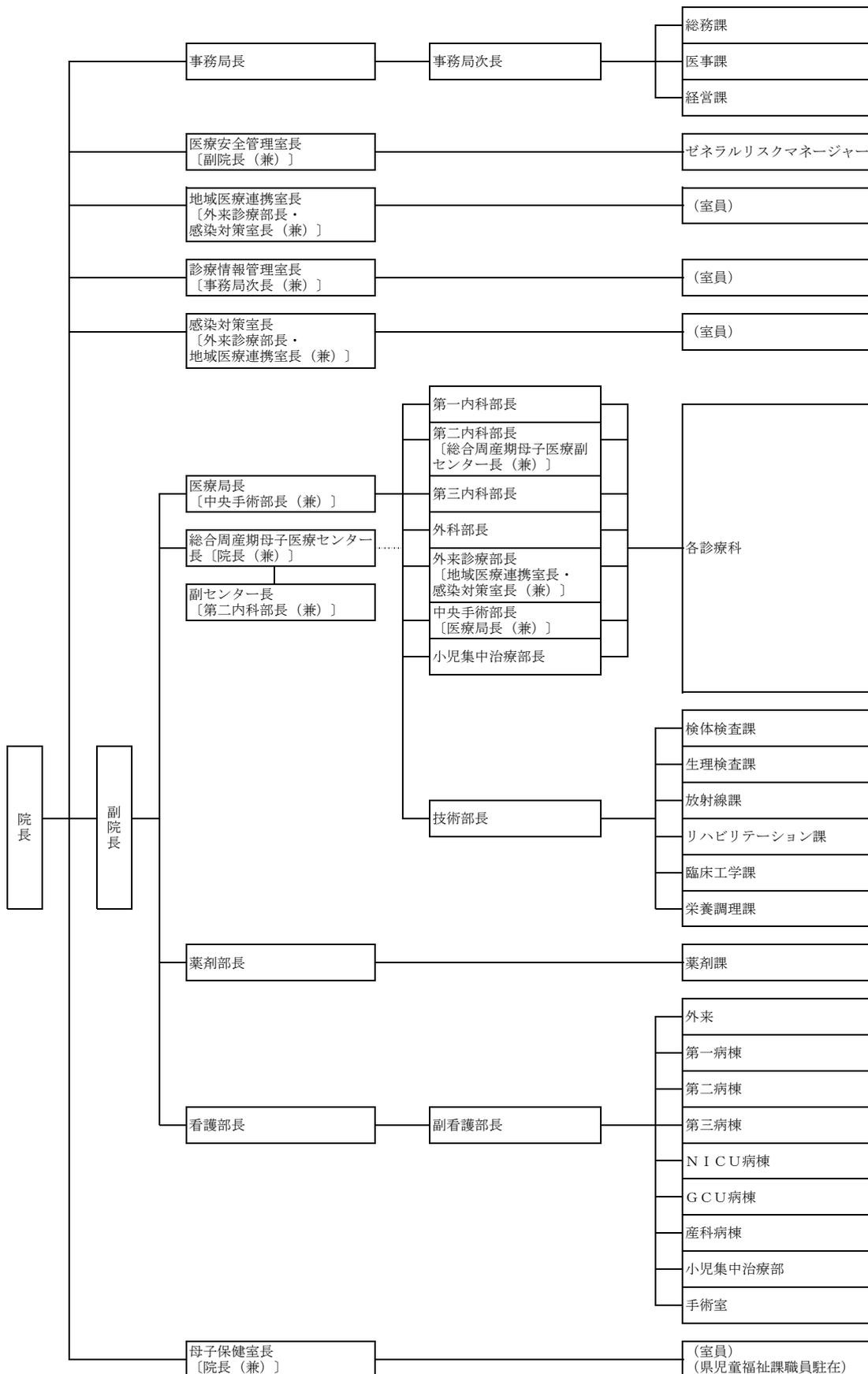
| 分類 | 資産名称 | 構造規格 | 数量 | 取得年度 |
|-------------------------|-------------------------|-------------------------------------|------|------|
| ME (集中管理) | 人工呼吸器 (新生児用) | ハミング V (メラン) | 1 | 2004 |
| | 人工呼吸器 (小児用) | ハミング V (メラン) | 4 | 2004 |
| | 人工呼吸器 (小児用) | ハミング V (メラン) | 1 | 2007 |
| | 酸素モニタ (非侵襲頭部) | NIRO-500 (浜松ホトニクス) | 1 | 1997 |
| | 心筋保護液供給システム | HCP-5000 (泉工医科) | 1 | 1998 |
| | 血液浄化用装置 | JUN-505 (ウベ循環研) | 1 | 2003 |
| | 人工呼吸器 (小児用) | ハミング X (メラン) | 3 | 2010 |
| | 人工呼吸器 | ベンチレータ 840 (コヴィディエン) | 1 | 2011 |
| | 人工呼吸器 | AVEA (米国ケアフュージュン 207) | 2 | 2012 |
| | 人工呼吸器 | ベンチレータ 840 (コヴィディエン) | 1 | 2014 |
| | 人工心肺装置システム | メラ人工心肺装置 HAS II (泉工医科工業) | 1 | 2015 |
| | 人工呼吸器 | ハミングビュープラス (日本光電) | 1 | 2015 |
| | 人工呼吸器 | ハミングビュープラス (日本光電) | 1 | 2016 |
| | 人工呼吸器 | ハミングビュープラス (日本光電) | 1 | 2018 |
| 外 来 | 超音波診断装置 (4D) | 730Expert (GEBOLUSON) | 1 | 2004 |
| | 超音波診断装置 | Volson E8 (GEヘルスケアジャパン) | 1 | 2011 |
| | 皮膚良性血管病変治療用レーザー装置 | Vbeam 一式 (キャンデラ) | 1 | 2012 |
| | X線撮影装置 | X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ) | 1 | 2016 |
| | 歯科用キャビネット一式 | (ヨシダ) | 1 | 2016 |
| 病 棟 | 心電図監視システム | CNS8200 8床用 (日本光電) | 1 | 1993 |
| | 血液成分分離装置 | AS-104 (フレゼニウス) | 1 | 1997 |
| | エンドスコープカメラ | MC-800E (日本光電) | 1 | 1999 |
| | セントラルモニタ (外科) | M3150B (フィリップス) | 1 | 2004 |
| | EOG 殺菌乾燥薫蒸装置 | EO リメーカー (日本リメイク) | 1 | 2004 |
| | インファントウォーマ | V-505HL (アトム) | 1 | 2005 |
| | 生体情報管理システム | CAP2420 (日本光電) | 1 | 2004 |
| | 超音波診断装置 | Nemio (東芝) | 1 | 2004 |
| | 患者監視用モニタ | (フィリップス) | 1 | 2004 |
| | 人工呼吸器 | ベネット 840 (タイコヘルスケア) | 1 | 2005 |
| | 生体情報管理システム ハードウェア更新 | CAP2420 (日本光電) | 1 | 2010 |
| | 赤外線酸素モニタ装置 | NIRO-200NX (IMI) | 1 | 2010 |
| | 超音波診断装置 | HD11EX (フィリップス) | 1 | 2010 |
| | 生体情報モニタリングシステム | MP50 外 (フィリップス) | 1 | 2011 |
| | セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新 | PIMS (フィリップス) | 1 | 2012 |
| | 遠心型血液成分分離装置 | コムテック 9008021 (アムコ) | 1 | 2013 |
| | 超音波診断装置 | iE33 (フィリップス) | 1 | 2013 |
| | 母体胎児集中監視システム | (アトムメディカル) | 1 | 2014 |
| | 超音波診断装置 | Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2014 |
| | 超音波診断装置 | LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2014 |
| | シーリングペンダント (4台) | TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ) | 1 | 2014 |
| | 患者情報管理システム | PIMS 機能改修 (フィリップス) | 1 | 2014 |
| | イエロー・レーザー光凝固装置 | IQ577 (トーマコーポレーション) | 1 | 2014 |
| | NICU 車 | シビリアン (ベース車、日産自動車) | 1 | 2014 |
| | 新生児用ファイバースコープ | Mシリーズ (町田製作所) | 1 | 2015 |
| | 分娩監視装置 | FM-20 (アトムメディカル) | 1 | 2016 |
| | 超音波診断装置 | Voluson P8 (GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2016 |
| 産科病棟セントラルモニタ | PU-621R (日本光電) | 1 | 2017 | |
| NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム | (フィリップス・ジャパン) | 1 | 2017 | |
| I C U | 人工呼吸器 | ベネット 840 (タイコヘルスケア) | 4 | 2004 |
| | PICU モニタリングシステム | (フィリップス) | 1 | 2004 |

| 分類 | 資産名称 | 構造規格 | 数量 | 取得年度 |
|----------|----------------------|---------------------------------------|------|------|
| I C U | 血液ガス分析装置(全自動) | スタットプロファイルCCX(ノババイオメディカル) | 1 | 2004 |
| | 人工呼吸器 | ベンチレータ 840(ピューリタンベネット) | 1 | 2009 |
| | 超音波診断装置 | Vivid S6(GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2014 |
| | 生体情報モニタリングシステム(1階) | (フィリップス・ジャパン) | 1 | 2018 |
| 手術室 | 全身麻酔器 | エスティパ7900ST PVSPPro(GE横川メディカルシステム) | 1 | 2007 |
| | 超音波メス | スミソニックME-2400 キューサー(住友ベーク) | 1 | 1997 |
| | 腹腔鏡手術器具 | OTV-SX2 外(オリンパス) | 1 | 1998 |
| | 手術台(電動油圧) | 小児型特注(ミズホ) | 1 | 2000 |
| | 無影燈 | Sola700 + 500(ドレーゲル) | 2 | 2004 |
| | 関節鏡システム | A70940A外(オリンパス) | 1 | 2004 |
| | 手術台(整形外科用) | MOS-1300B(瑞穂医科) | 1 | 2004 |
| | 気管支ファイバービデオスコープ式 | BF-XP260F(オリンパス) | 1 | 2005 |
| | 人工心肺装置 | ヨストラHL30(マツケ・ジャパン) | 1 | 2007 |
| | 体外循環用血液パラメータモニターシステム | CDI500(テルモ) | 1 | 2007 |
| | 心筋保護液供給システム | HCP-5000(泉工医科工業) | 1 | 2007 |
| | 人工心肺装置データ記録システム | ORSYS(フィリップス) | 1 | 2004 |
| | 術中経食道エコー検査装置 | プロサウンドα7(アロカ製) | 1 | 2008 |
| | 遠心型血液ポンプ | HAS-CFP(泉工医科工業) | 1 | 2009 |
| | 全身麻酔装置 | アバンスケアステーション(GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2012 |
| | 腹腔鏡手術システム | 1288-010-001 外(日本ストライカー) | 1 | 2014 |
| | 過酸化水素低温プラズマ滅菌器 | ステラッド 100S(ジョンソン・エンド・ジョンソン) | 1 | 2015 |
| | 全身麻酔器 | Carestation 650Pro(GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2016 |
| | 全身麻酔器 | Carestation 650Pro(GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2017 |
| | 全身麻酔器 | Carestation 650Pro(GEヘルスケア・ジャパン) | 1 | 2018 |
| サージカルナイフ | Domain(ガデリウス・メディカル) | 1 | 2018 | |
| 中央滅菌材料室 | ウォッシュャーディスインフェクター | WD8668EW(GETINGE) | 1 | 2017 |
| | 小型高圧蒸気滅菌器 | HS33(GETINGE) | 1 | 2017 |
| | 高圧蒸気滅菌器 | VSCH-G12WNR(サクラ精機) | 1 | 2018 |
| 臨床研究室 | DNAシーケンサ | ジェネティックアナライザ(アプライドバイオシステム社) | 1 | 2005 |
| | 光分析測定装置マルチプレートリーダー | 1420ARVO MX-flad(パーキンエルマー・ジャパン) | 1 | 2005 |
| 情報システム | カルテ管理検索システム装置 | システマトリーブ(イトーキ) | 1 | 2004 |
| | カルテ管理検索システム装置 制御機器更新 | (イトーキ) | 1 | 2012 |
| | 総合医療情報システム(電子カルテ導入) | (富士通) | 1 | 2012 |
| | 歯科電子カルテシステム | (メディア) | 1 | 2013 |
| | 電子カルテデータ統合分析システム | データウェアハウス(富士通) | 1 | 2013 |
| | 栄養管理システム | 栄養管理システム Ver.6(SFC 新潟) | 1 | 2013 |
| | 臨床検査システム | Hi-LABO-S,Hi-LABO-EM, HD-TRANS(ニューコン) | 1 | 2014 |
| | 診断書作成支援システム | MEDI-Papyrus(ニッセイ情報テクノロジー) | 1 | 2015 |
| | 医事会計システム | HOPE SX-R(富士通) | 1 | 2016 |
| | 監視モニターシステム | (カリーナシステム) | 1 | 2016 |
| | NICU 患者情報管理システム | PIMS(フィリップスエレクトロニクスジャパン) | 1 | 2016 |
| | PICU 患者情報管理システム | PIMS(フィリップスエレクトロニクスジャパン) | 1 | 2016 |
| | 放射線情報システム | Dr.View/RIS(インフォコム) | 1 | 2016 |
| | 電子カルテシステム | HOPE EGMAIN-GX(富士通) | 1 | 2018 |
| | 手術部門患者情報システム | Fortec ORSYS(フィリップス) | 1 | 2018 |

3. 組 織

(1) 機 構

(平成 31 年 3 月 31 日現在)



(2) 人事

① 役職者名簿

| 職 | 名 | H31.3.31 | H30.3.31 | H29.3.31 | H28.3.31 | H27.3.31 | H26.3.31 |
|-----------|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 院長 | 秀一 | 林 泰健 | 林 泰健 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 副院長 | 新一 | 村上 伸輝 | 村上 伸輝 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 事務局長 | 信夫 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 事務課長 | 祐造 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 経営課長 | 剛彦 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 総合診療センター長 | 剛彦 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 第一内科部長 | 政彦 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 第二内科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 第三内科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 外科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 産科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 小児科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 診療部部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 手術部部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 集中治療部部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 検査課長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 放射線科部長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 理学療法士 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 薬剤師 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 看護士 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |
| 母子保健課長 | 憲一 | 大村 浩 | 大村 浩 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 | 丸 山 健 一 |

※ H26.4.1 組織改正「検査第一課長→検体検査課長」「検査第二課長→生理検査課長」

4. 運 営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(平成 31 年 3 月 1 日現在)

◎内科系

- 総合内科 月～金曜(9時～17時)
- 神経内科 月～金曜(9時～17時)
- 循環器科 第1・3・5月曜(9時～17時)、火曜(13時00分～17時)、水曜(9時～15時30分、金曜(9時～17時)
- 血液腫瘍科 月・火・水曜(14時～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜(13時30分～16時)、木曜(13時30分～17時)、第1・3・5木曜(14時～15時:初診)、第2・4金曜(13時～16時)
- アレルギー感染免疫
・呼吸器科 月・火・木曜(14時～14時30分:初診、13時～17時:再診)、水曜(14時～14時30分:初診、第1・3・5週は13時30分～17時:再診、第2・4週は13時30分～14時30分:再診、15時～15時30分:初診)、金曜(第1・3・5週は13時～17時、第2・4週は14時～16時)

◎外科系

- 小児外科 火曜(9時～17時)、木曜(9時～12時)、金曜(13時～17時:再診、13時～15時30分:初診)
- 心臓血管外科 月曜(14時～17時)、水曜(13時～17時)、金曜(9時30分～12時)
- 形成外科 月曜(9時～10時:初診、13時～17時)、木曜(9時～10時:初診、14時～17時)
- 整形外科 月・水曜(9時～17時:午前再診、午後初診)、金曜(9時～12時、13時～14時:リハビリテーション外来)
- 脳神経外科 第2・4火曜(13時30分～16時30分)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜(13時～17時) 第2・4火曜(9時～12時)
- 産科 月曜(9時～17時:初診)、水・金曜(9時～17時:午前再診、午後

| | |
|---------------------|------------------------------------|
| | 初診)、木曜(13時～17時:再診) |
| ○胎児心臓外来 | 木曜(9時～12時) |
| ○胎児超音波 スクリーニング外来 | 火曜(9時～17時)、金曜(9時～12時) |
| ○母乳外来 | 月～金曜(9時～17時) |
| ◎特殊専門外来 | |
| ○麻酔科 | 月曜(13時～17時)、火・木・金曜(9時～17時) |
| ○放射線科 | 月曜～金曜(9時～17時) |
| ○遺伝科 | 金曜(9時～17時) |
| ○歯科・障害児歯科 | 月曜～金曜(9時～17時) |
| ○耳鼻咽喉科 | 第1・2・4月曜(15時～17時)、第1・3・5水曜(9時～11時) |
| ○眼科 | 第2・4水曜(9時～12時) |
| ○内分泌代謝科 | 火・第1・3・5水曜(14時～17時) |

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送するNICU車(新生児救急車)は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

平成19年度、総合医療情報システムの入替更新に取り組み、11月医事会計システム先行稼働、平成20年2月23日(外来診療初日は25日)にオーダーリングシステムの第1次の運用を開始した。

平成20年度は5月1日に第二稼働として、放射線、生理・病理検査オーダが稼働した。6月3日、第三次稼働として注射オーダ稼働、12月には手術予約が稼働し、当初計画したオーダーリングシステムの全てが無事稼働した。

平成 22 年度は、PICU 棟の PIMS システム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器更新を実施した。

平成 24 年度は、平成 25 年 2 月 24 日、総合医療情報システム (電子カルテ) 及び看護支援システムが稼働し、カルテの判読性・検索性の向上を図った。

平成 25 年度は、歯科電子カルテシステムの整備を行い、平成 25 年 9 月 2 日から運用を開始した。

平成 26 年度は、臨床検査システムの更新を行い、平成 26 年 12 月 1 日から、順次、運用を開始した。

平成 28 年度は、NICU 及び PICU の患者情報管理システム、放射線情報システムを更新した。

平成 29 年度は、医用画像管理システム (PACS) の更新を行い、クラウド型システムを導入した。

平成 30 年度は、総合医療情報システム (電子カルテ) の機器を更新し、手術部門患者情報システムを導入した。

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。

○「おもちゃ図書館どんぐり」(平成 9 年 10 月～)

月 2 回 (第 2・4 金曜日)、エントランスホールにおいて、診察待ちの子ども達におもちゃを貸し出し遊び相手となる活動。

○「ひまわり会」(平成 12 年 4 月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用しての相談活動。

○「日本クリニクラウン協会」(平成 17 年 10 月～)

月 1 回 (第 4 水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン (臨床道化師) による病棟訪問。

○「おはなしの風」(平成 20 年 10 月～)

月に 2 日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成 22 年 4 月～)

月 1 回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

○アロマセラピー (平成 28 年 11 月～)

月に 2 日、入院されている子どもの家族を対象として、アロマオイルを用いたハンドマッサージを行う活動。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成 17 年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

平成 30 年度 職員のメディアへの出演実績

| 年 月 日 | 番 組 名 | | 出 演 者 氏 名 | | テ ー マ |
|------------------|-------|---------|-----------|---------|-----------------|
| 平成 30 年 5 月 15 日 | ラジオ日経 | ドクターサロン | 外来診療部長 | 山 田 佳 之 | 「鶏卵による消化管アレルギー」 |

(2) 院内会議の状況

| 会議の名称 | 会議の目的 | 開催状況 |
|--------------------|---------------------------|-------|
| 管理職会議 | 病院の基本方針等の協議・決定 | 月 1 回 |
| 管理診療会議 | 病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整 | 月 1 回 |
| 予算委員会 | 予算に関する協議・決定 | 随 時 |
| 医療機器等購入審査委員会 | 医療機器等購入の選考・審査 | 随 時 |
| 経営検討会議 | 病院経営に関する協議・決定 | 月 1 回 |
| 地域医療連携室運営委員会 | 地域の医療機関との連絡調整 | 随 時 |
| 在宅療養支援委員会 | 在宅療養に関する支援策の検討 | 月 1 回 |
| 臨床試験審査委員会 | 臨床試験の妥当性の審査 | 随 時 |
| 倫理委員会 | 医療行為に係る倫理的検討 | 随 時 |
| 利益相反委員会 | 臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議 | 随 時 |
| 医療安全管理委員会 | 医療安全管理対策を総合的に企画、実施 | 月 1 回 |
| BLS 推進委員会 | BLS の推進を計画・実施 | 月 1 回 |
| リスクマネジメント委員会 | 医療安全管理に関する小委員会 | 月 1 回 |
| 救急カートWG | 救急カートに関する検討 | 随 時 |
| 診療関連死原因検討委員会 | 死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定 | 月 1 回 |
| 診療情報管理委員会 | 診療情報提供に関する検討 | 随 時 |
| DPC コーディング委員会 | 適切なコーディングに関する討議 | 年 2 回 |
| 薬事委員会 | 新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討 | 月 1 回 |
| 労働安全衛生委員会 | 職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施 | 月 1 回 |
| 学術委員会 | 臨床研究を含めた学術活動の活性化 | 随 時 |
| 臨床研究室運営委員会 | 臨床研究室の運営・管理 | 随 時 |
| 自主研究事業委員会 | 自主研究研修事業の審査 | 随 時 |
| 海外学会等出席者選考委員会 | 海外学会等出席者の選考 | 随 時 |
| 年報編集委員会 | 病院年報編集の協議 | 随 時 |
| 図書委員会 | 図書の購入検討・管理 | 随 時 |
| 臨床検査委員会 | 精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討 | 3か月1回 |
| 輸血療法委員会 | 輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整 | 年 6 回 |
| 院内感染対策委員会 | 院内感染防止対策の協議 | 月 1 回 |
| ICT | 院内感染防止対策マニュアルの検討 | 月 2 回 |
| 総合医療情報システム委員会 | 病院における情報システムの今後のあり方を検討 | 随 時 |
| 総合医療システム企画会議 | 総合医療情報システムの課題検討 | 随 時 |
| サービス向上委員会 | 患者サービス向上に係る取り組みの検討 | 隔月1回 |
| 外来診療委員会 | 外来診療各科の連絡調整 | 随 時 |
| 総合周産期母子医療センター運営委員会 | 総合周産期母子医療センターの運営に関する検討 | 随 時 |
| 中央手術部運営委員会 | 施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整 | 隔月1回 |
| 医局診療会議 | 診療各科の連絡調整 | 月 1 回 |
| 子ども虐待防止委員会 | 子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定 | 随 時 |
| 要支援事例検討会 | 要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討 | 隔月1回 |
| 褥瘡対策委員会 | 褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討 | 月 1 回 |
| 栄養委員会 | 栄養業務の改善等の検討 | 年 4 回 |
| NST | NST 実施にかかる協議・検討 | 随 時 |
| 診療材料検討委員会 | 診療材料購入等に関する検討 | 随 時 |
| 臨床研修委員会 | 研修医師の指導等に関する検討 | 随 時 |
| 保険診療委員会 | 診療報酬審査減の再審査の検討 | 随 時 |
| クリニカルパス委員会 | クリニカルパス導入に関する検討 | 随 時 |
| ホームページ委員会 | ホームページの編集 | 随 時 |
| 防災対策委員会 | 防災対策・訓練計画等の検討 | 年 2 回 |
| 医療機器安全管理委員会 | ME 機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育 | 随 時 |
| 医療ガス安全管理委員会 | 医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供 | 年 1 回 |
| 小児集中治療部運営委員会 | PICU の運営に関する方針等の協議・調整・決定 | 年 4 回 |
| セキュリティ対策委員会 | 院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討 | 随 時 |
| ドクタークラーク委員会 | 医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討 | 随 時 |
| 省エネ・節電対策委員会 | 省エネ対策等の検討 | 随 時 |
| 緩和ケア委員会 | 緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討 | 年 2 回 |
| 緩和ケア WG | 緩和ケアの症例検討 | 月 1 回 |
| 母子保健室運営委員会 | 母子保健室の運営に関する検討 | 随 時 |
| 治験管理委員会 | IRB が審査する事項以外の治験の検討 | 随 時 |
| 臓器提供対応委員会 | 臓器移植提供体制の検討 | 随 時 |

平成 30 年度のあゆみ

| | | | |
|---------|---------|--------------------------|--------------------|
| 平成 30 年 | 4 月 2 日 | 採用、転入、昇任・昇格等辞令交付・発令通知伝達式 | |
| | 10 日 | 管理職会議 | |
| | 25 日 | 管理診療会議 | |
| | 5 月 | 8 日 | 管理職会議 |
| | | 11 日 | 医療安全研修 |
| | | 12 日 | 管理職会議 |
| | | 23 日 | 管理診療会議 |
| | | 24 日 | 例月現金出納検査 |
| | 7 月 | 27 日 | 管理診療会議 |
| | | 10 日 | 管理職会議 |
| | | 24 日 | 第 1 回在宅療養支援委員会 勉強会 |
| | | 25 日 | 管理診療会議 |
| | | 27 日 | 本監査・例月現金出納検査 |
| | 8 月 | 3 日 | 医療安全講演会 |
| | | 21 日 | 第 2 回在宅療養支援委員会 勉強会 |
| | 9 月 | 11 日 | 管理職会議 |
| | | 26 日 | 管理診療会議 |
| | | 27 日 | 消防訓練(第 1 回) |
| | | 29 日 | 医療安全講演会 |
| | 10 月 | 9 日 | 管理職会議 |
| | | 18 日 | 第 3 回在宅療養支援委員会 勉強会 |
| | | 18 日 | 第 132 回小児医療センター講話会 |
| | | 24 日 | 管理診療会議 |
| | | 25 日 | 医療安全講演会 |
| | 11 月 | 6 日 | 管理職会議 |
| | | 8 日 | 在宅療養支援委員会 症例検討会 |
| | | 9 日 | 医療法に基づく病院立入検査 |
| | | 12 日 | ボランティア意見交換会 |
| | | 19 日 | 医療安全地域連携加算相互チェック |
| | | 20 日 | 管理診療会議 |
| | | 26 日 | 例月現金出納検査 |
| | | 29 日 | 登録医大会 |
| | | 12 月 | 11 日 |
| 15 日 | クリスマス会 | | |
| 26 日 | 管理診療会議 | | |
| 28 日 | 仕事納め式 | | |
| 平成 31 年 | 1 月 4 日 | 仕事始め式 | |
| | 8 日 | 管理職会議 | |
| | 16 日 | 監査委員会事務局事務監査 | |
| | 21 日 | 医療安全研修 | |
| | 23 日 | 管理診療会議 | |
| | 2 月 | 7 日 | 監査委員定期監査 |
| | | 19 日 | 管理職会議 |
| | | 21 日 | 消防訓練(第 2 回) |
| | 3 月 | 27 日 | 管理診療会議 |
| | | 6 日 | 第 4 回在宅療養支援委員会 勉強会 |
| | | 8 日 | 医療的ケア研修会 |
| | | 12 日 | 管理職会議 |
| | | 15 日 | 関東信越厚生局個別指導 |
| | | 27 日 | 管理診療会議 |
| | | 29 日 | 退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式 |

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|--------------|---------|--------------|--------|-----------------|--------|
| ○外来 | | ○第三病棟 | | | |
| 看護師長 | 高橋 敦子 | 看護師長 | 石坂 泰子 | 主幹 | 井坂 保代 |
| 主幹(副師長) | 瀬谷 由美 | 主幹(副師長) | 北爪 幸子 | 主幹 | 横尾 美知子 |
| 主幹(副師長) | 佐川 有子 | 主幹(副師長) | 堤 万希子 | 主任 | 山本 多み子 |
| 主幹 | 高野 朝乃 | 副主任(副師長) | 後藤 真紀 | 主任 | 高倉 和枝 |
| ○手術室 | | 主幹 | 本多 喜代美 | 主任 | 萩原 梨絵 |
| 看護師長 | 片貝 まさみ | 主幹 | 木暮 奈櫻 | 主任 | 田中 綾香 |
| 副主任(副師長) | 小林 育代 | 副主任 | 柴田 夕貴子 | 主任 | 都丸 真由美 |
| 主任(副師長) | 小黒 岩徹 | 主任 | 大河原 美穂 | 主任 | 尾崎 沙織 |
| 副主任 | 笠原 寿絵 | 主任 | 林 範子 | 主任 | 松下 典子 |
| 主任 | 齊藤 春恵 | 主任 | 原田 育江 | 技師 | 飯島 亜希子 |
| 主任 | 川浦 秀明 | 主任 | 植木 悦子 | 技師 | 松岡 亜美 |
| 主任 | 高橋 健一 | 主任 | 樺澤 彩 | 技師 | 井田 智巳 |
| 主任 | 磯部 博樹 | 主任 | 吉田 智和 | | |
| 主任 | 石北 淳美 | 主任 | 渡邊 佳世 | ○産科病棟 | |
| 主任 | 日景 智行 | 主任 | 中島 徹 | 補佐(看護師長) | 丸山 美幸 |
| 技師 | 熊谷 扶美子 | 主任 | 千明 桃子 | 主幹(副師長) | 永沢 育子 |
| | | 主任 | 石沢 恵理 | 副主任(副師長) | 天田 美枝子 |
| ○第一病棟 | | 主任 | 浜本 知美 | 主任(副師長) | 高橋 洋子 |
| 看護師長 | 村上 容子 | 主幹 | 宮邊 卓也 | 主幹 | 青木 明子 |
| 主幹(副師長) | 富澤 はるみ | 副主任 | 宮前 仁香 | 副主任 | 野小 池暁美 |
| 副主任(副師長) | 小林 志のぶ | 主任 | 高橋 恵里 | 主任 | 小渡 邊敦美 |
| 副主任(副師長) | 殿木 裕美 | 主任 | 若林 大介 | 主任 | 佐藤 直美 |
| 主幹 | 山本 由記子 | 主任 | 登山 菜美 | 主任 | 田島 伴美 |
| 主幹 | 宮崎 映子 | 主任 | 冲村 詩織 | 主任 | 榎山 由美 |
| 主幹 | 鈴木 絹代子 | 主任 | 高橋 里帆 | 主任 | 塚本 久美 |
| 主幹 | 小林 洋香 | 主任 | 湯本 真帆 | 主任 | 小島 恭子 |
| 主任 | 狩野 愛美 | 主任 | | 主任 | 中島 寿恵 |
| 主任 | 川浦 彰子 | 主任 | 齊藤 織恵 | 主任 | 和田 千穂 |
| 主任 | 高橋 克典 | 主任 | 飯田 尚絵 | 主任 | 千明 理恵 |
| 主任 | 岡田 美和 | 主任 | 狩野 由紀 | 主任 | 狩野 英美子 |
| 主任 | 岡井 淳 | 主任 | 楠田 直美 | 主任 | 田中 絢奈 |
| 主任 | 藤巻 まゆか | 主任 | 角田 真佐美 | 主任 | 小淵 加奈絵 |
| 主任 | 轟木 由加里 | 主任 | 青木 晃子 | 主任 | 立川 美咲 |
| 主任 | 山崎 綾美 | 主任 | 本多 幸枝 | 主任 | 渡邊 智香子 |
| 主任 | 星野 麗菜 | 主任 | 本多 草子 | 主任 | 篠原 由実子 |
| 技師 | 今井 文弥 | 主任 | 茂木 ゆう子 | | |
| 技師 | 荻野 健太 | 主任 | 高田 やよい | ○小児集中治療部 | |
| 技師 | 阿部 真菜美 | 主任 | 石井 理恵 | 看護師長 | 黒田 佐織 |
| 技師 | 戸川 里紗 | 主任 | 小林 理恵 | 副主任(副師長) | 木島 久仁子 |
| 技師 | 須田 慎也 | 主任 | 真下 梨乃 | 副主任(副師長) | 藤井 美香 |
| 技師 | 久松 飛鳥 | 主任 | 荒木 里香 | 主任(副師長) | 平田 裕香 |
| 技師 | 石田 芽生 | 主任 | 立見 可奈 | 主任 | 青木 秀佳 |
| 技師 | 佐宮 佑紀 | 主任 | 黒藤 智香 | 主任 | 品川 時ぐみ |
| 専門員 | 中村 陽子 | 主任 | 須藤 寛 | 主任 | 山崎 めぐ子 |
| | | 主任 | 伊東 修子 | 主任 | 深見 悦子 |
| ○第二病棟 | | 主任 | 青木 栄信 | 主任 | 小谷 陽子 |
| 看護師長 | 福島 富美子 | 主任 | 飯沼 麻由美 | 主任 | 萩原 利香 |
| 主幹(副師長) | 亀井 和広 | 主任 | 内田 良徳 | 主任 | 荒木 七生 |
| 主幹(副師長) | 星山 恵利代 | 主任 | 長島 あゆみ | 主任 | 富樫 哲織 |
| 副主任(副師長) | 田子 尚子 | 主任 | 藤井 蘭 | 主任 | 石関 梨華 |
| 主幹 | 青木 郁久 | 主任 | 高橋 沙織 | 主任 | 金子 優子 |
| 主幹 | 鳥山 和久 | 主任 | 高橋 夏姫 | 主任 | 塩谷 愛 |
| 主任 | 平本 寛子 | 主任 | 兵藤 希恵 | 主任 | 金子 友加里 |
| 主任 | 佐須 智枝 | 主任 | 青木 弓衣 | 主任 | 植田 佳佳 |
| 主任 | 高橋 裕也 | 主任 | 大竹 里奈 | 主任 | 樋口 真梨子 |
| 主任 | 小野 千夏 | 主任 | 大澤 あゆみ | 主任 | 諏佐 和也 |
| 主任 | 千木 良春 | 主任 | 亀井 美沙 | 主任 | 高橋 かおり |
| 主任 | 倉持 紀子 | 主任 | 浅野 光貴 | 主任 | 福田 あずさ |
| 主任 | 近藤 龍平 | 主任 | 上原 杉梨 | 主任 | 曾根 ちひろ |
| 技師 | 狩野 ひかる | 主任 | | 主任 | 茂木 歩美 |
| 技師 | 阿部 栞 | 主任 | 浅野 香 | 主任 | 板垣 綾乃 |
| 技師 | 美才 治祐也 | 主任 | 真下 茂美 | 主任 | 高橋 ゆり |
| 技師 | 原田 みさき | 主任 | 本間 美樹 | | |
| 技師 | 馬場 南々 | 主任 | 金子 友香 | ◎母子保健室 | |
| 技師 | 荒木 有美 | 主任 | 野村 幸枝 | 室長(兼) | 外松 学 |
| 技師 | 唐沢 夢菜 | 主任 | 宮本 佳子 | (併) 母子保健課長 | 高橋 雪子 |
| 技師 | 七五三 木大樹 | 主任 | 羽鳥 悌枝 | | |

職員異動状況

| 転入・採用 | | | 転出・退職 | | |
|-------|--------|-------------|------------|-------|-------------|
| 所属 | 氏名 | 年月日・区分 | 所属 | 氏名 | 年月日・区分 |
| 事務局 | 今井正治 | H30.4.1 転入 | 事務局 | 原澤隆 | H30.4.1 転出 |
| | 田村英昭 | | | 瀬下和博 | |
| | 青木貴子 | | | 高柳佐知子 | |
| | 佐藤紀代子 | | 上村恵美 | | |
| | 関直人 | | 医療局 | 高木剛 | |
| | 宮下昇三 | | 技術部 | 深町実奈子 | |
| 医療局 | 松田知子 | H30.4.1 採用 | 医療局 | 丸山健一 | H30.3.31 退職 |
| 看護部 | 都丸真由美 | | 宮本隆司 | | |
| | 尾崎沙織 | | 井上文孝 | | |
| 医療局 | 山口有 | | H30.4.1 採用 | 浅見雄司 | |
| | 清水彰彦 | | | 川島淳 | |
| | 田中健佑 | | | 鎌裕一 | |
| | 大和玄季 | 看護部 | | 須田とし江 | |
| | 清水真理子 | | | 舘弥生 | |
| | 高木尚弘 | | | 柿内優子 | |
| 看護部 | 楠木多映子 | H30.4.30 退職 | 鎌美津帆 | | |
| | 飯野彩奈 | | 劍持めぐみ | | |
| | 湯本真帆 | | 篠原由実子 | | |
| | 高橋里奈 | | 古藤史歩 | | |
| | 七五三木大樹 | | 看護部 | 内田恵 | |
| | 石田芽生 | | 医療局 | 京谷琢治 | H30.9.30 退職 |
| 医療局 | 宮嶋佑紀 | H30.10.1 採用 | | | |
| | 沖村詩織 | | | | |
| | 佐藤瑞季 | | | | |
| | 唐沢夢菜 | | | | |
| | 南雲一洋 | | | | |
| | | | | | |

◇ 編集後記 ◇

年度が改まり平成から令和に代替わりいたしました。これと関連して本年のGWは10連休となりました。前代未聞の（病院）休業体制となりました。

幸い大過なく無事にトラブルもなく乗り越えられました。事前からの準備の賜と思います。

平成は自然災害が多かったように記憶します。平成2年の雲仙普賢岳の火砕流の生々しさが記憶にあります。大きな地震を経験しましたが、平成23年3月東日本大震災は大きな揺れでした。計画停電を経験しました。予定手術患児の手術計画が立たないために、縁を頼って西日本地域の病院をお願いしたこともありました。

さて、少子化は色々な形で、実感していることと思います。2018年に生まれた子どもの数（出生数）は91万8,397人で過去最低を更新しました。合計特殊出生率は1.42であり、低下は3年連続しています。群馬県では、1万2,922人、1.47とのこと。また、死亡数から出生数を引いた自然減は全国では44万4,085人と初めて40万人を超え、少子高齢化多死社会に入りました。

次第に高度化医療を求める需要が増加するものと思われます。またそこに当院の立ち位置が求められているものと思います。

最後になりましたが、年報作成に当たり、様々な職種の多くの方々にご協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

年報編集委員長 富沢 仙一

○年報編集委員

| | | | |
|----------------|---------|-------------|-----------|
| 富 沢 仙 一 | 清 水 奈 保 | 小 林 富 男 | 浜 島 昭 人 |
| 山 田 佳 之 | 椎 原 隆 | 丸 山 憲 一 | 朴 明 子 |
| 渡 辺 美 緒 | 下 山 伸 哉 | 西 明 | 木 下 樹 |
| 岡 徳 彦 | 松 本 直 樹 | 佐 藤 達 也 | 富 岡 千 鶴 子 |
| 神 山 晴 美 | 田 中 伸 久 | 佐々木 保 | 臼 田 由 美 子 |
| 島 田 純 子 | 藤 波 洋 征 | 高 橋 雪 子 | |
| 外 松 学 (オブザーバー) | | (担当事務局 総務課) | |

群馬県立小児医療センター

〒377-8577 渋川市北橘町下箱田779番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-3555 (新生児未熟児病棟直通)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)